

講義科目名称： 障害者福祉論			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	障がい者の実態とそれを支える福祉的支援の理念、歴史、制度、実際を学ぶ
授業計画	第1回 オリエンテーション、日本における障がい者の実態
	第2回 わが国の法律における「障がい」「障がい者」の定義
	第3回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」① (ノーマライゼーション)
	第4回 「ノーマライゼーション」という考え方と「リハビリテーション」② (リハビリテーション)
	第5回 「自立(自律)」の概念① (「自立」と「自律)」の違い 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、 自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します
	第6回 「自立(自律)」の概念② (「自立(自律)」とは何か) 地域において自立生活をしている障がい者への支援の経験を踏まえて、 自立(自律)とはどのようなことなのかを解説します
	第7回 「ICF(国際生活機能分類)」における「障がい」の捉え方
	第8回 障がい者福祉施策の変遷① (第二次世界大戦後)
	第9回 障がい者福祉施策の変遷② (高度経済成長期)
	第10回 「障がい者の権利に関する条約」と「障害者総合支援法」
	第11回 障がい者福祉の関連施策① (教育、バリアフリー法)
	第12回 障がい者福祉の関連施策② (雇用、年金)
	第13回 障がいを持っている人たちの現状① (高次脳機能障がい) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが 体験している大変さの実態について解説します
	第14回 障がいを持っている人たちの現状② (知的障がい) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが 体験している大変さの実態について解説します
	第15回 障がいを持っている人たちの現状③ (筋萎縮性側索硬化症 [ALS]) 障害者支援施設などでの経験を踏まえて、障がいを持っている人たちが 体験している大変さの実態について解説します

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業概要】</b>          障がいを持っている人たちが社会の中でどのように扱われてきたかを学び、体験してきた大変さの実態を学ぶ。また、障がいを持っている人たちに関する人権思想や制度、援助の実態を学ぶ</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>          障がいを持っている人たちの実態を理解し、障害者福祉に関する基礎的な知識を習得することができる</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：『よくわかる障害者福祉 第7版』          ISBN:978-4-623-08972-7          出版社名：ミネルヴァ書房          著者名：小澤 温・編          価格(税抜):2,500 円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中適宜紹介する</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 学期末試験：レポート=80：20  <b>【フィードバック方法】</b> 学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける</p>
<p>履修条件</p>	<p>特に設けない</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】          聴 講 生 【可】          キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。「『障がい』とは何か」ということについて考え、障がいを持っている人たちが切り拓いてきた歴史を知ることによって、今まで見慣れた景色が違ったものに見えてくると思います</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(2時間)  <b>【事後学習】</b> 授業内で配布した資料やテキストの該当ページを復習しておくこと。(2時間)</p>

講義科目名称： 簿記会計の基礎			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇			

テーマ	会計システムと帳簿記入を楽しく学ぶ
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 簿記の基礎</p> <p>第3回 仕訳編（商品売買）</p> <p>第4回 仕訳編（現金、当座預金）</p> <p>第5回 仕訳編（小口現金、手形）</p> <p>第6回 仕訳編（貸付金、借入金）</p> <p>第7回 仕訳編（有価証券、債権債務）</p> <p>第8回 仕訳編（消耗品、引当金）</p> <p>第9回 仕訳編（固定資産と減価償却）</p> <p>第10回 仕訳編（租税公課と資本金）</p> <p>第11回 帳簿編（帳簿記入）</p> <p>第12回 演習（試算表）</p> <p>第13回 演習（精算表）</p> <p>第14回 演習（財務諸表）</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 今日の経済活動においては、企業がどれほどの利益を獲得しているか、または現在どのような資産を持っているのか、といった経営情報を利害関係者に公開することが求められている。これらの情報は法律に則った会計ルールに従って、反復的継続的に帳簿に記帳され、定期的に決算書として外部に報告される。これら記帳や決算書の作成を簿記会計と呼んでいる。</p> <p>さて本講義は、複式簿記の基礎的な学力を身に付けることを目的として、演習を取り入れながら簿記会計の基礎を学んでいく。本年度は、複式簿記の全体構造から具体的な仕訳まで、最もわかりやすく技術を身につける授業を目標とする。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 本授業は、アクティブラーニング（ディスカッション、実習など）を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、（知識・技能を理解する力）、（実践的に課題を発見する力）及び「学士力」の構成要素の一つである、（数量的スキル）、（論理的思考力）を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『スッキリわかる日商簿記3級』 第12版 ISBN：9784813296126 出版社：TAC 出版 著者名：滝澤ななみ 価格（税抜）：1,000円</p>
参考文献	金児 昭 編著 『会計がよくわかる講座』かんき出版

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末に行う定期試験で成績評価を行う。</li> <li>・ フィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う</li> </ul>
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・ 月曜を除く時間帯に研究室(研究室棟 203号)にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける(iwamoto@suw.ac.jp)</li> <li>・ オフィスアワー(後日掲示)を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。日本商工会議所の簿記検定(3級、2級)を目指す学生には、特別講義を用意します。 実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど10年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(1時間) 【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと(1時間)

講義科目名称： 会計学の基礎			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇			

テーマ	決算書を使った経営分析の技術を楽しく学ぶ
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 経営分析</p> <p>第3回 財務諸表の基礎知識</p> <p>第4回 収益性分析</p> <p>第5回 効率性分析</p> <p>第6回 安全性分析</p> <p>第7回 損益分岐点分析</p> <p>第8回 生産性分析</p> <p>第9回 成長性分析</p> <p>第10回 キャッシュフロー分析</p> <p>第11回 社会福祉法人会計</p> <p>第12回 競合事業体の比較分析（企業）</p> <p>第13回 競合事業体の比較分析（施設）</p> <p>第14回 競合事業体の比較分析（病院）</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b>          企業は、毎期財務諸表を作成し、利害関係者に公表する。利害関係者はこの財務諸表を分析して、当該企業を評価する。この分析法を経営分析と呼んでいる。          さて本講義は、財務諸表の数字をもとにした経営分析法を身に付け、企業経営の評価方法を学ぶ。さらに社会福祉法人等、非営利法人の会計法についてその特徴を学び、経営分析を行う。本年度は、演習を交えながら経営分析の基礎理論を最もわかりやすく伝授する授業を目標とする。          よって本授業の履修後は、公開されている財務諸表（貸借対照表や損益計算書など）を分析し、福祉施設や病院経営、一般企業経営に関して、客観的な経営分析能力を身につけることができる。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>          本授業は、アクティブラーニング（ディスカッション、実習など）を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身につけることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、（知識・技能を理解する力）、（実践的に課題を発見する力）及び「学士力」の構成要素の一つである、（数量的スキル）、（論理的思考力）を身につけることができる。</p>
テキスト	後日指定する
参考文献	永野良佑 著 『わかる！つかえる！経営分析の基本』 PHP 研究所
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の筆記試験で評価する（100%）</li> <li>・期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</li> </ul>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp）</li> <li>・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。 実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど 10 年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1 時間） 【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1 時間）

講義科目名称： 経営管理の基礎			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇			

テーマ	経営のテクニックを楽しく学ぶ（マーケティング戦略論）
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 プロダクト (pp. 12-20)</p> <p>第3回 プレイス (pp. 21-28)</p> <p>第4回 プロモーション (pp. 29-35)</p> <p>第5回 プライス (pp. 36-37)</p> <p>第6回 マーケティング・ミックス (pp. 38-44)</p> <p>第7回 セグメンテーション (pp. 45-63)</p> <p>第8回 ターゲティング (pp. 64-74)</p> <p>第9回 製品ライフサイクル (pp. 75-114)</p> <p>第10回 市場地位のマーケティング (pp. 115-174)</p> <p>第11回 業界構造分析 (pp. 175-224)</p> <p>第12回 全体戦略 (pp. 225-246)</p> <p>第13回 事業とドメイン (pp. 247-266)</p> <p>第14回 事例</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b>          経営は、リスクに対し果敢にチャレンジすることが必要である。企業家の知恵と知恵が競争のなかでぶつかり合い、消費者のニーズ(欲求)に応えるために臨機応変に対応することで、結果として世の中がよくなっていくのが自由競争の本質である。それでは企業はどのような視点で競争力を高めたらよいのだろうか。本授業では、企業組織全体が一体となっていく企業間競争技法を体系的に捉えたマーケティング戦略論を中心に、その戦略立案プロセスと各論の理解に努める。また、現在取り組まれている様々な企業戦略の事例を取り上げ、企業家の視点で経営学を論理的且つ実践的に解説する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>          本授業は、現在取り組まれている様々な企業戦略の事例を学び、企業家の視点で経営学を論理的且つ実践的に理解し、経営感覚を身に付けることを目標とする。なお、アクティブラーニング（ディスカッション、企画立案など）を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、(知識・技能を理解する力)、(実践的に課題を発見する力)、(課題を解決へと導く力)及び「学士力」の構成要素の一つである、(多文化・異文化に関する知識の理解)、(論理的思考力)、(問題解決力)を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『わかりやすいマーケティング戦略』</p> <p>ISBN：978-4641123557</p> <p>出版社：有斐閣アルマ</p> <p>著者名：沼上 幹</p> <p>価格(税抜)：1,995円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末に行う定期試験で成績評価を行う。</li> <li>・フィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う</li> </ul>
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・月曜を除く時間帯に研究室(研究室棟 203号)にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける(iwamoto@suw.ac.jp)</li> <li>・オフィスアワー(後日掲示)を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。 実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど10年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。
準備学習について	普段の生活の中で、マーケティング理論の活用事例を発見するよう努力しましょう。 【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(1時間) 【事後学習】毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと(1時間)



講義科目名称： 経営管理の応用			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇			

テーマ	社会のシステムを楽しく学ぶ（流通論）
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、商業の発生</p> <p>第2回 流通の機能</p> <p>第3回 流通の歴史</p> <p>第4回 流通機構</p> <p>第5回 流通革新のはじまり</p> <p>第6回 革新的小売業</p> <p>第7回 商業集積</p> <p>第8回 ケーススタディ</p> <p>第9回 卸売構造</p> <p>第10回 卸売再編成</p> <p>第11回 流通経営</p> <p>第12回 物流の構造</p> <p>第13回 物流管理とロジスティクス</p> <p>第14回 流通の社会適合</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 本授業では、金銭との交換によって得る財、サービス全ての行為に対する経営体を構造的に明らかにする流通論を教授する。流通は、生産と消費の間の経済的隔離を除去、調整することによって、豊かで質の高い消費生活を支える役割を果たし、生産者から消費者へ財またはサービスが移転（社会的・経済的）する社会的構造体全般が研究対象である。従って、製造業、卸売業、小売業、物流業、サービス業をはじめ、病院、行政など社会的機関まで含めたしくみを解き明かす。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 本授業は学術的理論と並行しながらケーススタディを数多く取り入れ、現代社会の実態を正しく理解し、経営感覚を身に付けることを目標とする。なお、アクティブラーニング（ディスカッション、企画立案など）を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、（知識・技能を理解する力）、（実践的に課題を発見する力）、（課題を解決へと導く力）及び「学士力」の構成要素の一つである、（多文化・異文化に関する知識の理解）、（論理的思考力）、（問題解決力）を身につけることができる。</p>
テキスト	第1回目の授業で紹介する。
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の筆記試験で評価する（100%）</li> <li>・期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</li> </ul>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp）</li> <li>・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<p>事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。</p> <p>実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど 10 年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。</p>
準備学習について	<p>普段の生活の中で、流通理論の応用事例を発見しましょう。</p> <p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1 時間）</p> <p>【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1 時間）</p>

講義科目名称： 経営学総論			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇			

テーマ	ビデオを見ながら実践的な経営学を楽しく学ぶ
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、経営学とは</p> <p>第2回 日本型経営とその問題</p> <p>第3回 ビデオ (PB 商品とデフレ経済)</p> <p>第4回 流通主導の変化と業態</p> <p>第5回 チェーンオペレーション</p> <p>第6回 ビデオ (コンビニエンスストア)</p> <p>第7回 プロダクトライフサイクル</p> <p>第8回 ドミナント戦略と物流</p> <p>第9回 ビデオ (急成長カクヤス)</p> <p>第10回 ビデオ (SPA ユニクロ)</p> <p>第11回 福祉施設経営事例</p> <p>第12回 病院施設経営事例</p> <p>第13回 保育施設経営事例</p> <p>第14回 民間企業経営事例</p> <p>第15回 授業の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 本授業では、経営学を体系的に学ぶと共に、ビデオによる事例を見ながら、生きた経営学を実例で学ぶことを目的としている。 将来学生の皆さんは、組織のリーダーとして活躍することが期待されている。リーダーとして学ぶべき経営理論を分かりやすく教授し、さらに事例研究通じて問題解決能力を養う。事例研究とは、民間企業はもとより、福祉施設、病院施設、保育施設から代表的な事例を選択し、経営方法の共通点や業界独自の特殊性などを解説する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 本授業は、現在取り組まれている様々な企業戦略の事例を学び、企業家の視点で経営学を論理的且つ実践的に理解し、経営感覚を身に付けることを目標とする。なお、アクティブラーニング (ディスカッション、企画立案など) を積極的に取り入れ、より実践的な経営感覚を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、(知識・技能を理解する力)、(実践的に課題を発見する力)、(課題を解決へと導く力) 及び「学士力」の構成要素の一つである、(多文化・異文化に関する知識の理解)、(論理的思考力)、(問題解決力) を身につけることができる。</p>
テキスト	テキストは使用しません。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末に行う定期試験で成績評価を行う。</li> <li>・フィードバックは、学内制度 (成績評価問い合わせ制度) を通じて行う</li> </ul>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp）</li> <li>・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	事例を豊富に用意し、学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。緊張せず、リラックスして、積極的に参加してください。 実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど 10 年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。
準備学習について	普段の生活の中で、経営学の応用事例を見つけましょう。 【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1 時間） 【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1 時間）

講義科目名称： 基礎セミナーⅢ			
開講期間： 前期	配当年： 2	単位数： 1	必選： 必修
担当教員： 太田晴康、岡澤裕子、森直之			

テーマ	焼津地域学を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 焼津地域学とは何か、授業の目標及び進め方。</p> <p>第2回 焼津の歴史を学ぼう（外部講師） 焼津の由来から、いつ頃どのように発展してきたかを学ぶ</p> <p>第3回 焼津の産業（水産業）について考えよう（外部講師） 焼津市の主要産業である水産業の変遷を学ぶ</p> <p>第4回 焼津の「食」について考えよう（外部講師） 焼津で水揚げされる魚と魚料理を中心として焼津の食について学ぶ</p> <p>第5回 焼津の伝統文化について考えよう（外部講師） 正調焼津節をはじめ漁業とともに紡いできた文化を学ぶ</p> <p>第6回 多文化共生（モンゴル国との交流）について考えよう（外部講師） 焼津市とモンゴルとの関係、モンゴルの文化を学ぶ</p> <p>第7回 焼津「この人」①（外部講師） 焼津で活躍している人の話を聞く</p> <p>第8回 行政と私たちの生活について考えよう①（外部講師） 焼津市の条例や選挙のしくみについて学ぶ</p> <p>第9回 行政と私たちの生活について考えよう②（外部講師） 焼津市の条例や議会のしくみについて学ぶ</p> <p>第10回 地方の人口減少問題について考える（外部講師） 地方の人口減少問題や地方自治体の取り組みを学ぶ</p> <p>第11回 焼津「この人」②（外部講師） 焼津で活躍している人の話を聞く</p> <p>第12回 焼津の地域資源（産業・観光・文化）について考えよう（外部講師） 焼津の観光名所や、焼津市の取組みについて知る</p> <p>第13回 グループワーク討議①「豊かな地域生活の創造」</p> <p>第14回 グループワーク討議②「豊かな地域生活の創造」</p> <p>第15回 まとめと総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 焼津市を「産業」「暮らしと文化」「多文化共生」「行政」の観点から捉え、生活課題とその解決方法を考察する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 行政区域としての焼津市をコア（中心）とする日常生活圏を対象とし、そこにおける地域活性化（住民の幸せ）を実現するために、生活課題を発見し、その解決方法を模索し、考察を通じて豊かな地域生活を創造するための知見を獲得することを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与の方針である「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」、「地域を視野に貢献する力」及び、「学士力」の構成要素の一つである「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>

テキスト	なし
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	講義時に課す小テスト(50%)と学期末に行う発表(50%)によって評価する。 課題に対するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	講義の終了後に随時受け付けます。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	積極的な質問を歓迎します。
準備学習について	毎回の授業のテーマについて事前に調べ、講義に臨んでください。(1時間) また、講義で扱った内容に関して自身で調べて理解を深め、講義で扱った様々な課題について自身で考え、まとめるようにしてください。(1時間)

講義科目名称： キャリア支援Ⅱ－A（2019）/キャリア支援Ⅲ－A（2018以前入学生）（社会福祉学部）			
開講期間： 前期	配当年： 3	単位数： 2	必選： 必修
担当教員： 川合智之			

テーマ	社会全体の変化を捉え、就職活動について「How to（どのように内定を取得するのか）」という視点に加え、「What（何が自分らしい人生設計なのか）」や、「どう働くのか」を多面的に理解するとともに、就職活動の現実的な手法を体得する
授業計画	<p>第1回 社会経済の変化とキャリアについて</p> <p>第2回 企業の採用活動と就職活動について</p> <p>第3回 キャリアについて考える①（職業興味から考える）</p> <p>第4回 キャリアについて考える②（社会人基礎力や価値観から考える）</p> <p>第5回 キャリアについて考える③（自己の学修経験から考える）</p> <p>第6回 インターンシップについて</p> <p>第7回 SPI 模擬試験</p> <p>第8回 民間企業のインターンシップについて</p> <p>第9回 医療・福祉業界のインターンシップについて</p> <p>第10回 業界・企業についての理解</p> <p>第11回 職種についての理解</p> <p>第12回 エントリーシートの書き方（自己PR）</p> <p>第13回 エントリーシートの書き方（志望理由）</p> <p>第14回 就職活動時のマナーと身だしなみ</p> <p>第15回 今後の行動計画を立てる</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 就職活動の基礎学習（講義、個人ワーク、ペアワーク、グループワーク）を通じて、卒業後のキャリア形成に必要な社会・経済の理解、インターンシップの基礎知識、エントリーシートの書き方、就活マナー、業界職種仕事の理解、筆記試験対策などについて学修する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 社会経済の変化について理解する。自己の学生生活や学修経験と就職について関連づけることができる。自分が目指す将来の「あるべき姿」を実現するために必要となる就職活動の基礎を身に付ける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する姿勢」及び「学士力」の構成要素である、「論理的思考力」、「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：MY CAREER NOTEⅢ</p> <p>出版社：ベネッセコーポレーション</p> <p>価格（税抜）：1,587円</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義中適宜紹介します。</li> </ul>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>評価方法：学期末試験（50%）、提出レポート（30%）、授業態度（20%）を基本に評価する。</p> <p>提出レポートのフィードバックは授業内で行う。</p>
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受付ます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受け、講師にメールで連絡、後日回答します。</li> </ul>
履修条件	<b>【必須要件】</b> 教科書を購入し、毎回持参する

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・就職活動と関連が深いインターンシップに積極的に参加してください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・社会福祉法人の人事経験やキャリアコンサルタントとして民間企業の人材コンサルティングの経験がある講師が、実際の採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でコメントペーパーや小レポートを作成します。授業時間外に振り返りを行ってください。（1時間程度）</li> <li>・就職活動やインターンシップについて、有益な情報をインターネットや新聞などを通じて収集してください。（1時間程度）</li> <li>・SPI や一般常識について自己学習に取り組んでください。</li> </ul>



講義科目名称： キャリア支援Ⅱ－B（2019）/キャリア支援Ⅲ－B（2018以前入学生）（社会福祉学部）			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 必修
担当教員： 川合智之			

テーマ	キャリア支援Ⅱ－Aの内容を基盤に、地域社会で活躍できる人材となるために必要な実践力を身につける
授業計画	<p>第1回 就職活動の現状と今後の見通し</p> <p>第2回 現代の20代からの多様なキャリア形成</p> <p>第3回 エントリーシートと自己PR</p> <p>第4回 エントリーシートと志望動機</p> <p>第5回 履歴書攻略トライアルの準備</p> <p>第6回 履歴書攻略トライアルの実践</p> <p>第7回 身だしなみ研究セミナー</p> <p>第8回 「学内施設企業合同研究セミナー」の参加準備</p> <p>第9回 「学内施設企業合同研究セミナー」の開催</p> <p>第10回 写真撮影①と合同企業研究セミナーの振り返り・求職票の作成</p> <p>第11回 写真撮影②と履歴書トライアルの検証</p> <p>第12回 面接試験対策演習①</p> <p>第13回 面接試験対策演習②</p> <p>第14回 内定者報告会（4年生の体験談パネルディスカッション）</p> <p>第15回 グループディスカッション演習</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>キャリア支援の最終段階として社会的・職業的自立にむけた「実践力を高める」ことを目指す。変化の激しい社会の中で自立したキャリア形成に必要な実践力を「就職活動の実践」を通して学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>大学での学修経験や地域で求められる人材について、自己の考えを言語化することができる。自分が目指す将来の「あるべき姿」を実現するために必要となる就職活動の実践力を身に付ける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、学位授与の方針のうち「福祉力」の構成要素である、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する姿勢」及び「学士力」の構成要素の一つである、「市民としての社会的責任」、「生涯学習力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：MY CAREER NOTEⅢ</p> <p>出版社：ベネッセコーポレーション</p> <p>価格（税抜）：1,587円</p>
参考文献	・適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>評価方法：提出レポートの内容（30%）、学期末試験（30%）、授業態度（30%）、履歴書トライアル（10%）を基本に評価する。</p> <p>提出レポートのフィードバックは授業内で行う。</p>
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前後に教室で受け付けます。</li> <li>・講義日以外はキャリア支援課で受け付け。講師にメールで連絡、後日回答します。</li> <li>・別途、就職面談時間を設けます。</li> </ul>
履修条件	【必須条件】前期で購入した教科書を持参すること。

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でビジネスマナーに反した行動（遅刻、途中退出、私語など）は慎んでください。</li> <li>・授業内で指示した課題は必ず提出してください。また、講義中の指示をしっかりと聞いて対応して下さい。</li> <li>・欠席した場合はキャリア支援課で前回資料を受け取ってください。</li> <li>・社会福祉法人の人事経験やキャリアコンサルタントとして民間企業の人材コンサルティングの経験がある講師が、実際の採用現場の視点から授業を行います。</li> </ul>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内でコメントペーパーや小レポートを作成します。授業時間外に振り返りを行ってください。（1時間程度）</li> <li>・就職先の情報収集、職場見学、インターンシップ等、授業外での活動も行ってください。（1日～3日程度）</li> <li>・学外のセミナー、講演会、研究会、説明会等にも積極的に参加して下さい。（半日～1日程度）</li> </ul>

講義科目名称： 社会学と社会システム/社会理論と社会システム (2020 以前入学生)	
開講期間： 後期	配当年： 1年
単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇	
テーマ	社会システムの視点に立って現代社会を理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 現代社会の理解(1) 社会システム 第3回 現代社会の理解(2) 法と社会システム 第4回 現代社会の理解(3) 経済と社会システム 第5回 現代社会の理解(4) 社会変動と社会構造の変容 第6回 現代社会の理解(5) 人口 第7回 現代社会の理解(6) 地域 第8回 生活支援と福祉 第9回 現代社会の理解(7) 社会集団及び組織 (社会、組織) 第10回 家庭生活の基本機能 第11回 生活の理解(1) 家族 第12回 生活の理解(2) 生活の捉え方 第13回 ライフスタイルの変化 第14回 社会と生活のしくみ 第15回 社会問題の理解 社会問題の捉え方と具体的な社会問題
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b>                  社会システムの視点から、法や経済と社会システムの関係や、その社会変動、人口問題、各種集団、組織を取り上げる。また家族や生活のとらえ方から今日の生活の理解や人と社会の関係、社会問題の理解についても考察する。                  そのほか実務経験を活かした事例研究や経験知を授業に取り入れ、外部機関との共同研究への参加を提供するなど、アクティブラーニングを積極的に紹介する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>                  本授業は、アクティブラーニング(ディスカッションなど)を積極的に取り入れ、より実践的な知性を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>                  この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、(知識・技能を理解する力)、(実践的に課題を発見する力)、(課題を解決へと導く力)及び「学士力」の構成要素の一つである、(多文化・異文化に関する知識の理解)、(論理的思考力)、(問題解決力)を身につけることができる。</p>
テキスト	テキスト名：新・社会福祉士養成講座1 『社会理論と社会システム』 ISBN-10: 4805839309 ISBN-13: 978-4805839300 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格(税抜)：2,625円
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の筆記試験で評価する(100%)</li> <li>・期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う</li> </ul>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp）</li> <li>・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<p>学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。</p> <p>実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど 10 年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。</p>
準備学習について	<p>国家試験対策のため、過去問や練習問題に馴染んでください。</p> <p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1 時間）</p> <p>【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1 時間）</p>

講義科目名称： 医学概論/人体の構造と機能及び疾病 (2020 以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	人を対象とする専門職に必要な基礎的な医学知識を身につける。
授業計画	第1回 ライフステージにおける心身の変化と健康課題 心身の加齢と老化、ライフステージ別の健康課題
	第2回 健康及び疾病の捉え方 健康の概念、疾病の概念、国際生活機能分類 (ICF)
	第3回 身体構造と心身機能 (からだのしくみの理解) ① 筋・骨格系の構造と機能
	第4回 身体構造と心身機能 (からだのしくみの理解) ② 血液・造血系、循環器の構造と機能
	第5回 身体構造と心身機能 (からだのしくみの理解) ③ 泌尿器系、呼吸器系の構造と機能
	第6回 身体構造と心身機能 (からだのしくみの理解) ④ 消化器系の構造と機能
	第7回 身体構造と心身機能 (からだのしくみの理解) ⑤ 神経系、内分泌系の構造と機能
	第8回 身体構造と心身機能 (からだのしくみの理解) ⑥ 皮膚、筋骨格系、生殖器系の構造と機能
	第9回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程① 疾病の発症原因、病変の成立機序 生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患 ※看護師や介護支援専門員としての経験をもとに、 具体的な症例を紹介しながら解説します。
	第10回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程② 心疾患、高血圧、糖尿病・内分泌疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、 具体的な症例を紹介しながら解説します。
	第11回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程③ 呼吸器疾患、消化器疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、 具体的な症例を紹介しながら説明します。
	第12回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程④ 血液疾患、腎臓疾患、泌尿器系疾患 ※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、 具体的な症例を紹介しながら説明します。
	第13回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑤ 骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症

	<p>※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第 14 回 疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑥ 神経疾患と難病、先天性疾患、その他高齢者に多い疾患</p> <p>※看護師や介護支援専門員として医療機関等に従事した経験をもとに、具体的な症例を紹介しながら説明します。</p> <p>第 15 回 障害の概要、リハビリテーションの概要と範囲、公衆衛生</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・公認心理師の受験資格を取得するための指定科目であるため、それぞれの専門性に必要となる基礎的な医学知識について概論的に講義します。単調な知識の列挙にとどまらないよう図や表、視聴覚教材、実例などを交えながら展開します。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解することができる。 ②健康・疾病の捉え方について理解できる。 ③人の身体構造と心身機能について理解できる。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解できる。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を列挙できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論 ISBN：978-4-8058-8231-3 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 価格（税込）：2,750 円</p>
参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：授業での積極性＝70：30</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	教室、オフィスアワー等で適宜受けつける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>社会福祉に従事する人にとって、医療の基礎的な知識を持つことは人を支える上で欠かせないものです。実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解することは、医療職等との連携においても重要です。利用者の医療と一緒に考えることができるように心がけて学んでください。看護師や介護支援専門員として病院（集中治療室、外科、内科）や介護保険事業所等に従事した経験を活かし、実例やエピソード等も交えながらわかりやすく説明したいと思います。</p>
準備学習について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の後には必ず内容を見直し、1時間以上復習を行いましょう。</li> <li>・次回の授業でポイントを確認するので、答えられるようにしておいてください。</li> <li>・次回の授業内容を、前日までに1時間以上予習しておきましょう。</li> </ul>

講義科目名称： 社会調査の基礎	
開講期間： 後期	配当年： 3年
単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩本勇	
テーマ	社会調査法の基礎知識
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 社会福祉と社会調査 第3回 社会調査の概要 第4回 量的調査の方法① 量的調査の特徴と種類 第5回 量的調査の方法② 調査票の作成方法と留意点 第6回 量的調査の方法③ 調査票の配布と回収 第7回 量的調査の方法④ 量的調査におけるデータ解析 第8回 質的調査の方法① 質的調査の特徴と種類 第9回 質的調査の方法② 調査設計と手続き 第10回 質的調査の方法③ 調査手法と実施 第11回 質的調査の方法④ 質的調査におけるデータ分析 第12回 社会調査における倫理と個人情報保護 第13回 社会調査の実施にあたってのITの活用方法 第14回 社会科学としての社会福祉 第15回 授業の総括
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b>                  社会調査とは、社会あるいは社会事象に関して、客観的な知識を得るための技法である。本講義では福祉領域、いわゆる社会福祉調査法について教授する。わが国では社会福祉領域の発展に伴い、その重要性がますます高まっている。社会福祉の実践者となる者は、社会の諸問題を発見するための調査技法を身に付け、社会調査法を用いた様々な情報を正しく理解する技術が必要である。                  本講義は、社会調査の意義と目的及び方法を概説し、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、量的、質的調査方法の理解を目的とする。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>                  本授業は、アクティブラーニング（ディスカッション、実習など）を積極的に取り入れ、より実践的な技術を身に付けることを目標とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>                  この科目の履修を通じて、社会福祉学部・子ども学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、（知識・技能を理解する力）、（実践的に課題を発見する力）、（課題を解決へと導く力）及び「学士力」の構成要素の一つである、（多文化・異文化に関する知識の理解）、（論理的思考力）、（問題解決力）を身につけることができる。</p>
テキスト	テキスト名：新・社会福祉士養成講座1 『社会調査の基礎』 ISBN： 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,625円
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の筆記試験で評価する（100%）</li> <li>・期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</li> </ul>

質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答。</li> <li>・月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp）</li> <li>・オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用して欲しい</li> </ul>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<p>学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。</p> <p>実務経験として、流通政策研究所主任研究員、KPMG ピートマーウィック経営コンサルタントなど 10 年を超える実務経験を有し、中央官庁や地方自治体の各種プロジェクト、一般企業のコンサルティングなど、流通、物流、情報システム構築に多くの研鑽を積んでいる。日本商工会議所販売士検定試験の試験委員、各行政の専門委員、他大学や企業の講師を兼任し、現在は、経営関連学会協議会評議員、日本企業経営学会常任理事、日本産業経済学会常任理事など、学術研究学会において重職に就いている。</p>
準備学習について	<p>国家試験対策のため、過去問や練習問題に馴染んでください。</p> <p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1 時間）</p> <p>【事後学習】 毎回授業内で復習内容を提示する。授業時間外で振り返りを行うこと（1 時間）</p>



講義科目名称： ソーシャルワークの基盤と専門職/相談援助の基盤と専門職A (2020 以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎬			

テーマ	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークの定義・原理・理念・形成過程、ソーシャルワークの倫理・倫理綱領などの基礎を学ぶ
授業計画	第1回 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士、 社会福祉士及び介護福祉士法(第1章 第1節、2節) 【事前学習】1回目のソーシャルワーク専門職である社会福祉士・ 精神保健福祉士、社会福祉士及び介護福祉士法を読み、 概略を把握しておく(2時間) 【事後学習】1回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間) 総合福祉館の経験をもとに、人を援助する姿勢や意味に関してプレゼンテ ーションしながら共に考える。
	第2回 精神保健福祉士法、社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 (第1章 第3節、第4節) 【事前学習】2回目の精神保健福祉士法、社会福祉士及び精神保健福祉士の 専門性を読み、概略を把握しておく(2時間) 【事後学習】2回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)
	第3回 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー(第1章 5節) 【事前学習】3回目の社会福祉士・精神保健福祉士に求められる コンピテンシーを読み、概略を把握しておく(2時間) 【事後学習】3回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)
	第4回 ソーシャルワークの定義(第2章 第1節) 【事前学習】4回目のソーシャルワークの定義を読み、概略を把握しておく (2時間) 【事後学習】4回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)
	第5回 ソーシャルワークの構成要素(第2章 第2節) 【事前学習】5回目のソーシャルワークの構成要素を読み、 概略を把握しておく(2時間) 【事後学習】5回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)
	第6回 ソーシャルワークの原理(第3章 第1節) 【事前学習】6回目のソーシャルワークの原理を読み、概略を把握しておく (2時間) 【事後学習】6回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)

第7回	<p>ソーシャルワークの理念(第3章 第2節の1~5)</p> <p>【事前学習】7回目のソーシャルワークの原理を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】7回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第8回	<p>ソーシャルワークの理念(第3章 第2節の6~8)</p> <p>【事前学習】8回目のソーシャルワークの原理を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】8回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第9回	<p>ソーシャルワークの源流と基礎確立期(第4章 第1節)</p> <p>【事前学習】9回目のソーシャルワークの源流と基礎確立期を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】9回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第10回	<p>ソーシャルワークの発展期(第4章 第2節)</p> <p>【事前学習】10回目のソーシャルワークの発展期を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】10回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p> <p>社会福祉協議会の経験をもとに、社会福祉協議会とCOSやCoに関して共に考える。</p>
第11回	<p>ソーシャルワークの展開期と統合化(第4章 第3節)</p> <p>【事前学習】11回目のソーシャルワークの展開期と統合化を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】11回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第12回	<p>専門職倫理の概念、倫理綱領(第5章 第1節と2節の1,2,3)</p> <p>【事前学習】12回目の専門職倫理の概念、倫理綱領を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】12回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第13回	<p>日本におけるソーシャルワーク、社会福祉士、精神福祉士の倫理綱領 (第5章 第2節の4,5,6)</p> <p>【事前学習】13回目の日本におけるソーシャルワーク、社会福祉士、精神福祉士の倫理綱領を読み、概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】13回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第14回	<p>ソーシャルワーク実践における倫理綱領の活用、倫理的ジレンマの内容、判断過程(第5章 第2節の7,8、第3節)</p> <p>【事前学習】14回目のソーシャルワーク実践における倫理綱領の活用、倫理的ジレンマの内容、判断過程を読み、概略を把握しておく</p>

	<p>(2 時間)</p> <p>【事後学習】 14 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく</p> <p>(2 時間)</p> <p>第 15 回 日本におけるソーシャルワークの形成過程、前期のまとめと質疑応答 (第 4 章 4 節)</p> <p>第 4 章全体に関するプレゼンテーション、前期のまとめと質疑応答</p> <p>【事前学習】 15 回目の日本におけるソーシャルワークの形成過程を読み 概略の把握と前期全体に関する自分の考えや意見を プレゼンテーションする準備をする (2 時間)</p> <p>【事後学習】 15 回全体の授業内容を中心に前期末テストの準備をする (自分のスケジュールを作成し積極的に取り組む) (2 時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの定義、構成要素について理解するようになる。</li> <li>2. ソーシャルワークの原理と理念について理解するようになる。</li> <li>3. ソーシャルワークの形成過程について理解するようになる。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と地域を視野に貢献する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任や自己管理能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワークの基盤と専門職』 ISBN：978-4-8058-5102-9 出版社：中央法規 2021 年 著者名：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格（税抜）：2,900 円</p>
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>毎回授業後の小テストと学期末試験 80%（配点 40%：40%） 授業での積極性（20%）</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>毎回授業開始前に前回の小テスト解説の時、面談を受ける。 15 回目の小テストと学期末のテストに関するフィードバックは、インターネットを利用し、解説と質問に応じる。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>※毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。 積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館 2 年、県社会福祉協議会 1 年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考える。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと（2 時間）。</p> <p>【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する（2 時間）。</p>

講義科目名称： ソーシャルワークの基盤と専門職（社会）/相談援助の基盤と専門職B（2020 以前入学生）			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎬			

テーマ	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象・展開、ジェネラリスト視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携およびチームアプローチの意義と内容を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 専門職の成立条件(第6章 第1節の1)</p> <p>【事前学習】1回目の専門職の成立条件を読み概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】1回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第2回 社会生活支援専門職としてのソーシャルワーカー、 ソーシャルワーク専門職と職能団体の役割(第6章 第1節2,3)</p> <p>【事前学習】2回目の社会生活支援専門職としてのソーシャルワーカー、 ソーシャルワーク専門職と職能団体の役割を読み 概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】2回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第3回 社会福祉士の職域と役割(第6章 第2節)</p> <p>【事前学習】3回目の社会福祉士の職域と役割を読み概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】3回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第4回 社会福祉行政における専門職（第6章 第3節1、2）</p> <p>【事前学習】4回目の社会福祉行政における専門職を読み概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】4回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第5回 民間の社会福祉施設における専門職（第6章 第3節5）</p> <p>【事前学習】5回目の民間の社会福祉施設における専門職を読み 概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】5回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第6回 アメリカ、イギリス、北欧などの諸外国の動向（第6章 第4節）</p> <p>【事前学習】6回目のアメリカ、イギリスなどの諸外国の動向を読み 概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】6回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第7回 ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロのレベル （第7章 第1節の1）</p> <p>【事前学習】7回目のソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロの</p>

	<p>レベルを読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】7回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第8回	<p>マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 (第7章 第2節の2-3)</p> <p>【事前学習】8回目のマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】8回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第9回	<p>マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開 (第7章 第2節の1-5)</p> <p>【事前学習】9回目のマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】9回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第10回	<p>マイクロ・メゾ・マクロレベルの関連性とそれに基づく援助の実際 (第7章 第2節の6)</p> <p>【事前学習】10回目のマイクロ・メゾ・マクロレベルの関連性とそれに基づく援助の実際を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】10回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第11回	<p>総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークの意義と必要性 (第8章 第1節の1)</p> <p>【事前学習】11回目の総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークの意義と必要性を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】11回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第12回	<p>ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点とソーシャルワークの特徴 (第8章 第1節の2,3)</p> <p>【事前学習】12回目のソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点とソーシャルワークの特徴を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】12回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第13回	<p>多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制の構築と協働体制 (第8章 2節の1,2)</p> <p>【事前学習】13回目の多機関・多職種の連携・協働による包括的支援体制の構築と協働体制を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】13回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p>
第14回	<p>サポートネットワークキングと多職種連携およびチームアプローチの意義 (第8章 2節の3,3節の1)</p> <p>【事前学習】14回目のサポートネットワークキングと多職種連携および</p>

	<p>チームアプローチの意義を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】14回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2時間)</p> <p>第15回 機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働、 後期のまとめと質疑応答</p> <p>【事前学習】15回目の機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働を読み概略を把握しておくこと、後期のまとめと質疑応答の準備 (2時間)</p> <p>【事後学習】後期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら15回全体の授業内容を中心に後期末テストの準備をする (自分のスケジュールを作成し積極的に取り組む) (2時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワークの価値と倫理や社会福祉士の役割について理解できるようになる。</li> <li>2. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解できるようになる。</li> <li>3. 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について理解できるようになる。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけるようになる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワークの基盤と専門職』 ISBN：978-4-8058-5102-9 出版社：中央法規 2021年 著者名：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,900円</p>
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>毎回授業後の小テストと学期末試験 80% (配点 40% : 40%) 授業での積極性 (20%)</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>毎回授業開始前に前回の小テスト解説の時、面談を受ける。 15回目の小テストと学期末のテストに関するフィードバックは、インターネットを利用し、解説と質問に応じる。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>※毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。 積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと(2時間)。 【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(2時間)。</p>

講義科目名称： 相談援助の理論と方法A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎬			

テーマ	ソーシャルワークの構成要素、相談援助の構造、機能、援助関係、援助過程を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 相談援助の定義と枠組みと具体的な事例を通じてソーシャルワーカーの役割 (第1章 1節、2節)</p> <p>【事前学習】1回目の相談援助の定義と枠組みと具体的な事例を通じてソーシャルワーカーの役割を読み、概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】1回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(2時間)</p> <p>総合福祉館の経験をもとに、人を援助する姿勢や意味に関してプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
	<p>第2回 ソーシャルワークを構成する要素-「価値」「知識」「方法」-(第1章 3節)</p> <p>【事前学習】2回目のソーシャルワークを構成する要素を読み、概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】2回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(2時間)</p>
	<p>第3回 ソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織 (第1章 4節、5節)</p> <p>【事前学習】3回目のソーシャルワークの職場、ソーシャルワーカーが所属する組織を読み、概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】3回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(2時間)</p>
	<p>第4回 ソーシャルワークの構造(第2章 1節)</p> <p>【事前学習】4回目のソーシャルワークの構造を読み、概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】4回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(2時間)</p>
	<p>第5回 ソーシャルワークにおけるニーズ(第2章 2節)</p> <p>【事前学習】5回目のソーシャルワークにおけるニーズを読み、概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】5回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(2時間)</p>
	<p>第6回 ソーシャルワークの機能、人と環境(第2章 3節、第3章)</p> <p>【事前学習】6回目のソーシャルワークの機能、人と環境を読み、概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】6回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく(2時間)</p>

第7回	<p>援助関係の意義、援助関係の形成に影響する要因（第4章 1節、2節）</p> <p>【事前学習】7回目の援助関係の意義、援助関係の形成に影響する要因を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】7回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第8回	<p>援助構造と援助関係、援助関係の質、実践領域（第4章 3節、4節、5節）</p> <p>【事前学習】8回目の援助構造と援助関係、援助関係の質、実践領域を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】8回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第9回	<p>相談援助の展開過程の流れ、ケース発見（第5章 1節、2節）</p> <p>【事前学習】9回目の相談援助の展開過程の流れ、ケース発見を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】9回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第10回	<p>インテーク、問題把握、ニーズ確定（第5章 3節、4節）</p> <p>【事前学習】10回目のインテーク、問題把握、ニーズ確定を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】10回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第11回	<p>アセスメントと支援目標の設定（第5章 5節、6節）</p> <p>【事前学習】11回目のアセスメントと支援目標の設定を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】11回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第12回	<p>支援計画の作成、支援計画の実施（第5章 7節、8節）</p> <p>【事前学習】12回目の支援計画の作成、支援計画の実施を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】12回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第13回	<p>モニタリング、再アセスメント（第6章 1節、2節）</p> <p>【事前学習】13回目のモニタリング、再アセスメントを読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】13回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
第14回	<p>支援の終結、効果測定、アフターケア、サービス開発（第6章 3節、4節）</p> <p>【事前学習】14回目の支援の終結、効果測定、アフターケア、サービス開発を読み、概略を把握しておく（2時間）</p> <p>【事後学習】14回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>



	<p>第 15 回           アウトリーチ、前期のまとめと質疑応答</p> <p>【事前学習】15 回目のアウトリーチを読み概略を把握しておく（2 時間）</p> <p>【事後学習】15 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2 時間）</p> <p>後期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <p>1. 相談援助の構造と機能、相談援助における援助関係について理解する。</p> <p>2. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と協調と協働を実現する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：相談援助の理論と方法 I</p> <p>ISBN：978-4-8058-5103-6</p> <p>出版社：中央法規 3 版 2015 年</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,600 円</p>
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テスト 40%，期末テスト 40%</p> <p>授業での積極性（20%）</p> <p>【フィードバック方法】</p> <p>毎回授業開始前に前回の小テスト解説の時、面談を受ける。</p> <p>15 回目の小テストと期末テストはインターネットを利用し解説と質問に応じる。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴 講 生 【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。</p> <p>積極的な質問を歓迎する。</p> <p>総合福祉館 2 年、県社会福祉協議会 1 年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにする。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】</p> <p>毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと（2 時間）。</p> <p>【事後学習】</p> <p>毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する（2 時間）。</p>

講義科目名称： 相談援助の理論と方法B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎬			

テーマ	相談援助の契約、介入、評価、モニタリング、面接、記録の技術の学習
授業計画	<p>第1回 相談援助のための契約の意義と目的、方法と留意点（第8章 1節、2節） 総合福祉館の経験をもとに、契約の大切さを紹介しながら共に考える。 【事前学習】1回目の相談援助のための契約の意義と目的、方法と留意点を読み、概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】1回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第2回 ソーシャルワークにおけるアセスメントの特徴、面接（第9章 1節） 【事前学習】2回目のソーシャルワークにおけるアセスメントの特徴、面接を読み概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】2回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第3回 アセスメントで得るべき情報、情報の使い方（第9章 2節、3節） 【事前学習】3回目のアセスメントで得るべき情報、情報の使い方を読み概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】3回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第4回 介入の意義、目的、方法、留意点（第10章 1節、2節） 【事前学習】4回目の介入の意義、目的、方法、留意点を読み、概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】4回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第5回 モニタリング、再アセスメントの手順・事例（第11章 1節、2節） 【事前学習】5回目のモニタリング、再アセスメントの手順・事例を読み、概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】5回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第6回 効果測定、評価、サービス開発（第11章 3節、4節） 【事前学習】6回目の効果測定、評価、サービス開発を読み、概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】6回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>
	<p>第7回 相談援助における面接の目的と特性展開（第12章 1節） 【事前学習】7回目の相談援助における面接の目的と特性展開を読み、概略を把握しておく（2時間） 【事後学習】7回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく（2時間）</p>

第 8 回	<p>相談援助における面接の基本姿勢と展開 (第 12 章 2 節)</p> <p>面接の基本姿勢に関してプレゼンテーションしながら共に考える。</p> <p>【事前学習】 8 回目の相談援助における面接の基本姿勢と展開を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 8 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 9 回	<p>相談援助における面接において用いる技術と面接の形態(第 12 章 3 節、4 節)</p> <p>【事前学習】 9 回目の相談援助における面接において用いる技術と面接の形態を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 9 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 10 回	<p>相談援助のための記録の意義と活用目的(第 13 章 1 節)</p> <p>【事前学習】 10 回目の相談援助のための記録の意義と活用目的を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 10 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 11 回	<p>相談援助のための記録の種類と活用 (第 13 章 2 節)</p> <p>【事前学習】 11 回目の相談援助のための記録の種類と活用を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 11 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 12 回	<p>記録の方法と IT 化、記録の実際例 (第 13 章 3 節、4 節)</p> <p>【事前学習】 12 回目の記録の方法と IT 化、記録の実際例を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 12 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 13 回	<p>交渉意義と目的 (第 14 章 1 節)</p> <p>【事前学習】 13 回目の交渉意義と目的を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 13 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 14 回	<p>交渉の方法と留意点(第 14 章 2 節)</p> <p>【事前学習】 14 回目の交渉の方法と留意点を読み、概略を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 14 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p>
第 15 回	<p>後期のまとめと質疑応答</p> <p>【事前学習】 質疑応答の内容を把握しておく (2 時間)</p> <p>【事後学習】 15 回目の授業後のテストを中心に解答と疑問点を作成しておく (2 時間)</p> <p>後期授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーションしながら共に考える。</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要と到達目標】</b>  1. 相談援助のための契約、アセスメントの技術について理解する。  2. 相談援助のための介入、モニタリング、評価の技術について理解する。  3. 相談援助のための面接、記録、交渉の技術について理解する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決に導く力と協調と協働を実現する力や地域を視野に貢献する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力とこれまでに獲得した知識・機能・態度を総合的に活用し、課題を解決する力を身につけることができる。  ※毎回小テストを実施し、次回授業開始時に小テストの解説を実施する。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：相談援助の理論と方法 I  ISBN：978-4-8058-5103-6  出版社：中央法規 3版 2015年  著者名：社会福祉士養成講座編集委員会  価格（税抜）：2,600円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>小テストと学期末試験 80%（配点 40%：40%）  授業での積極性（20%）  <b>【フィードバック方法】</b>  毎回授業開始前に前回の小テスト解説の時、面談を受ける。15回目の小テストと期末テストは、インターネットを利用し、解説と質問に応じる。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。</p>
<p>履修条件</p>	<p>なし</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】  キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>毎週小テストを実施する。積極的な質問を歓迎する。  総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b>  毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと（2時間）。  <b>【事後学習】</b>  毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する（2時間）。</p>

講義科目名称： 相談援助の理論と方法C			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊英勝			

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ
授業計画	第1回 相談援助における対象の理解
	第2回 相談援助の対象をどうとらえるか
	第3回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）の基本・過程 社会福祉協議会に務めているときの居宅介護支援事業所において、 介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの 実際に関するエピソードをお話します。
	第4回 ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴 社会福祉協議会に務めているときの居宅介護支援事業所において、 介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの 実際に関するエピソードをお話します。 また、介護認定調査員としての経験、介護認定審査委員としての 経験についても触れたいと思います。
	第5回 ケアプランの作成・実施の特徴 ケースマネジメントの特徴 ソーシャルワークの関係 社会福祉協議会に務めているときの居宅介護支援事業所において、 介護支援専門員（ケアマネジャー）としてのケースマネジメントの 実際に関するエピソードをお話します。
	第6回 グループワークを活用した相談援助① グループを活用した相談援助
	第7回 グループワークを活用した相談援助② 自助グループを活用した相談援助 社会福祉協議会時代に様々な自助グループと接することがありました。 その時のエピソードをお話したいと思います。
	第8回 相談援助の対象とケースマネジメント（中間テスト）
	第9回 コーディネーションの目的と意義・方法・技術・留意点 地域包括支援センターの管理者として実際に経験した他の専門職との連携・ 協働のためのコーディネーションの実際について紹介します。
	第10回 ネットワーキングの意義と目的・方法 地域福祉を推進する総合的なネットワークの形成とシステム 社会福祉協議会での地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャル ワーカー）としての経験から、ネットワーキングの方法と地域福祉を推進 する総合的なネットワークの形成方法の実際について解説します。
	第11回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的・方法と留意点 社会福祉協議会での地域包括支援センター業務、居宅介護支援事業所での 業務、地域福祉コーディネーターとしての業務を踏まえ、社会資源の活用・ 調整・開発の実際についてお話します。
	第12回 ソーシャルアクションによるシステムづくり 社会福祉協議会での地域福祉コーディネーターとしてかかわったときの

	<p>ソーシャルアクションの実際についてお話しします。</p> <p>第 13 回 さまざまな実践モデルとアプローチとその意味 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル</p> <p>地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー</p> <p>障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの基礎モデルについて解説します。</p> <p>第 14 回 ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル</p> <p>地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー</p> <p>障害者支援施設での生活支援員等の経験からのジェネラリストソーシャルワークとは何かを解説します。</p> <p>第 15 回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 相談援助の実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特に相談援助における対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに関係実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> ①対面授業の間は毎回のリアクションペーパー（中間テスト含む）50％ ②最終課題レポート（50％）</p> <p><b>【フィードバックの方法】</b> リアクションペーパーを回収した次の授業内で総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい ③オフィスアワーを積極的に活用して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。 障害者支援施設での生活支援員、社会福祉協議会での、ボランティアコーディネーター、地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、総合相談員、事務局長としての組織マネジメント等授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。</p>

<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b>            毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行ってください。（2時間）</p> <p><b>【事後学習】</b>            毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください。（2時間）</p>
-----------------	--

講義科目名称： 相談援助の理論と方法D			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊英勝			

テーマ	相談援助実習・演習科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ
授業計画	第1回 相談援助の理論と方法C（前期）のふりかえり
	第2回 心理的アプローチ、機能的アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第3回 問題解決アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第4回 課題中心アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第5回 危機介入アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第6回 行動変容アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第7回 エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、 その他の実践アプローチ 地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、地域包括支援センター管理者・社会福祉士・主任ケアマネジャー 障害者支援施設での生活支援員等の経験からのソーシャルワークの実践アプローチについて解説します。
	第8回 スーパービジョンの意義と目的・方法と留意点 社会福祉協議会において、総務係長、地域福祉係長、事務局長として部下に対するスーパービジョンの経験を踏まえ、意義・目的・方法について解説します。



	<p>第9回 コンサルテーションとは(目的と意義)・中間テスト</p> <p>第10回 ケースカンファレンスの技術 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験からケースカンファレンスについて解説します。</p> <p>第11回 ケースカンファレンスの実際 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験からケースカンファレンスについて解説します。</p> <p>第12回 相談援助における個人情報の保護、 通信技術の活用・家族システムアプローチ 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験からケースカンファレンスについて解説します。</p> <p>第13回 事例研究の意義・方法と留意点 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験から事例研究について解説します。</p> <p>第14回 事例分析の目的と意義・方法と留意点 介護支援専門員(ケアマネジャー)として、ケアプラン作成のためのケアカンファレンスの実際、地域包括支援センターの地域ケア会議の実際、介護認定審査会における介護認定時の他の専門職との会議等の経験から事例研究について解説します。</p> <p>第15回 まとめ</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【概要】</b> 相談援助の実際場面において応用できる理論と方法の基本的事項を理解する。特に相談援助における対象者への支援と実践理論との接点を知ることにより、相談援助の概念及び実践理論がいかに現場実践に結びついているのかを体系的に学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ソーシャルワーカーとしての相談援助に関する知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考、問題解決能力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版 ISBN：978-4-8058-5104-3 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格(税抜)：2,600円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中適宜紹介する。</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 ①毎回のリアクションペーパー（中間テスト含む）（50%） ②課題レポート（50%）</p> <p>【フィードバックの方法】 リアクションペーパーを回収した次の授業内で、総評を口頭で伝え及び質問に対し回答をする。</p>
質問・相談の受付方法	<p>①授業内で適宜、質問相談に応じる ②リアクションペーパーに積極的に記入して欲しい ③オフィスアワーを積極的に活用して欲しい</p>
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な質問を歓迎します。 障害者支援施設での生活支援員、社会福祉協議会での、ボランティアコーディネーター、地域福祉コーディネーター、介護支援専門員、総合相談員、事務局長としての組織マネジメント等授業の中でエピソードや実務的な内容についても触れたいと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに予習を行っておくこと（2時間）</p> <p>【事後学習】 毎回授業後に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（2時間）</p>

講義科目名称： 地域福祉の理論と方法A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊英勝			

テーマ	地域社会のニーズ、地域福祉を形成した思想・理念、地域福祉を推進する政策・制度、要支援者の地域自立生活を支援する実践の現状の理解をする。
授業計画	第1回 オリエンテーション 地域福祉の発展過程 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第2回 行政と住民の協働による新しい福祉としての地域福祉・ 新しい生活課題に対応する地域福祉 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第3回 新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉・ 福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体形成 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第4回 地域福祉理論の発展と広がり・地域自立生活支援と地域福祉の理念 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第5回 地域のとらえ方と福祉圏域・ 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織の有機的連携 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第6回 地域福祉の推進と福祉教育・地域福祉の推進と福祉教育の歩み 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第7回 福祉教育の概念と内容・社会福祉における地方分権化と地域福祉計画 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第8回 社会福祉協議会の役割と実際 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第9回 社会福祉法人の役割と実際・特定非営利活動法人の役割とボランティア活動 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第10回 民生委員児童委員、保護司・福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第11回 コミュニティソーシャルワークの考え方 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。

	<p>第12回 様々なエピソードを紹介したいと思います。 コミュニティソーシャルワークの展開とシステム 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第13回 様々なエピソードを紹介したいと思います。 コミュニティソーシャルワークの方法・ 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第14回 専門職のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク・ 専門職と住民の関係 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第15回 まとめ 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>地域福祉は、2000年の社会福祉法制定で「地域福祉の推進」が法律の中に位置づけられ、社会福祉制度の中では比較的新しい研究分野である。さらに、2017年には社会福祉法改正において地域共生社会の構築が喫緊の課題となっており、社会福祉分野の学習において基盤となる考え方である。</p> <p>【授業概要】 地域社会を基盤にした「共生社会の構築」「主体的な住民参加」など地域福祉の理念・考え方をふまえ、要支援者の自立地域生活を支える福祉コミュニティ形成のあり方を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 地域社会を基盤とした生活課題の把握及び解決に取り組むソーシャルワークの知識・支援スキルの習得を目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び地域を視野に貢献する力をつけることができる。さらに、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力及びチームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座9巻「地域福祉の理論と方法—地域福祉論」第3版 ISBN：978-4-8058-5105-0 出版社：中央法規出版 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>①毎回アクションペーパーを記入・提出していただく（50%） ②最終課題レポート作成・提出（50%） 期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーを積極的に利用してください。 毎回の授業時に配るリアクションペーパーに記入してください。</p>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>

<p>メッセージ</p>	<p>市町村社会福祉協議会の職員として地区社会福祉協議会活動・小地域福祉活動・ボランティア活動の推進、2000年度の法定化された苦情解決制度・地域福祉権利擁護事業などの福祉サービス利用者の権利擁護事業の立ち上げと定着化、介護保険事業においては介護支援専門員、地域包括支援センター管理者等従事しました。その体験をふまえた実践研究を通じた授業を行います。</p> <p>社会福祉士等の福祉専門職は、社会福祉システムのメインストリームである「地域福祉」の理論と方法を習得することは必須であり、地域福祉を創造する一員としての学びをしてください。</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 授業計画によって事前に提示されているテーマについて、次回授業の予習内容を提示するので、教科書、参考文献や新聞記事等を調べ、わからない用語をチェックしておくなど事前学習を行うこと。(2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b> 毎回の授業での「出席票振り返り欄」に授業内容を振り返りを行うこと。また、授業時間外で授業該当テーマを教科書と授業時配布レジユメをもとに振り返りを行うこと。さらに、授業で取り上げた地域福祉実践について、自らが暮らす地域社会で展開されているかどうかを把握すること。(2時間)</p>

講義科目名称： 地域福祉の理論と方法B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡邊英勝			

テーマ	地域社会のニーズ、地域福祉を形成した思想・理念、地域福祉を推進する政策や制度、地域の要支援者を支援する実践活動の現状を理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方）、 地域福祉推進における住民参加の意義 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第2回 市町村社会福祉行政における住民参加 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第3回 住民の代表制と参加方法 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第4回 ソーシャルサポートネットワークの考え方と位置 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第5回 ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ・ 事例から読み解くソーシャルサポート 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第6回 社会資源の活用と開発・ニーズ対応型福祉サービスの開発 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第7回 税制優遇と助成金の活用・福祉でまちづくりとソーシャルアクション 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第8回 地域福祉におけるアウトリーチの意義・ 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第9回 地域トータルケアシステムの必要性と考え方・ 地域トータルケアシステムの展開方法 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。
	第10回 地域トータルケアシステムの事例・ソーシャルケア従事者の研修と組織化 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。

	<p>第 11 回 福祉サービスの評価を必要とする背景・評価の考え方 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第 12 回 福祉サービスの評価の方法と実際・福祉サービスのプログラム評価とその展開 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第 13 回 災害支援の考え方と方法・災害支援の実際 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第 14 回 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p> <p>第 15 回 まとめ 地域共生社会の構築と地域福祉 社会福祉協議会において地域福祉推進に係る業務に従事してきました。 様々なエピソードを紹介したいと思います。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>地域福祉は、2000年の社会福祉法制定で「地域福祉の推進」が法律の中に位置づけられ、社会福祉制度の中では比較的新しい研究分野である。さらに、2020年には社会福祉法改正において地域共生社会の構築が喫緊の課題となっており、社会福祉分野の学習において基盤となる考え方である。</p> <p>【授業概要】 地域社会を基盤にした「共生社会の構築」「主体的な住民参加」など地域福祉の理念・考え方をふまえ、要支援者の自立地域生活を支える福祉コミュニティ形成のあり方を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 地域社会を基盤とした生活課題の把握及び解決に取り組むソーシャルワークの知識・支援スキルの習得を目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び地域を視野に貢献する力をつけることができる。さらに、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力及びチームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 9 巻「地域福祉の理論と方法—地域福祉論」第 3 版 ISBN：978-4-8058-5105-0 出版社：中央法規出版 価格（税抜）：2,600 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>①毎回リアクションペーパーを記入・提出していただく（50%） ②最終課題レポート作成・提出（50%） 期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーを積極的に利用してください。 毎回の授業時に配るリアクションペーパーに記入してください。</p>
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>

メッセージ	<p>市町村社会福祉協議会の職員として地区社会福祉協議会活動・小地域福祉活動・ボランティア活動の推進、2000年度の法定化された苦情解決制度・地域福祉権利擁護事業などの福祉サービス利用者の権利擁護事業の立ち上げと定着化、介護保険事業においては介護支援専門員、地域包括支援センター管理者等従事しました。その体験をふまえた実践研究を通じた授業を行います。</p> <p>社会福祉士等の福祉専門職は、社会福祉システムのメインストリームである「地域福祉」の理論と方法を習得することは必須であり、地域福祉を創造する一員としての学びをしてください。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b>  授業計画によって事前に提示されているテーマについて、次回授業の予習内容を提示するので、教科書、参考文献や新聞記事等を調べ、わからない用語をチェックしておくなど事前学習を行うこと。(2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>  毎回の授業での「出席票振り返り欄」に授業内容を振り返りを行うこと。また、授業時間外で授業該当テーマを教科書と授業時配布レジュメをもとに振り返りを行うこと。さらに、授業で取り上げた地域福祉実践について、自らが暮らす地域社会で展開されているかどうかを把握すること。(2時間)</p>



講義科目名称： 福祉行財政と福祉計画			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 福田幸夫			
テーマ	地域共生社会の構築が必須となる国及び地方自治体における社会福祉行政及び財政（民生費）のしくみと福祉計画の実際を理解し、併せて国と地方の役割の変化・地方分権・計画行政・住民参加を学ぶ。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の概要、目的、進め方）、 市町村行政における福祉政策の動向</p> <p>第2回 社会福祉行政の骨格と社会福祉の法制度</p> <p>第3回 国・地方自治体の社会福祉行政の組織</p> <p>第4回 財政と社会福祉、国の予算と社会保障関係費</p> <p>第5回 地方自治体の財政と民生費（社会福祉予算）</p> <p>第6回 社会福祉基礎構造改革</p> <p>第7回 社会福祉行政における専門諸機関の相談体制と相談過程</p> <p>第8回 社会福祉行政における専門諸機関及び専門職の役割</p> <p>第9回 社会福祉計画の法的位置づけ・目的と意義</p> <p>第10回 福祉計画の種類、福祉計画の主体と作成方法</p> <p>第11回 地域福祉計画の視点と策定の実際</p> <p>第12回 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の視点と策定の実際</p> <p>第13回 障がい者福祉計画・障がい福祉計画の視点と策定の実際</p> <p>第14回 子ども子育て支援計画の視点と策定の実際</p> <p>第15回 まとめ これからの社会福祉行政</p>		
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b>        全世代型・全対象型地域包括支援体制を展開する社会福祉行政の実施体制（国、都道府県、市町村）の役割と主に福祉・介護に関する財政・財源の仕組みを国と地方自治体との関係も踏まえて理解する。また、地域社会における福祉事業等を展開するための各種福祉計画の目的や法的位置づけ、住民参加の意義を踏まえ、具体的な各種計画策定（地域福祉、子ども子育て、高齢・介護、障がい）の実際を理解する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>        社会福祉行政の仕組み及び財政構造の知識、政策推進のための多様な福祉計画の知識・策定手法の基本的な修得が図られる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>        この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び地域を視野に貢献する力をつけることができる。さらに、「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力及びチームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>		
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座10「福祉行財政と福祉計画」第5版        ISBN：978-4-8058-5430-3        出版社：中央法規        著者名：社会福祉士養成講座編集委員会        価格（税抜）：2,200円</p>		
参考文献	講義中適宜紹介する。		

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	①期末のレポート(60%)及び小テスト等(40%)で成績評価する。
質問・相談の受付方法	授業終了後及びオフィスアワー等の時間で対応する。
履修条件	特になし。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	この授業では、社会福祉士国家試験受験資格取得をめざす学生や、社会保障や狭義の福祉にかかる行政、財政、計画に興味のある学生の受講を希望します。将来の福祉職場におけるリーダーを目指す人には必須である科目です。自分自身も自治体の各種福祉計画策定委員や中核市の社会福祉協議会の理事、介護認定審査委員、障害区分審査委員、障がい者自立支援協議会委員等の経験を踏まえ、わかりやすく解説していきたいと思ひます。
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業計画によって事前に提示されているテーマについて、次回授業の予習内容を提示するので、教科書・参考文献の精読、社会福祉六法での法的位置づけ等を調べ、わからない用語をチェックしておくなど事前学習を行うこと。(90分)</p> <p><b>【事後学習】</b> 毎回の授業での「出席票振り返り欄」に授業内容を振り返りを行うこと。また授業該当テーマを教科書と授業時配布レジュメをもとに授業時間外で振り返りを行うようにすること。さらに、授業で取り上げた行政の仕組み、社会保障・社会福祉の財政、各種福祉計画の実態について、自らが暮らす地域社会で展開されているかどうかを把握すること。(90分)</p>

講義科目名称： 福祉サービスの組織と経営			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 福田幸夫			

テーマ	福祉サービスの特性を理解し、福祉サービスを提供している事業者（主に非営利組織）の経営を考える
授業計画	第1回      オリエンテーション 授業日程・授業内容等 ・ 私たちの暮らしと社会福祉のあり方 ・ 授業計画の説明
	第2回      福祉サービス提供事業者の位置と組織形態の多様性 ・ 福祉サービスとは ・ 福祉サービスの事業主体
	第3回      社会福祉法人（福祉施設・社会福祉協議会）の現状と経営課題 ・ 社会福祉法人制度の概要 ・ 社会福祉法人の設立要件等 [現場エピソード…同族経営の弊害]
	第4回      特定非営利活動法人・その他のサービス提供組織の現状と経営課題 ・ 特定非営利活動法人の概要 ・ 特定非営利活動法人の設立要件等
	第5回      福祉サービス提供組織と経営理論①（組織戦略の基礎理論） ・ 福祉サービスの経営戦略 ・ 福祉サービスの事業計画
	第6回      福祉サービス提供組織と経営理論②（組織構造の基礎理論） ・ 福祉サービスの組織構造 ・ 福祉サービスの組織形態 [現場エピソード…福祉サービス提供の理念の実態]
	第7回      福祉サービス提供組織の経営理論③（集団力学の基礎理論） ・ 福祉サービスの運営管理方法 ・ 集団とモチベーション
	第8回      福祉サービスと経営管理①（サービス管理） ・ 福祉サービスの特性 ・ 福祉サービスとチームマネジメント
	第9回      福祉サービスと経営管理②（品質管理） ・ 福祉サービスの質の評価 ・ 自己評価と第三者評価等
	第10回     福祉サービスと経営管理③（リスク管理） ・ 福祉サービスの苦情対応 ・ 福祉サービスにおけるリスクマネジメント [現場エピソード…福祉サービスと人権]
	第11回     福祉組織における人事・労務管理 ・ 福祉サービスにおける人材の確保と採用

	<p>・ 福祉サービスにおける労務管理と労使関係管理</p> <p>第 12 回 福祉組織における人材確保・育成</p> <p>・ 福祉サービスにおける人材育成の必要性</p> <p>・ 経営管理と人材育成の方法</p> <p>第 13 回 福祉組織における財務・会計管理</p> <p>・ 社会福祉法人の経営と財務管理</p> <p>・ 社会福祉法人の財務規律・財務諸表</p> <p>[現場エピソード…市場原理と福祉経営]</p> <p>第 14 回 福祉組織における情報管理と戦略的広報</p> <p>・ 福祉サービスに必要な情報管理</p> <p>・ サービス情報の公表制度等</p> <p>第 15 回 まとめ 社会福祉事業者と経営</p> <p>・ 福祉サービス運営管理の総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>福祉サービスの中核を担うソーシャルワーカーとして、福祉サービスを提供する組織・事業体等の非営利組織の経営理念・経営戦略、経営管理について基礎的な知識を修得する。具体的には、</p> <p>①福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人など）について理解する。</p> <p>②福祉サービスの特性をふまえ、提供組織構造と経営に係る基礎理論について理解する。</p> <p>③福祉サービスを提供する組織の経営管理及び組織運営（チームマネジメント）について理解する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>ソーシャルワーカーとして活躍できる人材を育成することを視野に、福祉サービスの運営管理を理解し、説明できる。また、社会福祉士国家試験の受験科目として合格するための必要な基礎的な知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b></p> <p>「福祉力」の構成要素では、「知識・技能を理解する力」、「主体的に学習する力」、「地域を視野に貢献する力」を身につけ、「学士力」では、「論理的思考力」、「問題解決力」「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 11「福祉サービスの組織と経営」第 5 版</p> <p>ISBN：978-4-8058-5431-0</p> <p>出版社：中央法規</p> <p>著者名：社会福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	<p>①「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」報告 厚生労働省 2014年7月</p> <p>②「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割等について」答申 社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2018年3月</p> <p>その他、講義中適宜紹介します。</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>①受講姿勢 25%</p> <p>②3回程度の小テスト 25%</p> <p>小テストについては、提出日の次回授業内で総評・解説をおこなう。また、学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p> <p>③期末レポート 50%</p> <p>学期末試験に関するフィードバックについては、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じておこなう。</p>
質問・相談の受付方法	授業中、あるいは授業終了後、随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。

特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>社会福祉士等の福祉専門職は、自らの職場が働きやすい環境を創るための努力が求められ、組織の安定性と継続性を図る『経営』について学んでほしい。 社会福祉士として、社会福祉法人の理事、評議員の経験があります。授業中にいろいろな福祉現場のエピソードを紹介したいと思います。</p>
準備学習について	<p>①毎回授業内で予習内容を指示するので、予習を行うこと（2時間） ②毎回授業で確認を行うので(小テスト等)、授業時間外で復習すること（2時間） 参考文献に記載した①、②の報告書・答申を入手（厚生労働省ホームページに掲載）し、精読しておくこと(授業中に指示する)。</p>

講義科目名称： 児童・家庭福祉サービス			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 相原真人			

テーマ	児童・家庭福祉の基本的枠組みと、個別具体的なサービスの内容を理解していきます。
授業計画	第1回 導入 シラバスを通して、この授業の枠組みや約束事を確認します。さらに、実際に起こった児童虐待事例を通して子どもたちが置かれた状況を知るとともに、児童・家庭福祉全体の任務を概観することにより、授業へ導入します。
	第2回 現代社会と子ども家庭 少子高齢化、児童虐待の増加、一人親家庭の状況、保育所待機児童、いじめと非行、子どもの貧困など、現代の子どもと家庭の福祉ニーズを理解します。
	第3回 子ども家庭福祉とは何か 児童の定義、児童福祉の理念、子どもの権利保障、日本と欧米の児童福祉の歴史、等を理解します。
	第4回 子ども家庭福祉に関わる法制度① 子育て支援施策の概要を把握するとともに、児童福祉六法など児童・家庭福祉に関係する法律体系の全体像や、児童福祉法を初めとする児童福祉六法の概要を知り、児童相談所など福祉の実施機関について役割や機能（働き）を理解します。
	第5回 子ども家庭福祉に関わる法制度② 児童福祉施設の体系を知って全体像を把握するとともに、児童養護施設を初め主要な児童福祉施設の役割・機能を理解するとともに、児童福祉司、家庭支援専門相談員（ファミリーソーシャルワーカー）など児童福祉に係る専門職種の役割・機能・資格要件等を理解します。さらに、児童家庭福祉の費用負担や児童福祉施設の運営についても学んでいきます。
	第6回 母子保健 母子保健法を中心に、母子保健施策の具体的な内容について理解します。
	第7回 障害等のある子どもと家族への支援 児童福祉法を中心に、障害児等や家族への具体的な支援内容を理解するとともに、障害児施設で働く専門職についても学んでいきます。 なお、障害があると医師が診断した子どもの実情について、教員が知っている事例の一部を紹介する予定です。
	第8回 児童健全育成 児童福祉法を中心に、児童館や放課後児童健全育成事業（学童保育）など児童健全育成施策の具体的な内容を理解します。
	第9回 保育 児童福祉法を中心に、認可保育所や認定こども園など保育施策の具体的な内容を理解するとともに、保育士の役割・機能についても学んでいきます。

	<p>第10回 地域子育て支援 児童福祉法や子ども・子育て支援法、次世代育成支援対策推進法を中心に、地域における子育て支援の具体的な内容を理解します。</p> <p>第11回 ひとり親家庭等への福祉 母子及び父子並びに寡婦福祉法、及び、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律を中心に、ひとり親家庭やDV（ドメスティックバイオレンス）への具体的な支援の内容を理解します。なお、教員が実務経験の中で把握した一人親家庭への支援の実際について紹介する予定です。</p> <p>第12回 児童の社会的養護 児童福祉法を中心に、児童養護施設や里親制度など保護が必要な子どもへの具体的な支援の内容を理解するとともに、要保護児童対策地域協議会や児童家庭支援センターなど地域において子どもと家庭を支援する仕組みについても学んでいきます。なお、教員が関わっている里親支援機関（フォスタリング機関）の実情等について紹介する予定です。</p> <p>第13回 児童虐待への対応 児童虐待の防止等に関する法律を中心に、児童虐待の定義や発生要因、子どもへの影響などを知るとともに、虐待を受けた子どもへの具体的な支援の内容を理解します。なお、児童相談所における児童虐待への介入的対応の実際について、教員の実体験を基に紹介する予定です。</p> <p>第14回 非行児童・心理支援が必要な子どもの福祉 少年法と児童福祉法を中心に、非行児童や心理治療が必要な子どもへの具体的な支援の内容を理解するとともに、家庭裁判所や児童自立支援施設、児童心理治療施設の役割・機能についても学んでいきます。なお、教員が知っている非行事例の実際について紹介する予定です。</p> <p>第15回 子どもと家庭のソーシャルワーク実践 児童と家庭に対する相談援助（ソーシャルワーク）の内容について理解するとともに、児童養護施設における職員の任務など施設ケアの内容についても学んでいきます。</p> <p>第16回 期末試験 今まで実施してきた小テストを主に活用し、授業全体の理解度を測定します。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b> 児童・家庭福祉とは、発達途上の存在であるため自分自身の権利擁護を大人の手任せに委ねざるを得ない子どもを守り、その権利擁護を担うべき家庭を支援する取り組みの総体ですが、具体的には制度（社会の仕組み）として現れます。この授業は、そのような児童・家庭福祉の内容、特に法律を基盤にした制度の仕組みを講義形式で学びます。</p> <p><b>【到達目標】</b> この授業を通じ、制度の全体と個々の具体的な内容を理解し、今後の望ましいあり方についても考えられるようにするとともに、社会福祉士の国家試験にも対応できる力量を養っていきます。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができます。</p>

テキスト	テキスト名：最新 社会福祉士養成講座（専門科目）③児童・家庭福祉 ISBN：978-4-8058-8246-7 出版社：中央法規出版 著者名：日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 価格（税抜）：2,500 円
参考文献	必要に応じて、その都度紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 予習シートの記述内容（20%）＋小テストの成績（30%）＋期末テストの成績（50%）で評価しますが、予習シートの平均点数の20%と小テストの平均点数の30%および期末試験の点数の50%の合計点が60点に達しない場合、および合計点が60点に達していても期末試験単独の成績が60点に達していないときは、単位を認定しません。</p> <p><b>【課題に対するフィードバック方法】</b> 小テストは採点のうえ次回授業の冒頭で返却し、答え合わせを行います。また、小テストには質問欄を設けてありますので、質問を記入していただいた場合は小テストの返却に合わせて回答します。なお、答え合わせを行った小テストは期末試験の準備をする際に役立ちますので、なくさないよう大切に保管しておいて下さい。</p>
質問・相談の受付方法	基本的にはオフィスアワー等を活用し研究室（研究棟2階202号室）で受け付けます。また、必要に応じ授業終了後に教室で質問して頂いても構いませんが、時間が限られるため充分な対応ができない場合もありますので、予め承知しておいてください。なお、小テストの質問欄を活用することもできます。
履修条件	特に設けませんが、社会福祉士国家試験受験資格およびスクールソーシャルワーク教育課程資格を得るための必須科目であり、相談援助実習（実習指導を含む）の前提科目にもなっていますので、その点も考慮して履修登録してください。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】      キャリアデザイン・カレッジ生【可】 聴講生【可】
メッセージ	<p>1. 出欠席は、毎回提出してもらう予習シート、および、毎回実施する小テストにより確認します。</p> <p>2. 小テストは、授業終了時間の10分ほど前に実施しますが、筆記用具以外は全てカバン等にしまってください。その際、隣の人とは並んで座らず、必ず一人分以上の間を空けて座ってください。また、問題・解答用紙は授業当日の出席人数を把握した上で小テストの実施時間に配布しますので、受講生の皆さんも小テストのスムーズな実施に協力してください。なお、小テストといえども試験であることに変わりはありませんので、不正な行為や疑わしい行為については厳正に対処します。</p> <p>3. 担当教員は、都道府県の公務員（福祉職）として合計18年間にわたりソーシャルワーク業務を行ってきました（そのうち10年間は児童相談所）ので、必要に応じて、授業の中で、実務体験に基づく現場の実際などを紹介していきます。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 次回の授業で取り上げる内容に対応するテキストの範囲を事前に読み、前回の授業で配布された予習シートにテキストの内容に沿った必要事項を記入（以上で概ね1時間）の上、その回の授業が始まる前までに提出箱へ投函していただきます。なお、毎回の予習範囲や予習シートの記入方法など詳細については第一回目の授業で説明しますので、必ず出席してください。</p> <p><b>【事後学習】</b> 次回の授業冒頭で小テストの答え合わせを実施しますので、その回の授業で配布されたプリントの内容を復習（以上で概ね30分）し答え合わせに備えるとともに、小テストが返却された後はプリントの内容と照らし合わせ、その選択肢がなぜ正しく、他の選択肢がなぜ正しくないのかを確認（以上で概ね30分）しておいてください。</p>



講義科目名称： 保健医療サービス			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡辺央			

テーマ	社会福祉専門職としての保健医療サービスの基礎的知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、 保健医療サービスの構成要素</p> <p>第2回 保健医療の動向</p> <p>第3回 保健医療対策の概要</p> <p>第4回 保健医療サービスを提供する施設とシステム ① 医療法による医療施設の機能・類型</p> <p>第5回 保健医療サービスを提供する施設とシステム ② 保健医療政策による医療施設の機能・類型</p> <p>第6回 保健医療サービスを提供する施設とシステム ③ 診療報酬における医療施設の機能・類型</p> <p>第7回 保健医療サービスの提供と経済保障① 医療保険制度</p> <p>第8回 保健医療サービスの提供と経済保障② 診療報酬制度</p> <p>第9回 保健医療サービスの提供と経済保障③ 公費負担医療制度など</p> <p>第10回 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割・歴史</p> <p>第11回 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの業務内容</p> <p>第12回 保健医療サービスの専門職の役割と実際</p> <p>第13回 保健医療サービスの専門職の基本的姿勢</p> <p>第14回 保健医療サービスにおける連携と実際</p> <p>第15回 医療ソーシャルワーカーの現代的役割、まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 保健医療サービスにおいて、生活相談・援助を行う社会福祉士を医療ソーシャルワーカーと定義し、保健医療領域で利用者（患者）のQOLの向上に貢献できるように他の専門職との連携・協働の方法、またそれらを支える制度・施設・資格等を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 保健医療の課題を持つ人に対する社会福祉士としての適切な支援のあり方を考察することができる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス 第5版 ISBN：978-4-8058-5432-7 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	授業中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 各授業における小テストと、まとめのテストにより評価する。（配点 60：40）</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>小テスト、まとめのテストについて解答の解説を行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後、オフィスアワーに対応する。

履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	医療ソーシャルワーカーとしての実務経験を踏まえ、授業の中でそのエピソードなどについても触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】授業毎にテキストの該当する箇所を読んでください(1時間程度) 【事後学習】返却された小テストの振り返りをしてください(1時間程度)

講義科目名称： 更生保護と就労支援			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史			

テーマ	更生保護と就労支援の現状および法制度を理解し、支援方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 働くことの意義、労働市場の変化、労働関係法規 (pp. 2-32)</p> <p>第2回 労働争議(労働者の権利)、 (pp. 19-23)</p> <p>第3回 低所得者(生活保護世帯)への就労支援 (pp. 90-114)</p> <p>第4回 ひとり親家庭、ホームレス、生活困窮者への就労支援 (pp. 114-136)</p> <p>第5回 障害がある人への就労支援 (pp. 34-88) 障害者就労支援の実際を実務経験に基づいて説明します。</p> <p>第6回 就労支援におけるソーシャルワーク(連携と構造化)と専門職 (pp. 138-156)</p> <p>第7回 連携の過程、職業準備性アセスメントと就労支援計画 (pp. 158-178)、 働き方の多様性と新たな就労支援の課題 (pp. 180-183)</p> <p>第8回 犯罪の動向、犯罪被害者施策、更生保護とソーシャルワーク (pp. 2-14, 50-52)</p> <p>第9回 更生保護制度の概要 (pp. 23-49)</p> <p>第10回 裁判所、刑事施設等の機関・団体との連携 (pp. 78-101)、 到達度評価について</p> <p>第11回 出所後の生活(仮釈放)、地域生活定着支援 (pp. 15-22, 95-97, 141-143)</p> <p>第12回 更生保護制度に関わる機関・団体と担い手 (pp. 62-76, 118-129)</p> <p>第13回 医療観察制度 (pp. 104-115, 130-135)</p> <p>第14回 更生保護の実際と今後の展望 (pp. 136-145)</p> <p>第15回 就労支援と更生保護の課題(配布資料)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 「人はなぜ働くのだろうか?」「どうすれば犯罪を減らせるだろうか?」治安情勢と経済状況、犯罪と経済状況には相関関係が存在し、国際的には就労支援や所得保障によって経済的格差を是正し、治安を維持する政策が実施されています。本講義では、この相関関係を理解するために、更生保護および就労支援の現状と法制度を学びます。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 就労支援・更生保護におけるソーシャルワークに必要な知識・技術を習得することを到達目標とします。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 第4版 ISBN：978-4-8058-5433-4 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格(税抜)：1,600円</p> <p>テキスト名：新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス 第4版 ISBN：978-4-8058-5304-7 出版社：中央法規 著者名：社会福祉士養成講座編集委員会 価格(税抜)：1,600円</p>

参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  受講態度(ワークシートの記載内容に対する評価) : 50%、学期末に実施する到達度評価 : 50%を評価の素材として総合的に評価します。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>  フィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を利用してください。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後やオフィスアワーを活用してください。
履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<p>受講にあたって調整が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p> <p>社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に6年間携わっていました。講義では障害者支援の実際について伝えることができればよいと考えています。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b>  事前にテキストや配布資料の該当箇所を読み、わからない用語や制度を調べてください(1時間以上)。</p> <p><b>【事後学習】</b>  原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、雇用や刑法に関する話題(ニュースや記事)、講義やワークシートで取り扱った更生保護・就労支援に関する課題を調べてください(1時間以上)。</p>

講義科目名称： ソーシャルワーク演習/相談援助演習 A (2020 以前入学生)			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、増田樹郎、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力や知識、技術を学び、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる基礎的な能力を涵養する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、SW演習の意義と目的 (合同)</p> <p>【達成目標】 クラスごとに顔合わせを行うとともに、本演習の基本的な枠組みを理解する。</p> <p>【予習事項】 テキストを購入しておく。</p>
	<p>第2回 自己覚知・自己理解</p> <p>【達成目標】 「わたし」は誰であるかを探ってどのような価値観を持っているかを理解し、それにより確認した自己を他者に伝える体験を通して自分自身を意識的に考えられるようにするとともに、相手からの自己開示も受け止めることができるようになる。</p> <p>【予習事項】 テキスト p.13～14 を読んでワークシート 3-1-1 を完成させ、それにより確認した自己も踏まえつつ、テキスト p.9～11 を読み1分程度で自己紹介ができるように考えておく。</p>
	<p>第3回 他者理解</p> <p>【達成課題】 価値観の違いに焦点を当てつつ、他者理解の基盤となる価値観の多様性について学び、他者理解を深めることができる。</p> <p>【予習事項】 テキスト p.28～29 を読み、ワークシート 4-3-1 を完成させておく。</p>
	<p>第4回 基本的なコミュニケーション技術 ①</p> <p>言語的技術 (質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約)</p> <p>【達成目標】 一方向コミュニケーションの限界を知って双方向コミュニケーションの重要性を理解するとともに、効果的な言語的コミュニケーションのスキルを習得する。</p> <p>【予習事項】 テキスト p.35～36 を読んで内容を理解しておくとともに、事前に与えられたテーマの中から1つを選び、話す内容を考えておく。</p>
	<p>第5回 基本的なコミュニケーション技術 ②</p> <p>非言語技術 (表情、態度、身振り、位置取り等)</p> <p>【達成目標】 自分の非言語的コミュニケーションの特徴を知るとともに、非言語的コミュニケーションの特色・重要性を理解する。</p> <p>【予習事項】 演習クラス担当教員により別途指示する。</p>
	<p>第6回 基本的な面接技術 ① (面接の構造化)</p> <p>【達成目標】 面接場面 DVD の視聴とそれを素材とした意見交換により相談援助面接の意味・目的を理解するとともに、面接の基本的流れ、サイクルを体験的に習得する。</p> <p>【予習事項】 テキスト p.55～56 「面接って何だろう」を読んで内容を</p>

	<p>理解するとともに、配布されたプリントを読み、自分が話をする内容を予め考えておく。</p>
第7回	<p>基本的な面接技術 ② 場の設定（面接室、生活場面、自宅等）、ツールの活用（電話、e-mail 等）</p> <p>【達成目標】 面接室、生活場面、自宅など、それぞれの面接場面の違いによるメリットとデメリット、および良い面接と悪い面接の違いを理解し、良い面接を行うために必要な要素を抽出することができる。</p> <p>【予習事項】 テキスト p. 57 の「面接場面 1」及び p. 58 の「面接場面 2」を音読しておく。</p>
第8回	<p>ソーシャルワークの展開過程 ①</p> <p>(ケースの発見、インテーク、アセスメント、SW の記録)</p> <p>【達成目標】 児童虐待事例への個別支援を素材として、事例の流れを追いながら、個別支援の展開過程における「ケースの発見」「インテーク」「アセスメント」の各段階における支援内容について理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 40 「話し合いの部屋」の1 から 10 について考えておく。</p>
第9回	<p>ソーシャルワークの展開過程 ②（プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア）</p> <p>【達成目標】 児童虐待事例への個別支援を素材として、事例の流れを追いながら、個別支援の展開過程における「プランニング」「支援の実施」「モニタリング」「支援の終結と事後評価」および「アフターケア」の各段階における支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 49 「振り返りの部屋」の1 から 6 について考えておく。</p>
第10回	<p>グループダイナミクスの活用（グループワークの構成）と グループワークの展開過程 ① 準備期</p> <p>【達成目標】 アルコール依存症の自助グループを素材として、事例の流れを追いながら、グループワークの展開過程における「準備期」の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 69 「話し合いの部屋」の1 から 4 を調べた上で、5 から 7 について考えておく。</p>
第11回	<p>グループダイナミクスの活用（グループワークの構成）と グループワークの展開過程 ② 開始期</p> <p>【達成目標】 アルコール依存症の自助グループを素材として、事例の流れを追いながら、グループワークの展開過程における「開始期」の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 76 「話し合いの部屋」の1 から 7 について考えておく。</p>
第12回	<p>グループダイナミクスの活用（グループワークの構成）と グループワークの展開過程 ③ 作業期</p> <p>【達成目標】 アルコール依存症の自助グループを素材として、事例の流れを</p>

	<p>追いながら、グループワークの展開過程における「作業期」の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】配布されたプリントの内容を読み、p. 82「話し合いの部屋」の1から9について考えておく。</p> <p>第13回 グループダイナミクスの活用（グループワークの構成）と グループワークの展開過程 ④ 終結期</p> <p>【達成目標】アルコール依存症の自助グループを素材として、事例の流れを追いながら、グループワークの展開過程における「終結期」の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】配布されたプリントの内容を読み、p. 88「話し合いの部屋」の1から6について考えておく。</p> <p>第14回 プレゼンテーション技術 ①（個人プレゼンテーション）</p> <p>【達成目標】福祉レクリエーションを素材として、予め考えたレクリエーションの内容を各グループ内で個々に発表しグループメンバーに理解させることができる。</p> <p>さらに、個々に発表したレクリエーション内容を素材としつつグループダイナミクスを活用しグループとしてのレクリエーションをメンバーと協力して企画することができる。</p> <p>【予習事項】個々にレクリエーションの内容を考えるとともに、グループ内発表の準備をしておく。</p> <p>第15回 プレゼンテーション技術 ②（グループプレゼンテーション）</p> <p>【達成目標】グループで考えたレクリエーションをクラス全員に対して実施することを通じ、グループがグループに対して行う発表および実施の実際を体験的に理解できる。</p> <p>【予習事項】グループごとに、レクリエーションの準備をしておく。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】</p> <p>ソーシャルワークの価値や倫理、ソーシャルワーカーに求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進するとともに、基本的なコミュニケーション技術や面接技法、ソーシャルワークの展開過程、プレゼンテーション技術などを具体的な援助場面を想定したロールプレイ、グループワーク、事例を用いたディスカッション等の体験を通して学び、支援の展開過程についても理解を深める。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>講義科目と関連付けながらソーシャルワークの基礎的な知識・技術を体系的に理解し、実践場面で活用することができる。自分自身について深く知るとともに他者理解を促進することができる。面接技術やプレゼンテーションなどソーシャルワークの基本的な技法を体験的に理解できる。ソーシャルワーク過程の理解を踏まえ、初歩的なアセスメントやプランニング及びグループ支援が実行できるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワーク演習教材開発研究会 編「ソーシャルワーク演習ワークブック 第2版」  ISBN：978-4-86015-284-0  出版社：みらい  価格（税抜）：2,200 円  なお、予めテキストを購入しない者は受講を認めない（初回を除く）</p>
参考文献	その都度紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  基本的に、毎回の予習状況 20%、事後学習シートの記述内容（分量および誤字脱字の有無等）40%、および授業中の発言内容等の積極性 40%で評価する。また、欠席が3回以内でも、予習をやってこない等により減点されれば合格点に達しないこともある。なお、期末試験は実施しない。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>  フィードバックとして、発表やグループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ等に対する教員のコメントをその都度実施する。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時、またはクラス担当教員の研究室にて受け付ける。なお、授業中の積極的な質問を歓迎する。
履修条件	<p><b>【必須要件】</b>  社会福祉学部在籍中の社会福祉士国家資格の取得を希望する者であって、「社会福祉の原理と政策 A」および「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位を修得した者に限る。また、介護福祉士課程を履修している者は2年次以降に履修すること。なお、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則、並びに、精神保健福祉士法施行規則に基づき、学科別に1クラス20名以下で編成する。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】  聴講生【不可】  キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>2. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累計3回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に1時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。  <b>【事後学習】</b> 授業毎に1時間以上、事後学習シートの記入を行う。</p>



講義科目名称： 相談援助演習B			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、増田樹郎、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	ソーシャルワーカーの価値と倫理、及び、ソーシャルワークの基本的な援助技術を習得する。
授業計画	<p>第1回           オリエンテーション（合同）</p> <p>【達成目標】 合同授業 この演習の概略を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキストを持参する。</p>
	<p>第2回           ソーシャルワークの価値とは何か</p> <p>【達成目標】 ソーシャルワークの価値について考え、対人援助専門職としての価値観を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト p. 48～49 の事例を読み、ワークシート 6-1-1 を記入しておく。</p>
	<p>第3回           ソーシャルワークの価値について考える</p> <p>【達成目標】 同上</p> <p>【予習事項】 グループごとに発表する内容を整理しておく。</p>
	<p>第4回           ソーシャルワークの倫理とは何か</p> <p>【達成目標】 ソーシャルワークの倫理について考え、ソーシャルワーカーの倫理綱領を理解する。</p> <p>【予習事項】 再度、テキスト p. 48～49 の事例を読み、ワークシート 6-2-1 を記入しておく。</p>
	<p>第5回           ソーシャルワークの倫理について考える</p> <p>【達成目標】 同上</p> <p>【予習事項】 グループごとに発表する内容を整理しておく。</p>
	<p>第6回           面接技法 ① 面接とは何か（合同）</p> <p>【達成目標】 合同授業 相談援助面接の意味と目的を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト p. 55～56 「面接って何だろう」を読み、内容を理解しておく。</p>
	<p>第7回           面接技法 ② 面接場面の観察</p> <p>【達成目標】 良い面接と悪い面接の違いを理解し、良い面接を行うために必要な要素を抽出できる。</p> <p>【予習事項】 テキスト p. 57 の「面接場面 1」及び p. 58 の「面接場面 2」を音読しておく。</p>
	<p>第8回           面接技法 ③ 基本的コミュニケーション</p> <p>【達成目標】 面接の基本的な流れ、サイクルを体験的に習得する。</p> <p>【予習事項】 配布したプリントを読み、自分が話しをする内容を予め考えておく。</p>
	<p>第9回           面接技法 ④ 基本的応答技法</p> <p>【達成目標】 面接例を通して、面接における基本的な応答技法の内容を理解する。</p>

	<p>第10回 面接技法 ⑤ ロールプレイ 【予習事項】テキスト p. 61～62 を読んで内容を理解しておく。 【達成目標】ロールプレイを通して基本的な面接技法を体験的に習得する。</p> <p>第11回 記録技法 ケース記録の作成 【予習事項】担当教員の指示に基づきルールを設定しておく。 【達成目標】ソーシャルワークにおける記録の意味を理解し、ケース記録を記述できる。</p> <p>第12回 援助過程 ① 過程の全体像 【予習事項】テキスト p. 73～74 の逐語記録を読み、内容を把握しておく。 【達成目標】ソーシャルワークにおける援助の過程の全体と各段階の援助内容を理解する。</p> <p>第13回 援助過程 ② アセスメント 【予習事項】演習クラスの担当教員により別途指示する。 【達成目標】アセスメントの内容を理解し、面接の中で初歩的なアセスメントを実行することができる。</p> <p>第14回 援助過程 ③ プランニング 【予習事項】テキスト p. 80～81 の事例を読み、利用者とソーシャルワーカーのそれぞれについてルールを設定しておく。 【達成目標】プランニングの内容を理解し、初歩的なプランニングができる。 【予習事項】前回の授業で作成した「ふりかえり用紙」を活用してワークシート 9-2-1「支援計画票」を記入しておく。</p> <p>第15回 演習に必要な施設の知識（合同） 【達成目標】合同授業 施設見学実習の詳細を把握するとともに、予め持っておくべき予備知識を確認する。 【予習事項】事前に配布された施設見学実習のしおりを読み込むとともに、事前学習課題を完成させておく。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 ソーシャルワーカーに求められる価値と倫理、及び、面接や記録等のソーシャルワーク技法についてグループ・ディスカッションやプレゼンテーション、ロールプレイ等を通して学び、ソーシャルワークの過程についても理解を深める。</p> <p>【授業終了時の達成目標】 ソーシャルワーカーの価値と倫理を理解し、ソーシャルワークの基本的な技法についても体験的に理解する。さらに援助の過程を理解し、初歩的なアセスメントとプランニングが実行できるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：ソーシャルワーク演習教材開発研究会 編「ソーシャルワーク演習ワークブック 第2版」 ISBN：978-4-86015-284-0 出版社：みらい 価格（税抜）：2,200円</p>

参考文献	その都度紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 基本的に、毎回の予習状況 20%、事後学習シートの記述内容(分量および誤字脱字の有無等) 40%、および授業中の発言内容等の積極性 40%で評価する。また、欠席が 3 回以内でも、予習をやっていない等により減点されれば合格点に達しないこともある。なお、期末試験は実施しない。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> フィードバックとして、発表やグループ・ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイに対する教員のコメントをその都度実施する。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時、またはクラス担当教員の研究室にて受け付ける。なお、授業中の積極的な質問を歓迎する。
履修条件	<p><b>【必須要件】</b> 社会福祉学部在籍中の社会福祉士国家資格取得を希望する者であって、「現代社会と福祉 B」「相談援助の基盤と専門職 B」「相談援助演習 A」の単位を修得した者に限る。また、診療情報管理士あるいは介護福祉士課程も履修している者は 2 年次以降に履修すること。 なお、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき学科別に 1 クラス 20 名以下で編成する。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. グループ作業に支障を来たすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者(具体的には、口頭での出席確認終了以降)は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>2. 基本的に、100%の出席を求める。さらに、累積 3 回を超える欠席(忌引および感染症による出席停止を除く)の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に、1 時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。 <b>【事後学習】</b> 授業毎に、1 時間以上、事後学習シートの記入を行う。</p>

講義科目名称： 相談援助演習C			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、増田樹郎、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	ソーシャルワークの多様な援助方法と関連する援助技術を習得するとともに、演習Dにおける事例検討の準備状態を形成する。
授業計画	<p>第1回 ケースカンファレンスの方法</p> <p>【達成目標】 ソーシャルワークの視点に立ったケースカンファレンスの実施と活用を理解する。</p> <p>【予習事項】 p. 89～91 を読み、p. 90 「ワークの進め方」 ①に沿って各自の役作りをしておく。</p>
	<p>第2回 評価と効果測定の方法①</p> <p>【達成目標】 ソーシャルワークの全体的な過程から評価と効果測定を行い、その意義や意味を理解する。</p> <p>【予習事項】 p. 95～99 を読み、p. 98 「ワークの進め方」 ①に沿って各自の役作りをしておく。</p>
	<p>第3回 評価と効果測定の方法②</p> <p>【達成目標】 同上</p> <p>【予習事項】 ワークシート 11-1-6 「評価表」 (1) ～ (6) を記入しておく。</p>
	<p>第4回 グループワーク ① 準備期</p> <p>【達成目標】 グループワークにおける準備期の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 69 「話し合いの部屋」の1から4を調べた上で、5から7について考えておく。</p>
	<p>第5回 グループワーク ② 開始期</p> <p>【達成目標】 グループワークにおける開始期の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 76 「話し合いの部屋」の1から7について考えておく。</p>
	<p>第6回 グループワーク ③ 作業期</p> <p>【達成目標】 グループワークにおける作業期の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 82 「話し合いの部屋」の1から9について考えておく。</p>
	<p>第7回 グループワーク ④ 終結期</p> <p>【達成目標】 グループワークにおける終結期の支援内容を理解する。</p> <p>【予習事項】 配布されたプリントの内容を読み、p. 88 「話し合いの部屋」の1から6について考えておく。</p>
	<p>第8回 地域とは何か コミュニティの意味</p> <p>【達成目標】 コミュニティの意味を理解し、コミュニティの要素とその関係を考える。</p> <p>【予習事項】 演習クラス担当教員により別途指示する。</p>
	<p>第9回 地域を知る 地域に含まれる要素</p> <p>【達成目標】 地域の特徴的な課題を把握する方法を身につけ、</p>

	<p>情報を入手するための資源や手段を学ぶ。</p> <p>【予習事項】 演習クラス担当教員により別途指示する。</p> <p>第 10 回 地域の福祉ニーズの明確化</p> <p>【達成目標】 既存資料から地域の福祉ニーズを把握し、整理・分析することによって明確化する方法を学ぶ。</p> <p>【予習事項】 p. 107～109 の A 市 B 地区の概要を読み、考えられる福祉ニーズを複数あげておく。</p> <p>第 11 回 広報誌の作成</p> <p>【達成目標】 住民に地域の福祉ニーズを知らせ、理解、参加を得るための技術について、広報誌の作成を通して学ぶ。</p> <p>【予習事項】 p. 111～113 を読み、「ワークの進め方」①のテーマ 1 について、②を参考に企画内容や構成を考えておく。</p> <p>第 12 回 ボランティア養成プログラムの立案</p> <p>【達成目標】 住民参加の研修を企画する技術を学ぶ。</p> <p>【予習事項】 p. 115～116 を読み、「ワークの進め方」①のテーマとねらいを書いてくる。</p> <p>第 13 回 リーダーシップスタイル</p> <p>【達成目標】 自分のリーダーシップの傾向を知る。</p> <p>【予習事項】 自分が所属するグループのリーダーを思い浮かべ、そのリーダーシップの特徴をあげておく。</p> <p>第 14 回 会議場面でのリーダーシップ</p> <p>【達成目標】 ブレーンストーミングの体験を通して、会議場面でのリーダーの役割や態度について学ぶ。</p> <p>【予習事項】 p. 186～187 を読んでおく。また、教員から提示されたトピックに対する、アイデアを考え、3 つ以上メモしておく。</p> <p>第 15 回 スーパービジョンの活用法</p> <p>【達成目標】 スーパービジョンの内容を把握し、スーパーバイザーの役割と、スーパーバイザーの気持ちを体験的に理解する。</p> <p>【予習事項】 実習に行く前の学生が抱える不安や教えてもらいたいことを考え、それに対する教員としての助言内容も考えておく。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 前期の演習 B で学習した内容をより一層深め、グループワークやコミュニティワークなど多様なソーシャルワーク技法についてグループ・ディスカッション等を通じて習得し、リーダーシップやスーパービジョンなどの関連する援助技術についても理解していく。</p> <p>【授業終了時の到達目標】 多様なソーシャルワークの援助内容が理解でき、それぞれの具体的な内容を初歩的なレベルで実行できるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：ソーシャルワーク演習教材開発研究会 編「ソーシャルワーク演習ワークブック 第2版」 ISBN：978-4-86015-284-0 出版社：みらい 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	その都度紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 基本的に、毎回の予習状況 20%、事後学習シートの記述内容（分量および誤字脱字の有無等）40%、および授業中の発言内容等の積極性 40%で評価する。また、欠席が3回以内でも、予習をやってこない等により減点されれば合格点に達しないこともある。なお期末試験は実施しない。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> フィードバックとして発表やグループ・ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイに対する教員のコメントをその都度実施する。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時、またはクラス担当教員の研究室にて受け付ける。なお授業中の積極的な質問を歓迎する。
履修条件	<p><b>【必須要件】</b> 社会福祉学部在籍中の社会福祉士国家資格取得を希望する者であって、「相談援助の理論と方法A」及び「相談援助演習B」の単位を修得し、かつ「相談援助の理論と方法B」を履修中の者に限る。また、診療情報管理士あるいは介護福祉士課程も履修している者は2年次以降に履修すること。 なお、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき学科別に1クラス20名以下で編成する。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>2. 基本的に、100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に、1時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。 <b>【事後学習】</b> 授業毎に、1時間以上、事後学習シートの記入を行う。</p>

講義科目名称： 相談援助演習D			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、増田樹郎、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	様々な実践事例に触れることにより今まで学んだ全ての援助技術を統合的に理解する。
授業計画	<p>第1回 事例研究の目的と意義（合同）</p> <p>【達成目標】 合同授業 事例を通して学ぶことの目的と意義を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキストを購入しておく。</p>
	<p>第2回 社会的排除に関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(1)社会的排除」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>
	<p>第3回 高齢者福祉に関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(2)高齢者福祉①」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>
	<p>第4回 障害者福祉に関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(4)障害者福祉①」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>
	<p>第5回 児童福祉に関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(6)児童福祉①」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>
	<p>第6回 高齢者虐待に関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(8)高齢者虐待」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>
	<p>第7回 児童虐待に関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(10)児童虐待」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>
	<p>第8回 DVに関する相談援助演習</p> <p>【達成目標】 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。</p> <p>【予習事項】 テキスト「(11)家庭内暴力(DV)」の事前学習シートの課題に取り組む。</p>

	<p>第9回 低所得者に関する相談援助演習  <b>【達成目標】</b> 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト「(12)低所得者」の事前学習シートの課題に取り組む。</p> <p>第10回 ホームレスに関する相談援助演習  <b>【達成目標】</b> 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト「(13)ホームレス」の事前学習シートの課題に取り組む。</p> <p>第11回 更生保護に関する相談援助演習  <b>【達成目標】</b> 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト「(16)更生保護」の事前学習シートの課題に取り組む。</p> <p>第12回 就労支援に関する相談援助演習  <b>【達成目標】</b> 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト「(18)就労支援」の事前学習シートの課題に取り組む。</p> <p>第13回 医療機関に関する相談援助演習  <b>【達成目標】</b> 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト「(20)特定機能病院」の事前学習シートの課題に取り組む。</p> <p>第14回 地域福祉に関する相談援助演習  <b>【達成目標】</b> 相談援助の事例検討によって総合的・包括的な支援方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト「(22)地域福祉②」の事前学習シートの課題に取り組む。</p> <p>第15回 事例研究の方法（合同）  <b>【達成目標】</b> 合同授業 実習における個別的な体験を事例としてまとめる方法を理解する。  <b>【予習事項】</b> テキスト第15章・事例研究の方法を読んでおく。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b>  社会問題別、対象者別の様々な実践事例を活用し、グループディスカッションやプレゼンテーション、さらにはクラス全体での討論を通じて問題の原因や背景を探り、支援のあり方について考察を深めるとともに、多面的な視点への気づきを促進する。</p> <p><b>【授業の達成目標】</b>  ソーシャルワークの様々な支援場面において、なぜそうなるのか、どうすれば良いのかを主体的に考え、可能な範囲で実行できるようになる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>



テキスト	加藤幸雄 監修 鈴木武幸・鈴木政史 編著 (2015) 「社会福祉士 相談援助演習 事例集」 学文社 ISBN : 978-4-7620-2527-3 価格 (税抜) : 2,600 円 なお、予めテキストを購入しない者は受講を認めない (初回を除く)
参考文献	その都度指示する。
成績評価の基準・方法及び課題 (試験やレポート) に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】 毎回の予習状況 20%、事後学習シートの記述内容 (分量および誤字脱字の有無等) 40%、および授業中の発言内容等の積極性 40% で評価する。また、欠席が 3 回以内でも、予習をやっていない等により減点されれば合格点に達しないこともある。なお、期末試験は実施しない。 【フィードバック方法】 フィードバックとして、発表やグループワークに対する教員のコメントをその都度実施する。
質問・相談の受付方法	授業終了時、またはクラス担当教員の研究室にて受け付ける。なお授業中の積極的な質問を歓迎する。
履修条件	【必須要件】 社会福祉学部在籍中の社会福祉士国家資格の取得を希望する者であって、「相談援助実習指導 A」「相談援助の理論と方法 B」、「地域福祉の理論と方法 A・B」「障害者福祉サービス」「相談援助演習 C」の単位を修得し、原則として「相談援助実習指導 B」および「相談援助実習」を履修中の者。 なお、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき学科別に 1 クラス 20 名以下で編成する。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	1. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者 (具体的には、口頭での出席確認終了以降) は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。 2. 基本的に 100% の出席を求める。さらに、累積 3 回を超える欠席 (忌引きおよび感染症による出席停止を除く) の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。
準備学習について	【事前学習】授業毎に 1 時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。 【事後学習】授業毎に 1 時間以上、事後学習シートの記入を行う。

講義科目名称： 相談援助演習E			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、増田樹郎、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	相談援助実習における個別的体験を言語化し、実践的な対応能力を養う。
授業計画	<p>第1回 実習体験に基づく事例研究の進め方(合同)</p> <p>【達成目標】 合同授業 実習体験に基づく事例研究の意義や進め方を理解し、事例発表の準備をすることができる。</p> <p>【予習事項】 事例研究シートを記入し、提出する。</p>
	<p>第2回 実習体験に基づく事例研究(1)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p>
	<p>第3回 実習体験に基づく事例研究(2)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p>
	<p>第4回 実習体験に基づく事例研究(3)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p>
	<p>第5回 実習体験に基づく事例研究(4)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p>
	<p>第6回 実習体験に基づく事例研究(5)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p>
	<p>第7回 実習体験に基づく事例研究(6)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p>
	<p>第8回 実習体験に基づく事例研究(7)</p>

	<p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第9回 実習体験に基づく事例研究 (8)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第10回 実習体験に基づく事例研究 (9)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第11回 実習体験に基づく事例研究 (10)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第12回 実習体験に基づく事例研究 (11)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第13回 実習体験に基づく事例研究 (12)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第14回 実習体験に基づく事例研究 (13)</p> <p>【達成目標】 実習体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。</p> <p>【予習事項】 事例提供者は発表準備をし、その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。</p> <p>第15回 実習体験に基づく事例研究のまとめ</p> <p>【達成目標】 ソーシャルワークの幅広い分野に対応できる共通の (Generic) 視点を確認し、理解する。</p> <p>【予習事項】 実習・演習を通して自分の成長を感じられた点、今後の課題などを3分間でスピーチできるようにまとめ、練習しておく。</p> <p>*なお、受講生の数によっては、実習体験に基づく事例に代わり、一部、テキストの事例を活用することもある。</p>
--	--

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b>  相談援助実習における学生の個別的体験（エピソード）を事例研究によってグループディスカッションを行い、考察することで、社会福祉士に求められる相談援助の知識および技術を実践的に理解するとともに、相談援助にかかる専門的援助技術を言語化・理論化する能力を養う。</p> <p><b>【授業終了時の達成目標】</b>  相談援助実習における個別的な体験を共有し、一般化することで相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。また、ソーシャルワークの幅広い分野に対応できる共通 (Generic) 視点を実践的に習得する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>加藤幸雄 監修 鈴木武幸・鈴木政史 編著 (2015) 「社会福祉士 相談援助演習 事例集」 学文社  ISBN : 978-4-7620-2527-3  価格 (税抜) : 2,600 円</p>
<p>参考文献</p>	<p>その都度指示する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  毎回の予習状況 20%、事後学習シートの記述内容 (分量および誤字脱字の有無等) 40%、および授業中の事例発表および発言内容等の積極性 40%で評価する。また、テキストの事例を活用した回があった場合は、予習 (事前学習シート) 状況 20%、事後学習シートの記述内容 40%、および授業中の発言内容等の積極性 40%で評価する。欠席が 3 回以内でも、予習をやったことにより減点されれば合格点に達しないこともある。なお、期末試験は実施しない。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>  フィードバックとして、発表やグループワークに対する教員のコメントをその都度実施する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業終了時、またはクラス担当教員の研究室にて受け付ける。なお、授業中の積極的な質問を歓迎する。</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【必須要件】</b>  社会福祉学部在籍中の社会福祉士国家資格の取得を希望する者であって、「相談援助実習指導 B」「相談援助演習 D」「相談援助の理論と方法 C」の単位を修得し、「相談援助実習」を実施した者。  なお、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき学科別に 1 クラス 20 名以下で編成する。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】  聴 講 生 【不可】  キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>1. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者 (具体的には、口頭での出席確認終了以降) は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>2. 基本的に 100%の出席を求める。さらに、累積 3 回を超える欠席 (忌引きおよび感染症による出席停止を除く) の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p> <p>3. 事例作成の際は、氏名、施設・機関名等は仮名を使用し、個人が特定されないように留意する。また、事例の内容は、クラス内に留め、専門職としての守秘義務を遵守する。これもトレーニングである。</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に 1 時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。  <b>【事後学習】</b> 授業毎に 1 時間以上、事後学習シートの記入を行う。</p>

講義科目名称： 相談援助実習指導 A			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	実習に必要な倫理・知識・技術等を身につけ、自己の資質及び専門性を把握する。
授業計画	<p>第1回 施設見学実習① 高齢者施設（夏季休業期間中）</p> <p>【授業内容】 夏季休業期間中に1日間の施設見学を実施 特別養護老人ホーム等</p> <p>【予習事項】 事前学習シートの作成（見学前）</p> <p>【配付資料】 事前学習シート、事後学習シート</p>
	<p>第2回 施設見学実習② 障害福祉サービス事業所等（夏季休業期間中）</p> <p>【授業内容】 夏季休業期間中に1日間の施設見学を実施 障害福祉サービス事業所等</p> <p>【予習事項】 事前学習シートの作成（見学前）</p> <p>【配付資料】 事前学習シート、事後学習シート</p>
	<p>第3回 (1週目) 合同 オリエンテーション① 社会福祉士課程の全体像</p> <p>【授業内容】 相談援助実習シラバス、社会福祉士課程の履修モデル・全体像、 相談援助実習の枠組み、相談援助実習登録票、学外実習登録申請書 (エントリーシート)</p> <p>【予習事項】 学生便覧、資格取得の手引き持参、(教務ガイダンスで配布済)、 相談援助実習指導 A シラバスを読む、テキストの購入</p> <p>【配付資料】 実習の手引き、相談援助実習登録票・学外実習登録申請書 (エントリーシート)</p>
	<p>第4回 (2週目) 合同 オリエンテーション② 実習の意義と目的</p> <p>【授業内容】 相談援助実習の意義と目的、相談援助実習の目標と達成課題、 実習の概要、ソーシャルワーカーをめざす動機</p> <p>【予習事項】 手引きの該当部分を読む</p> <p>【配付資料】 ソーシャルワーカーをめざす動機ワークシート</p>
	<p>第5回 (3週目) 合同 オリエンテーション③ 実習の評価、実習生の心得、 契約と合意</p> <p>【授業内容】 実習の評価、実習生の心得（個人情報の保護）、 実習にかかる契約と合意、実習三者関係、倫理綱領、 施設見学の振り返り</p> <p>【予習事項】 施設見学事後学習シート持参、施設見学パンフレット・資料持参、 手引き、テキストの該当部分を読む、「相談援助実習登録票」 「学外実習登録申請書（エントリーシート）」提出 (提出先：福祉実習指導センター)</p> <p>【配付資料】 施設見学振り返りシート</p>
	<p>第6回 (4週目) クラス グループワークによる施設見学の振り返り</p> <p>【授業内容】 施設見学振り返りシートに基づく意見交換</p>

第7回	<p>【予習事項】 授業開始前までに施設見学振り返りシートを作成する、施設見学事後学習シート提出</p> <p>【配付資料】 施設・機関事前学習シート配布(作成担当施設・機関の振り分け) (5週目) クラス グループワークによる高齢者施設・機関の理解① 特別養護老人ホーム等</p> <p>【授業内容】 実習施設・機関の目的、職員構成、事業(サービス)内容、クライアント、地域特性を学ぶ、事前学習シートに基づいてグループごとに模造紙などにまとめ発表する。</p>
第8回	<p>【予習事項】 授業開始前までに実習施設・機関の概要シートを作成する</p> <p>【配付資料】 施設・機関事前学習シート配布(作成担当施設・機関の振り分け) (6週目) クラス グループワークによる高齢者施設・機関の理解② 地域包括支援センター等</p> <p>【授業内容】 実習施設・機関の目的、職員構成、事業(サービス)内容、クライアント、地域特性を学ぶ、事前学習シートに基づいてグループごとに模造紙などにまとめ発表する。</p>
第9回	<p>【予習事項】 授業開始前までに実習施設・機関の概要シートを作成する</p> <p>【配付資料】 施設・機関事前学習シート配布(作成担当施設・機関の振り分け) (7週目) クラス グループワークによる児童施設・機関の理解</p> <p>【授業内容】 実習施設・機関の目的、職員構成、事業(サービス)内容、クライアント、地域特性を学ぶ、事前学習シートに基づいてグループごとに模造紙などにまとめ発表する。</p>
第10回	<p>【予習事項】 授業開始前までに実習施設・機関の概要シートを作成する</p> <p>【配付資料】 施設・機関事前学習シート配布(作成担当施設・機関の振り分け) (8週目) クラス グループワークによる地域福祉・行政・医療機関の理解</p> <p>【授業内容】 実習施設・機関の目的、職員構成、事業(サービス)内容、クライアント、地域特性を学ぶ、事前学習シートに基づいてグループごとに模造紙などにまとめ発表する。</p>
第11回	<p>【予習事項】 授業開始前までに実習施設・機関の概要シートを作成する</p> <p>【配付資料】 施設・機関事前学習シート配布(作成担当施設・機関の振り分け) (9週目) クラス グループワークによる障害福祉施設・機関の理解</p> <p>【授業内容】 実習施設・機関の目的、職員構成、事業(サービス)内容、クライアント、地域特性を学ぶ、事前学習シートに基づいてグループごとに模造紙などにまとめ発表する。</p>
第12回	<p>【予習事項】 授業開始前までに実習施設・機関の概要シートを作成する (10週目) 合同 コンピテンス・アセスメントについて</p> <p>【授業内容】 コンピテンス・アセスメントの説明</p> <p>【予習事項】 コンピテンス・アセスメントについてわかる範囲で調べておく</p>
第13回	<p>【配付資料】 コンピテンス・アセスメントシート配布 (11週目) クラス コンピテンス・アセスメントシートの作成、個別面談について</p> <p>【授業内容】 コンピテンス・アセスメントの作成</p> <p>【予習事項】 コンピテンス・アセスメントシートの作成方法を理解しておく</p>

	<p>(12・13・14 週目) 実習に向けた個別面談</p> <p>※12月、1月に実施 (この間、講義は開講しない)</p> <p>【授業内容】1人15分から30分程度の面談を12月、1月に実施 (この間、講義は開講しない)</p> <p>※状況に応じて時間外に面談を実施することもある</p> <p>【予習事項】コンピテンス・アセスメントシートの提出</p> <p>第14回 相談援助実習報告会聴講</p> <p>【授業内容】相談援助実習報告会に参加する (実習報告会参加レポート有り)。</p> <p>【予習事項】福祉実習指導センターで前年度の相談援助実習報告書を読み、自身の居住地に近い実習先を調べておく。</p> <p>【配付資料】実習報告会参加レポート配布 (提出は第15回授業となる)</p> <p>第15回 (15週目) 合同 実習経験者 (3-4年生) による講話</p> <p>【授業内容】実習を経験した3年生、4年生から実習に関する話を聞く (実習体験者による講話レポート有り)。</p> <p>【予習事項】実習報告会や実習報告書を参考に実習経験者への質問を事前に考えておく。</p> <p>【配付資料】実習体験者による講話レポート配布 (提出は担当教員に従う)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 相談援助実習の意義、社会福祉士に求められる知識と技術、技能、倫理等の基本を理解する。また、自身の課題を把握し、社会福祉士としての資質・適性などを知る。</p> <p>【授業の到達目標】 本授業は、実習を遂行する力量を養うため、福祉現場で必要とされる知識や技術やマナーなどの相談援助実習の基本を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：社会福祉演習実習委員会 編著「相談援助実習の手引き」</p> <p>テキスト名：ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 ISBN：978-4-8058-5127-2 出版社：中央法規出版 著者名：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 監修 価格 (税抜)：2,400円</p>
参考文献	その都度紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題 (試験やレポート) に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 受講態度 (30%)、提出物 (合計70%：施設見学事後学習シート20%、第4回ソーシャルワーカーをめざす動機ワークシート10%、コンピテンス・アセスメントシート [4頁のみ]20%、実習体験者による講話レポート10%、実習報告会聴講レポート10%) を総合的に評価する。 なお、提出物が未提出の場合は単位取得を認めない。</p> <p>【フィードバック方法】 フィードバックは、実習に向けた個別面談時におこなう。</p>
質問・相談の受付方法	質問は授業中または終了後、実習クラス担当教員の研究室等で受け付ける。また、相談は福祉実習指導センターでも受け付けている。

履修条件	<p><b>【必須条件】</b>  施設見学への参加、「現代社会と福祉 A・B」「相談援助の基盤と専門職 A・B」「介護福祉」「高齢者福祉サービス」「相談援助演習 A・B」「相談援助の理論と方法 A」「地域福祉の理論と方法 A」「児童・家庭福祉サービス」を単位取得済であること。「相談援助演習 C」「相談援助の理論と方法 B」「地域福祉の理論と方法 B」「障害者福祉サービス」を履修中であること  社会福祉学部のみ履修可、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき、学科別 1 クラス 20 名以下とする。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b>  聴 講 生 <b>【不可】</b>  キャリアデザイン・カレッジ生 <b>【不可】</b></p>
メッセージ	<p>1. 施設見学に参加していない場合は原則として履修することができない。  2. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。なお、早退した場合は欠席となる。  3. 基本的に 100%の出席を求める。さらに、累計 3 回を越える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。  4. 日頃から出来る限りボランティア活動に参加すること。  見学施設の受け入れ状況、講義の進捗状況等によって授業計画を変更する場合がある。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に 1 時間以上、事前課題を課して取り組んでもらう。  <b>【事後学習】</b> 授業終了後に 1 時間以上とする。授業で学んだことを振り返り、相談援助実習までに必要な知識をまとめる。</p>



講義科目名称： 相談援助実習指導 B			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	実習に必要な倫理・知識・技術等を身につけ、自己の資質及び専門性を把握する。
授業計画	<p>第1回 合同オリエンテーション</p> <p>【授業内容】 シラバスの説明 『相談援助実習の手引き』 VI. 相談援助実習の概要(緊急時の対応, 実習中の感染予防について) VII. 相談援助実習の履修要件・講義内容 VIII. 実習日誌(実習関係書類)について</p> <p>【予習事項】 手引きの該当箇所を読む</p>
	<p>第2回 実際に実習を行う分野の基本的な理解と事前学習の方法</p> <p>【授業内容】 根拠法、クライアント、サービス、職員配置(関連職種)、地域特性、地域に対して担っている役割などを理解する。</p> <p>【予習事項】 テキストの該当箇所を読む</p> <p>【配布資料】 施設・機関の概要(事前学習) 下書き用紙配布、実習配属先発表予定(福祉実習指導センター)</p>
	<p>第3回 相談援助実習計画書・個人票の作成① 作成方法</p> <p>【授業内容】 相談援助実習計画書・個人票の作成方法を学ぶ。</p> <p>【予習事項】 事前学習を進めるとともに、実習の目標・課題・到達点を考えておく。</p> <p>【配布資料】 個人票・実習計画書下書き用紙配布</p>
	<p>第4回 相談援助実習計画書・個人票の作成② 実習三者(四者)関係、事前訪問</p> <p>【授業内容】 実習三者(四者)関係(事前訪問)、事前訪問の電話の掛け方を理解する。</p> <p>【予習事項】 計画書・個人票を作成する。</p> <p>【配布資料】 出席簿、計画書作成のための事前訪問記録用紙配布</p>
	<p>第5回 相談援助実習計画書・個人票の作成③ 実習目標・課題の明確化、事前訪問依頼の電話連絡開始</p> <p>【授業内容】 相談援助実習の狙いを踏まえ、実習目標・課題を明確にする。</p> <p>【予習事項】 計画書・個人票を作成する。</p>
	<p>第6回 相談援助実習計画書・個人票の作成④ 事前訪問の実施</p> <p>【授業内容】 第8回授業までに、配属先実習施設・機関を訪問し、実習指導者と実習計画について協議する。 (実習先への事前訪問を1コマとする)</p> <p>【予習事項】 実習指導者への質問を考えておく。</p>
	<p>第7回 相談援助実習計画書・個人票の作成⑤ 具体的取り組み・方法の設定</p> <p>【授業内容】 事前訪問結果に基づいて、具体的取り組み・方法を記載する。</p> <p>【予習事項】 事前訪問後、記録用紙を作成し、一部コピーして原本を提出する。</p>

第 8 回	<p>相談援助実習計画書・個人票の作成⑥ 目標設定の理由、実習の意義</p> <p>【授業内容】 実習目標・課題を設定した理由や実習の意義を記載する。</p> <p>【予習事項】 計画書・個人票を作成する。</p> <p>【配付資料】 個人票・実習計画書清書用紙、誓約書配布</p>
第 9 回	<p>相談援助実習計画書・個人票の作成⑦ 実習計画書の見直し・確認</p> <p>【授業内容】 計画書・個人票の見直し・確認を行う。</p> <p>【予習事項】 計画書・個人票を作成する。</p>
第 10 回	<p>相談援助実習計画書・個人票の作成⑧ 計画書・個人票・誓約書の提出</p> <p>【授業内容】 計画書・個人票・誓約書を完成させる。</p> <p>※計画書・個人票・誓約書は 2 部コピーし、原本とコピー 1 部を 実習指導クラス担当教員に提出する。(提出期限を過ぎると実習中止となる)</p> <p>【予習事項】 実習計画書・個人票・誓約書をこの日までに提出できるように 準備する。</p>
第 11 回	<p>実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解(制度、ツール)</p> <p>【授業内容】 講義等で学んだ知識(制度)と技術を実習施設・機関で 活用できるようにするとともに、実習施設・機関の相談援助で 用いられるツール(アセスメントツール等)を理解し 活用できるようにする。</p> <p>【予習事項】 実習先に関する制度について事前に学習しておくとともに、 実習先で活用すると思われるアセスメントシート等について 調べておく。</p>
第 12 回	<p>実習日誌への記録内容及び記録方法等に関する理解①</p> <p>意義・目的、巡回指導教員との面談</p> <p>※巡回担当教員が実習指導クラス担当教員でない場合は、定期試験終了前 までに、個人票・計画書のコピーを持参して、巡回担当教員を訪問する。</p> <p>【授業内容】 「実習日誌」の意義・目的、取り扱いを理解する。</p> <p>【予習事項】 手引きの該当箇所を読む。</p>
第 13 回	<p>実習日誌への記録内容及び記録方法等に関する理解②</p> <p>記録方法、オリエンテーションの電話連絡</p> <p>【授業内容】 記録方法(文章の書き方、表現方法)、オリエンテーションの 概要を学ぶ。</p> <p>【予習事項】 手引きの該当箇所を読む</p> <p>【配布資料】 実習日誌配布</p>
第 14 回	<p>個人情報保護、倫理綱領の理解、コンピテンス・アセスメントについて</p> <p>【授業内容】 実習先における個人情報の取り扱い(個人情報保護法)、 ソーシャルワーカーの倫理綱領について理解するとともに、 コンピテンス・アセスメントシートを作成する。</p> <p>【予習事項】 手引き、テキストの該当箇所を読むとともに、 コンピテンス・アセスメントシートの作成方法を復習しておく。</p>
第 15 回	<p>合同オリエンテーション 実習評価と自己評価、実習に向けての心得と 注意事項、実習関係書類、帰校日について</p> <p>【授業内容】 実習評価と自己評価の意義、実習中の心得、実習関係書類、</p>

	<p>帰校日について理解する。</p> <p>【予習事項】 手引きの該当箇所を読む。</p> <p>【配付資料】 相談援助実習自己評価表配布</p> <p>第 16 回 帰校日（グループワーク）または巡回指導 実習体験の整理（実習中）</p> <p>【授業内容】 実習中の課題、疑問点等を明確にする。</p> <p>【予習事項】 帰校日ワークシート、帰校日の記録を作成する。</p> <p>巡回指導の場合は教員への質問事項を考え、実習内容や実習中の課題を伝えられるように整理しておく。</p> <p>第 17 回 巡回指導 実習プログラム、実習状況等の確認（実習中）</p> <p>【授業内容】 実習内容、実習の進捗状況、実習生の様子などを確認する。</p> <p>【予習事項】 教員への質問事項を考え、実習内容や実習中の課題を伝えられるように整理しておく。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 相談援助実習に必要な知識・技術を学ぶとともに、3 年次または 4 年次夏季相談援助実習（180 時間以上）の計画書等を作成する。</p> <p>【授業の到達目標】 本授業は、相談援助実習を遂行する力量を養うため、実習で必要とされる倫理・知識・技術等を具体的に理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：社会福祉演習実習委員会 編著「相談援助実習の手引き」</p> <p>テキスト名：ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 ISBN：978-4-8058-5127-2 出版社：中央法規出版 著者名：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 監修 価格（税抜）：2,400 円</p>
参考文献	実習指導中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 受講態度（30%）、提出物（合計 70%：施設・機関の概要 10%、コンピテンスアセスメントシート（4 頁のみ）10%、実習計画書 40%、計画作成のための事前訪問記録用紙 10%）を総合的に評価する。なお、提出物が未提出の場合は不可となる。</p> <p>【フィードバック方法】 フィードバックは、実習計画書・個人票の作成指導時や巡回・帰校日時におこなう。</p>
質問・相談の受付方法	基本的には授業中に回答する。また、必要に応じ、アポイントメントを取ったうえで各クラス担当教員の研究室等でも受け付ける。
履修条件	<p>【必須条件】 相談援助実習と同年次に履修すること。原則として「相談援助実習指導 A」「相談援助演習 C」「相談援助の理論と方法 B」「地域福祉の理論と方法 B」「障害者福祉サービス」が単位取得済であること。「相談援助演習 D」「相談援助の理論と方法 C」を履修中であること。</p> <p>社会福祉学部のみ履修可、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき、学科別 1 クラス 20 名以下とする。</p>

特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療情報管理士・介護福祉士課程履修者、編入生は4年次に履修すること。</li> <li>2. 日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。また、「相談援助実習」が不可の場合、本科目も原則として不可となる。</li> <li>3. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。なお、早退した場合は欠席となる。</li> <li>4. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累計3回を越える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</li> <li>5. 実習先との調整、講義の進捗状況によって授業計画を変更する場合がある。</li> </ol>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎2時間以上とする。実習計画書の作成、個人票の作成、実習関係書類の作成等に取り組んでもらう。</p> <p><b>【事後学習】</b> 授業終了後2時間以上とする。授業で学んだことを振り返り、相談援助実習までに必要な知識をまとめる。</p>

講義科目名称： 相談援助実習指導 C			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	専門職に必要な倫理・知識・技術等を身につけ、自己の資質・専門性を振り返る。
授業計画	<p>第1回 帰校日または巡回指導 個別支援計画書等について（実習中）</p> <p>【授業内容】 アセスメント、個別支援計画書作成時の課題を明確にする</p> <p>【予習事項】 実習先で使用しているアセスメントシート、個別支援計画書等を持参する。巡回指導の場合は教員への質問事項を考え、実習内容や実習中の課題を伝えられるように整理しておく。</p>
	<p>第2回 巡回指導 実習関係書類等について（実習中）</p> <p>【授業内容】 実習日誌等の提出・返却について</p> <p>【予習事項】 教員への質問事項を考え、実習内容や実習中の課題を伝えられるように整理しておく。</p>
	<p>第3回 (1週目) 相談援助実習報告集、相談援助実習報告会について、 帰校日の記録提出</p> <p>【授業内容】 手引きの書式に基づいて、報告集の作成方法を理解する</p> <p>【予習事項】 教科書・手引きの概要箇所を読む。</p>
	<p>第4回 (2週目) 相談援助実習報告書の作成① 作成様式について</p> <p>【授業内容】 報告書の作成様式を理解する</p> <p>【予習事項】 教科書・手引きの該当箇所を読む</p> <p>【配付資料】 相談援助実習報告書 提出票配布</p>
	<p>第5回 (3週目) 相談援助実習報告書の作成② 実習計画に対する自己評価</p> <p>【授業内容】 実習日誌等から実習目標に対する自己評価を考察する</p> <p>【予習事項】 自己評価をしておくこと</p> <p>※実習先からの評価票返却状況に応じて、適宜、実習先の評価・自己評価に関する個別スーパービジョンを実施する (状況に応じて時間外に実施する場合もある)</p>
	<p>第6回 (4週目) 相談援助実習報告書の作成③ 実習の概要</p> <p>【授業内容】 実習計画書、実習プログラム、実習日誌等から実習の概要を作成する</p> <p>【予習事項】 教科書・手引きの該当箇所を読む</p>
	<p>第7回 (5週目) 相談援助実習報告書の作成④ 印象に残った体験、実習成果</p> <p>【授業内容】 個別及びグループスーパービジョンを通して実習体験を共有するとともに、実習の成果をまとめる</p> <p>【予習事項】 教科書・手引きの該当箇所を読む</p>
	<p>第8回 (6週目) 相談援助実習報告書の作成⑤ 考察と今後の課題、実習評価の振り返り</p> <p>【授業内容】 個別スーパービジョンを活用しつつ、今後の課題、実習評価について振り返る</p> <p>【予習事項】 教科書・手引きの該当箇所を読む</p>

第9回	(7週目) 相談援助実習報告書の作成⑥ 原稿の確認、実習報告書提出 【授業内容】印刷レイアウト、誤字脱字等を確認する 【予習事項】提出票を記入する。
第10回	(8週目) 相談援助実習報告会の準備① 報告会の概要、発表の進め方 【授業内容】相談援助実習報告会の概要、分科会の進行方法等について理解する 【予習事項】教科書・手引きの該当箇所を読む 【配付資料】分科会進行表配布
第11回	(9週目) 相談援助実習報告会の準備② 発表スライドの作成 【授業内容】実習報告書、実習日誌等から実習体験をまとめる 【予習事項】教科書・手引きの該当箇所を読む
第12回	(10週目) 相談援助実習報告会の準備③ 司会、タイムキーパー等の役割分担 【授業内容】報告会の役割分担、進行方法等を決める 【予習事項】教科書・手引きの該当箇所を読む
第13回	(11週目) クラス内プレゼンテーションの実施 【授業内容】クラス内発表・質疑応答によって実習体験を共有する 【予習事項】教科書・手引きの該当箇所を読む。
第14回	(12週目) クラス内プレゼンテーションの振り返り、実習日誌提出 ※この日までに実習指導クラス担当教員に提出する。 【授業内容】今後の課題や進路について考え、求められる社会福祉士像を明確化する 【予習事項】課題、進路、社会福祉士像を考えておく。
第15回	(13週目) コンピテンス・アセスメントの実施、 報告会配布資料の作成・印刷、発表スライド(ファイル)の提出 ※発表スライドのファイル(マイクロソフトパワーポイント形式)を実習指導クラス担当教員にメールで提出する。 ファイル名は「学籍番号(半角)氏名 発表資料のタイトル」とする 【授業内容】コンピテンス・アセスメントシートの作成、 当日配布資料の作成・印刷 【予習事項】コンピテンス・アセスメントシートの作成方法を復習しておく 【配付資料】コンピテンス・アセスメントシート配布 ※報告会準備の進捗状況によって、報告会前に個別・クラス指導を実施する場合がある
第16回	相談援助実習報告会の準備 会場設営、リハーサル等 【授業内容】発表者、司会座席、掲示物等を準備しリハーサルを行う 【予習事項】報告会のリハーサルが出来るようにしておく
第17回	相談援助実習報告会

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b> 相談援助実習を振り返り、相談援助実習報告書を作成するとともに、相談援助実習報告会を実施する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 実習は、実践力のある対人援助専門職として仕事をする力量を総合的に身につける必須の過程である。この授業は、専門職の力量を養うため、福祉現場で必要とされる倫理・知識・技術等を身につけるとともに、実習内容の振り返りを通じて専門職としての自己のあり方を問うことを目的とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」等を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：社会福祉演習実習委員会 編著「相談援助実習の手引き」</p> <p>テキスト名：ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 ISBN：978-4-8058-5127-2 出版社：中央法規出版 著者名：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 監修 価格（税抜）：2,400円</p>
<p>参考文献</p>	<p>その都度紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 受講態度（30%）、相談援助実習報告書（30%）、コンピテンス・アセスメントシート〔4頁のみ〕（10%）、相談援助実習報告会における発表（30%）を総合的に評価する。なお、相談援助実習報告書を期限内に提出し、相談援助実習報告会で発表しなければ不可となる。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> フィードバックとして実習報告書及び報告会資料の添削、巡回指導及び帰校日におけるスーパービジョン、実習先からの評価票及び自己評価を素材として振り返りを行う。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>基本的には授業中に回答する。また、必要に応じ、アポイントメントを取ったうえで各クラス担当教員の研究室等でも受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【必須要件】</b> 相談援助実習を同年次に履修すること。原則として「相談援助実習指導B」「相談援助演習D」「相談援助の理論と方法C」が単位取得済であり、「相談援助演習E」を履修中であること。規定時間（180時間）以上の相談援助実習を実施済みであること。診療情報管理士・介護福祉士課程履修者は4年次に履修すること。</p> <p>社会福祉部のみ履修可、社会福祉士及び介護福祉士法施行規則に基づき学科別1クラス20名以下とする。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療情報管理士・介護福祉士課程履修者、編入生は4年次に履修すること。</li> <li>2. 「相談援助実習」が不可の場合、本科目も原則として不可となる。</li> <li>3. グループ作業に支障を来すため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。なお、早退した場合は欠席となる。</li> <li>4. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累計3回を越える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</li> <li>5. 実習報告会の日程、講義の進捗状況によって授業計画を変更する場合がある。</li> </ol>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習・事後学習】</b>授業毎に2時間以上の「予習事項」及び授業後2時間以上、実習報告書・報告会資料の作成、実習報告書・報告会資料の修正及び発表練習を行うこと。</p>

講義科目名称： 相談援助実習			
開講期間： 通年	配当年： 3年	単位数： 4	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史、相原真人、渡邊英勝、渡辺央、小林哲也、檜木博之、福田幸夫			

テーマ	福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。
授業計画	<p>1. 基本的な実習期間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次または4年次夏季休業期間中（8月上旬～9月下旬）</li> <li>・180時間以上かつ23日間以上</li> </ul> <p>※但し、実習先の事情等により前後することがある</p> <p>2. 主な実習施設・機関の種類</p> <p>介護保険法：介護老人保健施設、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等</p> <p>老人福祉法：老人デイサービスセンター、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム等</p> <p>障害者総合支援法：障害福祉サービス事業所(生活介護・就労移行支援・就労継続支援等)、相談支援事業所等</p> <p>児童福祉法：児童相談所、母子生活支援施設、児童養護施設、障害児通所支援、児童家庭支援センター等</p> <p>社会福祉法：福祉事務所、社会福祉協議会</p> <p>医療法：病院</p> <p>生活保護法：救護施設等</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>実習は社会福祉士の国家試験を受験するための必須科目であるばかりでなく、実際の現場を体験することにより、概ね以下の内容を達成することが求められる。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>①利用者や職員と良好な人間関係を形成する。②利用者が置かれている状況や想いを理解する。③利用者のニーズを把握し、支援計画を策定し、できる範囲で実行する。④施設や機関の機能と役割を理解する。⑤職員とのチームワークのあり方を考え、できる範囲で実行する。⑥大学で学んだ知識を現実場面に応用できる実践力を養う。⑦現実場面での具体的活動を抽象化・概念化し、理論化していく能力を養う。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力」等を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：社会福祉演習実習委員会 編著「相談援助実習の手引き」</p> <p>テキスト名：ソーシャルワークを学ぶ人のための相談援助実習 ISBN：978-4-8058-5127-2 出版社：中央法規出版 著者名：日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター 監修 価格（税抜）：2,400円</p>
参考文献	その都度紹介する。



<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 実習施設・機関の評価および実習日誌、巡回・帰校日の状況、関係書類をベースにしつつ、実習担当教員(実習指導クラス担当教員及び巡回指導担当教員)の合議により最終的な評価を決定する。 <b>【フィードバック方法】</b> フィードバックとして実習指導者と連携を図りながらスーパービジョンを実施する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>実習中は、実習指導者の他、原則として概ね1週間に1回の巡回指導および帰校日を実施するため、その機会に質問や相談をすること。また、必要に応じて福祉実習指導センターでも受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【必須要件】</b> 「相談援助実習指導B」と同様となる。なお、必要な授業の単位が所定の時期までに取得済でない場合、実習が実施できないため十分注意すること。 「相談援助実習指導B・C」「相談援助演習D・E」を同年次に履修すること。 社会福祉学部のみ履修可</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>実習時間(180時間以上かつ23日間以上)は全て実施しなければ履修したことにはならない。実習先での遅刻や早退、欠席は認められない。また、真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、追加実習を実施する。相談援助実習のみを履修することはできない。また、相談援助実習指導BおよびCが不可の場合、原則として本科目も不可となる。実習受け入れ状況等によって授業計画が変更になる場合がある。</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習・事後学習】</b> 実習に向けた事前学習(施設・機関の理解、個別支援計画書の作成等)及び事後学習(実習関係書類の作成)に取り組むこと。</p>

講義科目名称： 障がい者コミュニケーション入門			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 伊久美礼子、石神利之、小倉健太郎、森直之、太田晴康			

テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害を理解し、それらに対応する技術を身につける〈森・太田〉</li> <li>・ 聴覚障害についての知識と、手話言語の実技〈伊久美・小倉〉</li> <li>・ 視覚障害者における読書環境〈石神〉</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 身の回りにあるコミュニケーションを簡易化する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニケーションの重要性（ディスカッション）</li> <li>・ 障害の種類と、特製</li> <li>・ 障害に応じた支援方法</li> </ul> <p>第2回 ノートテイク①（基礎技能の習得）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートテイクの仕組み、必要性</li> <li>・ タイピング技術の習得</li> </ul> <p>【事後学習】 タッチタイピング練習（1時間）</p> <p>第3回 ノートテイク②（音声認識と要約筆記）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報を要約することの是非（ディスカッション）</li> <li>・ 情報の伝え方と、要約のポイント</li> <li>・ 音声認識技術の活用</li> </ul> <p>【事後学習】 リスピーク練習（0.5時間）</p> <p>第4回 動画に字幕を付ける①（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画への字幕付与技術</li> <li>・ 字幕の必要性和活用シーンを理解する</li> <li>・ 字幕の起こし方</li> </ul> <p>【事後学習】 字幕付与（0.5時間）</p> <p>第5回 動画に字幕を付ける②（グループワーク）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画への字幕付与（演習）</li> <li>・ 小テスト（範囲：第1～5回）</li> </ul> <p>第6回 講義「手話とは」実技1. 身ぶりで伝えてみよう</p> <p>第7回 実技2. 自己紹介</p> <p>第8回 実技3. 学生生活</p> <p>第9回 実技4. 家族・仕事・趣味・世界の手話</p> <p>第10回 実技5. 防災・地名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手話通訳者養成とは・全国手話検定とは</li> <li>・ 小テスト（範囲：第6～10回）</li> </ul> <p>第11回 視覚障害者を取り巻く生活環境及び読書手段</p> <p>第12回 点字の構成について</p> <p>第13回 基本的な仮名遣いについて</p> <p>第14回 分かち書きについて</p> <p>第15回 記号類の書き方及び小テスト（範囲：第11～15回）</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b>          ・障害の種類や、それらをアシストしていく技術を学ぶ。          ・聴覚障がいに関するコミュニケーション技法・技術・知識を学び身に着け実践する。          ・点訳に関する実践を通し、基礎的な知識を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b>          ・福祉を学び世の中で実践する者として、聴覚障がいに関する施策や環境、支援手段を理解し、必要なときに適切な方法でコミュニケーションができる人になる。          ・視覚障害者の読書環境を正しく理解し、点訳者としての基礎知識及び技能を習得する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>①（第1～5回授業）教材配布          ②（第6～10回授業）          テキスト名：静岡発～「手話は言語」～学習テキスト          出版社：（公社）静岡県聴覚障害者協会          著者名：（公社）静岡県聴覚障害者協会          価格（税抜）：1,000円（非課税対象）          ※上記テキストは、教員が第6回目の授業内で販売します。          ③（第11～15回授業）プリント配布</p>
<p>参考文献</p>	<p>・詳解 福祉情報技術 I 〈森・太田〉          ・必修漢字・点訳問題集 〈石神〉</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>          第1～5回授業：受講態度（30%）、提出物・小テスト（70%）を総合的に評価する。〈森・太田〉          第6～10回授業：受講態度（30%）、小テスト（70%）を総合的に評価する。〈伊久美・小倉〉          第11～15回授業：受講態度（10%）、提出物（20%）、小テスト（70%）を総合的に評価する。〈石神〉</p> <p><b>【特記事項】</b>          ・課題は学内メールで教員宛に提出すること。〈森・太田〉          ・毎回、次回の授業までに指定された宿題を提出する。〈石神〉</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>          ・次回授業内にて解説・フィードバックを行う〈森・太田〉          ・学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う〈小倉・伊久美〉          ・宿題の回収後、校正表をつけて、返却する。〈石神〉</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>・講義終了後、教室で受け付ける。また、学内メールで随時受け付ける。〈森・太田〉          ・講義終了後、教室で受け付ける。（15分間）〈小倉・伊久美〉          ・講義終了後、教室で受け付ける。（20分間）〈石神〉</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【希望的要件】</b> 個人のPCを持参できることが望ましい〈森・太田〉</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>〈森・太田〉          ・本学研究室で開発したシステムを使いながら、実践的な支援方法を学びます。しっかり身につけていきましょう。          〈伊久美・小倉〉          ようこそ、手話の世界へ！ろう者と手話通訳士が講師を務めます。手話やろうに関する質問をお待ちしております。          〈石神〉          点字指導員として40年間、点訳者の養成及び点字図書制作事業に従事しています。点字図書館事業に関する質問をお待ちしています。</p>

<p>準備学習について</p>	<p>〈森・太田〉          1) 授業では要所を教えますが、身に着けるためには自主練習も必要です。          あらかじめ環境を整え、予習・練習をしてきてください。(1時間)</p> <p>〈小倉・伊久美〉          1) 授業内に予習内容を提示しますので、次回授業までに行っておくこと。(0.5時間)</p> <p>〈石神〉          1) 授業内で質問をしますので、予習(2時間)、復習(2時間)を行うこと。</p>
-----------------	--

講義科目名称： ケアマネジメント論A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎬			

テーマ	ケアマネジメントの歴史、定義、ケアマネジャーの役割を学びケアプラン作成が上手になる。
授業計画	<p>第1回 ケアマネジメントの理解 (ケアマネジメント定義・概要)</p> <p>【事前学習】1回目のケアマネジメントの理解を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】1回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>総合福祉館の経験を生かし、ケアプランによる支援の大切さを紹介する。</p>
	<p>第2回 ケアマネジメントの目的 (ケアマネジメント誕生の背景、目的)</p> <p>【事前学習】2回目のケアマネジメント誕生の背景、目的を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】2回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p>
	<p>第3回 ケアマネジメントの機能</p> <p>(ケアマネジメントの核心的機能、多面的機能を学ぶ)</p> <p>【事前学習】3回目のケアマネジメントの機能を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】3回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p>
	<p>第4回 ケアマネジメントにおける社会資源</p> <p>(ケアマネジメントから見る社会資源、社会資源の分類と特性、社会資源の開発・改善を学ぶ)</p> <p>【事前学習】4回目のケアマネジメントにおける社会資源を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】4回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p>
	<p>第5回 ケアマネジメントの利用者</p> <p>(介護保険とケアマネジメント、ケアマネジメントの対象の拡大を学ぶ)</p> <p>【事前学習】5回目の介護保険とケアマネジメント、ケアマネジメントの対象の拡大を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】5回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>介護保険とケアマネジメントに関してプレゼンテーションしながら共に考える。</p>
	<p>第6回 ケアマネジメントの利用者</p> <p>(障害者とケアマネジメント、児童領域とケアマネジメント、その他の利用者に対して学ぶ)</p>

	<p>【事前学習】6回目のケアマネジメントの利用者を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】6回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第7回 ケアマネージャーの役割 (ケアマネジメントとケアマネージャー、 ケアマネジメントの機能とケアマネージャーの役割を学ぶ)</p> <p>【事前学習】7回目のケアマネージャーの役割を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】7回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第8回 ケアマネージャーの役割 (ケアマネジメントの展開過程とケアマネージャーの役割に関して学ぶ)</p> <p>【事前学習】8回目のケアマネジメントの展開過程とケアマネージャーの役割を 読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】8回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第9回 ケアマネジメントの視点 (利用者主体の視点、自立支援とQOLの視点、 エンパワメントの視点に関して学ぶ)</p> <p>【事前学習】9回目のケアマネジメントの視点を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】9回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第10回 ケアマネジメントの視点 (ストレングスの視点、ネットワーキングの視点を学ぶ)</p> <p>【事前学習】10回目のケアマネジメントの視点(ストレングスの視点、 ネットワーキングの視点)を読み概略を把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】10回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第11回 生活ニーズとダイヤモンド (生活ニーズとニーズの種類、生活ニーズの把握方法に関して学ぶ)</p> <p>【事前学習】11回目の生活ニーズとダイヤモンドを読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】11回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第12回 介護保険制度におけるケアマネジメント (介護保険制度におけるケアマネジメントの位置づけ、 ケアマネジメントの実施機関等を学ぶ)</p> <p>【事前学習】12回目の介護保険制度におけるケアマネジメントを読み概略を 把握しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】12回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく</p>
--	--

	<p>(2 時間)</p> <p>第 13 回 介護保険制度におけるケアマネジメント (介護支援専門員の定義と位置づけ、地域包括支援センターの機能を学ぶ) 【事前学習】 13 回目の介護支援専門員の定義と位置づけ、 地域包括支援センターの機能を読み概略を把握しておく (2 時間) 【事後学習】 13 回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p> <p>第 14 回 障害者施策にみるケアマネジメント (障害者自立支援法におけるケアマネジメントの位置づけ、 相談支援専門委員の要件と役割を学ぶ) 【事前学習】 14 回目の障害者施策にみるケアマネジメントを読み概略を 把握しておく (2 時間) 【事後学習】 14 回目の授業を中心に理解した内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p> <p>第 15 回 前期のまとめ (前期のまとめと質疑応答) 【事前学習】 前期の概略を把握しておく (2 時間) 【事後学習】 前期の授業に関する自分の考えや意見をプレゼンテーション しながら共に考える (2 時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 ケアマネジメントが生まれてきた経過からケアマネジメントの必要性、目的、構造、過程を学んだ後、在宅・施設のケアプランや対象別（高齢者―介護保険、障害者、児童）のケアプランの実際を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 21 世紀の社会福祉の大きな流れとして、これまで以上に福祉人材の重要性が指摘されている。すなわち、医療・保健・福祉の連携のなかで新しい専門職として定着されたケアマネジャーの役割をケアマネジメントが生まれてきた経過から、ケアプランの作成・実施、在宅や施設のケアプランの事例まで学ぶ。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と課題を解決へと導く力を身につけるようになる。</li> <li>・この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任や自己管理能力を身につけるようになる。</li> </ul>
テキスト	テキストは指定しないが、毎回授業の前に資料を配布する。
参考文献	講義中紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>授業での積極性とレポート (配点 30 : 70)</p> <p>【フィードバック方法】 毎回の授業後の概要を説明しながら質問を受ける。 毎回授業後レポートとして小テストに回答し提出する。 毎回授業の初めに小テストの解説と質問を受ける。 15 回目の少テストの解説はインターネットを利用して開設する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>質問は授業中、いつでも良い。 相談は、授業終了後が良い。</p>
履修条件	なし

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにします。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示めず。次回授業までに行うこと(2時間)。 【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、次回の授業の初めの解説に確認する(2時間)。



講義科目名称： ケアマネジメント論B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 張昌鎬			

テーマ	事例に基づき、グループ中でプレゼンテーションしながらインテークからケアプラン作成や評価まで学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ケアマネジメントの展開過程の流れ (ケースの発見、アセスメント、ケアプラン作成、 モニタリング、ケア会議の関係を学ぶ)</p> <p>【事前学習】1回目のケアマネジメントの展開過程の流れを読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】1回目のケアマネジメントの展開過程の流れを読みまとめておく (2時間)</p> <p>総合福祉館の経験をもとに、ケアプランを作成による援助の大切さに関するエピソードを紹介しながら共に考える。</p>
	<p>第2回 インテークから契約まで (ケースの発見と手続き、事例を通じて検証する) を学ぶ。 事例を基にグループ中で、プレゼンテーションし、利用者基本情報表に記入する。</p> <p>【事前学習】2回目のインテークから契約までを読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】2回目のインテークから契約までの内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p>
	<p>第3回 インテークから契約まで (ケースの発見と手続き、事例を通じて検証する) を学ぶ。 事例を基にグループ中で、プレゼンテーションし、利用者基本情報表に記入する。</p> <p>【事前学習】3回目のインテークから契約と利用者基本情報表の記入方法を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】3回目の授業を中心にインテークから契約と利用者基本情報表の記入方法をまとめておく (2時間)</p>
	<p>第4回 アセスメントの方法であるニーズアセスメント視点や方法を事例に基づき、 グループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートを作成する。</p> <p>【事前学習】4回目のアセスメントの方法であるニーズアセスメント視点や方法を事例に基づき読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p>【事後学習】4回目のアセスメントの方法であるニーズアセスメント視点や方法を事例に基づき、グループ中でプレゼンテーションした内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p>
	<p>第5回 4回目に続き、事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、 アセスメントシートを作成する。</p> <p>【事前学習】5回目の4回目に続き事例に基づきグループ中でプレゼンテ</p>

	<p>クションした内容や記入したアセスメントシートを読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>5回目の授業を中心に4回目にグループ中でプレゼンテーションした内容や記入したアセスメントシートの内容と疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第6回 5回目につき、事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートと短期目標と長期目標との関連について学ぶ。</p> <p><b>【事前学習】</b>6回目の事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、アセスメントシートと短期目標・長期目標との関連を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>6回目の授業を中心にグループ中でプレゼンテーションした内容や記入したアセスメントシートと短期目標・長期目標との関連内容と疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第7回 ケアプラン作成と居宅サービス計画書 (1)の記入 事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、居宅サービス計画書(1)に記入する。</p> <p><b>【事前学習】</b>7回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書 (1)の記入を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>7回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書 (1)の記入内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第8回 ケアプラン作成と居宅サービス計画書 (2)の記入 事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、居宅サービス計画書 (2)に記入する。</p> <p><b>【事前学習】</b>8回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書 (2)の記入を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>8回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書 (2)の記入内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第9回 ケアプラン作成と居宅サービス計画書 (3)の記入 事例に基づきグループ中でプレゼンテーションし、居宅サービス計画書 (3)に記入する。</p> <p><b>【事前学習】</b>9回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書 (3)の記入を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>9回目のケアプラン作成と居宅サービス計画書 (3)の記入内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p> <p>第10回 ケプラン作成とケア会議(担当者会議)の関係と担当者会議の依頼書作成を事例に基づきグループ中でプレゼンテーション通じて学ぶ。</p> <p><b>【事前学習】</b>10回目のケプラン作成とケア会議(担当者会議)の関係と担当者会議の依頼書作成を読み概略を把握しておく (2時間)</p> <p><b>【事後学習】</b>10回目のケプラン作成とケア会議(担当者会議)の関係と担当者会議の依頼書作成を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションした内容や疑問点をまとめておく (2時間)</p>
--	---

	<p>第 11 回 担当者会議の方法や役割とサービス担当者会議要点記入を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションを通じて学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 11 回目の担当者会議の方法や役割とサービス担当者会議要点記入を読み概略を把握しておく (2 時間)  <b>【事後学習】</b> 11 回目の担当者会議の方法や役割とサービス担当者会議要点記入内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p> <p>第 12 回 サービス担当者会議とモニタリングの関係、モニタリングの意義や記録の方法を事例に基づきグループ中でプレゼンテーションを通じて学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 12 回目のモニタリングの意義や記録の方法を読み概略を把握しておく (2 時間)  <b>【事後学習】</b> 12 回目のモニタリングの意義や記録の方法内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p> <p>第 13 回 モニタリングの意義、方法、在宅訪問の注意点、モニタリング様式の記録方法に関して学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 13 回目のモニタリングの意義、方法、在宅訪問の注意点、モニタリング様式の記録方法を読み概略を把握しておく (2 時間)  <b>【事後学習】</b> 13 回目のモニタリングの意義、方法、在宅訪問の注意点、モニタリング様式の記録方法内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p> <p>第 14 回 評価の意味、短期目標・長期目標と評価の関係、評価表作成に関して学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 14 回目の評価の意味、短期目標・長期目標と評価の関係、評価表作成を読み概略を把握しておく (2 時間)  <b>【事後学習】</b> 14 回目の評価の意味、短期目標・長期目標と評価の関係、評価表作成の内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p> <p>第 15 回 後期講義のまとめとケアマネジメントの未来と展望に関して学ぶ(資料)。  <b>【事前学習】</b> 15 回目の後期講義のまとめとケアマネジメントの未来と展望を読み概略を把握しておく (2 時間)  <b>【事後学習】</b> 15 回目の後期講義のまとめとケアマネジメントの未来と展望の内容や疑問点をまとめておく (2 時間)</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b>  ケアマネジメントが生まれてきた経過からケアマネジメントの必要性、目的、構造、過程を学んだ後、在宅・施設のケアプランや対象別（高齢者—介護保険、障害者、児童）のケアプランの実際を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b>  21 世紀の社会福祉の大きな流れとして、これまで以上に福祉人材の重要性が指摘されている。すなわち、医療・保健・福祉の連携のなかで新しい専門職として定着されたケアマネジャーの役割をケアマネジメントが生まれてきた経過から、ケアプランの作成・実施、在宅や施設のケアプランの事例まで学ぶ。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部で学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力と課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任や自己管理力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキストは指定しないが、毎回授業の前に配布する。</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中紹介する。</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	それぞれの事例によるケアプラン(インテークから評価まで)Report80%：授業での積極性20% 期末試験の Report に関するフィードバックは、インターネットを利用し、応答する。
質問・相談の受付方法	質問は授業中、いつでも良い。 相談は、授業終了後が良い。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	積極的な質問を歓迎する。 総合福祉館2年、県社会福祉協議会1年間の従事したことがあり、授業中にその内容を紹介し共に考えることにする。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業中に予習内容を示めす。次回授業までに行うこと(2時間)。 【事後学習】 毎回授業の終わりに行うテストを中心に復習を行い、 次回の授業の初めの解説に確認する(2時間)。

講義科目名称： カウンセリング演習A/カウンセリング演習（2017 以前入学生）			
開講期間： 前期（2017 以	配当年： 3 年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平准次、芳賀道匡、片岡祥			

テーマ	心理援助としてのカウンセリングの理論と技法の基礎を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、リレーションづくりについて</p> <p>第2回 マイクロカウンセリングにおける基本的関わり行動</p> <p>第3回 クライエントの観察</p> <p>第4回 場面構成・治療契約・治療構造論</p> <p>第5回 簡単受容・聴くことの効果</p> <p>第6回 事柄への応答</p> <p>第7回 感情への応答</p> <p>第8回 質問の技法</p> <p>第9回 沈黙の理解と対応</p> <p>第10回 来談者中心療法の理解</p> <p>第11回 受容と共感</p> <p>第12回 集団による意思決定の体験</p> <p>第13回 適切な自己主張</p> <p>第14回 自己観察</p> <p>第15回 事例検討</p> <p>※履修人数等により、実施の順序や内容はある程度変更する場合があります。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 心理学的援助を行ううえでの、カウンセリングの技法と理論について検討する。カウンセリング演習Aでは、カウンセリングの技法や理論について紹介したうえで、演習としてロールプレイや討議を行う。また、その中での自己の体験についてもシェアし、検討する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 心理学的援助としてのカウンセリングにおけるマイクロカウンセリングの技法に関する知識やスキルについて説明できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」「自己管理力」「チームワーク、リーダーシップ」「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。適宜、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 毎回の授業で課すミニレポート（45%）と学期末に課すレポート（55%）の合計により評価する。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> 課題やレポート等に関するフィードバックは次回の授業で総評として口頭で伝える。成績評価のフィードバックについては学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。

履修条件	<p>「カウンセリング演習 A」は公認心理師取得を希望しない学生を対象にしており、「心理演習 A」や「心理演習 B」と内容的な重複がある。このため、「心理演習 B」履修者の履修を認めない。また、「カウンセリング演習 A」と「カウンセリング演習 B」のいずれも履修する場合は同一の教員のクラスを選択すること。なお、「カウンセリング演習」（2017 以前入学生）は通年科目となる。</p> <p>【希望的条件】臨床心理学概論、心理学的支援法を履修中または単位修得済が望ましい。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【要件を満たしていれば可】  聴講生【要件を満たしていれば可】  キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】</p>
メッセージ	<p>担当教員は心理援助職としての実務経験を持ち、心理療法の実践に関わるテーマを取り上げます。この科目では積極的に自分の意見を述べ、ディスカッションに参加することやロールプレイによるカウンセリング体験を行うことが求められます。ただ静かに講義を聞いていれば良いという科目ではありませんので、その点を踏まえた上で履修してください。</p>
準備学習について	<p>授業ごとに 60 分程度の予習と 60 分以上の復習として、演習における体験内容の言語化と、それと技法との関連について言語化することを行い、授業内容を説明できるようにして次回授業に臨んでください。</p>

講義科目名称： カウンセリング演習B/カウンセリング演習（2017 以前入学生）			
開講期間： 後期（2017 以	配当年： 3 年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平准次、芳賀道匡、片岡祥			

テーマ	学派によってことなるカウンセリングの技法を修得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、学派について</p> <p>第2回 リラクゼーション</p> <p>第3回 認知再構成法</p> <p>第4回 アクションプラン</p> <p>第5回 行動活性化</p> <p>第6回 マインドフルネス</p> <p>第7回 体験を重視した療法</p> <p>第8回 心理療法とイメージ</p> <p>第9回 箱庭作成の体験</p> <p>第10回 箱庭作品の理解</p> <p>第11回 コラージュ療法</p> <p>第12回 遊戯療法</p> <p>第13回 家族療法</p> <p>第14回 心理教育</p> <p>第15回 事例検討</p> <p>※履修人数等により、実施の順序や内容はある程度変更する場合があります。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 心理学的援助を行ううえでの、認知行動療法やイメージを媒介とした療法を中心に、より具体的な学派を取り上げてカウンセリングの技法と理論について検討する。技法や理論について紹介したうえで、浦井エントが取り組む作業や体験について、履修生自ら取り組む演習を行う。また、その中での自己の体験についてもシェアし、検討する。</p> <p><b>【到達目標】</b>心理学的援助としてのカウンセリングにおける認知行動療法やアート・セラピーなどの技法に関する知識やスキルについて説明できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」「自己管理力」「チームワーク、リーダーシップ」「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。適宜、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 毎回の授業で課すミニレポート（45%）と学期末に課すレポート（55%）の合計により評価する。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> 課題やレポート等に関するフィードバックは次回の授業で総評として口頭で伝える。成績評価のフィードバックについては学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。

履修条件	<p>「カウンセリング演習 B」は公認心理師取得を希望しない学生を対象にしており、「心理演習 B」と内容的な重複がある。このため、「心理演習 B」履修者の履修を認めない。また、「カウンセリング演習 A」と「カウンセリング演習 B」のいずれも履修する場合は同一の教員のクラスを選択すること。なお、「カウンセリング演習」（2017 以前入学生）は通年科目となる。</p> <p>【希望的条件】臨床心理学概論、心理学的支援法を履修中または単位修得済が望ましい。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【要件を満たしていれば可】  聴講生【要件を満たしていれば可】  キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】</p>
メッセージ	<p>担当教員は心理援助職としての実務経験を持ち、心理療法の実践に関わるテーマを取り上げます。この科目では積極的に自分の意見を述べ、ディスカッションに参加することやロールプレイによるカウンセリング体験を行うことが求められます。ただ静かに講義を聞いていれば良いという科目ではありませんので、その点を踏まえた上で履修してください。</p>
準備学習について	<p>授業ごとに 60 分程度の予習と 60 分以上の復習として、演習における体験内容の言語化と、それと技法との関連について言語化することを行い、授業内容を説明できるようにして次回授業に臨んでください。</p>



講義科目名称： 心理的アセスメント/心理検査演習 A (2017 以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 梶木てる子			

テーマ	心理検査を含む心理的アセスメントについて学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、心理的アセスメントとは</p> <p>第2回 心理的アセスメントの観点と展開</p> <p>第3回 ケース・フォーミュレーション</p> <p>第4回 面接法と観察法、観察評価</p> <p>第5回 心理検査 1 知能検査</p> <p>第6回 心理検査 2 発達検査</p> <p>第7回 心理検査 3 認知機能検査、神経心理学的検査</p> <p>第8回 心理検査 4 自記式評価尺度</p> <p>第9回 心理検査 5 パーソナリティ検査 (質問紙法)</p> <p>第10回 心理検査 6 パーソナリティ検査 (作業法、投影法)</p> <p>第11回 検査実施上の留意点、テストバッテリー、 心理的アセスメントの適切な記録と管理</p> <p>第12回 質問紙法検査の受検と結果算出の実習 1 Y-G性格検査の受検、結果の算出</p> <p>第13回 質問紙法検査の受検と結果算出の実習 2 結果の解釈、報告書の作成</p> <p>第14回 個別式検査の施行の実習</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 心理的アセスメントの目的、倫理、観点、展開、方法、特徴などに関する知識や基本的スキルを学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 心理的アセスメントの目的、倫理、観点、展開、方法、特徴などに関する知識や基本的スキルを習得する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「コミュニケーション・スキル」「論理的思考力」「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	なし。随時、資料を配布する。
参考文献	適宜、紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 授業参加への積極性(10%)、提出課題の完成度(20%)、授業内の小テスト(70%)から評価する。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> 課題への総評は次回の授業時に行う。成績評価のフィードバックについては、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	<p><b>【希望的要件】</b> 心理学概論AB、発達心理学AB、心理学統計法ABの単位を取得済みあるいは履修中であることが望ましい。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【要件を満たしていれば可】</p> <p>聴講生【要件を満たしていれば可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【要件を満たしていれば可】</p>
メッセージ	<p>2018年以降の入学生にとっては公認心理師養成科目になります。2年後期の心理演習Aの履修条件にも影響してきますので、公認心理師の受験資格取得を考えている方は必ず履修してください。</p> <p>また、心理職として心理検査をはじめとする心理アセスメントを実践してきた経験を授業のなかで反映させていきたいと考えています。</p>
準備学習について	授業ごとに60分以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 心理演習A/心理検査演習B (2017 以前入学生)			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 梶木てる子、上野永子、森平准次、芳賀道匡			

テーマ	心理面接による心理学的支援の基本ならびに心理アセスメントにおける技能から支援計画までの展開を学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：リレーションづくり（自己開示）</p> <p>第2回 面接の流れ、言語的・非言語的コミュニケーション (マイクロカウンセリングの基本的かかわり技法)</p> <p>第3回 情報の収集・集約に向けたコミュニケーション① 「いいかえ」「要約」による内容確認</p> <p>第4回 情報の収集・集約に向けたコミュニケーション②「質問」の働き</p> <p>第5回 インテーク面接で収集する情報と面接記録、記録書式に即した情報収集</p> <p>第6回 インテーク面接と治療面接、観察の体験</p> <p>第7回 受容・傾聴・共感的理解に向けたコミュニケーション① 「繰り返し」による感情・意味の反映</p> <p>第8回 受容・傾聴・共感的理解に向けたコミュニケーション② リフレクション</p> <p>第9回 WISC - IV知能検査の実際①言語理解指標の特徴</p> <p>第10回 WISC - IV知能検査の実際②知覚推理指標の特徴</p> <p>第11回 WISC - IV知能検査の実際③ワーキングメモリ指標の特徴</p> <p>第12回 WISC - IV知能検査の実際④処理速度指標の特徴</p> <p>第13回 WISC - IV知能検査の実際⑤結果算出と報告書の作成</p> <p>第14回 心理アセスメントの展開例①発達障がいをもつ児童への支援</p> <p>第15回 心理アセスメントの展開例②発達障がいをもつ青年の就労支援</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>本講義では、ロールプレイによるカウンセリングの実習を通して、心理面接の基本を学びます。また、心理アセスメントの実習を通して、心理アセスメントを実施するための技能を取得し、アセスメントに基づいて支援計画を作成する知識を身に着けることを目標とします。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b></p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	授業参加への積極性(20%)、單元ごとのレポート(25%, 25%, 30%)にて評価する。レポートに関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で、またはオフィスアワーに研究室で受け付ける。

履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公認心理師取得を検討していること。</li> <li>・本科目は複数のクラスを開講する予定であり、1クラスにつき履修人数を15名までとする。そのため、いずれかのクラスで履修希望者が15名を上回った場合、履修学生数を各クラスで案分する。</li> <li>・履修を希望する学生は、年度当初の履修登録については任意のクラスを選択し、登録すること。ただし、授業開始時にクラスを変更する可能性がある。</li> <li>・履修クラスは、後期開始時期に説明会を開催し、学生の希望を聴取したうえで、各クラスの履修希望の状況を勘案して決定する。このため、希望通りの曜日・時間に履修できない場合がある。また、原則として（特別な事情のない場合）、本説明会に参加していない場合、履修を認めない。本説明会の開催については、後期授業開始前にメールにて通知する。</li> </ul>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を展開します。特別な事情のない限り遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や講義の進行具合によって、クラス数や、シラバスに変更がある場合があります。</p>
準備学習について	<p>授業毎に1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨むこと。</p>

講義科目名称： 心理演習B			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 梶木てる子、森平准次			

テーマ	心理学的支援の理論と方法について演習をとおして学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、認知行動療法の手法 リラクゼーション技法（呼吸法、自律訓練法等）</p> <p>第2回 認知行動療法の手法2 エクスポージャー、系統的脱感作</p> <p>第3回 認知行動療法の手法3 アサーションとSST</p> <p>第4回 認知行動療法の手法4 問題解決技法、行動活性化</p> <p>第5回 認知行動療法の手法5 認知療法</p> <p>第6回 認知行動療法の手法6 第3世代の認知行動療法</p> <p>第7回 体験的心理療法の手法</p> <p>第8回 森田療法、内観療法、動作法の手法</p> <p>第9回 芸術療法（表現療法）の手法1 カラージュ療法</p> <p>第10回 芸術療法（表現療法）の手法1 風景構成法、箱庭療法</p> <p>第11回 芸術療法（表現療法）の手法1 集団療法としての芸術療法、遊戯療法</p> <p>第12回 システムズ・アプローチによる「問題」の理解</p> <p>第13回 システムズ・アプローチによる問題の介入手法、ナラティブセラピー</p> <p>第14回 災害支援、被害者支援、トラウマケア</p> <p>第15回 心理教育とコミュニティ・アプローチ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 個別的な問題のアセスメントや心理支援を実践する上で求められる技能の基本として、心理面接の各種の介入手法や地域支援などについてロールプレイや事例検討を通して学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 心理支援としての心理面接や地域支援の手法として、各種の心理療法理論の介入法や基本的技能について説明できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	授業各回のミニレポート (20%) 単元ごとのレポート課題 3 本 (25%, 25%, 30%) 成績評価のフィードバックについては、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	公認心理師受験資格に対応した科目であり、原則として将来的に公認心理師受験の可能性のある学生以外の履修を認めない。 1、2 年次に配当された公認心理師指定科目の単位を原則すべて修していること。 GPA による一定の成績基準を設け、2 年次後期配当科目の「心理演習 A」の授業終了後、面談により選抜を行う。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を行います。特別な事情のない限り遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や講義の進行具合によって、クラス数やシラバスに変更がある場合があります。
準備学習について	授業ごとに 60 分以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 心理演習C			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 榊木てる子、森平准次			

テーマ	事例検討等を通して、①心理的問題の理解と支援計画、②要心理支援者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、③他職種連携及び地域支援のあり方、④公認心理師としての職業倫理と法的義務について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、不適切な養育環境にある子と親への事例</p> <p>第2回 不適切な養育環境によって生じた二次的障害の事例</p> <p>第3回 障害を持つ子と家族の事例</p> <p>第4回 学習困難、不登校などが生じた児童の事例</p> <p>第5回 学校内の人間関係トラブルに関する事例</p> <p>第6回 虞犯少年、触法少年、非行少年に関する事例</p> <p>第7回 人間関係、学習困難、適性、自己への悩みを持つ青年の事例</p> <p>第8回 精神疾患発症、発達障害の顕在化などに関する事例</p> <p>第9回 障害を持つ人の進路および就労支援に関する事例</p> <p>第10回 依存症、自殺企図などに関する事例</p> <p>第11回 暴力、窃盗、ストーキング行為などに関する事例</p> <p>第12回 社会的孤立（ひきこもり、閉じこもり）に関する事例</p> <p>第13回 雇用上の問題、職場内のハラスメントなどに関する事例</p> <p>第14回 がん、難病、認知症などから生じた要介護状態の事例</p> <p>第15回 要介護者をケアする家族や職員の事例</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 修得してきた知識や技能をもとに事例を読むことで、①個別的な心理的問題の見立てと支援計画、②要心理支援者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、③他職種連携と地域支援、④職業倫理と法的義務について学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> さまざまな現場領域が抱える心理的問題に対する、①見立てと支援計画、②チームアプローチ、③他職種連携、地域支援のあり方、④公認心理師としての職業倫理と法的義務の視点についてとらえることができる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「課題を解決へと導く力」「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成の要素の一つである「問題解決能力」「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>授業毎回のレポート (20%)</p> <p>単元ごとのレポート課題 3本 (80%)</p> <p>成績評価のフィードバックについては、学内制度(成績問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後の教室にて、またはオフィスアワーの時間帯にて受け付ける。
履修条件	公認心理師受験資格に対応した科目であり、原則として将来的に公認心理師資格を目指す学生以外の履修を認めない。また、3年前期までに配当された公認心理師指定科目の単位を原則すべて修めていることを求める。

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	医療施設や学校などで心理職としての実務経験を持つ教員が担当し、実践的な授業を行います。特別な事情がない限り、遅刻や欠席のないように心がけてください。また、受講者数や授業の進行具合によってクラス数やシラバスに変更が出る場合があります。
準備学習について	授業ごとに 60 分以上の予習復習を行い、内容を理解して授業に臨んでください。



講義科目名称： 公認心理師の職責			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平准次			

テーマ	公認心理師の職務の遂行にあたり、その役割と倫理、現場によって求められる職務、連携、支援の質の向上といった具体的な課題について概観する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・公認心理師とは 授業の進め方を確認し、公認心理師法を紹介する。</p> <p>第2回 公認心理師の役割の理解と法的義務 公認心理師の職務遂行における公認心理師法の留意点（主治医の指示、名称独占、信用失墜の禁止、資質向上の責務、等）について概説する。</p> <p>第3回 公認心理師の倫理 守秘義務等、公認心理師として職務に当たるうえで必要な倫理について検討する。</p> <p>第4回 情報の適切な取扱い 守秘義務と連携・情報共有について検討する。</p> <p>第5回 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 心理学的支援を必要とする者の安全の確保や自己決定権について概説する。</p> <p>第6回 保健医療分野の業務</p> <p>第7回 福祉分野の業務</p> <p>第8回 教育分野の業務</p> <p>第9回 司法分野の業務</p> <p>第10回 産業分野の業務</p> <p>第11回 多職種連携，地域連携，チームとしての活動</p> <p>第12回 自己課題発見・解決能力</p> <p>第13回 生涯学習と自己研鑽</p> <p>第14回 今後の課題と展開 公認心理師の活動の今後について、知っておくべきことと考えておくべきポイントを提示する。</p> <p>第15回 公認心理師の活動について 公認心理師としての具体的な活動内容を検討する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 国家資格である公認心理師を取得した者の役割や倫理、責任といった実務に関わる課題について概説する。講義形式で行うが、演習やディスカッションを取り入れることがある。</p> <p><b>【到達目標】</b> 公認心理師の役割、倫理、具体的な業務とその責任について基本的な事項を説明できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」「生涯学習力」を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：公認心理師の基礎と実践① 公認心理師の職責  ISBN：978-4-86616-051-1  出版社：遠見書房  編者：野島一彦編（2018）  価格（税抜）：2,000円</p>
参考文献	<p>授業の中で適宜紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】毎回の授業における小テストと、学期末レポートの評価を合計して成績評価を行う。それぞれの配点については次の通りとする。  小テスト：30%（15回の授業各回につき 2%の配点とする）。  学期末レポート：70%。  【フィードバック方法】成績評価のフィードバックについては、学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーにて受け付ける。</p>
履修条件	<p>なし。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】  キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>2018年度入学生から、公認心理師養成科目（必修）です。  公認心理師資格取得後も含め、現場に適した心理支援とは何か、考えながら学習を深めてください。また、授業でディスカッションを行う場合は、積極的にコメントし、受講生同士の学びを深めてください。  担当教員の心理専門職として活動した体験等を反映させたいと考えます。</p>
準備学習について	<p>【事前学修】各回のテーマに関して下調べをする（60分程度）。  【事後学修】授業資料とノートをまとめ、実際に公認心理師として活動する際にどのような問題が起こるかについて想定し、その解決策を検討する（60分程度）</p>

講義科目名称： 健康・医療心理学/健康心理学（2017 以前入学生）			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 森平准次			

テーマ	健康心理学ならびに医療心理学について学ぶ
授業計画	第1回 オリエンテーション、心の健康に関わる現場と医療について 授業の進め方を確認し、健康と医療について概説する。
	第2回 ストレスの心理・生理と心身の疾病 セリエの理論を基に、ストレスについて概説する。
	第3回 心の健康とストレスマネジメント ラザルスの理論を基に、ストレスとそのマネジメントについて概説する。
	第4回 医療現場における活動の基本、保健・医療における法律・制度・倫理
	第5回 精神科（小児・思春期）における心理社会的課題と心理支援 知的障害や発達の障害について概説する。
	第6回 精神科（成人期）における統合失調症の心理社会的課題と心理支援 統合失調症について概説する。
	第7回 精神科（成人期）における気分障害の心理社会的課題と心理支援 気分障害について概説する。
	第8回 精神科（高齢期）における心理社会的課題と心理支援 高齢者の心理の特徴と認知症について概説する。
	第9回 心療内科・内科 心療内科・内科における心理社会的課題と心理支援 心身症とその治療について概説し、自律訓練法を紹介する。
	第10回 小児科・母子保健領域 周産期や出生前診断、遺伝カウンセリングについて概説する。
	第11回 産業保健領域、地域保健活動と自殺予防活動 自助グループと嗜癖の問題、自死やその予防について概説する。
	第12回 医療観察法
	第13回 神経科・リハビリテーション領域/ 災害時などにおける課題と必要な心理支援 てんかん、パーキンソン病、高次精神機能障害、リハビリテーション について概説する。
	第14回 災害時などにおける課題と必要な心理支援 災害時の心理状況やその心理学的支援について概説する。
	第15回 さまざまな医療現場（高齢者医療、先端医療等）とコンサルテーション ターミナルケア、看取りやグリーフワークについて概説する。

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】精神疾患を含め心の健康問題や、医療保健分野における心理支援に関する知識について概説する。</p> <p>【到達目標】心の健康問題や医療保健分野の心理支援に関する基本的な事項を説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与との関連】この科目の学修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。
参考文献	<p>テキスト名：公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学 ISBN：978-4-263-26577-2 編者：宮脇稔、大野太郎、藤本豊、松野俊夫 出版社：医歯薬出版</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】毎回の授業で記述するコミュニケーション・カードの内容(45%)と試験(55%)を合計して評価する。</p> <p>【フィードバック方法】成績評価のフィードバックについては、学内制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	オフィスアワーの時間帯にて受けつける。
履修条件	なし。
特別学生の履修可否	<p>科目等聴講生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>2018年入学者の場合、公認心理師養成科目になります。</p> <p>自死、看取り、災害など、生死にかかわるテーマも扱いますので、履修希望者は注意してください。</p> <p>心理職として医療機関で勤務した経験などを授業のなかで反映させたいと考えます。</p>
準備学習について	授業に先立ち、授業計画で示されている授業内容について下調べをしてください(60分程度)。授業後は、資料とノートをまとめ、知識の整理と定着を図ってください(60分程度)。

講義科目名称： 心理実習A			
開講期間： 前期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 梶木てる子、森平准次、芳賀道匡			

テーマ	「保健医療」、「教育」の各分野で働く公認心理師の実務のありようについて学ぶ。
授業計画	1回 オリエンテーション（1） 心理実習の概要、スケジュール、成績評価
	2回 オリエンテーション（2） 見学実習の心構えとマナー
	3回 教育分野の事前指導（1） SC, SSWによる講演
	4回 教育分野の事前指導（2） 見学実習の連絡・注意事項
	5回 教育分野の見学実習（1） 適応指導教室
	6回 教育分野の見学実習（2） 静岡県総合教育センター
	7回 教育分野の事後指導 グループディスカッション
	8回 司法・犯罪分野の事前指導（1） 事前講義、調べ学習
	9回 司法・犯罪分野の事前指導（2） 調べ学習、見学実習の連絡・注意事項
	10回 司法・犯罪分野の事前指導（3） 家庭裁判所調査員による講義
	11回 司法・犯罪分野の見学実習 静岡少年鑑別所
	12回 司法・犯罪分野の事後指導 グループディスカッション
	13回 保健医療分野の事前指導（1） 事前講義、調べ学習
	14回 保健医療分野の事前指導（2） 調べ学習、見学実習の連絡・注意事項
	15回 前期の振り返り レポートの作成の注意点など

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	授業の概要は、事前学習、見学実習、事後学習の3つから構成されるものである。到達目標は3点ある。1点目は公認心理師が実務の中でどのようなチーム・アプローチや多職種連携をとり、地域連携を行っているのかの理解、2点目はどのように支援プロセスで生じる職業倫理上あるいは法的義務の判断を行っているのかの理解、3点目は一職業人として求められる望ましい態度などについての気づきである。この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」と「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「倫理観」、「市民としての社会的責任」、「生涯学習能力」を身につけることができる。
テキスト	静岡福祉大学（編）「心理実習の手引き」
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	調べ学習とグループディスカッションへの積極性（20%）、「保健医療」と「教育」分野の見学実習レポート（各40%）とする。レポートに関するフィードバックは、学内の成績問い合わせ制度を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で、またはオフィスアワーに研究室で受け付ける。
履修条件	心理実習へのエントリーがなされ、実習費が納められている者。かつ、3年次までの公認心理師指定科目の単位を原則すべて取得し、GPAが一定の水準に達している者。
特別学生の履修可否	不可
メッセージ	担当教員は医療施設で心理職として常勤勤務した経験や、教育機関での生徒・学生相談の勤務経験などがあります。そのなかで当事者やご家族などの周囲にいる人々の苦悩やトラブルを色々と聞きしてきました。履修者の実習体験に応じて、こうしたエピソードなども適宜、紹介し、心理支援のあり方について考えていきたいと思っています。 また、実習先の施設の都合を含む諸事情により、実習に行く順番が変更になる可能性があります。
準備学習について	毎授業後に履修者同士でディスカッションを行います。自分の意見を整理できるようにしてください（0.5時間）

講義科目名称： 心理実習B			
開講期間： 後期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 梶木てる子、森平准次、芳賀道匡			

テーマ	「福祉」、「司法・犯罪」の各分野で働く公認心理師の実務のありようについて学ぶ。
授業計画	1回 レポートのフィードバック・シェアリング 教育、司法・犯罪の分野
	2回 保健医療分野の見学実習（1） 静岡県立こころの医療センター
	3回 保健医療分野の見学実習（2） 医療法人社団リラ溝口病院
	4回 保健医療分野の見学実習（3） 焼津市保健センター
	5回 保健医療分野の事後学習 グループディスカッション
	6回 福祉分野の事前指導（1） 事前講義、調べ学習
	7回 福祉分野の事前指導（2） 調べ学習、見学実習の連絡・注意事項
	8回 福祉分野の見学実習（1） 静岡県中央児童相談所
	9回 福祉分野の見学実習（2） 児童家庭支援センターはるかぜ
	10回 福祉分野の見学実習（3） 静岡県精神保健福祉センター
	11回 福祉分野の事後指導 グループディスカッション
	12回 レポートのフィードバック・シェアリング 保健医療、福祉の分野
	13回 実習報告会の準備（1） 報告内容の整理
	14回 実習報告会の準備（2） 報告資料の作成
	15回 実習報告会とまとめ
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	授業の概要は、事前学習、見学実習、事後学習の3つから構成されるものである。到達目標は3点ある。1点目は公認心理師が実務の中でどのようなチーム・アプローチや多職種連携を取り、地域連携を行っているのかの理解、2点目はどのように支援プロセスで生じる職業倫理上あるいは法的義務の判断を行っているのかの理解、3点目は一職業人として求められる望ましい態度などについての気づきである。この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」と「地域を視野に貢献する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「倫理観」、「市民としての社会的責任」、「生涯学習能力」を身につけることができる。

テキスト	静岡福祉大学（編）「心理実習の手引き」
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	調べ学習とグループディスカッションへの積極性（20%）、「福祉」、「司法・犯罪」分野の見学実習レポート（各 40%）とする。レポートに関するフィードバックは、学内の成績問い合わせ制度を通じて行う。
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で、またはオフィスアワーに研究室で受け付ける。
履修条件	心理実習へのエントリーがなされ、実習費が納められている者。かつ、3年次までの公認心理師指定科目の単位を原則すべて取得し、GPAが一定の水準に達している者。
特別学生の履修可否	不可
メッセージ	担当教員は、医療施設での常勤勤務の経験や、学校での学生・生徒相談の勤務経験などがあります。そのなかで、当事者やご家族などの周囲にいる人々の苦悩やトラブルを色々と見聞きしてきました。履修者の実習体験に応じて、そうしたエピソードなども適宜、紹介し、心理支援のあり方について考えていきたいと思っています。 また、実習先の施設の都合を含む諸事情により、実習に行く順番が変更になる可能性があります。
準備学習について	毎授業後に履修者同士でディスカッションを行います。自分の意見を整理できるようにしてください（0.5時間）



講義科目名称： 現代の精神保健の課題と支援 A/精神保健の課題と支援 A (2020 以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 長坂和則			

テーマ	現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。精神保健の基本的考え方を理解する。現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。精神保健の保持・増進と発生の予防のための支援および専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。人と環境の精神保健として必要なメンタルヘルスの基礎的知識を理解し、それぞれのライフステージにおけるこころの問題や疾患を理解し知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 精神保健（メンタルヘルス）についての基礎的な知識 こころとは… 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方 【事前学習】テキストを読みこころの健康とは どのような意味を持つのか考えること（1時間） 【事後学習】講義で学んだ「メンタルヘルス」について 復習すること（1時間）</p> <p>第2回 現代の精神保健分野の動向と基本的考え方 精神保健の概念について 【事前学習】テキストを読み「精神保健とは何か」を 予め理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ「さまざまな精神保健の問題」について 復習すること（1時間）</p> <p>第3回 精神障害の分類～精神の障害とは何か～ 精神障害の診断とは 【事前学習】テキストから精神障害の診断について 予め理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ「治療法や精神疾患」について 復習して下さい（1時間）</p> <p>第4回 こころの健康・こころの疾患・こころの障害 とは 【事前学習】テキストを読み統合失調症について理解しておくこと（1時間） 【事後学習】講義で学んだ「こころの病」について復習して下さい（1時間）</p> <p>第5回 統合失調症からの回復とは（当事者からのメッセージ） 【事前学習】テキストから統合失調症の症状や生活のしづらさについて 理解しておくこと（1時間） 【事後学習】統合失調症からの回復とその課題について 復習して下さい（1時間）</p> <p>第6回 ライフサイクルと精神保健 乳幼児のアセスメント・母子の精神保健 子育て不安・児童虐待 【事前学習】テキストから母子関係の精神保健について 理解しておくこと（1時間） 【事後学習】母子関係で及ぼすメンタルヘルスについて 復習して下さい（1時間）</p>

第7回	<p>精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ① 思春期における精神保健 学校教育における精神保健的課題（いじめ・不登校・非行問題等）</p> <p>【事前学習】テキストから思春期に特徴を示す精神保健について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】思春期特有の問題について復習して下さい（1時間）</p>
第8回	<p>精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ② 青年期における精神保健</p> <p>【事前学習】テキストから青年期のメンタルヘルス問題について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】青年期におけるストレスやメンタルヘルスについて復習して下さい（1時間）</p>
第9回	<p>ライフサイクルと精神保健① 成人期における精神保健 現代日本の労働環境・ストレスチェック・ハラスメント相談・EAPシステム</p> <p>【事前学習】テキストから成人期のメンタルヘルス問題について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ成人期特有の諸問題について復習して下さい（1時間）</p>
第10回	<p>ライフサイクルと精神保健② 老年期における精神保健/人生の完結と精神保健 グリーフケア・家族問題を相談する機関</p> <p>【事前学習】テキストから老年期のメンタルヘルス問題について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ老年期特有の諸問題について復習して下さい（1時間）</p>
第11回	<p>アルコール依存症からの回復とは（当事者からのメッセージ） 生活と嗜癖 自己治療説と依存症</p> <p>【事前学習】テキストからアルコール依存症について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】アルコール依存症から回復とその課題について復習して下さい（1時間）</p>
第12回	<p>精神保健の視点からみた家族の課題 出産・育児をめぐる精神保健 子育て育児困難</p> <p>【事前学習】テキストから家族の課題について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】家族のメンタルヘルスについて復習して下さい（1時間）</p>
第13回	<p>精神保健の問題 機能不全家族とは 子どもへの影響とは DV・支配・非支配・依存・共依存関係</p> <p>【事前学習】機能不全家族とは何かを予め調べておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】機能不全家族から子どもへの影響について復習して下さい（1時間）</p>

	<p>第 14 回 母子関係をめぐるメンタルヘルスの諸問題</p> <p>【事前学習】 母子関係をめぐるメンタルヘルスについて理解しておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】 講義で学んだ母子関係の諸問題について復習して下さい (1 時間)</p> <p>第 15 回 全般のまとめ (重要項目の復習)</p> <p>【事前学習】 これまでの講義で学んだ重要なキーワードなど予習しておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】 講義で学んだライフサイクルについて復習して下さい (1 時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>精神科医療の実際と精神保健の現状を理解し、ライフサイクルやライフステージにおける精神保健の問題や疾患についてこころの病を捉える。家族・学校・職場・教育現場・地域における精神保健の諸問題を具体的に取り上げる。また、治療や援助に必要な知識や理解を深めるために資料・DVD を教材として使用する。また、当事者の方の話を聴くこともあります。スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士国家試験の必須科目となるため、国家試験のキーワードを踏まえ、知識のみではなく実践現場での支援の方法も身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ「精神保健の課題と支援」第 2 版 ISBN：9784335611148 出版社：弘文堂 著者名：松久保章、坂野憲司 価格（税抜）：2,700 円</p>
参考文献	授業において適宜紹介する予定。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	筆記試験にて評価する。国家試験に順ずる形式で 25 問を出題し、100 点換算で評価とする。
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間またはオフィスアワーにて対応する。研究室は 104
履修条件	精神保健福祉士受験資格取得には重要な科目となっており、1 年次に修得しておくことが望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴 講 生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>積極的な授業の参加をお願いします。出席カードがリアクションペーパーとなっているので、質問や感想を記載して下さい。質問等は授業の始めに復習をかねて再度解説をいたします。</p> <p>これまで 20 年間精神科病院やクリニックでのソーシャルワーカーとしての体験をふまえながら、ソーシャルワーク実践と保健所等でのアディクション家族教室でのグループワークを具体的な例にまとめ授業を行います。</p>
準備学習について	<p>毎回の授業の最後において重要なキーワードについて予習課題の提出を求めます。教科書の該当箇所や配布資料、レジュメの内容について、1 時間半以上の予習復習を行ったうえで講義に臨んでください。</p>

講義科目名称： 現代の精神保健の課題と支援 B/精神保健の課題と支援 B (2020 以前入学生)			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 長坂和則			

テーマ	現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。精神保健の基本的考え方を理解する。現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。精神保健の保持・増進と発生の予防のための支援および専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。人と環境の精神保健として必要なメンタルヘルスの基礎的知識を理解し、それぞれのライフステージにおけるこころの問題や疾患を理解し知識を身につける。
授業計画	<p>第1回 家族の問題とその課題に関連する精神保健の課題と支援 【事前学習】テキストから精神保健と家族の問題について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだ家族の問題について復習して下さい (1時間)</p> <p>第2回 発達障害と社会的ひきこもり等の諸問題 【事前学習】テキストから発達障害やひきこもりについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】発達障害へのかかわりやひきこもりの問題について復習して下さい (1時間)</p> <p>第3回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ ① 発見と予防とその支援 労働基準法・労働安全衛生法 EAP システム 【事前学習】テキストから職場におけるメンタルヘルスについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだ職場での諸問題について復習して下さい (1時間)</p> <p>第4回 精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ ② うつ病や精神疾患とその支援 ハラスメント相談 職場復帰 企業内保健相談活動 【事前学習】テキストから職場でのうつ病について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだうつ病や精神疾患について復習して下さい (1時間)</p> <p>第5回 地域における精神保健のネットワークづくり 地域保健にかかわる行政機関の役割と連携 精神保健福祉センター等 【事前学習】テキストから支援とネットワークづくりについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだネットワークの意味について復習して下さい (1時間)</p> <p>第6回 精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ 精神保健の予防の考え方 【事前学習】テキストから感情障害について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだ感情障害や精神疾患について復習して下さい (1時間)</p>

第7回	<p>地域精神保健に関する偏見・差別等の課題 ①</p> <p>【事前学習】テキストから感情障害について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ感情障害や精神疾患について復習して下さい (1時間)</p>
第8回	<p>地域精神保健に関する偏見・差別等の課題 ②</p> <p>認知症高齢者に対する対策 (介護家族支援等)</p> <p>【事前学習】テキストから認知症の問題について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ認知症の諸問題について復習して下さい (1時間)</p>
第9回	<p>精神保健に関する発生の予防と対策 ③</p> <p>アルコール関連問題・薬物・ギャンブル障害 セルフヘルプグループ・家族会・当事者の会・市民団体の活動</p> <p>【事前学習】テキストからアルコール・薬物の問題について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだアルコール依存・薬物依存について復習して下さい (1時間)</p>
第10回	<p>精神保健対策 ④思春期における課題</p> <p>【事前学習】テキストから思春期の課題について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ思春期の諸問題について復習して下さい (1時間)</p>
第11回	<p>精神保健対策 ⑤地域 ～自殺対策～ アウトリーチ</p> <p>自殺予防・ゲートキーパー・自死遺族</p> <p>【事前学習】テキストから自殺対策について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ自殺対策の現状について復習して下さい (1時間)</p>
第12回	<p>ターミナルケア (終末期医療) と精神保健福祉とは</p> <p>(ソーシャルワーカーの役割)</p> <p>【事前学習】テキストからターミナルケアとは何かについて理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだターミナルケアの重要性について復習して下さい (1時間)</p>
第13回	<p>精神保健に関する専門職種 (保健師等) と</p> <p>国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携 医療機関・行政機関等・地域における社会資源の活用と開拓</p> <p>【事前学習】テキストから医療機関との連携の必要性について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ連携することの意味について復習して下さい (1時間)</p>
第14回	<p>諸外国の精神保健活動の現状及び対策について</p> <p>障害調整生命年 (DALY) WHO の活動</p> <p>【事前学習】テキストから地域の社会資源の活用について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ社会資源を活用する意味について復習して下さい (1時間)</p>

	<p>第 15 回 全般のまとめ（復習及び国家試験等の重要キーワードの解説）</p> <p>【事前学習】配布したレジюмеから指示したキーワードの予習をしておくこと（1 時間）</p> <p>【事後学習】講義でのまとめで指示した重要項目について復習して下さい（1 時間）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <p>精神科医療の実際と精神保健の現状を理解し、ライフサイクルやライフステージにおける精神保健の問題や疾患について心の病を捉える。家族・学校・職場・教育現場・地域における精神保健の諸問題を具体的に引き上げる。また、治療や援助に必要な知識や理解を深めるために DVD を教材として使用する。</p> <p>精神保健福祉士国家試験の必須科目となるため、国家試験のキーワードを踏まえ、知識のみではなく実践現場での支援の方法も身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力と主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ「精神保健の課題と支援」第 2 版</p> <p>ISBN：9784335611148</p> <p>出版社：弘文堂</p> <p>著者名：松久保章、坂野憲司</p> <p>価格（税抜）：2,700 円</p>
参考文献	授業内で適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	筆記試験にて評価する。国家試験に順ずる形式で 25 問を出題し、100 点換算で評価とする。
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間もしくはオフィスアワーにて対応する。研究室は 104。
履修条件	スクールソーシャルワーカー・精神保健福祉士受験資格取得の重要な科目となっており、1 年次に修得しておくことが望ましい。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴 講 生 【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	積極的な授業の参加をお願いします。出席カードがリアクションペーパーとなっているので、質問や感想を記載して下さい。質問等は授業の始めに復習をかねて再度解説をいたします。これまで 20 年間精神科病院やクリニックでのソーシャルワーカーとしての体験をふまえながら、ソーシャルワーク実践と保健所等でのアディクション家族教室でのグループワークを具体的な例をまとめ授業を行います。
準備学習について	毎回の授業において重要なキーワードについて予習課題の提出を求めます。教科書の該当箇所や配布資料、レジюмеの内容について、1 時間半以上の予習復習を行ったうえで講義に臨んでください。

講義科目名称： 精神保健福祉相談援助の基盤 A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鵜領太郎			

テーマ	精神保健福祉の相談援助の意義・定義・歴史などの基礎について全般的（概論）に学ぶ。
授業計画	<p>第1回      オリエンテーション、精神保健福祉士の役割と意義①（P1～P7） 講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明 ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士</p> <p>第2回      精神保健福祉士の役割と意義②、社会福祉士の役割と意義（P7～P19） 我が国の精神保健福祉施策 国家資格としての精神保健福祉士 精神保健福祉士と社会福祉士</p> <p>第3回      精神保健福祉士の役割と意義③（P19～P32） 現代社会の特徴と精神保健福祉の課題 精神保健福祉士の活動領域の拡大 現代社会とソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士</p> <p>第4回      相談援助の概念と範囲①（P35～P43） ソーシャルワークの定義と構成要素 我が国の主要な定義、国際的な定義</p> <p>第5回      相談援助の概念と範囲②（P43～P61） ソーシャルワークの成立過程 歴史、COS、セツルメント運動 ソーシャルワークの構成要素（価値・知識・技術）</p> <p>第6回      相談援助の理念①（P61～P65） ソーシャルワークの理念① 人権、社会正義、利用者主体、尊厳の保持</p> <p>第7回      相談援助の理念②（P67～P75） ソーシャルワークの理念② 権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション</p> <p>第8回      ソーシャルワークの理論と展開過程①（P77～P80） ソーシャルワークの歴史 ケースワークの体系化、ケースワーク論争と再統合、新しい展開</p> <p>第9回      ソーシャルワークの理論と展開過程②（P80～P95） ソーシャルワークの実践モデル 理論と実践、理論と実践の乖離 主要な実践モデル（生態学的アプローチ、システム論、エンパワメント他）</p> <p>第10回     ソーシャルワークの理論と展開過程③（P95～P107） 3方法の統合化、ジェネラリストソーシャルワーク 地域を基盤とした生活支援</p>

	<p>第 11 回 協働作業としてのソーシャルワークの展開① (P108～P115)          ソーシャルワークの展開          インテーク、契約、アセスメント、支援計画、支援（介入）、          モニタリング、終結</p> <p>第 12 回 協働作業としてのソーシャルワークの展開② (P115～P118)          ソーシャルワークの3領域（マイクロ・メゾ・マクロ）          個別支援のあり方</p> <p>第 13 回 協働作業としてのソーシャルワークの展開③ (P118～P121)          グループを対象とした支援          グループワークのプログラム、プロセス</p> <p>第 14 回 協働作業としてのソーシャルワークの展開④ (P122～P127)          地域を対象とした支援          地域活動の展開、調査活動、広報、情報          地域でのコンフリクト</p> <p>第 15 回 全体のまとめ          本授業のまとめ（質疑応答）          （グループ討議：本授業で学んだこと）</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業概要】</b>          ソーシャルワークの定義、理念、方法、体系、歴史、精神保健福祉士の役割等を中心に、ソーシャルワーク全般と精神保健福祉との関連性についての学習を、講義及びグループワーク等アクティブラーニングを用いて実施する。（基礎）</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>          1. ソーシャルワークの目的や価値について基本的理解を深める          2. 精神保健福祉士の役割、相談援助の定義、理念、形成過程、体系、権利擁護、精神保健福祉士と他の専門職種との概念と範囲、多職種連携の基本を理解する</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力を及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー 3 『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）第6版』          ISBN978-4-89269-906-1          出版社：へるす出版          著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会          価格（税抜）：2,900円</p>
<p>参考文献</p>	<p>空閑浩人著「ソーシャルワーク論」ミネルヴァ書房 2016          窪田暁子著「福祉援助の臨床－共感する他者として」誠信書房 2013          F・P・バイステック著、尾崎新ほか訳「ケースワークの原則－新訳・改訂版」誠信書房 2006</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>          授業内課題（60%=4%×15回）、レポート課題（30%=15%×2回）、授業への積極性・学習態度（10%）を総合的に評価する。  <b>【フィードバック方法】</b>          授業内課題に対する質疑、リアクションを次回の授業の冒頭実施する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業終了後及びオフィスアワー等（研究室 研究棟 105号室）にて質問・相談を受け付ける。          また、授業内課題に疑問点・質問を記載する欄があるため積極的に活用してほしい。</p>



履修条件	【希望的条件】精神保健福祉士を目指す学生は『精神保健の課題と支援 A・B』を単位取得していることが望ましい。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時までには本科目を修得しなければならない。 精神保健福祉士を目指さなくとも精神保健福祉に関心ある学生を歓迎する。 精神保健福祉業務（精神科病院、地域活動支援センター、相談支援事業所における相談援助業務）に約 15 年間、従事してきた経験を基に精神保健福祉の実情についても紹介する。 授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーを招くことがある。
準備学習について	【事前学習】 毎回授業内で予習について指示する。（1 時間程度） 【事後学習】 毎回授業で配布する資料の確認を指示する。（1 時間程度）

講義科目名称： 精神保健福祉相談援助の基盤 B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鵜領太郎			

テーマ	精神保健福祉の相談援助の意義・定義などについて学び精神保健福祉士の専門性の理解を深める。
授業計画	<p>第1回           オリエンテーション 精神保健福祉士が行う                   相談援助の対象と相談援助の基本的な考え方① (P129～P132) 講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨について説明 精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向① 精神保健福祉の導入                   アメリカにおける草創期                   我が国における精神科ソーシャルワーカー導入                   日本P SW協会の草創期</p> <p>第2回           精神保健福祉士が行う                   相談援助の対象と相談援助の基本的な考え方② (P132～P135) 精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向② 精神保健福祉領域の混乱期から拡大期                   混乱期 (Y問題の影響と学び)                   展開期 (宇都宮病院事件と精神保健法)</p> <p>第3回           精神保健福祉士が行う                   相談援助の対象と相談援助の基本的な考え方③ (P135～P137) 精神保健福祉領域におけるソーシャルワークの動向③ 精神保健福祉領域の拡大                   精神保健福祉法・精神保健福祉士法の成立                   顕在化する精神保健福祉課題とその対応</p> <p>第4回           相談援助に係る専門職の概念と範囲① (P139～P144) 精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワーク① 医療機関における専門職種                   医師 (精神科医) をはじめとする各専門職</p> <p>第5回           相談援助に係る専門職の概念と範囲② (P144～P151) 精神保健福祉領域における多職種連携とソーシャルワーク② 行政及び地域の福祉施設等における専門職                   福祉保健行政、民間の福祉施設等の各専門職</p> <p>第6回           精神保健福祉活動における                   総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容① (P151～P155) チームアプローチと多職種連携① 多職種連携連携の必要性と現状                   機関 (専門職) 間内連係と外部機関との連携</p>

第7回	精神保健福祉活動における 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容② (P155～P165) チームアプローチと多職種連携② 多職種連携と精神保健福祉士の専門性 精神保健福祉士の視点 利用者参加
第8回	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲① (P165～P168) 精神保健福祉領域における生活支援① 精神保健福祉士による生活支援 地域生活、 リハビリテーションと社会的復権
第9回	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲② (P168～P175) 精神保健福祉領域における生活支援② 精神障害者の権利擁護 (アドボカシー) と地域生活支援 権利擁護の形態 実践モデル
第10回	メンタルヘルスと精神保健福祉士① (P177～P178) メンタルヘルスと精神保健福祉士 メンタルヘルス (精神保健) とは 対象者のメンタルヘルスと支援者のメンタルヘルス
第11回	メンタルヘルスと精神保健福祉士② (P177～P179) 社会に発生する多くのメンタルヘルス課題への対応 大災害、事故、事件等により起こるメンタルヘルス課題 (阪神淡路・東日本大震災でおこった課題を紹介)
第12回	ライフステージにおける メンタルヘルス課題と精神保健福祉士の役割① (P179～P183) エリクソンの発達論 胎児期・周産期および幼児期のメンタルヘルス課題
第13回	ライフステージにおける メンタルヘルス課題と精神保健福祉士の役割② (P183～P185) 児童期および思春期・青年期のメンタルヘルス課題
第14回	ライフステージにおける メンタルヘルス課題と精神保健福祉士の役割③ (P185～P192) 成人期及び老年期のメンタルヘルス課題
第15回	全体のまとめ 本授業のまとめ (質疑応答) (グループ討議：本授業で学んだこと)

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業概要】</b>  「精神保健福祉相談援助の基盤A」の継続科目として、ソーシャルワーク理論と展開、精神保健福祉に係る多職種連携等について、講義およびグループワーク等のアクティブラーニングを用いて実施する。（専門）</p> <p><b>【授業の到達目標】</b>  1. 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）の内容を踏まえ、精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、精神保健福祉士と他の専門職の概念と範囲、多職種連携に関して理解を深める。  2. 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）の内容を踏まえ、精神保健福祉士の役割、相談援助の定義・理念・形成過程・体系・権利擁護、精神保健福祉士と他の専門職の概念と範囲、多職種連携に関して理解を深める。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技術を理解する力、実践的に課題を発見する力、地域を視野に貢献する力及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、コミュニケーションスキルを身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー 3 『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）第6版』  ISBN978-4-89269-906-1  出版社：へるす出版  著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会  価格（税抜）：2,900円</p>
<p>参考文献</p>	<p>空閑浩人著「ソーシャルワーク論」ミネルヴァ書房 2016  窪田暁子著「福祉援助の臨床—共感する他者として」誠心書房 2013  F・P・バイステック著、尾崎新ほか訳「ケースワークの原則—新訳・改訂版」誠心書房 2006</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  授業内課題に（60%=4%×15回）、レポート課題（30%=15%×2回） 授業への積極性・学習態度（10%）を総合的に評価する</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>  授業内課題に対する質疑、リアクションを次回の授業の冒頭を実施する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業終了後及びオフィスアワー等（研究室 研究棟 105号室）にて質問・相談を受け付ける。  また、授業内課題に疑問点・質問を記載する欄があるため積極的に活用してほしい。</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【希望的条件】</b>精神保健福祉士を目指す学生は『精神保健の課題と支援A・B』『精神保健福祉相談援助の基盤A』を単位取得済であることが望ましい。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】  キャリアデザイン・カレッジ【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>精神保健福祉士国家試験の指定科目である。精神保健福祉士養成課程のエントリーを希望する学生は、エントリー時までには本科目を修得しなければならない。  精神保健福祉士を目指さなくとも精神保健福祉に関心ある学生を歓迎する。  精神保健福祉業務（精神科病院、地域活動支援センター、相談支援事業所における相談援助業務）に約15年間、従事して経験を基に精神保健福祉の実情についても紹介する。  授業の内容に応じて、実践者や当事者をゲストスピーカーを招くことがある。</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 毎回授業内で予習において指示する。（1時間程度）  <b>【事後学習】</b> 毎回授業で配る資料の核にするよう指示する。（1時間程度）</p>

講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 飛田義幸			

テーマ	精神保健福祉士としての総合的な理論と技術を学びます。
授業計画	第1回 オリエンテーション 予習箇所：教科書を準備しておく。 「刊行にあたって」及び「資格取得の手引き」を読んでおく。
	第2回 精神障害者支援の理念 予習箇所：教科書 P1-9
	第3回 我が国の精神保健医療福祉の歴史と動向 予習箇所：教科書 P9-15、P26-32
	第4回 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷 予習箇所：教科書 P176-185
	第5回 精神保健医療福祉領域における支援対象者 予習箇所：教科書 P167-175
	第6回 精神保健福祉士の活動の歴史 予習箇所：教科書 P41-45, P92-100
	第7回 中間まとめと中テスト 予習箇所：配布プリント 1-6
	第8回 精神保健福祉士とリハビリテーションの理念 予習箇所：教科書 P20-23
	第9回 精神保健福祉の歴史と精神保健福祉士の役割と課題 予習箇所：教科書 P41-45, P191-194
	第10回 グループワークと集団力動 (講義後、連想ゲーム等によるグループワーク体験) 予習箇所：教科書 P128-135, P159-160 私のグループワーク体験をもとに グループワーク実施の要点等についてお話できたらと思います。
	第11回 精神科リハビリテーションの概念 予習箇所：教科書 P21-22, P37-38
	第12回 精神科リハビリテーションの理念・意義と基本原則 (講義後、アンソニーの原則に倣ってグループディスカッション) 予習箇所：教科書 P17-20, P89-91, 108-114
	第13回 精神科リハビリテーションの構成と展開 (講義後、自分の物差しについてグループワーク) 予習箇所：教科書 P25-26, 39-40, P149-150
	第14回 精神科リハビリテーションのプロセス 予習箇所：教科書 P63-74

	<p>第 15 回 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方</p> <p>予習箇所：配布資料 8-14</p> <p>私が 2007 年に精神保健福祉士として体験した施設開設に関するエピソードを交えて授業を説明を行います。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 精神障がい者に関わる相談援助の歴史的展開や、精神障害者リハビリテーションの基本的理念や専門職の役割、必要となる基本的な技術を視聴覚教材や講義によって学んでいきます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 精神保健福祉士として必要な精神科リハビリテーションやその対象の基本的な知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、福祉心理学科の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ〈第 6 版〉</p> <p>ISBN：978-4-89269-908-5</p> <p>出版社：へるす出版</p> <p>著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集</p> <p>価格（税抜）：2,900 円</p>
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業参加への積極性（配点 10）</p> <p>授業中の中テスト（配点 45）</p> <p>学期末試験（配点 45）</p>
質問・相談の受付方法	授業中やその前後に声をかけるか、研究室にお越し下さい。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴 講 生 【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ【可】</p>
メッセージ	<p>精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B 型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に 12 年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れられたらと思います。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にしてください（2 時間）</p> <p><b>【事後学習】</b> 当該回の配布資料により復習を行うようにしてください（2.5 時間）</p>

講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 飛田義幸			

テーマ	精神保健福祉士としての総合的な理論と技術を学びます。
授業計画	第1回 オリエンテーション（社会の偏見と現在の精神保健福祉の課題） 予習箇所：教科書 P189-191
	第2回 精神科リハビリテーションの施設や機関 (講義後、地域課題についてグループディスカッション) 予習箇所：教科書 P45-62 私の自治体とのやり取りの体験についてお話できたらと思います
	第3回 相談援助の過程及び対象者との援助関係① (インテークからインターベンション) 予習箇所：教科書 P75-84, P86-88, P102-107
	第4回 相談援助の過程及び対象者との援助関係②（モニタリングからアフターケア） 予習箇所：教科書 P84-86
	第5回 精神障害者の支援モデル（講義後、事例をもとにグループワーク） 予習箇所：教科書 P89-91, P108-114
	第6回 精神障害者の人権 予習箇所：教科書 P34, P70, P108 を読み、 「合理的配慮」について考えてくる
	第7回 精神専門療法 予習箇所：教科書 P115-127
	第8回 中間まとめと中テスト 予習箇所：配布資料 1-7
	第9回 リハビリテーション計画と精神科専門療法概説 予習箇所：教科書 P128-135
	第10回 認知行動療法等（認知行動療法の導入部体験） 予習箇所：教科書 P26-28, P136-137 各自のストレッサー (ストレスの原因) やその対処について考えてくる
	第11回 SSTとアクションメソッド 予習箇所：教科書 P137-142 教員が地域包括支援センター等で行っている SSTの経験をもとに解説を行いたいと思います
	第12回 精神科デイ・ケア等 予習箇所：教科書 P157-167
	第13回 家族教育プログラム（家族制度や家族関係について考える） 予習箇所：教科書 P87-89, P142-149 私の地域包括支援センターでの家族教室体験について お話できたらと思います

	<p>第 14 回      アウトリーチ  (講義後、アウトリーチの意味と内容についてディスカッション)  予習箇所：教科書 P187-189, 206-223</p> <p>第 15 回      多職種との協働・連携  予習箇所：教科書 P149-155</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b>  精神障がい者に関わる相談援助の歴史的展開や、精神障害者リハビリテーションの基本的理念や専門職の役割、必要となる基本的な技術を視聴覚教材や講義によって学んでいきます。</p> <p><b>【到達目標】</b>  精神保健福祉士として、地域におけるリハビリテーションを包括的に考えられるための基礎知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、倫理観を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー 5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ〈第6版〉  ISBN：978-4-89269-908-5  出版社：へるす出版  著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集  価格(税抜)：2,900円</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p>授業参加への積極性(配点10)  授業中の中テスト(配点45)  学期末試験(配点45)</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業中やその前後に声をかけるか、研究室にお越し下さい。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特に設けない。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】  キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。  地域活動支援センター及び就労継続支援事業(B型)の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れながら授業を行います。</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にしてください(2時間)  <b>【事後学習】</b> 当該回の配布資料により復習を行うようにしてください(2.5時間)</p>



講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ A			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 長坂和則			

テーマ	精神保健福祉士としての専門的技術のソーシャルワークの理論及び支援方法を習得する
授業計画	<p>第1回 精神科医療と精神科ソーシャルワークの実践について (精神保健福祉士の視点)</p> <p>【事前学習】精神保健福祉士の業務について具体的にどのような実践活動になるのかを調べておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ精神保健福祉士の視点について復習して下さい。(1時間)</p>
	<p>第2回 精神障害者に対する支援の基本的考え方</p> <p>【事前学習】テキストを読みインフォームドコンセントについて予め理解をしておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだインフォームドコンセントの意味について復習して下さい。(1時間)</p>
	<p>第3回 精神保健医療福祉の歴史 ① 障害者の処遇の歴史的背景 ハンセン病とその処遇</p> <p>【事前学習】ハンセン病について予め理解をしておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】ハンセン病の処遇の歴史について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第4回 精神保健医療福祉の歴史 ② 精神障害者の処遇の歴史的背景 相馬事件から精神病患者監護法へ</p> <p>【事前学習】テキストから相馬事件について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ相馬事件と歴史的背景について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第5回 精神保健医療福祉の歴史 ③ 精神障害者の処遇の歴史的背景 精神病院法と精神衛生法</p> <p>【事前学習】テキストから精神病患者監護法と精神病院法について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】精神障害者が受けた処遇の歴史について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第6回 精神保健医療福祉の歴史 ④ 静岡県における精神障害者の処遇と歴史的背景</p> <p>【事前学習】テキストから精神障害者の人権について理解しておくこと (1時間)</p> <p>【事後学習】レジュメから静岡県の精神障害者に対する処遇について復習して下さい (1時間)</p>

福祉心理学

第7回	<p>精神保健福祉の現状と展望とは</p> <p>【事前学習】テキストから精神保健福祉の現状について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ精神保健福祉の理念について復習して下さい（1時間）</p>
第8回	<p>精神障害者に対する支援の基本的考え方と必要な知識</p> <p>【事前学習】テキストから精神保健福祉の現状について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ精神保健福祉の理念について復習して下さい（1時間）</p>
第9回	<p>精神保健福祉士と「Y問題」と混乱期について（歴史的背景を含む）</p> <p>【事前学習】テキストから「Y問題」について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ人権と処遇から「Y問題」について復習して下さい（1時間）</p>
第10回	<p>精神保健福祉士の国家資格化の流れ</p> <p>【事前学習】テキストから精神保健福祉士の国家資格化について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ精神保健福祉士の役割などについて復習して下さい（1時間）</p>
第11回	<p>精神保健福祉士の専門 倫理と業務について</p> <p>【事前学習】テキストから精神保健福祉士の倫理・業務について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだ精神保健福祉士の専門性について復習して下さい（1時間）</p>
第12回	<p>精神保健福祉士の支援とソーシャルワークの展開過程 ①</p> <p>医療施設における個別・集団支援等とは</p> <p>【事前学習】テキストから医療・地域における支援について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】地域において実践するソーシャルワークについて復習して下さい（1時間）</p>
第13回	<p>精神保健福祉士の支援とソーシャルワークの展開過程 ②</p> <p>社会復帰施設・サービス事業所等の地域支援とは</p> <p>【事前学習】テキストから地域における支援について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】地域において実践するソーシャルワークについて復習して下さい（1時間）</p>
第14回	<p>ソーシャルワークの展開とは～具体的なソーシャルワーク実践とは～</p> <p>【事前学習】具体的なソーシャルワーク実践について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】講義で学んだソーシャルワークの展開について復習して下さい（1時間）</p>

	<p>第 15 回          まとめ（前期講義のまとめに関する重要キーワードの振り返り）</p> <p>【事前学習】 これまでに配布したレジュメを参考に相談援助について理解しておくこと（1時間）</p> <p>【事後学習】 理解していない項目について復習して下さい（1時間）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>精神障がい者の人権や疾病及び障がいに配慮したソーシャルワーク実践の基本的な理解をするために、それぞれ具体的な事例を取り上げながら、精神保健福祉士としての援助のあり方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>国家試験の重要な科目でもあり、国家資格取得を視野に過去に出題されたポイントを解説しながら、クライアントの生活課題やさまざまな生活ニーズに対応するための知識とその理解を深める。精神保健福祉士活動の基となる理論と相談援助の過程について理解する。精神保健福祉士国家試験必須科目となるため、国家試験のキーワードをふまえ、知識のみではなく実践現場での支援のあり方を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー④ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（第6版）</p> <p>ISBN：978-4-89269-907-8</p> <p>出版社：へるす出版</p> <p>著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集</p> <p>価格（税込）：3,348円</p>
参考文献	授業内で適宜紹介をいたします。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	定期試験において国家試験同様のテストを実施し評価する。出題25問を100満点として60点以上を合格とする。
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間またはオフィスアワーにて対応します。研究室は104。
履修条件	精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目となるため、3年次に必ず履修し修得しておくこと。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>積極的な授業への参加をお願いします。出席カードがリアクションペーパーになっているので、質問や感想を記載して下さい。質問等は授業の始めに復習をかねて再度説明をいたします。授業は精神保健福祉士専門科目となることを理解し履修して下さい。</p> <p>また、これまで精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として精神科病院及びクリニックにて約20年のソーシャルワーク実践の経験を有し、さらに保健福祉センター等におけるアディクション家族教室での実践から授業を展開します。</p>
準備学習について	毎回の授業において重要なキーワードについて予習課題の提出を求めます。教科書の該当箇所や配布資料、レジュメの内容について、1時間以上の予習復習を行ったうえで講義に臨んでください。

講義科目名称： 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ B			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 長坂和則			

テーマ	精神保健福祉士としての専門的技術のソーシャルワーク理論及び支援方法を習得する
授業計画	<p>第1回 精神障害者の支援モデル ① ケースワークとは何か (精神科医療における実践) 【事前学習】テキストからケースワークについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだケースワークの実践について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第2回 精神障害者の支援モデル ② ケースワークの理論とその歴史 【事前学習】テキストからリッチモンドや歴史的背景について理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだケースワークにおける理論について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第3回 相談援助活動のための面接技術 ケースワークの実際 面接技術の実践例 【事前学習】テキストからケースワークの事例について読んでおくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだケースワーク実践例について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第4回 相談援助活動の展開 ① グループワーク グループワークの理論と歴史 【事前学習】テキストからグループワークについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだグループワークの実際について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第5回 相談援助活動の展開 ② グループワーク ミーティングの実際とその効果 【事前学習】テキストからグループワークの各段階について調べておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだグループ活動の意味について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第6回 相談援助活動の展開 ③ グループワーク 精神科デイケア・ナイトケア 集団精神療法 【事前学習】テキストから精神科デイケアについて理解しておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだ集団精神療法等について復習して下さい (1時間)</p>
	<p>第7回 相談援助活動の展開 ④ グループワーク 精神保健福祉士としてセルフヘルプグループへの支援 【事前学習】テキストからセルフヘルプグループについて調べておくこと (1時間) 【事後学習】講義で学んだセルフヘルプグループの意義について復習して下さい (1時間)</p>

第 8 回	<p>地域移行の対象及び支援体制 ① コミュニティワーク サービス事業所等の支援活動</p> <p>【事前学習】テキストからコミュニティワークについて 理解しておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだコミュニティワークの重要性について 復習して下さい (1 時間)</p>
第 9 回	<p>地域移行の対象及び支援体制 ② コミュニティワーク ソーシャルアクションなど</p> <p>【事前学習】テキストからソーシャルアクションについて 調べておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだそれぞれの技法について復習して下さい (1 時間)</p>
第 10 回	<p>スーパービジョンとコンサルテーション</p> <p>【事前学習】テキストからスーパービジョンについて 理解しておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだスーパーバイザーの役割について 復習して下さい (1 時間)</p>
第 11 回	<p>精神障害者のケアマネジメント ①ケアマネジメントの歴史的背景</p> <p>【事前学習】テキストからケアマネジメントについて調べておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだケアマネジメントの歴史について 復習して下さい (1 時間)</p>
第 12 回	<p>精神障害者のケアマネジメント ②ケアマネジメント ACT等</p> <p>【事前学習】テキストから「ACT とは何か」について 理解しておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ ACT の特徴について復習して下さい (1 時間)</p>
第 13 回	<p>ソーシャルワークと関連専門職種の役割とチーム医療</p> <p>【事前学習】テキストからチーム医療とその連携について 理解しておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだ関連専門職との連携することの意味について 復習して下さい (1 時間)</p>
第 14 回	<p>チームアプローチの実際 (医療チームでの実践のあり方)</p> <p>【事前学習】テキストからチームアプローチについて調べておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義で学んだチームアプローチの意義について 復習して下さい (1 時間)</p>
第 15 回	<p>後期のまとめ 国家試験キーワード等</p> <p>【事前学習】配布したレジュメから指示したキーワードの 予習をしておくこと (1 時間)</p> <p>【事後学習】講義でのまとめで指示した重要項目について 復習して下さい (1 時間)</p>

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b> 精神障がい者の人権や疾病及び障がいに配慮したソーシャルワーク実践の基本的な理解をするために、それぞれ具体的な事例を取り上げながら、精神保健福祉士としての援助のあり方を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 国家試験の重要な科目でもあり、国家資格取得を視野に過去に出題されたポイントを解説しながら、クライアントの生活課題やさまざまな生活ニーズに対応するための知識とその理解を深める。精神保健福祉士活動の基となる理論と相談援助の過程について理解する。精神保健福祉士国家試験科目となるため、国家試験のキーワードをふまえ、知識のみではなく実践現場での支援のあり方を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力と倫理観を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー④ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ〈第6版〉 ISBN：978-4-89269-907-8 出版社：へるす出版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集 価格（税込）：3,348円</p>
<p>参考文献</p>	<p>授業内で適宜紹介する予定。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>定期試験において筆記試験を実施する。25問の設問を100点と換算し評価する。精神保健福祉士国家試験と同様の形式で筆記試験を実施する。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後及び空き時間またはオフィスアワーにて対応する。研究室は104。</p>
<p>履修条件</p>	<p>精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目となるため、3年次に必ず履修し修得しておくこと。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>積極的な授業への参加をお願いします。出席カードがリアクションペーパーになっているので、質問や感想を記載して下さい。質問等は授業の始めに復習をかねて再度説明をいたします。授業は精神保健福祉士専門科目となることを理解し履修して下さい。また、これまで精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として精神科病院及びクリニックにて約20年のソーシャルワーク実践の経験を有し、さらに保健福祉センター等におけるアディクション家族教室での実践から授業を展開します。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>毎回の授業において重要なキーワードについて予習課題の提出を求めます。教科書の該当箇所や配布資料、レジュメの内容について、1時間半以上の予習復習を行ったうえで講義に臨んでください。</p>

講義科目名称： 精神保健福祉に関する制度とサービスA			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 飛田義幸、渡邊明廣			

テーマ	精神保健福祉士としての視点から、法や制度といった環境の変遷と実際を理解する
授業計画	<p>第1回           オリエンテーション 予習箇所：教科書を準備しておく。                   「刊行にあたって」及び「資格取得の手引き」を読んでおく。</p>
	<p>第2回           精神障害の理解と精神保健医療福祉制度の概要 予習箇所：教科書 P197-206 私、飛田が精神保健福祉士として体験してきた精神保健福祉制度変遷の現場への影響について概説したいと思います。</p>
	<p>第3回           障害と人権、メンタルヘルス課題と精神科医療の概要 予習箇所：教科書 P206-216</p>
	<p>第4回           精神保健福祉法の目的とその歴史 予習箇所：教科書 P1-10</p>
	<p>第5回           精神科医療に関する制度の変遷 予習箇所：教科書 P11-16, P33-37</p>
	<p>第6回           精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割                   (Y問題についてディスカッション) 予習箇所：教科書 P91-93, P123, P202</p>
	<p>第7回           精神保健福祉法の意義と内容 予習箇所：教科書 P16-31, P90-91</p>
	<p>第8回           中間まとめと中テスト 予習箇所：配布資料 1-7</p>
	<p>第9回           わが国の精神科医療制度と専門職 予習箇所：教科書 P83-89</p>
	<p>第10回          精神障害者に関連する社会保障制度の概要① 医療保険制度 [事前学習]テキストの該当頁を一読し、                   内容の概要を把握しておきましょう。(1時間) [事後学習]課題を出します。                   これに答えることを主に復習をしておきましょう。(1時間)</p>
	<p>第11回          精神障害者に関連する社会保障制度の概要② 介護保険制度 [事前学習]テキストの該当頁を一読し、                   内容の概要を把握しておきましょう。(1時間) [事後学習]課題を出します。                   これに答えることを主に復習をしておきましょう。(1時間)</p>
	<p>第12回          精神障害者に関連する社会保障制度の概要③ 労働者災害補償制度 [事前学習]テキストの該当頁を一読し、                   内容の概要を把握しておきましょう。(1時間)</p>

	<p>[事後学習]課題を出します。 これに答えることを主に復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第13回 精神障害者に関連する社会保障制度の概要④ 障害年金制度(ディスカッションを含む)</p> <p>[事前学習]テキストの該当頁を一読し、 内容の概要を把握しておきましょう。(1時間)</p> <p>[事後学習]課題を出します。 これに答えることを主に復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第14回 精神障害者に関連する社会保障制度の概要⑤ 公的扶助</p> <p>[事前学習]テキストの該当頁を一読し、 内容の概要を把握しておきましょう。(1時間)</p> <p>[事後学習]課題を出します。 これに答えることを主に復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第15回 精神障害者に関連する社会保障制度の概要⑥ 経済負担の軽減(ディスカッションを含む)</p> <p>[事前学習]テキストの該当頁を一読し、 内容の概要を把握しておきましょう。(1時間)</p> <p>[事後学習]課題を出します。 これに答えることを主に復習をしておきましょう。(1時間)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 精神保健福祉士として、とりまく環境や制度を歴史的に理解し、目の前にいる人がどのような経緯を得て現在の様な状況にいるのか、人と環境の全体性から捉えることができる人材になることを目指し、視聴覚教材や講義により学んでいきます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 精神障害者の支援に関する法、制度及び福祉サービス内容に関する基礎知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、福祉心理学科の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー⑥ 精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム〈第6版〉 ISBN：978-4-89269-909-2 出版社：へるす出版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集 価格(税抜)：3,300円</p>
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>授業参加への積極性(配点10)</p> <p>授業中の中テスト(配点45)</p> <p>学期末試験(配点45)</p>
質問・相談の受付方法	授業中やその前後に声をかけるか、研究室にお越しください。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ【可】</p>



メッセージ	<p>精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れられたらと思います（飛田）。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にしてください（2時間）</p> <p><b>【事後学習】</b> 当該回の配布資料により復習を行うようにしてください（2.5時間）</p>

講義科目名称： 精神保健福祉に関する制度とサービスB			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 飛田義幸			

テーマ	精神保健福祉士としての視点から、法や制度といった環境を理解し、アプローチを考える。
授業計画	第1回 オリエンテーション（身近なメンタルヘルス課題と最近の社会の動き） 予習箇所：夏休みに起こるメンタルヘルス課題や最近の医療・福祉分野の社会動向について調べ・考えてくる
	第2回 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス① 発達障害者支援（発達特性の多様性の理解） 予習箇所：教科書 P74-77 私が地域活動支援センターで行っていた発達障害者支援や仲間との勉強会での学びについてお話できればと思います
	第3回 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス② 自殺対策（講義後、自殺についてディスカッション） 予習箇所：教科書 P77-82
	第4回 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス③ ひきこもり対策（講義後、ひきこもり支援のグループワーク） 予習箇所：教科書 P82-84
	第5回 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス④ 障害者総合支援法総合支援法（法成立の背景と問題点について考える） 予習箇所：教科書 P38-50
	第6回 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス⑤ 障害福祉サービスとインフォーマルな社会資源 （障害福祉サービスのあり方についてディスカッション） 予習箇所：教科書 P51-56、P100-109 私の法改正時の体験や就労継続支援事業所（B型）での体験についてお話できたらと思います
	第7回 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働① 組織相談支援と退院支援（講義後、地域移行についてディスカッション） 予習箇所：P57-72 私の相談支援専門員時の体験についてお話できたらと思います
	第8回 中間まとめと中テスト 予習箇所：配布資料 1-7
	第9回 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働② 相談支援と地域連携の実際（相談支援の意味と現状の課題を考える） 予習箇所：教科書 P88-99
	第10回 精神障害者の高齢化と高次脳機能障害支援 （高次脳機能障害やその回復についても学ぶ） 予習箇所：教科書 P73-74、P154-168

	<p>第 11 回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係（罪と罰についても考える） 予習箇所：教科書 P126-141</p> <p>第 12 回 更生保護制度における関係機関や団体との連携 予習箇所：第 11 回に配布する資料について調べておく</p> <p>第 13 回 医療観察法の概要 予習箇所：教科書 P111-118</p> <p>第 14 回 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割 (入院・通院者とのかかわりについて) 予習箇所：教科書 P119-126 CPA 会議参加時の体験等についてお話する予定です</p> <p>第 15 回 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義・目的、倫理、方法及び活用 (講義後、KJ 法体験のグループワーク) 予習箇所：教科書 P287-304</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 精神保健福祉士として、とりまく環境や制度を歴史的に理解し、目の前にいる人がどのような経緯を得て現在の様な状況にいるのか、人と環境の全体性から捉え、その環境面にアプローチできる人材になることを目指し、ビデオや講義により学んでいきます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 精神障害者の支援に係わる法、機関や社会資源、その調整・開発に関する基礎知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー⑥ 精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム（第 6 版） ISBN：978-4-89269-909-2 出版社：へるす出版 著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集 価格（税抜）：3,300 円</p>
参考文献	適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業参加への積極性（配点 10）</p> <p>授業中の中テスト（配点 45）</p> <p>学期末試験（配点 45）</p>
質問・相談の受付方法	授業中やその前後に声をかけるか、研究室にお越しください。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>精神保健福祉士を目指す方には必須の科目となります。中テスト及び期末試験を行いますので、復習等積極的な自主学習を行う様にしてください。</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B 型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に 12 年間従事したことがあります。授業の中でもその経験や実務内容について触れながら授業を行います。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 毎回予習箇所を熟読し不明点を明確にしてください（2 時間）</p> <p><b>【事後学習】</b> 当該回の配布資料により復習を行うようにしてください（2.5 時間）</p>

講義科目名称： 精神障害者の生活支援システム			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鵜領太郎、渡邊明廣			

テーマ	精神障害者の生活支援に関する制度・システムとサービスについて学ぶ。
授業計画	第1回 オリエンテーション 精神障害者の概念： 医学的理解、法的定義 【事前学習】精神障害者の医学的理解、法的定義について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第2回 精神障害者の概念： 障害の概念（ICF） 【事前学習】ICFについて調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第3回 精神障害者の生活の実際： 精神障害者と家族の現状 （ディスカッションを含む） 【事前学習】精神障害者と家族の現状について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第4回 精神障害者の生活の実際： 精神障害者と地域社会 （ディスカッションを含む） 【事前学習】精神障害者と地域社会の現状について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第5回 精神障害者の生活と人権： 障害者虐待防止法、障害者差別解消法 【事前学習】障害者虐待防止法、障害者差別解消法について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第6回 精神障害者の居住支援（1） 【事前学習】居住支援制度について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第7回 精神障害者を居住支援（2） 【事前学習】地域における居住支援制度について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第8回 精神障害者の就労支援（1） 【事前学習】就労支援制度について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第9回 精神障害者の就労支援（2） 【事前学習】地域における就労支援制度を調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）
	第10回 市町村における相談援助、その他の行政機関における相談援助 【事前学習】テキスト該当頁を一読し、授業の概略について把握する（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）

	<p>第 11 回 精神障害者の生活支援システム 【事前学習】精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムについて調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）</p> <p>第 12 回 ソーシャルサポートネットワーク 【事前学習】ソーシャルサポートネットワークについて調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）</p> <p>第 13 回 クライシスケアシステム 【事前学習】クライシスケアシステムについて調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）</p> <p>第 14 回 地域生活支援システムの実際 【事前学習】地域における地域生活支援システムの実際について調べる（1時間） 【事前学習】配布資料を熟読し授業講義等内容をまとめる（1時間）</p> <p>第 15 回 まとめ及び総評 【事前学習】今までの講義授業等で配布された資料を読み込む（1時間） 【事前学習】授業講義等内容をまとめる（1時間）</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。精神障害者の居住支援と就労支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。グループワーク等、アクティブラーニングを用いて、地域における精神障害者の生活支援システムのあり方を検討する。</p> <p>【授業の到達目標】 精神保健福祉士として必要な専門知識（精神保健福祉関連の法律・制度等）と求められる機能と役割を理解する。リカバリー視点、ストレングスマodelに基づいた精神障害者の生活支援システム等を理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである問題解決力、倫理観を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新・精神保健福祉士養成講座7「精神障害者の生活支援システム」第3版 ISBN：978-4-8058-5597-3 出版社：中央法規 著者名：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 価格（税抜）：2,700円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 渡邊 明廣：30点 鶴 領太郎：70点；ミニツペーパー（40%）レポート（30%） ミニツペーパー6回～15回（40%：4%：講義の要点まとめ、学んだこと、キーワード、小テスト×10） レポート（30%：15%×2）課題は授業内で提示する。 なお、期末試験は実施しない。 期間中の小テスト及びレポート（60%：30%×2） ミニツペーパー6回～15回（40%：4%：講義の要点まとめ、学んだこと、キーワード、小テスト×10）</p> <p>【課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法】 授業の冒頭に前回講義のペーパーのフィードバックを行う。</p>

質問・相談の受付方法	終了後、各教員のオフィスアワー（後日提示）
履修条件	【必須要件】「精神保健福祉に関する制度とサービス A. B」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A. B」「精神保健福祉相談援助の基盤 A. B」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A」を単位修得済みであること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	精神保健福祉士国家資格の指定科目です。遅刻・欠席がないようにしてください。やむを得ない欠席や講義内容でわからないことがある場合は、教員に質問して聞くなどして確実に補填をしてください。積極的な質問を歓迎します。 オムニバス形式授業です（第1回～第5回：渡邊 明廣 第6回～第15回：鵜 領太郎）。  医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において相談援助業務に15年間従事したことがあります。また、特定非営利活動法人の立ち上げや運営にもかかわったことがあります。講義の中で、エピソードや実践的な内容について紹介します。実際の生活支援システムを理解するためにゲストスピーカーを招くこともあります。（鵜）
準備学習について	※授業計画欄内にあるため省略

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習 I			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	自己理解や他者理解を踏まえて精神保健福祉士に求められる基本的な援助技術を修得し、ソーシャルワークの展開過程についても理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・精神保健福祉演習の意義と目的 精神保健福祉士の全体像、 精神保健福祉援助演習の意義・目的、参加型体験実習（プレ実習）ガイダンス 【到達目標】本演習のねらいと進め方を理解する、感染症対策を理解する 【予習事項】学生便覧、資格取得の手引き持参 【配布資料】実習エントリーシート・実習の手引き</p> <p>第2回 施設見学実習報告会 【到達目標】施設見学実習の学びを共有する 【予習事項】施設見学実習の報告を発表できるよう準備する</p> <p>第3回 自己覚知、個人票の意義と目的 【到達目標】自己の特性を理解する 【予習事項】提示された事前学習課題に取り組む 【配布資料】個人票（下書き・清書）</p> <p>第4回 自己理解と他者理解 【到達目標】自他の違いについて理解する 【予習箇所】個人票に取り組む 【提出書類】個人票（下書き）</p> <p>第5回 専門職の価値と倫理、プレ実習事前学習記録とプレ実習計画書の意義と目的 【到達目標】専門職（精神保健福祉士）としての価値と倫理綱領を理解する プレ実習における事前学習、計画書作成の意義と目的を理解する プレ実習におけるオリエンテーション、感染症対策を理解する 【予習事項】実習の手引きの精神保健福祉士の倫理綱領を熟読する 【配布資料】プレ実習事前学習記録（下書き・清書）、 プレ実習計画書（下書き）</p> <p>※第6回目の授業終了時までプレ実習配属先を福祉実習指導センターに掲示する 各自、プレ実習配属先を確認すること</p> <p>第6回 社会資源の活用とネットワーキング① 【到達目標】社会資源の活用・調整・開発について理解する 【予習事項】教科書 p67-72 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第7回 社会資源の活用とネットワーキング② 【到達目標】ネットワーク連携技法を理解する 【予習事項】提示された事前学習課題に取り組む</p> <p>第8回 基本的なコミュニケーション技術の習得 【到達目標】基本的なコミュニケーション技術を身につける 【予習事項】提示された事前学習課題に取り組む</p>

	<p>第9回 援助関係形成の理論と面接技術（援助者とは）  <b>【到達目標】</b> 援助者としての基本姿勢、バイステックの原則を理解する  <b>【予習事項】</b> 提示された事前学習課題に取り組む</p> <p>第10回 援助関係形成の理論と面接技術（集団力動）  <b>【到達目標】</b> グループダイナミクスを活用するための理論と技術を理解する  <b>【予習事項】</b> 提示された事前学習課題に取り組む</p> <p>第11回 アセスメントの基礎（ニーズとは何か）  <b>【到達目標】</b> 課題の発見・分析・解決の技術を理解する  <b>【予習事項】</b> 提示された事前学習課題に取り組む  <b>【配布資料】</b> プレ実習計画書（清書）</p> <p>第12回 記録の技術  <b>【到達目標】</b> 情報の収集・整理・伝達の技術を理解する  <b>【予習事項】</b> 提示された事前学習課題に取り組む  <b>【配布資料】</b> プレ実習日誌、出席簿、誓約書、細菌検査キット（該当者のみ）  <b>【提出書類】</b> 個人票（清書）、プレ実習計画書（清書）、誓約書</p> <p>第13回 地域福祉の基盤にかかわる技術①  <b>【到達目標】</b> 地域アセスメントの方法を理解する  <b>【予習事項】</b> 提示された事前学習課題に取り組む</p> <p>第14回 地域福祉の基盤にかかわる技術②  <b>【到達目標】</b> 地域住民に対するアウトリーチと地域の福祉ニーズ把握の方法を理解する  <b>【予習事項】</b> 提示された事前学習課題に取り組む  <b>【提出書類】</b> 自動車等使用届（該当者のみ）</p> <p>第15回 地域福祉の基盤にかかわる技術③  <b>【到達目標】</b> 地域福祉の計画策定技法とサービス評価方法を理解する  <b>【予習事項】</b> 教科書 P190-193 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要】</b>  精神保健福祉士に求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進するとともに、援助的コミュニケーションの基礎と基本的な面接技術についてロールプレイ等を通して学び、支援の展開過程についても具体的な事例を用いながらグループディスカッション等を通して理解を深める。</p> <p><b>【達成目標】</b>  自分自身について深く知るとともに他者理解を促進することができるようになる。面接技術など精神保健福祉士に求められる基本的な技法を体験的に理解できるようになる。ソーシャルワーク過程の理解を踏まえ、初歩的なアセスメントやプランニング及びグループ支援が実行できるようになる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。</p>



テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー⑦ 精神保健福祉援助演習 [基礎] [専門] 〈第6版〉</p> <p>ISBN：978-4-89269-910-8</p> <p>出版社：へるす出版</p> <p>著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集</p> <p>価格（税別）：2,700円</p>
参考文献	授業において適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>1) 成績評価の基準・方法</p> <p>毎回の予習状況 20%、事後学習課題の記述内容（分量および誤字脱字の有無等）40%、および授業中の発言内容等の積極性 40%により評価する。また、欠席が3回以内でも、予習をやってこない等により減点されれば合格点に達しないこともある。なお、期末試験は実施しない。</p> <p>2) フィードバック方法</p> <p>フィードバックとして、発表やグループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ等に対する教員のコメントをその都度実施する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>質問については授業中、受け付ける。積極的な質問を歓迎する。</p> <p>相談については授業の前後や空き時間等に担当教員の研究室にて受け付ける。</p>
履修条件	<p><b>【必須要件】</b></p> <p>「施設見学実習」に参加し「施設見学実習事後課題」を提出した者で、「精神疾患とその治療 A・B」「精神保健の課題と支援 A・B」「精神保健福祉相談援助の基盤 A・B」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A・B」「精神保健に関する制度とサービス A・B」の単位を修得済であり、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. 施設見学実習に参加していない場合、原則として履修することはできない。</p> <p>2. グループ作業に支障をきたすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>3. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席（忌引・感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p> <p>精神科医療機関において約20年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアディクション家族教室を8年実践した経験があります（長坂）</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事した経験があります（飛田）</p> <p>医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において精神保健福祉業務に約15年間従事した経験があります（鶴）</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に1時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。</p> <p><b>【事後学習】</b> 授業毎に1時間以上、授業内容や事例の振り返りを行う。</p>

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習ⅡA			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	自己理解や他者理解を踏まえて精神保健福祉士に求められる基本的な援助技術、ソーシャルワークの展開過程を修得する。 様々な実践事例に触れ、精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助技術を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、精神保健福祉援助演習の意義と目的 【到達目標】本演習のねらいと進め方を理解する 【予習事項】精神保健福祉援助演習ⅡAのシラバスを熟読する</p> <p>第2回 退院支援、地域移行に関する精神保健福祉援助演習（外部講師） 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】事前課題に取り組む</p> <p>第3回 参加型体験実習（プレ実習）の体験の共有、個別体験の一般化 【到達目標】参加型体験実習（プレ実習）における気づき、学び、疑問などをグループワーク等により共有し、精神保健福祉士に求められる技術・価値を体得する 【予習事項】プレ実習日誌等を参考に参加型体験実習（プレ実習）の体験を振り返る</p> <p>第4回 就労（雇用）に関する精神保健福祉援助演習（外部講師） 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】事前課題に取り組む</p> <p>第5回 精神障害者の就労支援と地域における精神保健福祉士の業務 【予習箇所】障害福祉サービスの種類と内容について調べ、精神保健福祉士としての就労支援について考えてくる 地域の就労支援事業所勤務の外部講師による講演と質疑</p> <p>第6回 インテーク（受理面接）、契約 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討を通してソーシャルワークの展開過程を理解する 【予習事項】教科書P93-95の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第7回 アセスメント（課題分析） 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討を通してソーシャルワークの展開過程を理解する 【予習事項】教科書P95-98の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第8回 支援の実施、モニタリング（経過観察） 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討を通してソーシャルワークの展開過程を理解する</p>

	<p>第9回 【予習事項】教科書 P98-104 の事例を読み、事前学習課題に取り組む 効果測定と支援の評価、終結とアフターケア 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討を通して ソーシャルワークの展開過程を理解する</p> <p>第10回 【予習事項】教科書 P105-107 の事例を読み、事前学習課題に取り組む 社会的排除（偏見・差別）に関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する</p> <p>第11回 【予習事項】教科書 P109-111 の事例を読み、事前学習課題に取り組む 地域生活継続に関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する</p> <p>第12回 【予習事項】教科書 P117-118 の事例を読み、事前学習課題に取り組む 精神科リハビリテーションに関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する</p> <p>第13回 【予習事項】教科書 P145-148 の事例を読み、事前学習課題に取り組む 危機状態に関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する</p> <p>第14回 【予習事項】教科書 P149-153 の事例を読み、事前学習課題に取り組む ピアサポートに関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する</p> <p>第15回 【予習事項】教科書 P154-159 の事例を読み、事前学習課題に取り組む 地域における精神保健に関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】教科書 P132-136 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 精神保健福祉士に求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進するとともに、実践的な面接技術をロールプレイ等を通して学び、支援の展開過程についても具体的な事例を用いながらグループディスカッション等を通して理解を深める。</p> <p>【達成目標】 自分自身について深く知るとともに他者理解を促進することができるようになる。面接技術など精神保健福祉士に求められる基本的な技法を展開できるようになる。ソーシャルワーク過程に基づいたアセスメントやプランニング及びグループ支援が実行できるようになる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である「知識・技能を理解する力」「課題を解決へと導く力」「協調と協働を実現する力」、及び、「学士力」の構成要素である「コミュニケーション・スキル」「チームワーク、リーダーシップ」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー⑦ 精神保健福祉援助演習〔基礎〕〔専門〕〈第6版〉</p> <p>ISBN：978-4-89269-910-8</p> <p>出版社：へるす出版</p> <p>著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集</p> <p>価格（税別）：2,700円</p>
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>1) 成績評価の基準・方法</p> <p>毎回の予習状況 20%、事後学習課題の記述内容（分量および誤字脱字の有無等）40%、および授業中の発言内容等の積極性 40%により評価する。また、欠席が3回以内でも、予習をやっていない等により減点されれば合格点に達しないこともある。なお、期末試験は実施しない。</p> <p>2) フィードバック方法</p> <p>フィードバックとして、発表やグループディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ等に対する教員のコメントをその都度実施する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>質問については授業中、受け付ける。積極的な質問を歓迎する。</p> <p>相談については授業の前後や空き時間等に担当教員の研究室にて受け付ける。</p>
履修条件	<p><b>【必須要件】</b></p> <p>「精神保健福祉援助演習Ⅰ」、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡA」「精神障害者の生活支援システム」を単位取得済であり、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB」「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉援助実習」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. グループ作業に支障をきたすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>2. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席（忌引・感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p> <p>精神科医療機関において約20年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアディクション家族教室を8年実践した経験があります（長坂）</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事した経験があります（飛田）</p> <p>医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において精神保健福祉業務に約15年間従事した経験があります（鶉）</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に1時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。</p> <p><b>【事後学習】</b> 授業毎に1時間以上、授業内容や事例の振り返りを行う。</p>

講義科目名称： 精神保健福祉援助演習ⅡB			
開講期間： 通年	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	様々な実践事例に触れ、精神保健福祉課題を理解し、その解決に向けた総合的かつ包括的な援助技術を理解する。 精神保健福祉援助実習における個別的体験を言語化し、実践的な対応能力を養う。
授業計画	<p>第1回            オリエンテーション春季実習の体験の共有 個別体験の一般化 【到達目標】 春季実習体験における気づき、学び、疑問等についてのブレインストーミング、グループワークにより精神保健福祉士に求められる技術・価値を体得する事例研究の目的と意義について理解する 【予習事項】 実習日誌等を参考に春季実習体験を振り返る</p> <p>第2回            地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待・薬物・アルコール依存症等）に関する精神保健福祉援助演習① 【到達目標】 精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】 教科書 P119-125 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第3回            地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待・薬物・アルコール依存症等）に関する精神保健福祉援助演習② 【到達目標】 精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】 教科書 P125-128 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第4回            地域における精神保健（自殺、ひきこもり、児童虐待・薬物・アルコール依存症等）に関する精神保健福祉援助演習③ 【到達目標】 精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】 教科書 P132-136 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第5回            貧困・低所得者・ホームレスに関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】 精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】 教科書 P142-143 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第6回            精神科救急場面での危機介入に関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】 精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】 教科書 P149-153 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p> <p>第7回            アウトリーチに関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】 精神保健福祉援助の事例検討によって、総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】 教科書 P171-173 の事例を読み、事前学習課題に取り組む</p>

福祉心理学

第8回	ケアマネジメントに関する精神保健福祉援助演習 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する 【予習事項】教科書 P176-177 の事例を読み、事前学習課題に取り組む
第9回	チームアプローチとネットワーキングに関する 精神保健福祉援助演習、事例研究の目的と意義 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する 事例研究の目的と意義を理解する 【予習事項】教科書 P181-182 の事例を読み、事前学習課題に取り組む
第10回	社会資源の活用・調整・開発に関する 精神保健福祉援助演習、事例研究の方法 【到達目標】精神保健福祉援助の事例検討によって、 総合的かつ包括的な支援方法を理解する 実習における個別的な体験を事例として まとめる方法を理解する 【予習事項】教科書 P186-189 の事例を読み、事前学習課題に取り組む
第11回	夏季実習の体験の共有 個別体験の一般化 実習体験に基づく事例研究の進め方 【到達目標】夏季実習体験における気づき、学び、疑問等についての ブレインストーミング、SST等のグループワークにより 精神保健福祉士に求められる技術・価値を体得する 実習体験に基づく事例研究の進め方を理解する 【予習事項】実習日誌等を参考に 夏季実習体験を事例研究としてまとめておく
第12回	実習体験に基づく事例研究（障害者関係施設） 【到達目標】実習体験を共有し、一般化することで、 相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。 【予習事項】事例提供者（グループ）は発表準備をし、 その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。
第13回	実習体験に基づく事例研究（医療機関） 【到達目標】実習体験を共有し、一般化することで、 相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。 【予習事項】事例提供者（グループ）は発表準備をし、 その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。
第14回	実習体験に基づく事例研究（公的機関等） 【到達目標】実習体験を共有し、一般化することで、 相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。 【予習事項】事例提供者（グループ）は発表準備をし、 その他の受講生は事例を読み、質問する内容を準備しておく。

	<p>第 15 回 実習体験に基づく事例研究のまとめ</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークの幅広い分野に対応できる共通の (Generic) 視点と精神保健福祉士としての視点 (Specific) を確認し、理解する。</p> <p>【予習事項】 実習・演習を通して自分の成長を感じられた点、今後の課題などを 3 分間でスピーチできるようにまとめ、練習しておく。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】</p> <p>事例検討、グループワーク、ディスカッションやプレゼンテーション、さらにはクラス全体での検討を通じて様々な精神保健福祉課題の原因や背景を探り、支援のあり方について考察を深めるとともに、多面的な視点への気づきを促進する。</p> <p>精神保健福祉援助実習における学生の個別的体験 (エピソード) を事例研究としてまとめ、グループ内での発表やディスカッションを通じて考察することで、精神保健福祉士に求められる相談援助の実践的な知識や技術、その根底にある価値を言語化・理論化しながら身につけていく。</p> <p>【達成目標】</p> <p>精神保健福祉援助の様々な支援場面において、対象者の背景や思いを共感的に理解し、精神保健福祉士としてどうすればよいのかを主体的に考え、ソーシャルワークの専門性に基づいた視点を身につけ、可能な範囲で実行できるようになる。</p> <p>精神保健福祉援助実習における個別的な体験を共有し、一般化することで、相談援助に必要な実践的知識および技術を習得する。また、ソーシャルワークの幅広い分野に対応できる共通の (Generic) 視点と精神保健福祉士としての視点 (Specific) を実践的に習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、協調と協働を実現する力や地域を視野に貢献する力、および「学士力」の構成要素の一つである、倫理観やチームワーク、リーダーシップを身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士養成セミナー⑦ 精神保健福祉援助演習 [基礎] [専門] (第 6 版)</p> <p>ISBN：978-4-89269-910-8</p> <p>出版社：へるす出版</p> <p>著者名：精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編集</p> <p>価格 (税込)：2,916 円</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題 (試験やレポート) に対するフィードバック方法</p>	<p>前期 (10 回)：毎回の予習状況 (30%)、授業中の事例発表および発言内容等の主体性・積極性 (70%)</p> <p>後期 (5 回)：毎回の予習状況 (30%)、授業中の事例発表および発言内容等の主体性・積極性 (50%)、事例研究 (20%) により評価する。</p> <p>なお、期末試験は実施しない。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>質問については授業中受け付ける。積極的な質問を歓迎する。</p> <p>相談については授業の前後や空き時間等に担当教員の研究室にて受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>【必須要件】</p> <p>「精神保健福祉援助演習ⅡA」を単位取得済であり、「精神保健福祉援助実習指導 B・C」、「精神保健福祉援助実習」を履修中である者に限る。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>

メッセージ	<p>本演習は、演習Ⅰ・ⅡAで身につけた技術や知識を実習での体験と絡めて定着させ、実践能力を向上させるものである。そのため、授業においての積極的な実技参加や発言等を望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループ作業に支障を来たすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</li> <li>2. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席（忌引きおよび感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めない。</li> <li>3. 事例作成の際は、氏名、施設・機関名等は仮名を使用し、個人が特定されないように留意する。また、事例の内容は、クラス内に留め、専門職としての守秘義務を遵守する。</li> <li>4. 前期10回、後期5回に分けて授業を行う。具体的な日程は、第1回に提示する。</li> </ol> <p>精神科医療機関において約20年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアディクション家族教室を8年実践した経験があります（長坂）  地域活動支援センター及び就労継続支援事業（B型）の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事した経験があります（飛田）  医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において精神保健福祉業務に約15年間従事した経験があります（鶉）</p>
準備学習について	<p>【事前学習】授業毎に1時間以上、シラバスに定められた予習事項へ取り組む。  【事後学習】授業毎に1時間以上、授業内容や事例の振り返りを行う。</p>



講義科目名称： 精神保健福祉援助実習指導 A			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	精神保健福祉援助実習に必要な倫理・知識・技術等を身につけ、自己の資質及び専門性を把握する。
授業計画	<p>第1回 参加型体験実習（プレ実習）</p> <p>【授業内容】 各自の配属先で3日間の参加型体験実習（プレ実習）</p> <p>【到達目標】 精神保健福祉領域の実践に触れ、精神障害者に対するかかわりについて考え、支援のあり方を体感する。</p>
	<p>第2回 (1週目) オリエンテーション、精神保健福祉援助実習指導の意義と目的</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉士養成課程の全体像、精神保健福祉援助実習及び実習指導の意義と目的を理解する 参加型体験実習（プレ実習）報告会、感染症対策について理解する 個別面談</p> <p>【予習事項】 実習の手引き、精神保健福祉援助実習（春季）に取り組む意思を明確にする 参加型体験実習（プレ実習）報告書を完成させる</p> <p>【配布資料】 参加型体験実習（プレ実習）申し送り書</p> <p>【提出書類】 参加型体験実習（プレ実習）報告書</p> <p>※個別面談は、状況に応じて授業時間外に実施する場合もある</p>
	<p>第3回 (2週目) 精神科病院の精神保健福祉士の業務と実習についての理解（外部講師）</p> <p>【授業内容】 精神科病院における精神保健福祉士の機能、役割、支援のあり方を理解する</p> <p>【予習事項】 施設見学実習事前課題を復習する</p> <p>※授業終了後、春季実習配属先を福祉実習指導センターに掲示する 各自、春季実習配属先を確認すること</p>
	<p>第4回 (3週目) 参加型体験実習（プレ実習）報告会</p> <p>【授業内容】 参加型体験実習（プレ実習）の報告会を実施し、参加型体験実習（プレ実習）での学びを共有する</p> <p>【予習箇所】 参加型体験実習（プレ実習）報告を公表できるよう準備する</p> <p>【提出書類】 参加型体験実習（プレ実習）日誌、申し送り書</p>
	<p>第5回 (4週目) 精神障害者の就労支援と地域における精神保健福祉士の業務（外部講師）</p> <p>【授業内容】 地域における精神保健福祉士の機能、役割、支援のあり方を理解する</p> <p>【予習事項】 参加型体験実習（プレ実習）の事前学習を復習する</p>

	<p>第6回 (5週目) 事前学習、事前訪問の意義と目的</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉援助実習における事前学習および事前訪問の意義と目的を理解する</p> <p>【予習箇所】 実習の手引き、テキストの事前学習、事前訪問を熟読する</p> <p>【配布書類】 個人票（下書き）、実習計画書（下書き）、 実習施設・機関の概要（下書き）、個人票、実習計画書、 出席簿、誓約書、事前訪問記録</p> <p>※事前訪問日が決まり次第、実習巡回指導教員に報告すること</p> <p>第9回目の授業までに事前訪問を実施すること</p> <p>事前訪問後、事前訪問記録を作成し、指導内容を実習指導教員に報告すること</p> <p>事前訪問2週間前から検温を実施し、健康管理に努めること</p> <p>事前訪問において、実習日程、オリエンテーション日程、健康診断提出日、 交通手段を確認すること</p> <p>第7回 (6週目) 実習計画書の意義と目的、実習計画書指導①</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉援助実習における実習計画書の意義と目的を理解する 実習計画書を作成する</p> <p>【予習箇所】 実習の手引き、テキストの実習計画書を熟読する</p> <p>第8回 (7週目) 実習計画書指導②</p> <p>【授業内容】 実習計画書を作成する</p> <p>【予習箇所】 実習計画書の各項目に取り組む</p> <p>第9回 (8週目) 実習計画書指導③</p> <p>【授業内容】 実習計画書を作成する</p> <p>【予習箇所】 実習計画書の各項目に取り組む</p> <p>第10回 (9週目) 精神保健福祉援助実習報告会の意義と目的、実習計画書指導④</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉援助実習報告会の意義と目的を理解する 実習計画書を作成する</p> <p>【予習箇所】 事前訪問の内容を踏まえつつ、実習計画書の各項目に取り組む 実習の手引き、テキストの実習報告会を熟読する</p> <p>【提出書類】 事前訪問記録、実習計画書（下書き）</p> <p>第11回 精神保健福祉援助実習報告会聴講</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉援助実習報告会に参加する</p> <p>【予習箇所】 福祉実習指導センターで前年度の相談援助実習報告書の 自身の実習先（該当がなければ実習先に近い機関）を熟読し、 報告会における質問内容を検討する。</p> <p>第12回 (10週目) 精神保健福祉援助実習報告会聴講振り返り 実習経験者による講話</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉援助実習報告会での学びを共有する</p> <p>【予習箇所】 精神保健福祉援助実習報告会での学びを 共有できるように準備する</p> <p>【提出書類】 誓約書、個人票（原本と写し2部）、 実習計画書（原本と写し2部）</p> <p>※個人票、実習計画書の写しのうち1部は各自保管すること</p>
--	---

	<p>第 13 回 (11 週目) 実習日誌の記録内容及び記録方法に関する理解①  <b>【授業内容】</b> 精神保健福祉実践、実習における記録の意義と目的を理解する  <b>【予習箇所】</b> 実習の手引き、テキストの記録を熟読する  <b>【配布資料】</b> 実習日誌 (練習用)  <b>【提出書類】</b> 実習日誌 (練習用)</p> <p>第 14 回 (12 週目) 実習日誌の記録内容及び記録方法に関する理解②  <b>【授業内容】</b> 記録方法 (文章の書き方、表現方法) を身につける  <b>【予習箇所】</b> 実習日誌 (練習用) を添削してくる  <b>【配布資料】</b> 細菌検査キット (該当者のみ)、実習日誌 (練習用)  <b>【提出書類】</b> 実習日誌 (練習用)</p> <p>第 15 回 (13 週目) プライバシー保護と守秘義務、実習マナー  <b>【授業内容】</b> 精神保健福祉援助実習におけるプライバシー保護と守秘義務、実習マナー、倫理について理解する  <b>【予習箇所】</b> 実習の手引き、テキストのプライバシー保護と守秘義務を熟読する。精神保健福祉士の倫理綱領を熟読する。</p> <p>第 16 回 (14 週目) 実習評価と自己評価  <b>【授業内容】</b> 確認評価スケール、実習前知識テストに取り組む  <b>【予習箇所】</b> 実習前知識テストの準備をする  <b>【配布資料】</b> 自己評価票、確認評価スケール、実習前知識テスト  <b>【提出書類】</b> 確認評価スケール、実習前知識テスト、自動車等使用届 (該当者のみ)</p> <p>※自己評価は、実習終了後に作成し、精神保健福祉援助実習指導 B 第 1 週目の授業時に持参すること</p> <p>第 17 回 (第 15 週) 巡回指導・帰校日、実習に向けた注意点  <b>【授業内容】</b> 巡回指導・帰校日、実習に向けた注意点を確認する  <b>【予習箇所】</b> 実習の手引き、巡回指導を熟読する。  <b>【配布資料】</b> 帰校日ワークシート</p> <p>※帰校日ワークシートは、帰校日指導時までに作成し、持参すること</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【概要】</b> 精神保健福祉援助実習の事前教育を行う。  <b>【目的】</b> 精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められている資質・技能・倫理等を学ぶとともに、自己に求められている課題を把握し専門職としてのあり方を習得する。  <b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>  この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、および「学士力」の構成要素の一つである、自己管理能力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ 1 1 「精神保健福祉援助実習」 (第 2 版)  ISBN：978-4-335-61123-0  出版社：弘文堂  著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会編 責任編集=河合美子  価格 (税抜)：2,700 円</p> <p>テキスト名：本学精神保健福祉実習委員会編『精神保健福祉援助実習の手引き』</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介する。</p>

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>1) 成績評価の基準・方法</p> <p>①提出物(プレ実習報告書 10%、日誌 10%、個人票 10%、実習計画書 20%)の期限・内容</p> <p>②受講態度(40%)</p> <p>③事前学習の状況(10%)</p> <p>2) フィードバック方法</p> <p>実習計画書指導、グループワーク、ロールプレイ等に対してその都度、実施する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>質問については授業中、受け付ける。積極的な質問を歓迎する。</p> <p>相談については授業の前後や空き時間等に担当教員の研究室にて受け付ける。</p>
履修条件	<p><b>【必須条件】</b>施設見学実習及び参加型体験実習に参加し、「精神疾患とその治療 A・B」「精神保健の課題と支援 A・B」「精神保健福祉相談援助の基盤 A・B」「精神保健福祉に関する制度とサービス A・B」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A・B」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A」「精神保健福祉援助演習 I」の単位を取得済みであり、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II B」「精神障害者の生活支援システム」「精神保健福祉援助演習 II A」を履修中または単位取得済の者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b></p> <p>聴 講 生 <b>【不可】</b></p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生 <b>【不可】</b></p>
メッセージ	<p>1. 参加型体験実習(プレ実習)、精神保健福祉援助演習 I を履修していない場合、履修することはできない。</p> <p>2. グループ作業に支障をきたすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者(具体的には、口頭での出席確認終了以降)は、その回の受講を認めない。また、早退した場合は欠席となる。</p> <p>3. 基本的に 100%の出席を求める。さらに、累積 3 回を超える欠席(忌引・感染症による出席停止を除く)の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</p> <p>精神科医療機関において約 20 年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアクション家族教室を 8 年実践した経験があります(長坂)</p> <p>地域活動支援センター及び就労継続支援事業(B 型)の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に 12 年間従事した経験があります(飛田)</p> <p>医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において精神保健福祉業務に約 15 年間従事した経験があります(鶉)</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業毎に 1 時間以上、予習箇所について予習を行うこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 授業毎に 1 時間以上、授業時の指示に従い、復習を行うこと。</p>

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習指導B			
開講期間： 前期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	精神保健福祉援助実習に必要な倫理・知識・技術等の能力を身につけ、精神保健福祉士としての相談援助のあり方を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 帰校日または巡回指導（実習中）</p> <p>【授業内容】 実習体験、迷いや不安、悩みの共有、 実習の進捗状況及び見通しの確認、実習日誌指導 帰校日指導記録の作成</p> <p>【課題】 実習日誌、実習先で使用しているアセスメントシート等を持参 教員への報告・相談事項をまとめておく</p> <p>【提出書類】 帰校日ワークシート</p>
	<p>第2回 巡回指導（実習中）</p> <p>【授業内容】 実習の進捗状況及び見通しの確認、実習日誌指導</p> <p>【課題】 巡回指導の場合は実習巡回教員からの助言・指導内容の作成</p>
	<p>第3回 (1週目) オリエンテーション、実習の振り返り</p> <p>【授業内容】 個別面談による実習の振り返り</p> <p>【予習箇所】 春季実習報告書の作成（教員から提出許可を得る）</p> <p>【提出書類】 春季実習報告書、自己評価票</p> <p>※個人面談は、状況に応じて時間外に実施する場合もある</p>
	<p>第4回 (2週目) 実習評価、実習の振り返り</p> <p>【授業内容】 個別面談による実習の振り返り、 実習を終えての12の質問を用いて振り返りのグループワーク</p> <p>【予習箇所】 教科書 P183-194、自己評価票完成、 実習を終えての12の質問（P187）を読み春季実習を振り返り 夏季実習に取り組む意思や目的を確認してくる</p> <p>【配布資料】 実習体験申し送り書 ※実習配属先掲示開始</p> <p>※個人面談は、状況に応じて時間外に実施する場合もある</p>
	<p>第5回 (3週目) 春季実習の振り返り 実習報告書の修正</p> <p>【授業内容】 個別及びグループスーパービジョンを通して実習体験を共有し、 実習報告書の修正を行い春季実習の成果をまとめると共に プレゼンテーション準備を行う</p> <p>【予習箇所】 実習体験申し送り書の作成</p> <p>【提出書類】 実習体験申し送り書</p>
	<p>第6回 (4週目) プレゼンテーション（春季実習を終えて）</p> <p>【授業内容】 パワーポイントを用いた実習を終えてのプレゼンテーション</p> <p>【予習箇所】 春季実習を振り返り夏季実習に向けた課題を明確にする 発表準備配属先の概要等調べ情報収集を行い、 資料が必要な学生は実習指導センターに相談する</p> <p>【配布資料】 個人票（下書き）、実習計画書（下書き）、</p>

	<p>実習施設・機関の概要（下書き）、事前訪問記録用紙、個人票、実習計画書、出席簿、誓約書</p>
第7回	<p>(5週目) 夏季実習事前学習（実習施設の概要）、指導感染症対策指導</p> <p>【授業内容】 精神保健福祉援助実習における事前学習（実習施設の概要）の意義について</p> <p>感染症対策、細菌検査について</p> <p>第6回未発表者の発表を行う</p> <p>【予習箇所】 配属先について事前調べ学習（実習施設の概要）を行う</p> <p>【配布資料】 新型コロナウイルス感染症予防対策、健康管理チェックシート</p>
第8回	<p>(6週目) 事前訪問指導、夏季実習計画作成意義と流れについての注意点の説明</p> <p>【授業内容】 事前訪問期間、自動車届、事前訪問アポイントメントについて（日程調整後、各自で担当教員に報告する）実習計画作成意義と流れについての注意点について</p> <p>夏季実習計画書（下書き）の作成、指導</p> <p>【予習箇所】 夏季実習計画書（下書き）の記入</p> <p>※事前訪問日が決まり次第、実習巡回指導教員に報告すること</p> <p>第12回目の授業までに事前訪問を終了すること</p>
第9回	<p>(7週目) 夏季実習計画指導①</p> <p>【授業内容】 夏季実習計画書（下書き）の作成、指導</p> <p>【予習箇所】 夏季実習計画書（下書き）加筆修正</p> <p>【提出書類】 実習日誌</p>
第10回	<p>(8週目) 個人票、夏季実習計画指導②</p> <p>【授業内容】 個人票、夏季実習計画書（下書き）の作成、指導参考文献について</p> <p>【予習箇所】 夏季実習計画書（下書き）</p> <p>【提出書類】 個人票（下書き）</p>
第11回	<p>(9週目) 事前訪問の注意点とマナー、夏季実習計画指導③</p> <p>【授業内容】 事前訪問の注意点、マナーについて、事前訪問日程の確認</p> <p>夏季実習計画書（下書き）の作成、指導</p> <p>【予習箇所】 夏季実習計画書（下書き）の加筆修正</p>
第12回	<p>(10週目) 夏季実習計画指導④</p> <p>【授業内容】 夏季実習計画書（下書き）の作成、指導</p> <p>【予習箇所】 夏季実習計画書（下書き）の記入</p> <p>【提出書類】 誓約書、個人票、夏季実習計画書（下書き）</p>
第13回	<p>(11週目) 実習課題のプレゼンテーション</p> <p>【授業内容】 実習課題のプレゼンテーション（2分/人）</p> <p>【予習箇所】 夏季実習計画をもとにプレゼンテーション準備</p> <p>【提出書類】 事前学習の記録、事前訪問の記録、夏季実習計画書（清書）、実習日誌</p> <p>【配布資料】 細菌検査キット</p>
第14回	<p>(12週目) 記録における言語化とアセスメント</p> <p>【授業内容】 各自の体験や資料を用いた言語化とアセスメント</p> <p>【予習箇所】 教科書 P149-157</p>

	<p>第 15 回 (13 週目) 実習前知識テスト、実習に向けた注意点  <b>【授業内容】</b> 実習前知識テストを実施し、課題の明確化          感染症対策指導  <b>【予習箇所】</b> 教科書やノートで実習に必要な知識をおさらいしておく  <b>【配布資料】</b> 実習前知識テスト  <b>【提出書類】</b> 実習前知識テスト</p> <p>第 16 回 (14 週目) 確認評価スケール  <b>【授業内容】</b> 確認評価スケールに取り組み夏季実習実施に向けて課題を確認する  <b>【予習箇所】</b> 事前学習等、実習に向けた自身の準備状況を振り返っておく  <b>【配布資料】</b> 確認評価スケール  <b>【提出書類】</b> 確認評価スケール、自動車等使用届 (該当学生のみ)</p> <p>第 17 回 (15 週目) 実習に向けた注意点、実習報告会、実習マナーと専門職倫理について  <b>【授業内容】</b> 実習に向けた注意点と実習マナー、          提出書類、緊急時等の連絡について確認          実習報告書、実習報告会について確認  <b>【予習箇所】</b> 実習の手引を通読しておく  <b>【配布資料】</b> 帰校日ワークシート、自己評価表</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【概要】</b> 精神保健福祉援助実習の事前・事後教育を行う。  <b>【目的】</b> 精神保健福祉援助実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められている資質・技能・倫理等を学ぶとともに、自己に求められている課題を把握し専門職としてのあり方を習得する。  <b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、および「学士力」の構成要素の一つである、自己管理能力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ 1 1 「精神保健福祉援助実習」 (第 2 版)          ISBN：978-4-335-61123-0          出版社：弘文堂          著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会編 責任編集=河合美子          価格 (税抜)：2,700 円</p> <p>テキスト名：本学精神保健福祉実習委員会編『精神保健福祉援助実習の手引き』</p>
<p>参考文献</p>	<p>その他、講義にて適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法及び課題】</b>          ①提出物 (春季実習報告書 25、事前学習 10、個人票 10、実習計画書 15)          ②授業内での発表や参加姿勢 (40)  <b>【フィードバック方法】</b>          実習報告書及び報告会資料の添削、巡回指導及び帰校日におけるスーパービジョン、実習先からの評価票及び自己評価を素材とした個別面談等にて行う。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>基本的に授業中に回答する。また、アポイントメントを取ったうえで各担当教員の研究室等でも受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【必須条件】</b> 「精神保健福祉相談援助実習指導 A」、「精神保健福祉援助演習ⅡA」の単位を取得済みであり、「精神保健福祉援助演習ⅡB」を履修中である者に限る。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b>          聴講生 <b>【不可】</b>          キャリアデザイン・カレッジ生 <b>【不可】</b></p>

<p>メッセージ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「精神保健福祉援助実習」が不可の場合、本科目も原則として不可となる。</li> <li>2. グループ作業に支障をきたすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者 (具体的には、口頭での出席確認終了以降)は、その回の受講を認めない。なお、早退した場合は欠席となる。</li> <li>3. 基本的に100%の出席を求める。さらに、累計3回を越える欠席(忌引および感染症による出席停止を除く)の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</li> <li>4. 精神保健福祉援助実習指導Bのみを履修することはできない。また、精神保健福祉援助実習が不可の場合、原則として本科目も不可となる。</li> <li>5. 精神保健福祉援助実習報告会の日程、講義の進捗状況によって授業計画を変更する場合がある。</li> </ol> <p>精神科医療機関において約20年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアディクション家族教室を8年実践した経験があります(長坂) 地域活動支援センター及び就労継続支援事業(B型)の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります(飛田) 医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において相談援助業務に15年間従事したことがあります (鶉)</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 授業前に1時間以上、予習箇所について予習を行っておく <b>【事後学習】</b> 授業終了後1時間以上、実習報告書等各書類の指導事項の修正・検討、授業内容の振り返りを行う</p>



講義科目名称： 精神保健福祉援助実習指導C			
開講期間： 後期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	精神保健福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけ、自己の資質・専門性を振り返る。
授業計画	<p>第1回 帰校日または巡回指導 (実習中)</p> <p>【授業内容】 実習体験、迷いや不安、悩みの共有、 実習の進捗状況及び見通しの確認、実習日誌指導 帰校日指導記録の作成</p> <p>【予習事項】 実習日誌、実習先で使用しているアセスメントシート等を持参 教員への報告・相談事項をまとめておく</p> <p>【提出書類】 帰校日ワークシート</p>
	<p>第2回 巡回指導 (実習中)</p> <p>【授業内容】 実習の進捗状況及び見通しの確認、実習日誌指導</p> <p>【予習事項】 巡回指導の場合は実習巡回教員からの助言・指導内容の作成</p> <p>※実習報告書は実習終了後2週間以内に実習担当教員へメール提出する</p>
	<p>第3回 (1週目) オリエンテーション、実習を終えての自己評価と個人面談 実習報告集・報告会について</p> <p>【授業内容】 実習の手引きの書式に基づいた報告集の作成方法(表紙含む) 理解 自己評価表作成</p> <p>【予習事項】 夏季実習報告書の作成(教員から提出許可を得る)</p> <p>【提出書類】 夏季実習報告書、自己評価票</p> <p>※個人面談は、状況に応じて時間外に実施する場合もある</p>
	<p>第4回 (2週目) 夏季実習の振り返り① 夏季実習報告書の作成① 作成様式について</p> <p>【授業内容】 自己評価票を用いて個人面談、 実習を終えての12の質問を用いて振り返りのグループワーク</p> <p>【予習事項】 教科書P183-194、自己評価票完成、 実習を終えての12の質問(P187)確認</p> <p>【配布資料】 実習体験申し送り書</p> <p>※個人面談は、状況に応じて時間外に実施する場合もある</p>
	<p>第5回 (3週目) 夏季実習の振り返り② 夏季実習報告書の作成② 実習の内容</p> <p>【授業内容】 個人面談および実習体験申し送り書による実習体験内容の考察</p> <p>【予習事項】 夏季実習の概要をまとめる</p> <p>【提出書類】 実習体験申し送り書</p>
	<p>第6回 (4週目) 夏季実習の振り返り③ 夏季実習報告書の作成③ 印象に残った体験、実習成果</p> <p>【授業内容】 個別及びグループスーパービジョンを通して 夏季の実習体験を共有するとともに、夏季実習の成果をまとめる</p> <p>【予習事項】 夏季実習で印象に残った体験の概要をまとめる</p>

第7回	(5週目) 夏季実習の振り返り④ 夏季実習報告書の作成④ 考察と今後の課題、実習評価の振り返り 【授業内容】 個別スーパービジョンを活用しつつ、今後の課題、 実習評価について振り返る夏季実習のプレゼンテーションの準備 【予習事項】 実習日誌から夏季実習での学び、課題をまとめる
第8回	(6週目) 夏季実習報告の準備 【授業内容】 夏季実習報告のプレゼンテーションの発表準備 【予習事項】 夏季実習の報告ができるようにまとめ、そのデータを持参する 【提出書類】 春・夏季実習報告書(修正版)
第9回	(7週目) 夏季実習報告プレゼンテーションの実施 【授業内容】 夏季実習報告書をもとにクラス内でのプレゼンテーション 【予習事項】 夏季実習の報告ができるようにまとめる パワーポイントファイルを実習指導担当教員にメールで送信する。 ※ファイル名は「学籍番号(半角) 氏名 資料のタイトル」とする
第10回	(7週目) 夏季実習報告プレゼンテーションの振り返り 精神保健福祉援助実習報告集作成 精神保健福祉援助実習報告会の準備① 報告会の概要、発表の進め方 【授業内容】 夏季実習報告プレゼンテーションを振り返る 精神保健福祉援助実習報告会の概要、 進行方法等について理解する 春季実習・夏季実習報告書、実習日誌等からスライド作成準備 【予習事項】 テキスト・実習の手引きの該当箇所を読む ※スライド原稿はメールで担当教員に送り、指導を受ける
第11回	(8週目) 実習報告会の準備② 発表スライド、読み原稿の作成 【授業内容】 春季実習・夏季実習報告書、実習日誌等から実習体験を スライドにまとめる 【予習事項】 テキスト・実習の手引きの該当箇所を読む
第12回	(8週目) 実習報告会の準備③ 発表スライドの作成 司会、タイムキーパー等の役割分担 【授業内容】 精神保健福祉援助実習報告会のスライド修正と役割分担を行う 【予習事項】 テキスト・実習の手引きの該当箇所を読む 【提出書類】 スライド原稿(印刷用)
第13回	(9週目) クラス内プレゼンテーション (精神保健福祉援助実習報告会のリハーサル)の実施 【授業内容】 クラス内発表・質疑応答によって実習体験を共有する 精神保健福祉援助実習報告会のリハーサルを行う 【予習事項】 クラス内プレゼンテーション(精神保健福祉援助実習報告会の リハーサル)ができるようにしておく (読み原稿とスライドデータを持参)
第14回	(9週目) プレゼンテーションの振り返り 精神保健福祉援助実習報告会の準備 【授業内容】 今後の課題や進路について考え、求められる精神保健福祉士像を 明確化する

	<p>当日配布資料の作成・印刷 会場設営等</p> <p>【予習事項】修正した発表用スライドのファイル (マイクロソフトパワーポイント形式) を実習指導担当教員にメールで送信する。 ※ファイル名は「学籍番号(半角) 氏名 発表資料のタイトル」とする</p> <p>第 15 回 (10 週目) 精神保健福祉援助実習報告会 【授業内容】精神保健福祉援助実習報告プレゼンテーションを行う 【予習事項】精神保健福祉援助実習報告会プレゼンテーションが出来るようにしておく ※正装 (スーツ着用)</p> <p>第 16 回 (11 週目) 精神保健福祉援助実習報告会の振り返りと身につけた知識の確認 【授業内容】実習報告会のコメント等を振り返り、実習報告会の総括を行う 【予習事項】精神保健福祉援助実習報告会での学び、課題をまとめ、教科書やノートで精神保健福祉士に必要な知識をおさらいしておく 【配布資料】実習知識テスト 【提出書類】実習日誌、実習知識テスト</p> <p>第 17 回 (12 週目) 精神保健福祉援助実習の振り返り (実習総括) 【授業内容】確認評価スケールを用いて実習全体を振り返る 【予習事項】実習全体を通じた学び、ソーシャルワーカーとして成長し続けるために必要なことを考えてくる 【配布資料】実習日誌、実習報告集 【提出書類】確認評価スケール</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 精神保健福祉援助実習を振り返り、夏季実習報告書、精神保健福祉援助実習報告集を作成するとともに、精神保健福祉援助実習報告会を実施する。</p> <p>【授業の到達目標】 実習は、実践力のある対人援助専門職としての力量を総合的に身につける必須の過程である。この授業は、その力量を養うため、福祉現場で必要とされる倫理・知識・技術などを身につけるとともに、実習内容の振り返りを通じて、自己の課題を把握し、専門職としての自己あり方を問うことを目的としている。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、協調と協働を実現する力や地域を視野に貢献する力、および「学士力」の構成要素の一つである、倫理観やチームワーク、リーダーシップを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ 1 1 「精神保健福祉援助実習」 (第 2 版) ISBN：978-4-335-61123-0 出版社：弘文堂 著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会編 責任編集=河合美子 価格 (税抜)：2,700 円</p> <p>テキスト名：本学精神保健福祉実習委員会編『精神保健福祉援助実習の手引き』</p>
参考文献	その他、講義にて適宜紹介する。

<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法及び課題】</b>          受講態度(30%)、提出物(10%)、精神保健福祉援助実習報告書(40%)、精神保健福祉援助実習報告会における発表(20%)を総合的に評価する。なお、精神保健福祉援助実習報告集を期限内に提出し、精神保健福祉援助実習報告会で発表しなければ不可となる。          第9回(7週目)から二コマ連続の授業となる。日程の詳細は、第3回(1週目)に提示する。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>          実習報告書及び報告会資料の添削、巡回指導及び帰校日におけるスーパービジョン、実習先からの評価票及び自己評価を素材として行う。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>基本的には授業中に回答する。また、必要に応じ、アポイントメントを取ったうえで各クラス担当教員の研究室等でも受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p><b>【必須条件】</b>          「精神保健福祉援助実習指導B」を履修済かつ取得見込で「精神保健福祉援助演習ⅡB」を履修中であり、原則「精神保健福祉援助実習」(210時間以上、2か所の実習)実施済である者に限る。</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】          聴講生【不可】          キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>「精神保健福祉援助実習」が不可の場合、本科目も原則として不可となる。</li> <li>グループ作業に支障をきすため、遅刻・早退は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者(具体的には、口頭での出席確認終了以降)は、その回の受講を認めない。なお、早退した場合は欠席となる。</li> <li>基本的に100%の出席を求める。さらに、累計3回を越える欠席(忌引および感染症による出席停止を除く)の場合は単位の修得を認めないので、そのつもりで受講すること。</li> <li>精神保健福祉援助実習指導Cのみを履修することはできない。また、精神保健福祉援助実習が不可の場合、原則として本科目も不可となる。</li> <li>第9回(7週目)から二コマ連続の授業も実施する(日程詳細は第3回(1週目)に提示)。精神保健福祉援助実習報告会の日程、講義の進捗状況によって授業計画を変更する場合がある。</li> <li>報告会準備の進捗状況によって、報告会前に個別・クラス指導を実施する場合がある</li> </ol> <p>精神科医療機関において約20年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアディクション家族教室を8年実践した経験があります(長坂)          地域活動支援センター及び就労継続支援事業(B型)の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事したことがあります(飛田)          医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において相談援助業務に15年間従事したことがあります(鶴)</p>
<p>準備学習について</p>	<p><b>【事前学習】</b> 授業前に1時間以上、予習箇所について予習を行っておく  <b>【事後学習】</b> 授業終了後1時間以上、夏季実習報告書・精神保健福祉援助実習報告集、精神保健福祉援助実習報告会の資料の修正・検討および授業内容の振り返りを行う</p>

講義科目名称： 精神保健福祉援助実習			
開講期間： 後期、通年	配当年： 3年,4年	単位数： 5	必選： 選択
担当教員： 長坂和則、飛田義幸、鶴領太郎			

テーマ	精神保健福祉現場における実習体験を通して、精神保健福祉士として必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を培う。
授業計画	<p>1. 基本的な実習期間</p> <p>① 3年次春季休業期間中（2月初旬～3月中旬）</p> <p>② 4年次夏季休業期間中（8月中旬～9月下旬）</p> <p>※機能の異なる2か所の実習施設において合計210時間以上</p> <p>※実習先の事情及び学生の状況を考慮し配属を決定する。</p> <p>実習先の状況により、実習期間・日程を変更することがある。</p> <p>※実習中は巡回担当教員による実習巡回指導もしくは帰校日を設け、帰校日指導を実施する。</p> <p>2. 主な実習機関と目的</p> <p>① 医療機関（精神科病院・精神科病床を有する病院・精神科を有する診療所）</p> <p>② 障害者関係施設（障害者総合支援法における障害福祉サービス事業所等）、公的機関等</p> <p>※機能の異なる2か所の実習施設において実習しなければならない</p> <p>※①、②の実習の時期は、実習先の事情等を考慮して決定する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>実習は精神保健福祉士の国家試験を受験するための必須科目であるばかりでなく、実際の現場を体験することにより、概ね以下の内容を達成することが求められる。精神保健福祉士として求められる資質・技能・倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <p>①患者・利用者や職員と良好な人間関係を形成する。②精神障がい者が置かれている現状とその生活背景や想いを理解する。③患者・利用者のニーズをアセスメントし、実習指導者の判断を仰ぎ、可能であれば支援計画を策定し、できる範囲で実行する。④施設や機関に所属する精神保健福祉士の機能や役割を理解する。⑤施設や機関の機能と役割を理解する。⑥大学で学んだ知識を現実場面に応用できる実践力を養う。⑦現実場面での具体的活動を抽象化・概念化し、理論化していく能力を養う。⑧事例研究としてまとめ倫理的配慮を行いつつアセスメントなどの実践力を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b></p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、協調と協働を実現する力や地域に貢献する力、および「学士力」の構成要素の一つである、倫理観やチームワーク、リーダーシップを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：精神保健福祉士シリーズ1 1 「精神保健福祉援助実習」（第2版）</p> <p>ISBN：978-4-335-61123-0</p> <p>出版社：弘文堂</p> <p>著者名：福祉臨床シリーズ編集委員会編 責任編集=河合美子</p> <p>価格（税抜）：2,700円</p> <p>テキスト名：本学精神保健福祉実習委員会編『精神保健福祉援助実習の手引き』</p>

参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  配属実習施設・機関の評価(実習指導者が作成した本学所定の実習評価票)および実習日誌の記述内容、巡回指導及び帰校日指導の受講態度をもとに、精神保健福祉実習委員会の合議にて最終的な評価を決定する。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>  フィードバックとして実習指導者と連携を図りながらスーパービジョンを実施する。</p>
質問・相談の受付方法	実習中は、原則として概ね1週間に1回の巡回指導および帰校日指導を行うため、その機会に質問や相談をすること。必要に応じて福祉実習指導センターでも受け付ける。
履修条件	<p><b>【必須要件】</b>  施設見学実習及び参加型体験実習(プレ実習)に参加し、「精神疾患とその治療A・B」「精神保健の課題と支援A・B」「精神保健福祉相談援助の基盤A・B」「精神保健に関する制度とサービスA・B」、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開IA・B」、「精神保健福祉の理論と相談援助の展開IIA」「精神保健福祉援助演習I」「精神障害者の生活支援システム」の単位を取得済みであり、「精神保健福祉援助演習IIA」「精神保健福祉援助実習指導A」「精神保健福祉の理論と相談援助の展開IIB」を履修中であること。</p>
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習時間(210時間以上かつ2か所の実習)は全て実施しなければ履修したことにはならない。</li> <li>2. 実習先での遅刻や早退、欠席は認められない。また、真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、追加実習を実施する。</li> <li>3. 精神保健福祉援助実習のみを履修することはできない。また、精神保健福祉援助実習指導A及び精神保健福祉援助実習指導Bおよび精神保健福祉援助実習指導Cが不可の場合、原則として本科目も不可となる。</li> <li>4. 実習受け入れ状況等によって授業計画が変更になる場合がある。</li> </ol> <p>精神科医療機関において約20年の精神科ソーシャルワーカーとしての経験と保健所におけるアディクション家族教室を8年実践した経験があります(長坂)  地域活動支援センター及び就労継続支援事業(B型)の職員及び管理者としてその立ち上げや業務に12年間従事した経験があります(飛田)  医療機関、地域活動支援センター、相談支援事業所において精神保健福祉業務に15年間従事した経験があります(鶉)</p>
準備学習について	実習に向けた事前学習(施設・機関の理解、実習体験に基づく事例研究の発表方法等)及び事後学習(実習関係書類の作成)に取り組むこと。 実習は、見学の場ではない。実習の意義、目標なくして実習は成り立たない。 実習の手引きやテキストにしっかりと目を通し、その内容を理解したうえで、実習の意義を明確にし、実習先についての十分な事前学習と実習計画の作成を行うこと。 実習は、人間力が問われる。社会人としてのマナーを身につけ、精神保健福祉士としての価値(倫理)を意識して、演習や実習指導の授業に主体的に参加すること。

講義科目名称： 病院実習指導			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩井宏、渡辺央、鶴領太郎			

テーマ	実習前：病院実習に必要な倫理・知識・技術等を身につける 実習後：診療情報管理士としての自己の資質および専門性を確認する
授業計画	<p>第1回 ボランティア活動（社会的活動）の報告・実習及びその意義</p> <p>第2回 実習の流れについて（事前準備→実習→実習事後処理→実習報告会）、個人票の作成について</p> <p>第3回 実習準備：個人票の作成①</p> <p>第4回 実習準備：個人票の作成②</p> <p>第5回 ホスピタリティマナーとコミュニケーション</p> <p>第6回 診療情報管理士の倫理綱領および個人情報保護</p> <p>第7回 実習日誌の記入法（文章作成演習）①</p> <p>第8回 実習日誌の記入法（文章作成演習）②</p> <p>第9回 実習準備：実習機関の事前調査①</p> <p>第10回 実習準備：実習機関の事前調査②</p> <p>第11回 実習準備：実習計画書の作成①</p> <p>第12回 実習準備：実習計画書の作成②</p> <p>第13回 実習事前訪問・実習前日から終了までの流れ（最終チェック）</p> <p>&lt;病院実習&gt;</p> <p>第14回 実習の振り返り・実習報告会資料作成（報告書・発表用スライド）</p> <p>第15回 実習報告会</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 医療現場における体験学習の事前指導および準備を講義形式で行った上で、病院実習に臨む。</p> <p><b>【到達目標】</b> 医療機関における診療管理部門の業務を体験することにより、診療情報管理士の専門性への理解を深める。さらに、実習内容を振り返り、診療情報管理士としての自己の資質を考える。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」を身につけることができる。「学士力」の構成要素である、「倫理観」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：診療情報管理 実習生のためのガイドブック ISBN：978-4-902527-56-8 出版社：ヘルス・システム研究所 著者名：大友達也 価格（税抜）：2,300円</p>
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 提出物・実習報告会を中心に、授業中の態度を考慮して、総合的に評価（提出物・実習報告会 70%、授業中の態度等：30%）</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> 実習前の個人票・実習計画書及び実習後の報告書の添削、病院実習に関する評価票を踏まえた振り返りを行う。</p>
質問・相談の受付方法	原則として授業中に受け付ける。また、適宜、担当教員の研究室を訪ねること。

履修条件	<p>【必須要件】 診療情報管理士実習参加要件を満たしている者。 ボランティアなどの社会的活動に参加していること。 医療情報学演習を受講すること。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院実習に行くための準備の科目です。自覚を持って授業に取り組んでください。</li> <li>・日本病院会指定科目につき、出席率 100%が基本。</li> <li>・6 回以上欠席した場合は、病院実習に参加できない。</li> <li>・遅刻・欠席をした場合や受講態度など、実習参加に不適切と思われる場合は面談を行い、病院実習参加の可否について再審査する。</li> </ul>
準備学習について	<p>授業終了時に指示される次回の予習内容や課題を必ず完成させること（2 時間程度）</p>



講義科目名称： 病院実習			
開講期間： 通年	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 岩井宏、渡辺央、鶴領太郎			

テーマ	実習を通して、診療情報管理士の業務、診療情報管理室の役割についての理解を深める。
授業計画	<p>以下の項目を夏期3週間の実習期間中（8月下旬～9月上旬）に実施する。なお、詳細な実習内容・実習期間は、実習機関により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習医療機関の理解</li> <li>2. 診療記録貸出とアライバイ管理</li> <li>3. 診療記録取り出し・収納・保管</li> <li>4. 診療記録の運搬</li> <li>5. 入院ファイルの準備</li> <li>6. 診療記録の量的点検</li> <li>7. 検査伝票貼付</li> <li>8. 製本作業</li> <li>9. コーディング①（ICD-10）</li> <li>10. コーディング②（ICD-9-CM）</li> <li>11. DPC 入力</li> <li>12. 統計業務と臨床指標（CI）</li> <li>13. 情報の活用と提供</li> <li>14. 診療情報の開示</li> <li>15. 移動（パーキング）と廃棄</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】</p> <p>①医療機関の職員と良好な人間関係を形成し、実習機関における診療情報管理士の役割を理解する。</p> <p>②病院の基本的機能の理解、入院及び外来診療録の具体的管理状況の理解、診療情報管理部門の 病院内で果たしている機能の理解、疾病統計・サマリーなどがどのようなものかを具体的に理解する。</p> <p>③診療録の量的・質的 point 検の方法および編綴の実習、記録の収納・探索、貸出業務を実習する。</p> <p>④疾病名、手術・処理等のコーディング補助業務を実習する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、「学士力」の構成要素であるコミュニケーションスキル、自己管理能力、問題解決能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：診療情報管理 実習生のためのガイドブック ISBN：978-4-902527-56-8 出版社：ヘルス・システム研究所 著者名：大友達也 価格（税抜）：2,300 円</p>
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】実習機関の評価（70%）＋実習記録（30%）</p> <p>【フィードバック方法】実習巡回時に実習指導者と連携を図りながら助言する。</p>

質問・相談の受付方法	適宜、実習巡回担当教員が受け付ける。
履修条件	【必須要件】診療情報管理士受験希望者
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	診療情報管理士の集大成の科目です。静岡福祉大学の学生としての自覚を持って取り組んでください。 遅刻・欠席は認められません。
準備学習について	【予習・復習】予習として次の日の実習における各自の目標の設定を、復習として日々の実習の振り返りと日誌記載を行うこと。

講義科目名称： 発達と老化の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活について理解する。
授業計画	第1回 人間の成長と発達の基礎的理解① ・「成長」「発達」の原則・法則（「成長」「発達」「成熟」の違い） ・生理的発達（スキヤモンの発達曲線/グループワーク）
	第2回 人間の成長と発達の基礎的理解② ・「成長」「発達」の考え方と環境 ・「成長」「発達」に影響する要因
	第3回 発達段階と発達課題① ・発達理論
	第4回 発達段階と発達課題② ・発達理論における発達段階と発達課題
	第5回 発達段階と発達課題③ ・身体的機能の「成長」「発達」 ・発達段階別の特徴的な疾病
	第6回 発達段階と発達課題④ ・心理的機能の発達
	第7回 発達段階と発達課題⑤ ・社会的機能の発達
	第8回 老年期の特徴と発達課題① ・老年期の定義
	第9回 老年期の特徴と発達課題② ・老化とは
	第10回 老年期の特徴と発達課題③ ・老年期の発達課題 ・老年期をめぐる今日的課題
	第11回 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活① ・老年期に経験しやすいライフイベント ・喪失体験と死別への適応 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、老年期の環境に伴うこころとからだの変化について実例を挙げて説明します。
	第12回 高齢者のこころの問題と精神障害 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活② ・身体的な変化と生活への影響
	第13回 老年期の統合失調症とせん妄 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活③ ・心理的な変化と生活への影響

	<p>第 14 回 老年期の日常生活 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活④ ・社会的な変化と生活への影響</p> <p>第 15 回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 命の誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴、発達課題について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解 ISBN : 978-4-8058-5772-4 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な発言を期待します。</p> <p>医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	毎回授業内で予習・復習内容を提示するので、次回授業までに行っておくこと（予習 1 時間、復習 1 時間）。

講義科目名称： 発達と老化の理解B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 水野尚美			

テーマ	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。
授業計画	<p>第1回 老化に伴うところとからだの変化と生活① 加齢による生理機能の全体的な低下、 恒常性を維持する機能の変化（外見・免疫・感覚器）</p> <p>第2回 老化に伴うところとからだの変化と生活② 消化器・循環器の変化</p> <p>第3回 老化に伴うところとからだの変化と生活③ 呼吸器・骨・筋肉・関節・泌尿器の変化</p> <p>第4回 老化に伴うところとからだの変化と生活④ 生殖機能・体温調節機能の変化</p> <p>第5回 老化に伴うところとからだの変化と生活⑤ 記憶機能・認知機能の変化</p> <p>第6回 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 骨格筋系、脳・神経系</p> <p>第7回 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 悪性新生物、循環器系</p> <p>第8回 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 皮膚・感覚器系、歯・口腔疾患</p> <p>第9回 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 呼吸器系、腎・泌尿器系</p> <p>第10回 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 内分泌系、消化器系</p> <p>第11回 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥ 精神疾患、感染症、その他</p> <p>第12回 高齢者と健康① 健康長寿に向けての健康</p> <p>第13回 高齢者と健康② 高齢者の症状・疾患の特徴</p> <p>第14回 保健医療との連携</p> <p>第15回 総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 老化に伴うところとからだの変化および高齢者に多い疾病や健康について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 高齢者の健康に関連する基礎的知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解  ISBN：978-4-8058-5772-4  出版社：中央法規  著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編集  価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：学習状況＝50：50</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後、オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	<b>【希望的要件】</b> 発達と老化の理解Aの単位取得済が望ましい。
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【可】</b> 聴 講 生 <b>【可】</b> キャリアデザイン・カレッジ生 <b>【可】</b>
メッセージ	高齢者に多い骨折などを治療する整形外科の病棟や通所介護での看護師を経験してきました。医学的知識をなるべくわかりやすく説明していきます。積極的な発言を期待します。
準備学習について	<b>【事前学習】</b> 授業内で予習内容を提示します。（1 時間） <b>【事後学習】</b> 授業内で復習内容を提示します。（1 時間）

講義科目名称： 認知症の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	認知症介護の基礎
授業計画	第1回 認知症を取り巻く状況（認知症高齢者の現状と今後）
	第2回 認知症ケアの理念と視点 介護に従事していた際の介護現場の実際に触れながら、認知症ケアの理念と視点について解説します。
	第3回 本人本位の視点ー認知症の人の体験ー 介護に従事していた際の利用者とのかかわりを紹介しながら、認知症の人を主体とする視点について解説します。
	第4回 認知症ケアの歴史
	第5回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識① 認知機能の障害 脳のしくみと記憶・認知症による障害を学びます。
	第6回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識② 認知症の人の心理 認知症の人の体験から考えます。
	第7回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識③ 生活上の障害
	第8回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識④ 対人関係の障害
	第9回 認知症の医学的・心理的側面の基礎的知識⑤ 社会関係の障害
	第10回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①パーソン・センタード・ケア他 生活に及ぼす認知機能の変化と影響をもとに、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、回想法等を学びます。
	第11回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア② アセスメントツール、診断
	第12回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ コミュニケーションの方法（グループワーク） 認知機能障害の事例を用いて認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法を検討する機会とします。
	第13回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④ 認知症の人へのケア（ディスカッション） 認知機能障害の事例を用いて検討した内容を発表し、他者の考えも含め、認知症の人へのかかわり方、コミュニケーションの方法等から認知症の人へのケアについて考える機会とします。
	第14回 予防と認知症の治療
	第15回 総括

健康福祉学科

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。</p> <p>【到達目標】認知症に関する基礎的知識を理解し、認知症のある人の生活における介護の視点を述べるができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」</p> <p>ISBN：978-4-8058-5773-1</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編</p> <p>価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】以下の割合で評価する</p> <p>学期末試験：レポート：授業での積極性＝60：25：15</p> <p>【フィードバック方法】授業内の発表は、口頭にて講評を行う。レポートは、提出後の次の授業内で口頭にてコメントする。学期末試験については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴 講 生 【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>高齢者施設と訪問介護の職員として従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】認知症の人の手記を読み、認知症の「人」の理解に努めること。授業時に課題を提示しますので、次回授業までに行うこと（1時間以上）</p> <p>【事後課題】授業時に課題を提示。次回までに取り組み授業に臨むこと（1時間）</p>



講義科目名称： 認知症の理解B			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 大久保功			

テーマ	認知症のある人の症状とそれに伴う日常生活への影響を考え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについての理解を深めるための基礎的な知識を習得する。
授業計画	<p>第1回 認知症への気づき – パーソン・センタード・ケア –</p> <p>【事前学習】 テキストを読み「パーソン・センタード・ケア」の視点を理解する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 「パーソン・センタード・ケア」の3つのステップを確認する。(1時間)</p>
	<p>第2回 認知症の人の理解とアセスメント</p> <p>【事前学習】 テキストを読み認知症の理解のためのアセスメント・ツールを確認する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 テキスト上の各種のアセスメントシートの特徴を説明できるようにする。(1時間)</p>
	<p>第3回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①</p> <p>– 認知症の人へのかかわりの基本 –</p> <p>介護の実務経験を基に認知症の症状とコミュニケーションの留意点を解説します。</p> <p>【事前学習】 テキストの該当部分を読み、コミュニケーションの基本を理解する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 認知症の人の特性に配慮したコミュニケーション留意点を理解する。(1時間)</p>
	<p>第4回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②</p> <p>– 認知症の人へのさまざまなアプローチ –</p> <p>【事前学習】 テキストを読み「ユマニチュード」の基本的な考え方を理解する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 ユマニチュードの「4つの柱」「5つのステップ」について理解する。(1時間)</p>
	<p>第5回 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③ – 環境づくり –</p> <p>【事前学習】 テキストを読み環境による認知症への影響を考える。(1時間)</p> <p>【事後学習】 認知症ケアにおける環境づくりのポイントを理解する。(1時間)</p>
	<p>第6回 生きることを支える – 認知症の人の終末期医療と介護 –</p> <p>【事前学習】 テキストを読み認知症の人の終末期の特徴を理解する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 認知症の人の終末期ケアの課題を整理する。(1時間)</p>
	<p>第7回 家族への支援① – 介護者自身の体験 –</p> <p>認知症関連の民間支援団体の取り組みを参考に、介護者の現状や思いについて</p>

	<p>触れていきます。</p> <p>【事前学習】テキストを読み、家族が抱える苦しみや思いを考える。(1時間)</p> <p>【事後学習】テキストを再読し、家族を支える介護福祉士の役割を理解する。(1時間)</p>
第8回	<p>家族への支援② –レスパイトケアと介護福祉職が行う家族への支援–</p> <p>具体的なレスパイトケアの内容や方法について考える演習(レスパイトケアの提案に関するプレゼンテーション)を通して、家族の休息と介護の継続について考えていきます。</p> <p>【事前学習】テキストを読み「休まない家族」の背景について捉えておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】テキストを再読し、レスパイトケアについて説明できるようにする。(1時間)</p>
第9回	<p>介護福祉職への支援</p> <p>介護福祉職への支援と離職防止について、演習(プレゼンテーション)を通して考えてみます。</p> <p>【事前学習】介護福祉職の仕事の満足度と離職の要因について考える。(1時間)</p> <p>【事後学習】介護環境における課題と整備について考える。(1時間)</p>
第10回	<p>家族会と介護者教室</p> <p>認知症当事者のメッセージを参考に、本人と家族の理解と民間支援について考えてみます。</p> <p>【事前学習】テキストを読み「家族会」の役割について理解する。(1時間)</p> <p>【事後学習】配布資料を再読し、当事者の思いについて理解を深める。(1時間)</p>
第11回	<p>制度、サービス、機関、地域づくり① –国による認知症施策–</p> <p>【事前学習】テキストを読み国が掲げる認知症施策の種類を知る。(1時間)</p> <p>【事後学習】テキストを再読し国の施策の具体的な内容について整理する。(1時間)</p>
第12回	<p>制度、サービス、機関、地域づくり② –地域における認知症施策–</p> <p>ケアマネジャーとしての実践経験から、地域支援の具体例について解説します。</p> <p>【事前学習】テキストを読み、認知症施策に関する地域支援について知る。(1時間)</p> <p>【事後学習】テキストを再読し、具体的な地域支援の内容について整理する。(1時間)</p>
第13回	<p>多職種連携と協働① –認知症対策と介護保険制度–</p> <p>ケアマネジャーとしての実践経験を基に、介護保険制度における認知症対策について直近の改正内容を含めて解説します。</p> <p>【事前学習】テキストを読み、介護保険制度と認知症対策の概要を捉えておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】テキストを再読し「認知症対応型共同生活介護」および「小規模多機能型居宅介護」についてそれぞれ説明できるようにする。</p>

	<p>(1 時間)</p> <p>第 14 回 多職種連携と協働② ―認知症ケアにたずさわる多職種―</p> <p>【事前学習】テキストを読み多職種連携と協働の基本的な考え方を理解する。</p> <p>(1 時間)</p> <p>【事後学習】テキストを再読し、多職種連携の実践について理解する。</p> <p>(1 時間)</p> <p>第 15 回 総括と重要事項の再確認</p> <p>授業内容を総括し、資格取得試験等に関連して求められる知識についても触れていきます。</p> <p>【事前学習】シラバスを参照しながら各回の授業を振り返り、テキストのチェック項目、ノートへの記載内容、配布資料を整理する。</p> <p>(1 時間)</p> <p>【事後学習】全 15 回の授業内容を整理し最終試験への準備学習を行う。</p> <p>(1 時間以上)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】認知症の症状やケアの方法に関する基礎的な知識を得るとともに、認知症の進行とそれに伴う症状の特徴、本人および家族への支援や配慮、専門職との協働、地域連携などについて理解する。</p> <p>【到達目標】認知症の進行状態とそれに伴う生活への影響について述べるができる。また、本人および家族へのケアとアプローチ、地域や専門職との連携について考えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、および「学士力」の構成要素の一つである、倫理観、コミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解」</p> <p>ISBN：978-4-8058-5773-1</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中、適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>以下の割合で評価する。</p> <p>学期末試験：レポート等の提出物＝80：20</p> <p>期末試験や提出物に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得の指定科目です。介護職員、ケアマネジャーとしての実践経験をふまえ、認知症の症状と生活への影響などについて具体的にお話しします。また、本人や家族の心情に対する理解、多様な専門職や地域における支援者との連携についても触れていきます。テキスト学習の他、認知症に関連した文献、記事などを読むことにより、関心を深めてください。
準備学習について	シラバスの記載事項を参考に事前事後学習の時間を設ける。（各 1 時間・週 2 時間） 認知症のことに関連したニュースや新聞、ネット記事などの情報を入手する。（1 日 10 分・週 1 時間）

講義科目名称： 障害の理解A			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	障害のある人の生活を理解し、介護の視点を習得する
授業計画	第1回 障害の基礎的理解① (障害の概念、障害の法的定義)
	第2回 障害の基礎的理解② (障害者福祉の基本理念)
	第3回 障害の基礎的理解③ (障害者福祉に関する制度、 障害者福祉制度と介護保険制度)
	第4回 視覚障害を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第5回 視覚障害を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第6回 聴覚・言語障害を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第7回 聴覚・言語障害を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第8回 障害を持っている人たちの心理、 肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第9回 肢体不自由(運動機能障がい)を持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援)、 肢体不自由者にとっての補装具 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します
	第10回 知的障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します

	<p>第 11 回 知的障がいを持っている人たちの生活② (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第 12 回 精神障がいを持っている人たちの生活 (障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解、 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第 13 回 内部障がいを持っている人たちの生活① (障害の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第 14 回 内部障がいを持っている人たちの生活② (障害の医学的・心理的側面の基礎的理解) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p> <p>第 15 回 内部障がいを持っている人たちの生活③ (障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援) 介護福祉士としての実務経験に基づき、障がいから派生する生活の困難さと介護上の留意点について、実際のエピソードを交えながら解説します</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】障がいのある人たちの心理や身体状況に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいのある人たちが経験している事柄を理解し、家族等周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ</p> <p>【授業の到達目標】障がいのある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得することができる。障がいのある人の地域での生活を理解し、家族や地域周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「コミュニケーション・スキル」「問題解決力」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 ISBN：978-4-8058-5774-8 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	<p>『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版 *1年次に購入したもの それぞれの障がいと当事者に関する文献などは、講義内で適宜紹介する</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート等提出物=80：20 【フィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける
履修条件	特に設けない
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>

メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。          身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月間介護に従事していました。日常生活を支援する中での障がい者とその家族の思いや状況などを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと(1時間)  <b>【事後学習】</b> 授業で配布したプリントやテキストの該当ページを読み復習しておくこと(1時間)</p>

講義科目名称： 障害の理解B	
開講期間： 後期	配当年： 2年
単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史	
テーマ	障害の特性や生活を理解し、支援方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 高次脳機能障害 (pp. 184-188)</p> <p>第2回 高次脳機能障害の特性に応じた支援 (pp. 188-195)</p> <p>第3回 発達障害 (pp. 197-202) 自閉症スペクトラムについて実務経験に基づいて説明します。</p> <p>第4回 発達障害の特性に応じた支援 (pp. 203-209)</p> <p>第5回 重症心身障害 (pp. 148-153)</p> <p>第6回 重症心身障害の特性に応じた支援 (pp. 153-156)</p> <p>第7回 難病 (pp. 210-215)</p> <p>第8回 難病の特性に応じた支援 (pp. 215-219)</p> <p>第9回 障害がある人に対する介護の基本的視点 (配布資料)</p> <p>第10回 連携と協働 地域のサポート体制 (pp. 224-237)、到達度評価について</p> <p>第11回 社会資源の利用と開発 (配布資料)</p> <p>第12回 連携と協働 チームアプローチ (pp. 238-246)</p> <p>第13回 チームアプローチにおける支援者の役割 (配布資料)</p> <p>第14回 家族への支援 (pp. 250-261)</p> <p>第15回 家族の介護力の評価と介護負担の軽減 (pp. 262-274)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】福祉教育では車椅子体験や視覚障害体験などの疑似体験を通して障害の理解を深める取り組みを行っています。一方で障害があることの大変さは理解できても、障害がある人の気持ちまで理解することは難しい。本講義では、演習やグループワーク、疑似体験などを通して可能な限り障害を把握し、障害児者支援の視点、支援方法などを学びます。</p> <p>【授業の到達目標】様々な障害について理解を深め、支援の基本的な視点や他職種との連携、地域支援などの知識・技術を身につけることを到達目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解</p> <p>ISBN：978-4-8058-5774-8 出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格(税抜)：2,200円</p>
参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】受講態度(ワークシートの記載内容に対する評価)：50%、学期末に実施する到達度評価：50%を評価の素材として総合的に評価します。</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を利用してください。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後やオフィスアワーを活用してください。
履修条件	特にありません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】

メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>受講にあたって調整が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況、テキストの改定等に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p> <p>社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に6年間携わっていました。講義では障害者支援の実際について伝えることができればよいと考えています。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b>事前にテキストや配布資料の該当箇所を読み、わからない用語や制度を調べてください（1時間以上）。</p> <p><b>【事後学習】</b>原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、障害に関する話題（ニュースや記事）、講義やワークシートで取り扱った障害、支援方法などを調べてください（1時間以上）。</p>



講義科目名称： ころとからだのしくみA			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 水野尚美			

テーマ	人間のころとからだのしくみを理解する
授業計画	第1回 「健康」とは（健康の定義・健康寿命・健康づくり）
	第2回 人間の欲求とは（マズローの欲求階層説）
	第3回 ころのしくみの理解（学習・思考・記憶・感情・知能・適応規制）
	第4回 からだのしくみの理解① 神経の構造と機能、骨・筋肉、感覚器
	第5回 からだのしくみの理解② 消化器系、呼吸器系の機能としくみ
	第6回 からだのしくみの理解③ 循環器系、泌尿器系、生殖器系の機能としくみ
	第7回 身じたくに関連したころとからだのしくみ① 骨・関節・神経・筋肉の関係、ボディメカニクス
	第8回 身じたくに関連したころとからだのしくみ② 認知機能・意欲・感覚器・関節可動域の低下が身じたくに及ぼす影響
	第9回 身じたくに関連したころとからだのしくみ③ 感覚器の異常と早期発見
	第10回 移動に関連したころとからだのしくみ①（グループワーク） 姿勢の種類・姿勢のバランス・重心移動・筋力の維持・向上
	第11回 移動に関連したころとからだのしくみ② 内臓器官・移動能力・運動機能・骨密度・意欲低下が移動に及ぼす影響
	第12回 移動に関連したころとからだのしくみ③ 移動における観察ポイント、歩行障害
	第13回 食事に関連したころとからだのしくみ① 食事における観察ポイント、食べる動作に関わる器官や機能
	第14回 食事に関連したころとからだのしくみ② 誤嚥・窒息・経管栄養 ・看護師の体験をもとに解説します。
	第15回 食事に関連したころとからだのしくみ③ 総括 チョークサイン、チアノーゼ、ハイムリック法、背部叩打法
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】身じたく、移動、食事に関する生活支援技術の根拠となる心身のしくみや機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】身じたく、移動、食事に関する生活支援技術に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」  ISBN：978 - 4 - 8058 - 5771 - 7  出版社：中央法規出版  著者名・介護福祉士養成講座編集委員会 編集  価格（税抜）：2,600 円</p>
参考文献	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座 第1巻 人体の構造と機能及び疾病」 「第2巻 心理学理論と心理的支援」 中央法規出版</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：提出物・授業態度・小テスト＝50：50</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワー等で適宜受けつける。</p>
履修条件	<p>特に設けない。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】  聴 講 生 【可】  キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な発言を期待します。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】各回、講義範囲のテキストを読み、概要を把握しておいてください。（1時間）  【事後学習】授業内で復習課題を提示します。（1時間）</p>

講義科目名称： ころとからだのしくみB			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	生活支援技術の根拠となる日常生活に関連したころとからだのしくみを理解する。
授業計画	第1回 入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ① 清潔の意義、入浴の意義、清潔がもたらす効果
	第2回 入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ② 皮膚のしくみ、皮膚の汚れのしくみ、陰部の清潔
	第3回 入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ③ 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
	第4回 入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ④ 変化の気づきと対応についてのディスカッション
	第5回 排泄に関連したころとからだのしくみ① 正常な排泄行為、泌尿器、消化器
	第6回 排泄に関連したころとからだのしくみ② 排尿のしくみ、排尿障害
	第7回 排泄に関連したころとからだのしくみ③ 排便のしくみ、排便障害
	第8回 排泄に関連したころとからだのしくみ④ 変化の気づきと対応についてのディスカッション
	第9回 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ① 睡眠の役割、睡眠を引き起こすしくみ、睡眠のリズム、睡眠時の環境
	第10回 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ② 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
	第11回 休息・睡眠に関連したころとからだのしくみ③ 変化の気づきと対応についてのディスカッション
	第12回 人生の最終段階のケアに関連したころとからだのしくみ① 死の徴候、終末期とは、終末期ケア、全人的痛みとケア
	第13回 人生の最終段階のケアに関連したころとからだのしくみ② 終末期から「死」までの心身機能の変化と特徴
	第14回 人生の最終段階のケアに関連したころとからだのしくみ③ 死（悲嘆）の受容五段階、エリザベス・キューブラー・ロス、グリーフケア
	第15回 人生の最終段階のケアに関連したころとからだのしくみ④ 他職種との連携 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、他職種連携について実例を挙げて説明します。

健康福祉学科

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみを学ぶ。</p> <p>【到達目標】入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアなどの生活支援技術に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ ISBN：978-4-8058-5771-7 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,600円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で適宜受けつける。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>
メッセージ	<p>積極的な発言を期待します。</p> <p>医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	毎回授業内で予習・復習内容を提示するので、次回授業までに行っておくこと（予習1時間、復習1時間）。

講義科目名称： 介護福祉（健康クラス）			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	介護福祉の基本理念と自立支援の考え方
授業計画	<p>第1回 介護とは何か ～介護の概念と対象～</p> <p>第2回 介護の成り立ち</p> <p>第3回 介護の社会化とその背景 ～複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ～</p> <p>第4回 介護の概念の変遷① ～1970年代～1990年代～</p> <p>第5回 介護の概念の変遷② ～2000年代以降～</p> <p>第6回 介護福祉の基本となる理念 ～尊厳の保持と自立支援～</p> <p>第7回 自立に向けた介護 ～自立支援の考え方～</p> <p>第8回 自己決定・自己選択とは</p> <p>第9回 個別ケアの考え方 ～自立支援に向けた個別ケアと介護過程～</p> <p>第10回 ICFの考え方 ～ICFの視点に基づく介護～</p> <p>第11回 自立支援とリハビリテーション</p> <p>第12回 自立支援と介護予防</p> <p>第13回 介護予防サービスの種類と特徴</p> <p>第14回 自立支援に向けた個別ケアの具体的展開① ～特別養護老人ホーム～ 特別養護老人ホームに従事した際に現場で実施された、個別ケアの具体的な展開事例を取り上げます。</p> <p>第15回 自立支援に向けた個別ケアの具体的展開② ～居宅サービス～ 居宅サービスに従事した際に現場で実施された、個別ケアの具体的な展開事例を取り上げます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 介護の概念や対象、理念に対する理解を通じて、自立支援に向けた支援者としての基本的視点を学ぶとともに、個別ケアの重要性についての理解を深める。また介護保険制度で提供される具体的な介護サービスの内容について学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】 介護の概念や対象及びその理念等について理解することができる。また、自立支援と介護保険制度、介護予防サービスの関連性について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 3 『介護の基本Ⅰ』</p> <p>ISBN：978-4-8058-5763-2</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30</p> <p>総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。 特別養護老人ホーム、ディサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	高齢者やその家族が抱える問題について、日頃から興味、関心をもって考えてみてください。 【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）

講義科目名称： 介護の基本A			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	介護を必要とする人の生活理解と生活支援
授業計画	第1回 生活とは何か①（ディスカッション）
	第2回 生活とは何か② 生活の構成要素について学びます
	第3回 生活とは何か③ 生活の特性について学びます
	第4回 介護を必要とする人の理解 介護を必要とする人の生活の多様性を学びます
	第5回 高齢の人たちの暮らしと介護① 施設利用の高齢者の事例から、介護を必要とする人の暮らしを学びます
	第6回 高齢の人たちの暮らしと介護② 認知症の高齢者の事例から、介護を必要とする人の暮らしを学びます
	第7回 障害をもった人たちの暮らしと介護 障害を持つ人の事例から、介護を必要とする人の暮らしを学びます
	第8回 その人らしさとは何か①（グループワーク）
	第9回 その人らしさとは何か② 尊厳を支える介護の視点から「その人らしさ」を構成する要素を学びます
	第10回 介護を必要とする人の生活ニーズの理解（グループワーク）
	第11回 生活のしづらさの理解 高齢者施設や訪問介護に従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、利用者との生活障害の関係性について解説します
	第12回 生活のしづらさに対する支援① 生活のしづらさを解消するための介護福祉士の視点（介護福祉士の役割と機能）について学びます
	第13回 生活のしづらさに対する支援② 家族介護者への支援について学びます
	第14回 自立に向けた介護～自立支援に向けた介護の基本的視点～ 介護福祉職として従事した際に経験した利用者とのかかわりを例に、基本的視点について解説します
	第15回 介護を必要とする人の生活のまとめ
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】生活の特性や介護を必要としている人の理解を通じて、高齢者や障害を持った人の暮らしを把握し、その人らしさや利用者の生活ニーズについて学ぶ。また尊厳を支える介護や自立支援に向けた介護についての視点を理解する。</p> <p>【到達目標】介護福祉士としての介護の基礎を述べることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ  ISBN：978-4-8058-5764-9  出版社：中央法規出版  著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編  価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	<p>講義中適宜紹介する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  学期末試験：授業時の課題、レポート：授業での積極性＝60：25：15  <b>【フィードバック方法】</b>  ・授業時の課題、レポートを回収した次の回の授業内で講評を口頭で伝える。  ・学期末試験は、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。</p>
履修条件	<p><b>【必須要件】</b> 介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b>  聴講生 <b>【不可】</b>  キャリアデザイン・カレッジ生 <b>【不可】</b></p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。  高齢者施設と訪問介護事業所において従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 授業時に、テキスト該当ページと課題を提示します。次回授業までに準備してください（1時間以上）  <b>【事後学習】</b> 授業内容について、履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（1時間）</p>



講義科目名称： 介護の基本B			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	介護福祉士の役割と職業倫理	
授業計画	第1回	介護問題を取り巻く状況と介護福祉士制度 介護福祉士としての実務経験に基づき、介護問題を取り巻く変遷と現状について解説します
	第2回	介護福祉士の役割と機能
	第3回	社会福祉士及び介護福祉士法 実際の介護現場で起こり得る事象をもとに、義務規定の重要性について解説します
	第4回	社会福祉士及び介護福祉士法の関連規定
	第5回	求められる介護福祉士像
	第6回	専門職能団体の役割、専門職能団体としての介護福祉士会
	第7回	介護福祉士の倫理 ～日本介護福祉士会倫理綱領と行動規範～
	第8回	生命倫理について、介護実践における倫理について、 個人情報とプライバシーの保護 介護福祉士としての実務経験に基づき、介護福祉の専門性と倫理、介護福祉士に求められる専門職としての態度について解説します。実際の介護現場で起こり得る事象をもとに、個人情報の取り扱いの重要性について解説します。
	第9回	介護現場における人権侵害、利用者の人権と介護①（身体拘束の禁止） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる介護の様子などを紹介します
	第10回	利用者の人権と介護②（高齢者虐待防止法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる介護の様子などを紹介します
	第11回	利用者の人権と介護③（障害者虐待防止法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる介護の様子などを紹介します
	第12回	利用者の人権と介護④（グループディスカッション） 事例をもとに、グループに分かれて検討します
	第13回	介護現場における倫理的対応の実際①（在宅サービス利用者） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる倫理的な対応について紹介します
	第14回	介護現場における倫理的対応の実際②（施設入所者） 介護福祉士としての実務経験に基づき、実際の介護現場で取り組んでいる倫理的な対応について紹介します
	第15回	利用者の人権を守るために必要なしくみ

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】介護問題を取り巻く状況を通して、介護福祉士が誕生した背景を学ぶとともに、介護福祉士の法的根拠及び専門職能団体としての役割や機能を理解する。また、介護現場における利用者の人権やプライバシー保護を理解し、介護従事者の職業倫理を学ぶ。</p> <p>【授業の到達目標】介護問題を取り巻く状況について理解し、介護福祉士の役割と機能を理解することができる。介護従事者の職業倫理を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」「課題を解決へと導く力」及び「学士力」の構成要素の一つである「倫理観」を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I ISBN：978-4-8058-5763-2 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税抜）：2,200 円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中適宜紹介する</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート＝80：20 【フィードバック方法】学期末試験やレポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける</p>
<p>履修条件</p>	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。 身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員（介護主任など）として6年6ヵ月間介護に従事していました。介護現場における介護福祉士の現実について、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと（1時間） 授業内で配布した資料やテキストの該当ページを読み復習しておくこと（1時間）</p>

講義科目名称： 介護の基本C			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 大久保功			

テーマ	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみと地域連携について学ぶ
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業概要について説明します。学びの視点、習得内容、事前事後学習についてもお伝えします。
	第2回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ① －高齢者のためのフォーマルサービスの概要－ 高齢者の生活を支えるためのフォーマル（社会的）サービスについて解説します。
	第3回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ② －障害者のためのフォーマルサービスの概要－ 障がい者の生活を支えるためのフォーマル（社会的）サービスについて解説します。
	第4回 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③ －生活を支えるインフォーマルサービス－ インフォーマル（私的）サービスの概要、フォーマルサービスとの関係性について解説します。
	第5回 介護保険制度によるサービスの種類 介護保険制度とサービスの概要および近年の改正点等にも触れながら解説していきます。
	第6回 介護保険サービスの利用と費用負担 介護支援専門員の実践経験に基づき、サービス利用と費用負担について解説します。実際に必要とされるサービスと自己負担経費の関係性について考えていきます。
	第7回 介護保険サービスの算定基準、単価、自己負担割合等の試算 介護保険サービスの利用と給付管理について解説します。サービスの種類と単価、費用負担などについて、グループワーク形式で考えて試算してみます。
	第8回 障害者総合支援法によるサービス 障がい者の生活支援、自立支援、地域支援なども含めて解説していきます。
	第9回 インフォーマルサービスの種類 既存のインフォーマルサービスに加え、新たなインフォーマルサービスの可能性について考えるプレゼンテーションを行います。
	第10回 地域連携の意義と目的 介護福祉実践における地域連携の実際と必要性について学んでいきます。
	第11回 地域連携にかかわる機関の理解 関係する諸機関の機能や役割について解説します。

	<p>第 12 回 地域連携にかかわる民間の組織 公的機関と民間組織について整理し、それぞれの機能や特性について解説します。</p> <p>第 13 回 地域連携にかかわる人々 地域連携における実践者とそれぞれの役割について学んでいきます。</p> <p>第 14 回 地域連携の実際 事例に基づき地域連携の実際について考えていきます。</p> <p>第 15 回 総括・重要事項の再確認 授業のまとめとして、公的サービス、民間支援、地域連携などの重要ポイントを再確認し、介護福祉士資格取得に向けて求められる知識について考えてみます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護を必要とする人ための支援と介護実践について学びを深め、地域連携の視点を養う。</p> <p>【到達目標】介護福祉のフォーマルおよびインフォーマルな支援、地域連携を理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、および「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任について身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第 3 巻 介護の基本Ⅰ」 ISBN：978-4-8058-5763-2 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税別）：2,200 円</p> <p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第 4 巻 介護の基本Ⅱ」 ISBN：978-4-8058-5464-9 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編 価格（税別）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>定期試験：レポート提出＝80：20</p> <p>評価に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴 講 生 【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	介護福祉士国家試験受験のための指定科目です。介護支援専門員（ケアマネジャー）としての実践経験を生かし、介護を必要とする人を支える社会のしくみやサービスの種類、地域連携などについて解説します。また、アクティブラーニング授業の一環として、介護保険サービスにおける給付管理の演習や、新たなインフォーマルサービスの可能性について提案する機会などを設けます。日頃からニュースや新聞を通じて、介護を必要とする人の生活とそれに関連した社会の動きなどに関心を持つよう心がけてください。
準備学習について	<p>【事前学習】毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに行っておいてください。（1 時間）</p> <p>【事後学習】テキストの再読、資料の整理、その他提示された復習内容を行ってください。（1 時間）</p>

講義科目名称： 介護の基本D			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	多職種連携と協働
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 多職種連携・協働とは</p> <p>第3回 多職種連携・協働を養成する社会の動き</p> <p>第4回 多職種連携・協働を阻むもの</p> <p>第5回 多職種連携・協働のためのチームづくり</p> <p>第6回 多様な視点と受容を必要とする協働</p> <p>第7回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力① (グループワークによる事例検討)</p> <p>多職種連携・協働について事例に基づくグループワークを行います。</p> <p>第8回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力② (事例検討のプレゼンテーション)</p> <p>多職種連携・協働について事例に基づくグループワークの発表を行います。</p> <p>第9回 多職種連携・協働に求められる基本的な能力③ (ディスカッション) グループワーク発表後にディスカッションを行います。</p> <p>第10回 協働する多職種の機能と役割① ～他福祉職～</p> <p>第11回 協働する多職種の機能と役割② ～保健医療職～</p> <p>第12回 協働する多職種の機能と役割③ ～その他の関連職～</p> <p>第13回 専門職連携実践とは何か</p> <p>第14回 介護現場における多職種連携の実際① ～実態調査から～</p> <p>第15回 介護現場における多職種連携の実際② ～事例を通して～ 複数の生活課題がある世帯の事例を基に、担当者の介護支援専門員としての職務経験をふまえた形で、改善すべき課題の抽出や支援体制の構築などのことについて解説していきます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護実践における協働職種の機能と役割について理解する。そのうえで、多職種との連携の重要性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】介護が必要な人が住み慣れた地域で安心して生活するためにはどのような支援体制が必要であるかを理解する。それに伴い、行政機関、社会福祉協議会、地域包括支援センターの機能と役割について理解できるようにする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、地域を視野に貢献する力及び「学士力」の構成要素の一つである、市民としての社会的責任を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」</p> <p>ISBN：978-4-8058-5464-9</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	試験またはレポート：授業での積極性＝80：20 試験・レポートおよび総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、多職種連携と協働・地域連携について分かりやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）

講義科目名称： 介護の基本E			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	介護現場におけるリスクマネジメント・安全な労働環境
授業計画	<p>第1回 リスクマネジメントとは何か</p> <p>第2回 介護における安全の確保とリスクマネジメント 特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として経験した、介護事故とその予防例について取り上げて解説します。</p> <p>第3回 リスクマネジメントの意義と目的 ～介護現場における事故防止・安全対策～ グループワークによる介護事故のロールプレイ</p> <p>第4回 リスクマネジメントの実際①観察・正確な技術・予測・分析 グループワークによる介護事故の検証</p> <p>第5回 リスクマネジメントの実際②セーフティマネジメントと緊急連絡システム グループワークによる介護事故への予防策の検討</p> <p>第6回 リスクマネジメントの実際③転倒、転落防止・骨折予防対策 グループワークによる介護事故及び予防策のまとめ</p> <p>第7回 リスクマネジメントの実際④利用者の生活の安全対策 リスクマネジメントの学びに関するプレゼンテーション</p> <p>第8回 感染症対策① ～介護福祉職に必要な感染に関する知識～</p> <p>第9回 感染症対策② ～感染予防のための観察ポイント～</p> <p>第10回 介護従事者の安全 ～介護従事者の安全な労働環境～</p> <p>第11回 健康管理の意義と目的</p> <p>第12回 健康管理に必要な知識と技術</p> <p>第13回 心身の健康管理① ～ストレス・燃え尽き症候群～</p> <p>第14回 心身の健康管理② ～腰痛予防対策～</p> <p>第15回 安心して働ける環境づくり</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護現場に潜む危険因子を理解するとともに、それらへの対策を講じることができる専門職としての技術を養うことを目的とする。また、心身ともに健康で末永く働き続けるために必要な、安心して働ける職場環境づくりへの知識と技術について習得していく。グループワーク及びプレゼンテーション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】介護現場における危険の予測および対応策を示すことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第4巻 介護の基本Ⅱ」</p> <p>ISBN：978-4-8058-5464-9</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介

成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	課題(レポート)：授業での積極性＝70：30 課題および総合評価に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。(1時間) 【事後学習】毎回の授業内容やグループワークの取り組みについて、授業時間外で振り返りを行うようにしてください。(1時間)



講義科目名称： コミュニケーション技術A			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 大久保功			

テーマ	介護実践に必要とされる基本的なコミュニケーション能力を身につける。
授業計画	第1回 介護を必要とする人とのコミュニケーション 本人の状況の理解、支援関係の構築、意思決定支援など、介護を必要とする人とその家族に対するコミュニケーションの基本事項について、今後の学びの視点をふまえて解説する
	第2回 介護におけるコミュニケーションの対象
	第3回 援助関係とコミュニケーション 介護福祉士、介護支援専門員として経験を基に、援助関係構築のための原則について解説する
	第4回 コミュニケーション態度に関する基本技術
	第5回 質問の技法・対人距離 グループワークを通して、質問の方法や対人距離について具体的に学ぶ
	第6回 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
	第7回 目的別のコミュニケーション技術 －意思決定を支援するためのコミュニケーション－
	第8回 集団におけるコミュニケーション技術
	第9回 介護における家族とのコミュニケーション ー家族との関係づくりー 介護福祉士としての実践経験をふまえ、家族とのコミュニケーションの事例を紹介する
	第10回 家族の気持ちや意向の確認 ー専門職への期待や望みー
	第11回 利用者および家族との情報共有と関係調整ー複数の家族の存在と意向調整ー 介護支援専門員の実践経験に基づく具体的な意向調整の事例を紹介する
	第12回 家族への助言・指導・調整
	第13回 利用者と家族の意向の調整
	第14回 家族関係と介護ストレスへの対応
	第15回 総括・授業のまとめ 授業内容を振り返り、利用者や家族とのよりよいコミュニケーションの構築について考える
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護を必要とする人の理解、支援関係の構築、意思決定支援などの基本的なコミュニケーション技法を学ぶ。また、家族の状況・生活場面の違いによる適切なコミュニケーション方法などを理解する。</p> <p>【到達目標】介護を必要とする人の状況を理解した、コミュニケーションの基本的な技術を習得する。また、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、および「学士力」の構成要素の一つであるコミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術」  ISBN：978-4-8058-5765-6  出版社：中央法規出版  著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編  価格（税込）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>以下の割合で評価する。  学期末試験：レポート等の提出物＝80：20  期末試験や提出物に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】  聴講生【不可】  キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	介護福祉士養成のための指定科目です。介護福祉士、介護支援専門員としての経験をもとに、介護実践における円滑なコミュニケーションの秘訣や留意点などをお話しできればと思います。
準備学習について	<p>【事前学習】毎回の授業内で予習内容を提示します。次回の授業までに行っておいてください。（1時間）  【事後学習】テキストの再読、配布資料の整理、その他提示された復習内容について行ってください（1時間）</p>

講義科目名称： コミュニケーション技術B			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 大久保功			

テーマ	障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する 介護におけるチームのコミュニケーションを理解する
授業計画	<p>第1回 障害の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーションに影響する心身の障害についての概要</p> <p>第2回 視覚障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第3回 聴覚障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第4回 構音障害・失語症のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第5回 認知症の人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第6回 うつ病・抑うつ状態・統合失調症の人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第7回 知的障害・発達障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第8回 高次脳機能障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第9回 重度心身障害のある人に対するコミュニケーション技術</p> <p>第10回 介護におけるチームのコミュニケーション 介護福祉士の実践経験を基に、チーム力を高めるコミュニケーションの意義について解説</p> <p>第11回 報告・連絡・相談の技術</p> <p>第12回 記録の技術</p> <p>第13回 会議・議事進行・説明の技術 会議の進行、説明の技術と共に、プレゼンテーションの基礎や工夫点などを学ぶ</p> <p>第14回 事例検討に関する技術 ケアマネジャー業務の実践経験に基づき、介護現場における事例検討の方法などについて解説</p> <p>第15回 情報活用と管理のための技術 個人情報の保護と適切な活用についての理解</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】利用者の特性に応じたコミュニケーション技術、介護現場におけるチームの機能を生かすためのコミュニケーションのあり方などについて解説する。</p> <p>【到達目標】障害の特性を理解し、適切なコミュニケーション技術を習得する。また、チームケアにおけるコミュニケーションの意義を理解し、実践的な報告、連絡、相談、記録、会議などの技法を習得する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである主体的に学習する力、および「学士力」の構成要素の一つであるコミュニケーション・スキルを身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第5巻 コミュニケーション技術」（1年次に使用したもの）</p> <p>ISBN：978-4-8058-5765-6</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>

参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	学年末試験：レポート等の提出物=80：20 評価に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。担当者は介護福祉士、ケアマネジャーなどの職種における実践経験を持っております。心身の状態や障がいの特性に配慮したコミュニケーションの方法について、具体的な事例を交えてわかりやすく解説できればと思います。
準備学習について	【事前学習】授業内で予習内容を提示します。次回の授業までに行っておいてください。（1時間） 【事後学習】テキストの再読、配布資料の整理など提示された復習内容について行ってください。（1時間）

講義科目名称： 生活支援技術A			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 水野尚美			

テーマ	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。
授業計画	<p>第1回 生活とは何か（グループワーク）</p> <p>第2回 生活を理解する視点（ライフサイクルと生活の豊かさ）</p> <p>第3回 生活支援の基本的な考え方①生活の場の特徴と構成要素</p> <p>第4回 生活支援の基本的な考え方②生活形成のプロセスと生活経営</p> <p>第5回 生活支援の基本的な考え方③生活支援の理解</p> <p>第6回 生活支援の基本的な考え方④生活と尊厳の保持</p> <p>第7回 生活支援の必要な人の理解</p> <p>第8回 ICFの視点を生活支援に活かすことの意義、ICFの視点に基づくアセスメント</p> <p>第9回 生活支援とチームアプローチ①生活支援におけるチームアプローチの重要性</p> <p>第10回 生活支援とチームアプローチ②ライフステージとチームアプローチのあり方</p> <p>第11回 生活の再構築と心身の活性化のための支援</p> <p>第12回 生活支援と介護予防①生活支援における介護予防の視点</p> <p>第13回 生活支援と介護予防②生活支援と福祉用具の意義と活用</p> <p>第14回 生活支援のあり方について考える①生活の豊かさと生活支援</p> <p>第15回 生活支援のあり方について考える②総括</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】介護を必要とする人の生活スタイル、生活経験、生活環境を含め、利用者の生活全体をとらえ「生活」を支援することを学ぶ。</p> <p>【到達目標】生活とは何か理解できる。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援の方法について提示できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I</p> <p>ISBN：978-4-8058-5766-3</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>定期試験：小テスト・レポート：授業での積極性＝50：25：25</p> <p>期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。看護師としての病棟勤務経験をもとに生活を多角的に考えていく時間になりたいと思っています。積極的な発言を期待します。

準備学習について	日頃からニュースや新聞を通じて、介護を必要とする人の生活に関心を持ってください。 【事前学習】授業内で予習内容を提示します。(1時間) 【事後学習】授業内で復習課題を提示します。(1時間)
----------	--

講義科目名称： 生活支援技術B			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	自立に向けた居住環境の整備
授業計画	第1回 自立に向けた居住環境の整備（居住環境を整備することの意義と目的） 住環境、生活空間、安全性の向上などのキーワードから自立に向けた居住環境の整備について学びます。
	第2回 住まいの役割（グループワーク） 住まいの役割と理想的な居住環境について考えます。
	第3回 生活空間と介護（プレゼンテーション） 高齢者や障がい者に配慮した生活空間について考えます。
	第4回 居住環境のアセスメント 暮らしにおける環境問題を捉えた上で、健康な生活を送るための適切な住環境の整備について考えます。
	第5回 ICFの視点に基づく利用者の全体像のアセスメント ICFの考え方について解説します。その上で健康な状態を維持することや、障害のある状態でも安心して生活することを実現するための住環境の整備について考えます。
	第6回 安全で心地よい生活の場づくり 居室整備、寝具の清潔維持について触れていきます。シーツ交換の実技などを含めた生活の場づくりについて学びます。
	第7回 利用者に配慮した住宅の各所の空間構成 ① ～玄関・リビング・移動空間など～ 日常生活に多くの時間活用されるリビングや家屋の出入りに必要な玄関まわりの安全について具体的な広さや間取りのことも含めて捉えていきます。
	第8回 利用者に配慮した住宅の各所の空間構成 ②～浴室・トイレ・水回りなど～ 浴室やトイレの適切な広さや安全性の確保について学びます。
	第9回 住まいの管理 適切な温度、湿度、通気、家屋の老朽化やカビ対策など、一連の住まいの管理について学びます。
	第10回 安全性の確保 居宅生活において起こり得る災害リスクについて考え、安全性の確保について捉えていきます。
	第11回 住宅のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン 事例に基づき、グループワークにてバリアフリー対策について考えて行きます。住宅改修の必要な点やその優先順位などを検討します。
	第12回 福祉用具の意義と活用
	第13回 集団生活の場における工夫と留意点①～高齢者施設における住環境の変遷～

	<p>高齢者施設の変遷について解説し、これまでに取り組まれてきた工夫や配慮面を確認しながら、現代から今後に向けての高齢者施設の方向性を考えます。</p> <p>第 14 回 集団生活の場における工夫と留意点② ～ユニット型施設・グループホームの特徴～</p> <p>第 15 回 小集団生活の場面における住環境の特徴や工夫点などについて学びます。 他職種の役割と協働 介護実践における住環境の整備に伴い、関連する職種との連携について学びます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】生活者の身体状態や介護の必要性について考慮した、住環境の整備についての学びを深める。</p> <p>【到達目標】日常生活における移動や生活動作を行う上での困難さ、事故リスク、快適さを阻害する要因などを理解したうえで、状況に応じた適切な住環境のあり方について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I ISBN：978-4-8058-5766-3 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末試験：小テストあるいはレポート：授業での積極性=60：25：15</p> <p>【フィードバック方法】 ・授業内課題、レポートを回収した次の回の授業内に講評を口頭にて行う。 ・学期末試験、成績評価については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。 高齢者施設、訪問介護に従事した経験を交えながら、住まいのあり方やより良い住環境の整備についてお話しできればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】毎回の授業内で予習内容を提示します。次回の授業までに行っておいてください。（1時間） 【事後学習】授業時に触れたテキストの参照頁の再読、配布資料の整理、その他提示された復習内容について行ってください。（1時間）</p>



講義科目名称： 生活支援技術C			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	尊厳を支える介護の観点から、安全確保と自立に向けた身じたく・衣服の着脱等に関する介護を学ぶ
授業計画	第1回 自立に向けた身じたくの介護（身じたくの意義と目的）、 ICFの視点に基づくアセスメント 介護福祉士の実務経験に基づき、より実践的なアセスメントの視点について解説します
	第2回 生活習慣と装いの楽しみを支える介護について
	第3回 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用① 整容(洗面、整髪) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第4回 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用② 整容(ひげの手入れ、化粧) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第5回 「医行為でないと考えられる行為」とは、 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用③ 整容(爪) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第6回 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用④ 軟膏塗布、湿布貼付、点眼 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第7回 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用⑤ 口腔ケア 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第8回 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用⑥ 口腔リハビリテーション・口腔体操 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第9回 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用⑦ 口腔ケア（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します

	<p>第 10 回 衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用① 衣服の着脱 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します</p> <p>第 11 回 衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用② 衣服の着脱(座位での介助) (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します</p> <p>第 12 回 衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法、福祉用具の意義と活用③ 衣服の着脱(臥位での介助) (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します</p> <p>第 13 回 利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助 (技術確認)① 前半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します</p> <p>第 14 回 利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助 (技術確認)② 後半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導します</p> <p>第 15 回 他職種の役割と協働・連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】身だしなみや衣服を整えるという生活行為は、社会的心理的にも影響を及ぼす大切なものである。利用者の心身の状態を理解し、その人に合わせた身じたくや衣服の着脱の方法についての知識と技術を習得する</p> <p>【到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、身じたくに関する ADL の自立を支援するための生活支援技術の基本を習得することができる。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」「問題解決力」「チームワーク、リーダーシップ」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ ISBN : 978-4-8058-5767-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格(税抜)：2,200 円</p>
参考文献	<p>『最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版 *「こころとからだのしくみ A・B」(1 年次前・後期科目)の使用テキスト 講義中適宜紹介する</p>
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート：技術確認＝50：40：10 【フィードバック方法】演習後の振り返りレポートは、次回の授業内でコメントをつけて返却する。学期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>

メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>介護実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみに整えてください。</p> <p>身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6カ月間介護に従事していました。生活支援とはどういうものなのか、介助や支援を受けるとは          どのような気持ちなのかを、授業の中でお伝えしていきたいと思います。</p>
準備学習について	<p>毎回の授業内で予習内容を提示する。次回までに行っておくこと(1時間)</p> <p>授業において演習した生活支援技術とそれに関連する技術について、復習と自主練習を行うこと(1時間)</p>

講義科目名称： 生活支援技術D			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	自立に向けた移動の介護
授業計画	第1回 自立に向けた移動の介護（移動の意義と目的） ～高齢者施設や通所介護に従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に解説します～
	第2回 ICFの視点に基づくアセスメント
	第3回 安全で気兼ねなく動けることを支える介護
	第4回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ① ボディメカニクス（ディスカッション）
	第5回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ② 体位変換
	第6回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ③ 臥位から座位
	第7回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ④ 安楽な体位の保持
	第8回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑤ 座位から立位
	第9回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑥ 歩行介助
	第10回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑦ 車いすへの移乗
	第11回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑧ 車いすの移動
	第12回 安全で的確な移動・移乗の介助の技法、福祉用具の意義と活用 ⑨ ストレッチャーへの移乗と移動介助
	第13回 利用者の状態・状況に応じた介護①（技術確認・座位から立位） ～高齢者施設、通所介護の職員として従事した経験から、基礎に加え介護の現場で求められる技術を確認します～
	第14回 利用者の状態・状況に応じた介護②（技術確認・歩行介助） ～高齢者施設、通所介護の職員として従事した経験から、基礎に加え介護の現場で求められる技術を確認します～
	第15回 他職種の役割と協働・連携（グループワーク）
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】人間にとっての移動の意義や目的を考え、根拠に基づいた介護の方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、移動に関するADLの自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I  ISBN：978-4-8058-5766-3  出版社：中央法規出版  著者名：介護福祉士養成講座編集委員会  価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テスト：技術確認：授業での積極性＝40：40：20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストと技術確認を行った次の授業内で講評を口頭で伝える。</li> <li>・総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】  聴講生【不可】  キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。  実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみに整えてください。技術の習得には、復習が必要です。空き時間を利用し、主体的に技術を習得してください。  高齢者施設と通所介護の職員として10年従事したことがあります。授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】次回の授業内容をシラバスで確認し、テキストの該当部分に目を通しイメージを持って授業に参加してください。（30分）  【事後学習】授業で実施した各生活支援技術について、実習室の空き時間を使って練習してください。（90分）</p>

講義科目名称： 生活支援技術E			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	自立に向けた食事の介護
授業計画	第1回 自立に向けた食事の介護（グループワーク）
	第2回 食事の意義と目的について
	第3回 自立支援を支える食事の介助とは（グループワーク）
	第4回 食事におけるアセスメント（グループワーク）
	第5回 ICFの視点に基づくアセスメント（プレゼンテーション）
	第6回 おいしく食べることを支える介護とは 高齢者施設、訪問介護の職員として従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、「おいしく食べる」ことを支える介護について解説します
	第7回 食事における介護技術とは
	第8回 食事の介助、福祉用具の意義と活用 演習を行い、食事介助の方法と福祉用具の活用について学びます
	第9回 安全で的確な食事の介助の方法 様々な食事形態の食事から安全に介助する方法を学びます
	第10回 誤嚥・窒息防止のための日常生活の留意点 高齢者施設、訪問介護の職員として従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に介助時における留意点を解説します。演習から留意点を学びます
	第11回 脱水予防のための日常生活の留意点 高齢者施設、訪問介護の職員として従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、脱水予防のための留意点を解説します。演習から留意点を学びます
	第12回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点（技術確認） 基礎に加え介護の現場で求められる介助技術を確認します
	第13回 機能低下している人の介助の留意点（技術確認） 基礎に加え介護の現場で求められる介助技術を確認します
	第14回 認知症の人の介助の留意点（グループワーク） 認知症の人の食事介助や留意点について学びます
	第15回 多職種との連携、役割と協働について 食事にかかわる職種の役割理解と連携、協働について学びます
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】食事に関する意義と目的、健康維持や楽しく食事をするための食事介助の方法を学ぶ。また、誤嚥防止や脱水予防を理解する。</p> <p>【到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、食事に関するADLの自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>

テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ ISBN：978-4-8058-5767-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200 円</p> <p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ ISBN：978-4-8058-5768-7 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 学期末試験：課題・技術確認＝50：50</p> <p><b>【フィードバック方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出、技術確認を行った次の授業内で口頭にて講評を行う。</li> <li>・学期末試験、成績評価については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。
履修条件	<b>【必須要件】</b> 介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b></p> <p>聴 講 生 <b>【不可】</b></p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生 <b>【不可】</b></p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみに整えてください。技術の習得には、復習が必要です。空き時間を利用し、主体的に技術を習得してください。</p> <p>高齢者施設と訪問介護事業所の職員として従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容（技術）についても触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b> 生活の中で「食べる」ことの意味を考えること。授業後に課題を提示しますので、課題に取り組み次回の授業に臨んでください。（1時間）</p> <p><b>【事後学習】</b> 授業後は配布資料等を読み返し理解を深めること。演習で行った技術の練習をすること。（1時間以上）</p>

講義科目名称： 生活支援技術F			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	尊厳を支える介護の観点から、自立に向けた入浴・清潔保持の介護の方法を学ぶ
授業計画	第1回 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(入浴・清潔保持の意義と目的)、 ICFの視点に基づくアセスメント、爽快感と安楽を支える介護 介護福祉士としての実務経験に基づき、より実践的なアセスメントの視点 について解説します
	第2回 入浴・清潔保持の介護における緊急時の対応について、 内部障害を持っている人たちへの入浴介助時の留意点
	第3回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用① 個別浴(個浴)／目・鼻・耳の清潔保持／陰部清拭 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について解説します
	第4回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用② 特殊浴槽(特殊浴(機械浴))、シャワー浴 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について解説します
	第5回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用③ 個別浴(個浴) (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について実技指導を行います
	第6回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用④ 特殊浴・シャワー浴 (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について実技指導を行います
	第7回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑤ 手浴 (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について実技指導を行います
	第8回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑥ 足浴 (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について実技指導を行います
	第9回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑦ 洗髪 (実技) 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助 方法について実技指導を行います



	<p>第 10 回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑧ 洗髪（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 11 回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑨ 全身清拭（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 12 回 安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑩ 全身清拭（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 13 回 利用者の状態・状況に応じた介助（技術確認）① 前半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 14 回 利用者の状態・状況に応じた介助（技術確認）② 後半グループ 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 15 回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、他職種の役割と協働・連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】入浴・清潔保持に関する意義と目的を学び、爽快感があり安楽な入浴・清潔保持の介助の方法を学ぶ。利用者の状態・状況に応じた安全で的確な入浴・清潔保持の生活支援技術を習得する</p> <p>【授業の到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、入浴・清潔保持に関する ADL の自立を支援するための生活支援技術の基本を習得することができる。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」「問題解決力」「チームワーク、リーダーシップ」を身につけることができる</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ ISBN：978-4-8058-5767-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート：技術確認＝50：40：10</p> <p>【フィードバック方法】演習後の振り返りレポートは、次回の授業内でコメントをつけて返却する。学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>

メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>介護実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみを整えてください。</p> <p>身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員(介護主任など)として6年6ヵ月間介護に従事していました。生活支援とはどういうものなのか、介助や支援を受けるとは          どのような気持ちなのかを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。</p>
準備学習について	<p>毎回授業内で予習内容を提示する。次回までに行っておくこと(1時間)</p> <p>授業において演習した生活支援技術とそれに関連する技術について、復習と自主練習を行うこと(1時間)</p>

講義科目名称： 生活支援技術G			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 木下寿恵			

テーマ	尊厳を支える介護の観点から、自立に向けた排泄介護を学ぶ
授業計画	第1回 自立に向けた排泄の介護（排泄の意義と目的）、 ICFの視点に基づくアセスメント、気持ちよい排泄を支える介護 介護福祉士としての実務経験に基づき、より実践的なアセスメントの視点について解説します
	第2回 排泄のメカニズムと排泄障害①（正常な排泄と排泄障害）
	第3回 排泄のメカニズムと排泄障害②（排尿障害の原因）
	第4回 排泄のメカニズムと排泄障害③（排尿障害の対処法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第5回 排泄のメカニズムと排泄障害④（排便に関する障害の原因）
	第6回 排泄のメカニズムと排泄障害⑤（排便に関する障害の対処法） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第7回 福祉用具の意義と活用（自己導尿カテーテル使用時の介助、 浣腸・座薬挿入方法と介助、ストーマの介助） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について説明します
	第8回 安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用① トイレ・ポータブルトイレでの介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います
	第9回 安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用② オムツ・パッド交換の介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います
	第10回 安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用③ オムツ・パッド交換の介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います
	第11回 安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用④ 尿器・差し込み便器を使用した介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います

	<p>第 12 回 安全で的確な排泄の介助の技法、福祉用具の意義と活用⑤ 尿器・差し込み便器を使用した介助（実技） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 13 回 利用者の状態・状況に応じた介助（技術確認） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 14 回 利用者の状態・状況に応じた介助（技術確認） 介護福祉士としての実務経験に基づき、利用者の状態・状況に応じた介助方法について実技指導を行います</p> <p>第 15 回 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、他職種の役割と協働・連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】人間にとっての排泄の意義と目的を理解し、羞恥心に配慮し快適な排泄を支える介護の方法を学ぶ。利用者の状態・状況に応じた安全で的確な排泄の生活支援技術を習得する。</p> <p>【授業の到達目標】利用者の能力を活用・発揮し、排泄に関する ADL の自立を支援するための生活支援技術の基本を習得することができる。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」「問題解決力」「チームワーク、リーダーシップ」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ *1 年次に購入したもの ISBN：978-4-8058-5767-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	『最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規出版 *1 年次に購入したものの講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】学期末試験：レポート：技術確認＝50：40：10</p> <p>【フィードバック方法】演習後の振り返りレポートは、次回の授業内でコメントをつけて返却する。学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験の指定科目です。</p> <p>介護実習室での演習では、演習にふさわしい服装、履物、身だしなみを整えてください。</p> <p>身体障害者療護施設と障害者支援施設において、生活支援員（介護主任など）として6年6ヵ月間介護に従事していました。生活支援とはどういうものなのか、介助や支援を受けるとはどういう気持ちなのかを、授業の中でお伝えしていきたいと考えています。</p>
準備学習について	<p>毎回授業内で予習内容を提示する。次回までに行っておくこと（1 時間）</p> <p>授業において演習した生活支援技術とそれに関連する技術について、復習と自主練習を行うこと（1 時間）</p>

講義科目名称： 生活支援技術J			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	終末期における介護
授業計画	<p>第1回 人生の最終段階における介護</p> <p>第2回 終末期ケアとは</p> <p>第3回 終末期における介護の意義と目的</p> <p>第4回 終末期におけるアセスメント</p> <p>第5回 終末期の経過に沿った支援</p> <p>第6回 人生の最終段階にある人の死に対する心理の理解</p> <p>第7回 チームケアの実践①医療との連携 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、医療と介護の連携について実例を挙げて説明します。</p> <p>第8回 チームケアの実践②終末期における介護 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、終末期介護について実例を挙げて説明します。</p> <p>第9回 チームケアの実践③臨終時の対応 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、臨終期の対応について実例を挙げて説明します。</p> <p>第10回 チームケアの実践④施設での看取り グループワークによるディスカッション</p> <p>第11回 予測されない死</p> <p>第12回 人生の最終段階にある人と家族への支援の視点</p> <p>第13回 人生の最終段階にある人と家族への支援（最期の別れへの配慮）</p> <p>第14回 グリーフケア</p> <p>第15回 他職種の役割と協働・連携 ※医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、他職種との協働・連携について実例を挙げて説明します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】 人生の最終段階における介護とは何かを理解し、死を見つめながらも生きている人々の日々を意味あるものにするために、介護福祉士としてどのような役割があるのかを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、人類の文化、社会と自然に関する知識の理解、問題解決力、生涯学習力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ</p> <p>ISBN : 978-4-8058-5767-0</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>

参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができると思います。
準備学習について	日頃から終末期について関心を持ち、新聞やニュースなどを通して終末期ケアにおける課題や可能性について考えること。 毎回授業内で予習・復習内容を提示するので、次回授業までに行っておくこと（予習1時間、復習1時間）。

講義科目名称： 介護過程A			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	介護過程の理解と展開方法
授業計画	<p>第1回 介護過程とは</p> <p>第2回 介護過程の意義と基礎的理解</p> <p>第3回 介護過程の展開の基本視点</p> <p>第4回 生活支援の考え方と介護過程の必要性 本人の望む生活の実現に向けた生活課題の分析</p> <p>第5回 具体的生活場面からの介護過程（グループワーク）</p> <p>第6回 介護過程とニーズ 訪問介護の職員として従事した際に経験した利用者とのエピソードを例に、ニーズの捉え方について解説します</p> <p>第7回 介護過程を展開するための一連のプロセス</p> <p>第8回 介護過程の全体像 高齢者施設、訪問介護の職員として従事した際に経験した、個別援助計画書や訪問介護計画書等を例に解説します</p> <p>第9回 根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程の展開</p> <p>第10回 介護過程の展開① アセスメントとは、情報収集</p> <p>第11回 介護過程の展開② 情報分析・解釈、課題の明確化</p> <p>第12回 介護過程の展開③ 介護計画の立案、目標</p> <p>第13回 介護過程の展開④ 支援内容と方法、評価</p> <p>第14回 課題や目標の理解と明確化</p> <p>第15回 介護計画の立案、実施時の留意点</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】利用者一人ひとりの身体状況や生活状況に応じた、課題を理解し目標を定め、求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要であることを学ぶ。</p> <p>【到達目標】介護過程の展開方法の基本的な視点を述べることができる。他科目で学んだ理論、知識、技術を統合し展開できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9 介護過程</p> <p>ISBN：978-4-8058-5769-4</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 学期末試験：課題の提出と完成度＝50：50</p> <p>【フィードバック方法】 ・課題、学期末試験、成績評価については、学内制度（成績成績問い合わせ制度）を通じて行う。</p>

質問・相談の受付方法	適宜受け付けます。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士国家試験の指定科目です。 講義科目ですが、ワークシート等を使用し、個人・グループワークの演習も行います。 よって①時間厳守 ②授業内容に関すること以外の私語厳禁 ③ワークシートの管理 以上の点に留意してください。 高齢者施設と訪問介護事業所（サービス提供責任者）で従事した経験を、授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。
準備学習について	【事前学習】 授業時にテキスト該当ページを伝えますので、一読し次の授業に臨むこと（1時間） 【事後学習】 授業時に課題を提示しますので、次の授業までに作成し授業に臨むこと（1時間以上）



講義科目名称： 介護過程B			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	介護過程の実践的展開
授業計画	<p>第1回 自立に向けた介護過程の展開について</p> <p>第2回 事例からの検討①在宅生活と施設生活</p> <p>第3回 事例からの検討②家族の支援と一人暮らし</p> <p>第4回 事例からの検討③自立と寝たきり</p> <p>第5回 介護過程の実践的展開について 介護支援専門員として実際に経験した、介護過程の展開事例（ケアプラン）を紹介し解説します。</p> <p>第6回 介護過程の展開に必要な記録と記録方法</p> <p>第7回 記録の書き方と基本知識</p> <p>第8回 利用者の状況、状態に応じた介護過程 事例を通じたグループワークによる介護計画の立案</p> <p>第9回 自立に向けた介護過程の事例からの検討 介護計画の内容に関するディスカッション</p> <p>第10回 自立に向けた介護過程の展開①アセスメント</p> <p>第11回 自立に向けた介護過程の展開②介護計画の立案</p> <p>第12回 自立に向けた介護過程の展開③介護計画の実施</p> <p>第13回 自立に向けた介護過程の展開④介護計画の実施状況の把握と記録</p> <p>第14回 自立に向けた介護過程の展開⑤介護計画の評価と修正</p> <p>第15回 事例に学ぶ介護過程のまとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】「介護過程A」の基礎的知識を活用し、利用者の様々な状態・状況に応じた介護過程の展開を理解した上で、自立に向けた実践的な介護過程の展開技術を学ぶ。グループワーク及びディスカッション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p>【授業の到達目標】利用者の生活理解と必要なニーズの把握ができる。様々な事例に対応して、利用者状況に応じ、自立に向けた介護過程の展開を行うことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」 ※「介護過程A」と同じもの ISBN：978-4-8058-5769-4</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30</p> <p>総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。

履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生。 原則「介護過程 A」の単位取得済の学生。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。特別養護老人ホーム、ディサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】直前の授業で行った内容の復習を1時間程度行って次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業内容やグループワークの取り組みについて、授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1時間）

講義科目名称： 介護過程C			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 大久保功			

テーマ	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開
授業計画	第1回 オリエンテーション 介護過程の展開を再確認します。
	第2回 ケアマネジメントの全体像／介護過程とケアマネジメントの関係性 介護福祉職が担当する「介護計画」、介護支援専門員（ケアマネジャー）が担当する「ケアマネジメント」、それぞれの役割の違いについて解説します。
	第3回 各事業所におけるさまざまなアプローチ
	第4回 居宅サービスにおけるチームアプローチの意義と介護福祉士の役割 介護福祉士および介護支援専門員（ケアマネジャー）としての経験をもとに、チームアプローチにおいて介護福祉士に期待される実践的な役割について解説します。
	第5回 介護過程とチームアプローチ －協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性－ 事例を提示しながら具体的な学びを深めます。
	第6回 関係する人々との連携 －チームとしての介護過程の展開－ 介護過程の展開に関わる関係職種、専門職以外の支援者等との協働と連携について解説します。
	第7回 利用者の生活と介護過程① －利用者の生活状況の把握－
	第8回 利用者の生活と介護過程② －生活課題の明確化－
	第9回 利用者の生活と介護過程③ －居宅サービス計画の策定－
	第10回 利用者の生活と介護過程④ －サービス担当者会議の実施－ 事例に基づきグループワークによる模擬サービス担当者会議を実施します。
	第11回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開① －情報の共有・アセスメント－ グループワークによる事例検討を実施します。
	第12回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開② －訪問介護計画の立案－ グループワークによる事例検討を実施します。
	第13回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③ －訪問介護計画の実施－ グループワークによる成果をプレゼンテーションします。
	第14回 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開④ －訪問介護計画の評価－
	第15回 地域生活支援における介護過程のまとめ

健康福祉学科

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】利用者のさまざまな生活に着目し、アセスメント、計画の立案、実施、評価といった一連の介護過程の展開について、事例を通して学習する。</p> <p>【授業の到達目標】居宅における利用者の生活理解と必要なニーズの把握ができる。利用者の地域生活の継続に向けた多職種との協働、連携をふまえた介護過程の展開を考えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力、および「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「最新・介護福祉士養成講座 第9巻 介護過程」  ISBN：978-4-8058-5769-4  出版社：中央法規出版  著者名：介護福祉士養成講座編集委員会  価格（税別）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>学期末試験：課題提出＝80：20  試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生。  介護過程A・Bを「履修中」か「単位取得済」であること。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】  聴講生【不可】  キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	介護福祉士の国家試験を受験する上での指定科目です。担当者の介護支援専門員（ケアマネジャー）の実務経験をふまえ、具体的な実践例などを紹介しながら介護過程の展開を学習していきます。
準備学習について	<p>介護過程A・Bを「単位取得済」の方は、これまでの内容を復習をしておいてください。</p> <p>【事前学習】授業時に提示する内容について、次回の授業までに行っておいてください。（1時間）</p> <p>【事後学習】授業時に取り扱った内容を振り返り、各自においてまとめ学習を行ってください。（1時間）</p>

講義科目名称： 介護過程D			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	施設入所者の事例を通して、身体状態や本人の思いなどに着目した介護過程の展開について学ぶ。
授業計画	第1回 介護過程の展開の理解～介護過程を展開するための一連のプロセス～
	第2回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例① ～特別養護老人ホームにおける入所者の状態像を把握～
	第3回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例② ～「要介護3以上」の利用者の身体状態と日常生活動作～
	第4回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例③ ～事例検討、インタビュー、アセスメント、課題抽出～
	第5回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例④ ～必要なケアの内容、優先順位、目標設定を考える～
	第6回 特別養護老人ホームで生活する利用者の事例⑤ ～具体的な支援内容の検討と今後の状態予測～
	第7回 介護老人保健施設で生活する利用者の事例① ～居宅生活の再開に向けた施設ケアを考える～
	第8回 介護老人保健施設で生活する利用者の事例② ～課題抽出、目標設定、様式への記載～
	第9回 介護老人保健施設で生活する利用者の事例③ ～居宅復帰後の課題について～
	第10回 介護過程とケアマネジメントの関係性
	第11回 施設サービスにおけるチームアプローチの意義と介護福祉士の役割 担当者の介護福祉士としての実務経験を基に、チームアプローチの意義や必要性、チームにおける介護福祉士の役割について、グループワークを通して学んでいきます。
	第12回 障害者支援施設で生活する利用者の事例① ～年齢の若い障害者、中途障害者の事例検討～
	第13回 障害者支援施設で生活する利用者の事例② ～現状の課題と将来への展望～
	第14回 障害者支援施設で生活する利用者の事例③ ～知的障害者の施設ケアについて考える～
	第15回 入所型施設における介護過程のまとめ これまでの事例や支援構想などを振り返り、施設入所者の介護過程の展開について総括していきます。

健康福祉学科

授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】入所施設における事例を通じて、計画の立案、実施、評価などの一連の介護過程について学びを深める。</p> <p>【到達目標】状態の把握、課題抽出、目標設定、具体的支援内容の検討に関して、独自の思考に基づき、考える力を備える。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」</p> <p>ISBN：978-4-8058-5769-4</p> <p>出版社：中央法規出版</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会</p> <p>価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>課題（レポート）：授業での積極性＝70：30</p> <p>総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生</p> <p>原則『介護過程A・B・C』の単位取得済の学生</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目です。</p> <p>担当者の介護福祉士、介護支援専門員等の職務経験を生かし具体的な事例提示をしながら、入所型施設における介護過程の展開を捉えていきます。テキストの事例の他、担当者の経験に基づきオリジナルで作成した事例も提示していきます。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】授業時に提示する事例をよく読み、ケースの状態像や課題を認識する（1時間）</p> <p>【事後学習】授業時に取り扱った事例を振り返り、授業時とは異なる視点での介護過程の展開を考えてみる（1時間）</p>

講義科目名称： 介護過程E			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 谷功			

テーマ	介護福祉実習Ⅲで取り組んだ介護過程を事例報告としてまとめ、発表する。
授業計画	<p>第1回 事例報告の意義、事例のまとめ方 介護職員研修会におけるケーススタディ（事例研究）の取組みについて紹介し、その必要性について説明します。</p> <p>第2回 第Ⅲ段階介護福祉実習振り返り 第Ⅲ段階介護福祉実習の取組みに関するプレゼンテーション</p> <p>第3回 原稿作成① はじめに、事例紹介について</p> <p>第4回 原稿作成② 生活課題について</p> <p>第5回 原稿作成③ テーマと目標設定について</p> <p>第6回 原稿作成④ 援助計画について</p> <p>第7回 原稿作成⑤ 援助経過について</p> <p>第8回 原稿作成⑥ 考察について</p> <p>第9回 草稿の提出</p> <p>第10回 草稿の見直し① 文章構成について</p> <p>第11回 草稿の見直し② 文章表現について</p> <p>第12回 最終草稿提出</p> <p>第13回 発表準備① パワーポイント作成</p> <p>第14回 発表準備② 発表原稿作成</p> <p>第15回 発表準備③ 発表内容の見直し</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 介護福祉実習Ⅲで担当した自己の介護過程の実践を振り返り、介護過程に対する理解を深めるとともに、介護福祉事例報告集としてまとめる。プレゼンテーション等、アクティブラーニングを用いて実施する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、課題を解決へと導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座9「介護過程」 ISBN：978-4-8058-5769-4 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 価格（税抜）：2,200円</p>
参考文献	講義中適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>以下の割合で評価する。 事例報告発表：各課題の提出＝80：20 総合評価に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける。
履修条件	<b>【必須要件】</b> 介護福祉実習Ⅲを終了し、介護過程に取り組んでいること。

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉士養成のための指定科目です。積極的に授業に参加することを期待します。各自、パソコンを準備すること。また、特別養護老人ホーム、デイサービスの介護職員、介護支援専門員として従事した経験談を交えながら、福祉、介護の現場で展開される介護過程がより理解しやすい授業展開を図りたいと思います。
準備学習について	【事前学習】介護過程の実践を振り返り、実習で取り組んだ内容を整理して次回授業に臨んでください。（1時間） 【事後学習】毎回の授業で取り組んだ内容について、授業時間外で進捗状況や内容の再確認を行うようにしてください。（1時間）



講義科目名称： 介護総合演習A			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	介護福祉実習 I (施設・居宅)の準備として、実習の意義と目的、実習内容等を理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション、 介護福祉実習の意義と目的ならびに各段階の実習目標に関する理解 介護福祉実習の意義と目的について理解し、各段階の実習目標について理解します。
	第2回 知識と技術の統合① －介護福祉実習 I (施設)の意義と目標、 介護福祉実習 I (施設)の実習施設・事業所の理解－ 介護福祉実習 I (施設)の意義と目的について理解し、 実習する施設・事業所の種類や目的、利用者の状態などについて理解します。
	第3回 知識と技術の統合② －介護福祉実習 I (居宅)の意義と目標、居宅介護サービス利用者の理解－ 介護福祉実習 I (居宅)の意義と目的について理解し、実習する事業所の 目的や利用者の状態などについて理解します。
	第4回 先輩からのメッセージ介護福祉実習 I を行う前に伝えたいこと－ すでに介護福祉実習 I・IIなどを修得した先輩たちがそれぞれの体験を もとに、介護福祉実習 I での実習の様子や事前に行っておいた方がよい準備 などについて話します。
	第5回 技術チェックに関する説明、施設・事業所見学に関する事前指導 第9～11回授業における「技術チェック」の意義と目的、授業に臨む姿勢 について理解します。 第6回授業における「施設・事業所見学」の意義と目的、 見学時の姿勢・態度や準備などについて理解します。
	第6回 施設・事業所見学 実際の施設・事業所の様子を見学します。
	第7回 介護福祉実習 I (施設・居宅)に関する準備・手続き (個人票、誓約書作成等) 介護福祉実習 I (施設・居宅)の両実習において必要な準備と手続きについて 理解します。 実習施設・事業所に提出する書類についてその意味を理解し、書き方を 習得し作成します。
	第8回 介護福祉実習 I (施設)の実習予定施設・事業所の概要の理解 介護福祉実習 I (施設)で実習予定の施設・事業所について、学生自らが テキストや資料などを用いながら、概要を理解していきます。
	第9回 技術チェック① 移動・着脱 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として 従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～

	<p>第 10 回 技術チェック② 食前準備・ベッドメイキング ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として 従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第 11 回 技術チェック③ 実習記録の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として 従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～</p> <p>第 12 回 個人面談 介護福祉実習 I (施設) の巡回指導担当教員と学生で面談します。</p> <p>第 13 回 実習の心構え 介護福祉実習を行う上での「実習前」「実習中」「実習後」それぞれに おける、心構えや諸注意、遵守事項などについて理解します。</p> <p>第 14 回 実習の諸注意 介護福祉実習 I (施設・居宅) の直前指導として、それぞれの実習に際しての 諸注意を確認します。</p> <p>第 15 回 知識と技術の統合③ ー実習振り返り：ディスカッションー 介護福祉実習 I (施設) 終了後、グループごとに学生それぞれが実習における 自らの体験を振り返り、今後取り組むべき課題を明確化します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 介護福祉実習の意義と目的を学び、介護福祉実習 I (施設・居宅) の課題の理解を図る。介護福祉実習 I (施設・居宅) の準備として、多様な実習施設及び事業所、利用者への理解を深める。また、具体的な手続き、書類準備、心構え、記録の書き方等の方法を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 介護福祉実習 I (施設・居宅) の課題を理解し、介護福祉実習 I (施設・居宅) の準備を整えることができる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ISBN：978-4-8058-5770-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200 円</p> <p>テキスト名：介護実習で困らないための Q&amp;A 実習生としての心得 50 ISBN：978-4-8058-5093-0 出版社：中央法規出版 著者名：青木宏心 価格（税抜）：1,800 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 書類等の提出状況：授業での積極性＝50：50 ＊年度末の実習終了となるため、成績は「保」と表記されます。最終的な評価は、次年度前期の成績表に表記されます。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	<b>【必須要件】</b> 介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉実習Ⅰに向けての準備と振り返りの時間となりますので、分からないことがあった際にはそのままにせず質問をしてください。欠席した場合は、できるだけ速やかに自ら担当教員のところに出向いて、授業内容に関する指示や次回までの課題などを確認し取り組むようにしてください。 高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容を触れることができればと思います。
準備学習について	授業毎に2時間以上の予習復習（実習施設種別の理解と実習課題の理解のため、テキスト内容を読んでおくこと。授業後は、配布資料を読み返し理解を深めること）を行い、次回授業に臨むこと。

講義科目名称： 介護総合演習B			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	介護福祉実習Ⅱに向けて、目的、実習内容等を理解する。
授業計画	第1回 オリエンテーション、介護福祉実習Ⅰ(居宅)の振り返り 介護福祉実習Ⅰ(居宅)における自らの体験を振り返り、今後取り組むべき課題を明確化します。
	第2回 介護福祉実習Ⅰ(施設)の振り返り 介護福祉実習Ⅰ(施設)の実習施設・事業所からの評価と自己評価を照らし合わせて、自らの課題について分析し考えます。
	第3回 「実習記録」の書き方 介護福祉実習Ⅰの自らの実習記録を見返し、書き方について学習します。
	第4回 知識と技術の統合① 一介護福祉実習Ⅱの意義・目的一 介護福祉実習Ⅱの意義と目的について理解します。
	第5回 知識と技術の統合② 一介護福祉実習Ⅱの実習施設の理解一 介護福祉実習Ⅱで実習する施設の種類や目的、利用者の状態などについて理解します。
	第6回 介護福祉実習Ⅱに関する準備・手続き(個人票、誓約書作成等) 介護福祉実習Ⅱにおいて必要な準備と手続きについて理解します。 実習施設に提出する書類についてその意味を理解し、作成します。
	第7回 知識と技術の統合③ 一介護過程の理解一 介護過程の実践的展開について、これまでに学習した知識を統合し理解します。
	第8回 個人面談 介護福祉実習Ⅱの巡回指導担当教員と学生で面談します。
	第9回 熱い思いを語る会 各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した際に経験したことを基に、介護の魅力をお話しします。
	第10回 技術チェック① 着脱・排せつ ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～
	第11回 技術チェック② 移動・ベッドメイキング ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～
	第12回 介護技術チェック③ 実習記録・個別援助計画書の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～

	<p>第 13 回 実習の心構え 実習における心構えや諸注意、遵守事項などについて理解します。 介護福祉実習Ⅱで取り組む課題について再度確認します。</p> <p>第 14 回 実習直前指導 実習施設からの諸注意を確認し、実習に向けた直前準備を整えます。</p> <p>第 15 回 知識と技術の統合④ ー実習振り返りー 介護福祉実習Ⅱ終了後、グループごとに学生それぞれの実習における自らの体験を振り返り、今後取り組むべき課題を明確化します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習Ⅰを振り返り、実習で体験した利用者・家族とのコミュニケーションや個別ケアへの学びを深める。介護福祉実習Ⅱへの準備として、個別性に応じた生活支援技術や多職種協働、個別ケアの方法としての介護過程を学ぶ。</p> <p>【到達目標】介護福祉実習Ⅰでの課題を振り返り、介護福祉実習Ⅱに向けた準備を整えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5770-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200 円</p> <p>テキスト名：介護実習で困らないための Q&amp;A 実習生としての心得 50 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5093-0 出版社：中央法規出版 著者名：青木宏心 価格（税抜）：1,800 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】書類の提出状況：授業での積極性＝50：50</p> <p>【フィードバック】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護総合演習 A」を単位取得済（取得見込）の者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴 講 生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉実習Ⅱに向けた準備をする大切な授業ですので、遅刻や欠席などをしないように体調管理に努めてください。欠席した場合は、できるだけ速やかに自ら担当教員のところに向いて、授業内容に関する指示や次回までの課題などを確認し取り組むようにしてください。</p> <p>高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容を触れることができればと思います。</p>
準備学習について	授業毎に 2 時間以上の予習復習（介護福祉実習Ⅰを振り返り、介護福祉実習Ⅱに向けた課題に取り組み、授業後は配布資料を読み返し理解を深めること）を行い、次回授業に臨むこと。

講義科目名称： 介護総合演習C			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	介護福祉実習Ⅲ（第3段階施設実習）の意義と目的、実習内容等を理解する
授業計画	第1回 オリエンテーション、介護福祉実習の意義と目標 介護福祉実習Ⅲに臨むにあたって、介護福祉実習の意義と目的を再確認し理解を深めます。
	第2回 知識と技術の統合① －介護福祉実習Ⅲの意義、利用者の理解－ 介護福祉実習Ⅲの意義と目的を理解し、実習する施設の種別ごとの利用者の状態などについて理解します。
	第3回 知識と技術の統合② －介護福祉実習Ⅲの目標を達成するために、どのように取り組むか－ これまでの実習における自らの課題を踏まえて、介護福祉実習Ⅲの目標を達成するために必要なことについて考えます。
	第4回 知識と技術の統合③ －介護福祉士の専門性と資質とは、介護福祉士として働くことの意味とは－ これまでの実習体験をもとに、多職種との協働の中で介護福祉士としての役割について考え、介護福祉士に求められる資質と専門性について考えます。
	第5回 介護過程の理解① ー情報収集の方法、計画書立案ー 介護過程の実践的展開について理解します。
	第6回 介護福祉実習Ⅲに関する準備・手続き（個人票、誓約書作成等） 介護福祉実習Ⅲにおいて必要な準備と手続きについて理解します。 実習施設に提出する書類についてその意味を理解し、作成します。
	第7回 介護過程の理解② ー実施時の留意点、評価ー 介護過程の実践的展開について理解します。
	第8回 個人面談 介護福祉実習Ⅲの巡回指導担当教員と学生で面談します。
	第9回 知識と技術の統合④ ー記録の方法ー 自らの実習記録を見直し、記録の方法について考えます。
	第10回 技術チェック① 着脱、排せつ ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～
	第11回 技術チェック② 移乗、ベッドメイキング ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～
	第12回 技術チェック③ 実習記録・個別援助計画書の書き方 ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験から、介護の現場で求められる技術を確認します。～

	<p>第 13 回 実習の心構え 実習における心構えや諸注意、遵守事項などについて理解します。 介護福祉実習Ⅲで取り組む課題について再度確認します。</p> <p>第 14 回 実習直前指導 ① 実習施設の理解を深める 実習施設からの諸注意を確認し、実習に向けた直前準備を整えます。</p> <p>第 15 回 実習直前指導 ② 個別援助計画の準備を行う 介護福祉実習Ⅲで取り組む個別援助計画について、準備を整えます。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】専門職としての倫理観や技術の確立を目指す介護福祉実習Ⅲへの準備を図る。また、介護過程の実践を振り返ることで、取り組みについての評価を行う。</p> <p>【到達目標】介護福祉実習Ⅲに向けた準備を整えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5770-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格（税抜）：2,200 円</p> <p>テキスト名：介護実習で困らないための Q&amp;A 実習生としての心得 50 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5093-0 出版社：中央法規出版 著者名：青木宏心 価格（税抜）：1,800 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】書類の提出状況：授業での積極性＝50：50</p> <p>【フィードバック】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護総合演習 B」を単位取得済みの者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>介護福祉実習Ⅲに向けた準備をする大切な授業ですので、遅刻や欠席などをしないように体調管理に努めてください。欠席した場合は、できるだけ速やかに自ら担当教員のところに向いて、授業内容に関する指示や次回までの課題などを確認し取り組むようにしてください。</p> <p>高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でそのエピソードや実務的な内容を触れることができればと思います。</p>
準備学習について	授業毎に 2 時間以上の予習復習（介護福祉実習Ⅱを振り返り、これまでの実習記録及び個別援助計画を見直すこと。介護福祉実習Ⅲに向けた課題に取り組み、授業後は配布資料を読み返し理解を深めること）を行い、次回授業に臨むこと。

講義科目名称： 介護総合演習D			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	居宅介護実習、施設実習を振り返るとともに、取り組んだ介護過程を検証する
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、介護福祉実習Ⅲの振り返り (グループディスカッション) 介護福祉実習Ⅲにおける自らの体験を振り返り、グループごとにディスカッションします。 実習施設からの評価と自己評価を照らし合わせて、自らの課題について分析し考えます。</p> <p>第2回 介護実践の科学的探求① -サービスを利用する人-</p> <p>第3回 介護実践の科学的探求② -エビデンスに基づいた介護実践とは- ～各教員が、高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として 従事した経験から、ケアプラン・個別援助計画について説明します。～</p> <p>第4回 介護実践の科学的探究③ -介護過程の取組み-</p> <p>第5回 介護実践の科学的探究④ -自己評価・学習効果-</p> <p>第6回 介護福祉事例報告書の作成① -受け持ち利用者の概要-</p> <p>第7回 介護福祉事例報告書の作成② -計画内容、実施状況-</p> <p>第8回 介護福祉事例報告書の作成③ -結果、考察-</p> <p>第9回 介護福祉事例報告書の作成④ -最終確認-</p> <p>第10回 介護福祉事例報告会の発表資料作成① -発表内容の確認-</p> <p>第11回 介護福祉事例報告会の発表資料作成② -資料作成-</p> <p>第12回 介護福祉事例報告会のプレ発表① -発表-</p> <p>第13回 介護福祉事例報告会のプレ発表② -発表と修正 (グループディスカッション) -</p> <p>第14回 介護福祉事例報告会① -プレゼンテーション(前半グループ) -</p> <p>第15回 介護福祉事例報告会② -プレゼンテーション(後半グループ) -</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】専門職としての倫理観や技術の確立を目指す介護福祉実習Ⅲを振り返り、共有化する。また、実習において学んだ利用者の特性に応じた生活支援技術や多職種協働、個別ケアの方法として取り組んだ介護過程を振り返り、介護福祉士としての目指すべき姿について考える。</p> <p>【到達目標】介護福祉実習を振り返り、介護福祉事例報告書を作成することができる。また、介護福祉事例報告会において発表することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「論理的思考力」を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 ※1年次に購入したものを使用します ISBN：978-4-8058-5770-0 出版社：中央法規出版 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編 価格(税抜)：2,200円</p>



参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	【成績評価の基準・方法】介護福祉事例報告書の内容と介護福祉事例報告会の発表：授業での積極性＝50：50 【フィードバック方法】介護福祉事例報告書ならびに介護福祉事例報告会に関するフィードバックは、報告会の際に講評を口頭で伝える。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはそれぞれの教員の研究室で随時受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る 「介護総合演習C」を単位取得済（取得見込）の者に限る
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	介護福祉の学びの総仕上げの一つとして、意欲的に取り組んでください。 高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、授業の中でその実務的な内容に触れることができればと思います。
準備学習について	授業終了時に次回までに取り組むべき課題を提示する。復習（1時間以上）・予習（1時間）を行うこと。

講義科目名称： 医療的ケア A			
開講期間： 前期	配当年： 4年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 水野尚美			

テーマ	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
授業計画	<p>第1回 医療的ケア実施の基礎的知識 医療的ケアと喀痰吸引等の背景</p> <p>第2回 安全な療養生活① 喀痰吸引の安全な実施、リスクマネジメント</p> <p>第3回 安全な療養生活② 救急蘇生について</p> <p>第4回 清潔保持と感染予防① 感染予防、消毒と滅菌の違い</p> <p>第5回 清潔保持と感染予防② 療養環境の清潔、消毒法</p> <p>第6回 健康状態の把握 健康状態を知る項目（バイタルサインなど）</p> <p>第7回 喀痰吸引の基礎的知識① 高齢者および障害児・者の喀痰吸引の概要</p> <p>第8回 喀痰吸引の基礎的知識② 呼吸のしくみとはたらき</p> <p>第9回 喀痰吸引の基礎的知識③ 人工呼吸療法者の喀痰吸引</p> <p>第10回 喀痰吸引の実施手順① 喀痰吸引の実施手順</p> <p>第11回 喀痰吸引の実施手順② 喀痰吸引の必要物品と消毒法</p> <p>第12回 喀痰吸引の実施手順③ 利用者の状態観察、利用者と家族への説明について</p> <p>第13回 喀痰吸引の実施手順④ 急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第14回 喀痰吸引の技術と留意点 喀痰吸引にともなうケア</p> <p>第15回 喀痰吸引の技術と留意点② 医療職との連携</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】医療的ケア（喀痰吸引、救急蘇生）の実施に関する基礎的知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】医療的ケア（喀痰吸引、救急蘇生）の実施に必要な基礎的知識を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、倫理観を身につけることができる。</p>

テキスト	テキスト名：「最新 介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア」 ISBN：978-4-8058-5775-5 出版社：中央法規 著者名：介護福祉士養成講座編集委員会 編集 価格（税抜）：2,600円
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	・定期試験：小テスト・レポート・授業態度＝50：50 ・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】
メッセージ	看護師として病棟や通所介護で勤務したことを通して、医療的ケアの必要性について説明します。
準備学習について	【事前学習】各回、講義範囲のテキストを読み、概要を把握しておいてください。（30分） 【事後学習】授業内で復習課題を提示します。（30分）

講義科目名称： 医療的ケアB			
開講期間： 前期	配当年： 4年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子			

テーマ	医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識を学ぶ
授業計画	第1回 経管栄養の基礎的知識（1） 消化器系のしくみとはたらき
	第2回 経管栄養の基礎的知識（2） 消化・吸収とよくある消化器の症状
	第3回 経管栄養の基礎的知識（3） 経管栄養とは 経管栄養が必要な状態、観察のポイント
	第4回 経管栄養の基礎的知識（4） 経管栄養の種類 医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、経管栄養の実例を挙げて説明します。
	第5回 経管栄養の基礎的知識（5） 経管栄養実施上の留意点、こどもの経管栄養
	第6回 経管栄養の基礎的知識（6） 経管栄養に関係する感染と予防、経管栄養に伴うケア
	第7回 経管栄養の基礎的知識（7） 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意 (グループワークによるロールプレイ)
	第8回 経管栄養の基礎的知識（8） 経管栄養により生じる危険と対策、安全確認、急変・事故発生時の対応 (グループワークによるディスカッション)
	第9回 経管栄養の実施手順（1） 経管栄養の器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
	第10回 経管栄養の実施手順（2） 経管栄養法の実施手順と留意点、経管栄養に必要な根拠に基づくケア
	第11回 経管栄養の実施手順（3） 経管栄養法の評価項目と評価の視点、報告および記録のポイント
	第12回 健康状態の把握と維持（1） バイタルサイン測定方法
	第13回 健康状態の把握と維持（2） 清潔操作方法
	第14回 健康状態の把握と維持（3） 救急蘇生法／演習
	第15回 総括

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【概要】医療的ケア（経管栄養）の実施に関する基礎的知識を学ぶ。          【到達目標】医療的ケアに必要な基礎的知識を身につける。          【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決能力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア          ISBN：978-4-8058-5775-5          出版社：中央法規          著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編          価格（税抜）：2,600円</p>
<p>参考文献</p>	<p>講義中適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末試験：課題：授業での積極性＝50：30：20</li> <li>・学期末試験に関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> <li>・課題レポートは、レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ul>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>オフィスアワー等で適宜受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】          聴講生【不可】          キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>予習、復習に努めてください。          医療機関や介護保険事業所の職員として従事した経験から、授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>毎回授業内で予習・復習内容を提示するので、次回授業までに行っておくこと（予習1時間、復習1時間）。</p>

講義科目名称： 医療的ケアC			
開講期間： 後期	配当年： 4年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 本多祥子、水野尚美			

テーマ	医療的ケアを安全・適切に実施するための専門的技術を学ぶ
授業計画	第1回 喀痰吸引実施手順（1）口腔内吸引手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引（口腔内）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第2回 口腔内吸引演習①
	第3回 口腔内吸引演習②
	第4回 口腔内吸引演習③／口腔内吸引試験①
	第5回 口腔内吸引演習④／口腔内吸引試験②
	第6回 口腔内吸引演習⑤／口腔内吸引試験③
	第7回 喀痰吸引実施手順（2）鼻腔内吸引手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引（鼻腔内）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第8回 鼻腔内吸引演習①
	第9回 鼻腔内吸引演習②
	第10回 鼻腔内吸引演習③／鼻腔内吸引試験①
	第11回 鼻腔内吸引演習④／鼻腔内吸引試験②
	第12回 鼻腔内吸引演習⑤／鼻腔内吸引試験③
	第13回 喀痰吸引実施手順（3）気管カニューレ内吸引手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引（気管カニューレ内）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第14回 気管カニューレ内吸引演習①
	第15回 気管カニューレ内吸引演習②
	第16回 気管カニューレ内吸引演習③／気管カニューレ内吸引試験①
	第17回 気管カニューレ内吸引演習④／気管カニューレ内吸引試験②
	第18回 気管カニューレ内吸引演習⑤／気管カニューレ内吸引試験③
	第19回 経管栄養実施手順（1）胃ろう経管栄養手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた経管栄養（胃ろう）における実践事例などを取り上げながら説明します。
	第20回 胃ろう経管栄養演習①
	第21回 胃ろう経管栄養演習②
	第22回 胃ろう経管栄養演習③／胃ろう経管栄養試験①
	第23回 胃ろう経管栄養演習④／胃ろう経管栄養試験②
	第24回 胃ろう経管栄養演習⑤／胃ろう経管栄養試験③
	第25回 経管栄養実施手順（2）経鼻経管栄養手順・留意点（講義） 看護師としてこれまで経験してきた経管栄養（経鼻）における実践事例などを取り上げながら説明します。

	<p>第 26 回 経鼻経管栄養演習①</p> <p>第 27 回 経鼻経管栄養演習②</p> <p>第 28 回 経鼻経管栄養演習③／経鼻経管栄養試験①</p> <p>第 29 回 経鼻経管栄養演習④／経鼻経管栄養試験②</p> <p>第 30 回 経鼻経管栄養演習⑤／経鼻経管栄養試験③</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>医療的ケアの基本研修（講義 50 時間と演習）を A、B、C の 3 つの単元で構成する。医療的ケア C は、毎週 2 回の授業を 15 週で全 30 回実施する。</p> <p>【概要】医療的ケア A と医療的ケア B で学んだ基礎的知識をもとに、シミュレーターなどを使用しながら、喀痰吸引（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）、経管栄養（胃ろう、経鼻経管栄養）の演習を行う。</p> <p>【到達目標】医療的ケアを安全・適切に実施できる技術を身につける。（全 5 種類の技術試験に合格する）</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：最新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア</p> <p>ISBN : 978-4-8058-5775-5</p> <p>出版社：中央法規</p> <p>著者名：介護福祉士養成講座編集委員会編</p> <p>価格（税抜）：2,600 円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内の技術試験：授業に関する積極性＝70：30</li> <li>・技術試験に関するフィードバックは、授業内および学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	オフィスアワー等で適宜受け付ける。
履修条件	【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格を取得する学生、医療的ケア A および医療的ケア B の単位取得済みの学生
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴 講 生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	医療的ケア C は、毎週 2 回（2 コマ続き）のペースで全 30 回（全 30 コマ）行い、医療的ケア A、医療的ケア B で学んだ医療的ケアの基本的な知識や技術を実践的に学びます。積極的に練習を行い、医療的ケアを安全・適切に提供できる技術を身につけましょう。看護師としてこれまで経験してきた喀痰吸引および経管栄養における実践事例などを取り上げながら、わかりやすく説明したいと思います。
準備学習について	<p>次回の授業までに喀痰吸引・経管栄養の練習を行い、技術の習得に努めること。</p> <p>（予習 1 時間、復習 1 時間）</p>

講義科目名称： 介護福祉実習 I			
開講期間： 通年	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	介護を要する人々や介護福祉サービス、施設等の実際を理解する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の実習オリエンテーション等に参加し、実習施設の概要（沿革、利用者の状況、介護内容、日課、行事等）を知る。</li> <li>2. 言語的・非言語的コミュニケーションを通じて、利用者、家族を理解するとともに、利用者を尊重する態度を養う。</li> <li>3. 入浴、食事、排泄、環境整備等の介護技術の確認をする。</li> <li>4. サービスに関わる多職種協働の実践を見学し、連携のあり方を学ぶ。</li> <li>5. 在宅で生活している高齢者や障害者と家族の状況を理解し、在宅生活の継続のために提供されているサービスの実際を学ぶ。</li> <li>6. 地域での生活を支える居宅介護サービスの概要や機能を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習は、実際に利用者が生活している在宅や施設において、介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理等を総合的に実践する機会である。介護福祉実習 I では、多様な介護現場で、利用者理解を中心として、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を実施する。また、利用者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・事業所の役割を理解し、地域における生活支援の実践を学ぶ。</p> <p>【到達目標】実習施設・事業所において、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等に取り組むことができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」「倫理観」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる</p>
テキスト	介護福祉実習委員会「介護福祉実習の手引き」（1年次後期に配布）
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 実習施設の評価：実習日誌等の内容と提出状況：実習での積極性＝40：30：30 *年度末の実習終了となるため、成績は「保」と表記されます。最終的な評価は、次年度前期成績表に表記されます。</p> <p>【フィードバック方法】 フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	介護福祉実習の期間中は、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行うので、その機会に巡回担当教員に質問し相談すること。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護総合演習 A」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>



メッセージ	<p>実習施設での遅刻や欠席は認められません。体調管理に十分留意してください。</p> <p>各教員の高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、巡回時にも触れながら指導できればと思います。</p>
準備学習について	<p>介護福祉実習前には、介護福祉士指定科目を復習し、「介護総合演習 A」で連絡・指示した準備を確認すること。</p> <p>介護福祉実習の期間中は、実習を振り返り実習記録等を作成し課題を明らかにし、翌日の実習目標を立てること（2時間以上）。</p>

講義科目名称： 介護福祉実習Ⅱ			
開講期間： 通年	配当年： 2年	単位数： 3	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	介護を要する人々や介護福祉サービス、施設等の実際を理解する
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の実習オリエンテーションに参加し、実習施設の概要（沿革、利用者の状況、介護内容、日課、行事等）を知る。</li> <li>2. 利用者一人ひとりの障害を理解し、生活支援技術の実践を通じて、個別性に応じた生活支援技術の工夫の必要性を学ぶ。</li> <li>3. 利用者・家族、職員とのかかわりを通じて、コミュニケーションの方法を学ぶ。</li> <li>4. サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて多職種役割を理解し、多職種連携やチームケアを体験的に学び、チームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。</li> <li>5. 介護過程の実践的展開を学ぶ初期段階として、情報の収集、分析、介護目標の設定、計画立案に取り組むことができる。</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習は、実際に利用者が生活している在宅や施設において、介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理等を総合的に実践する機会である。介護福祉実習Ⅱでは、利用者のさまざまな生活や介護実践の場・施設等の機能、利用者一人ひとりの障害とそれに応じた生活支援技術の工夫を学び、多職種役割を理解し多職種協働の実践を体験的に学び、チームの一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。また、介護過程の実践的展開を学ぶ初期段階として、情報の収集、分析、個別援助計画の立案に取り組む。</p> <p>【到達目標】利用者の生活や介護実践の場・施設等の機能を述べることができる。利用者一人ひとりの障害とそれに応じた生活支援技術の工夫を考えることができる。多職種役割を理解してチームの一員としての介護福祉士としての役割を述べるができる。介護過程の実践的展開を学ぶ初期段階として、情報の収集、分析、個別援助計画の立案に取り組むことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素である「論理的思考力」「自己管理力」「倫理観」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力」を身につけることができる。</p>
テキスト	介護福祉実習委員会「介護福祉実習の手引き」（1年次に使用したもの）
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 実習施設の評価：実習日誌等の内容・提出状況：実習での積極性＝40：30：30</p> <p>【フィードバック方法】 フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	介護福祉実習の期間中は、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行うので、その機会に巡回担当教員に質問し相談すること。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。 「介護福祉実習Ⅰ」を単位取得済みであり、かつ「介護総合演習B」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>

メッセージ	<p>実習施設への遅刻や欠席は認められません。体調管理に十分留意してください。 各教員の高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、巡回時にも触れながら指導できればと思います。</p>
準備学習について	<p>介護福祉実習前には、介護福祉実習 I で明らかになった自己の課題解決に取り組み、介護福祉士指定科目の復習に努め、「介護総合演習 B」で連絡・指示した準備を確認すること。 介護福祉実習の期間中は、実習を振り返り実習記録等を作成し課題を明らかにし、翌日の実習目標を立てること（2時間以上）。</p>

講義科目名称： 介護福祉実習Ⅲ			
開講期間： 通年	配当年： 3年	単位数： 5	必選： 選択
担当教員： 新井恵子、谷功、木下寿恵、水野尚美、大久保功、本多祥子			

テーマ	施設等での介護福祉士としての倫理、技術等を深く学ぶ
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者一人ひとりの障害や個性を踏まえて、安全、快適、自立に配慮した生活支援技術を実践する。</li> <li>2. 一人の利用者を受け持ち、アセスメント、個別援助計画の立案、実施、評価といった一連の介護過程の実践的展開を学ぶ。</li> <li>3. 専門職としての職業倫理を自覚し、必要な姿勢を身につけると共に、他職種協働のチームアプローチの意義を理解する。</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】介護福祉実習は、実際に利用者が生活している在宅や施設において、介護福祉士に求められる知識、技術、価値、倫理等を総合的に実践する機会である。介護福祉実習Ⅲでは、高齢者や障害者、家族の状況を理解し、介護福祉士としての職業倫理を踏まえた介護過程の実践的展開、利用者の個性に即した生活を支援するための技術を学ぶ</p> <p>【到達目標】高齢者や障害者、家族の状況を理解し、介護福祉士としての職業倫理を踏まえた介護過程の実践的展開ができる。利用者の個性に即した生活を支援するための技術を体験し述べることができる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素である「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」「協調と協働を実現する力」及び「学士力」の構成要素である「論理的思考力」「問題簡潔力」「自己管理力」「倫理観」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる</p>
テキスト	介護福祉実習委員会「介護福祉実習の手引き」（1年次に使用したもの）
参考文献	適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】実習施設の評価：実習日誌等の内容・提出状況：実習での積極性＝40：30：30</p> <p>【フィードバック方法】フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	介護福祉実習の期間中は、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行うので、その機会に巡回担当教員に質問し相談すること。
履修条件	<p>【必須要件】介護福祉士国家試験受験資格の取得を目指している学生に限る。</p> <p>「介護福祉実習Ⅱ」を単位取得済みであり、かつ「介護総合演習C」を履修中である者に限る。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	実習施設での遅刻や欠席は認められません。体調管理に十分留意してください。各教員の高齢者施設、障がい者施設、医療機関、社協等の職員として従事した経験を、巡回時にも触れながら指導できればと思います。
準備学習について	<p>介護福祉実習前は、これまでの介護福祉実習で明らかとなった自己の課題解決に取り組み、介護福祉士指定科目の復習に努め、「介護総合演習C」で連絡・指示した準備を確認すること。</p> <p>介護福祉実習の期間中は、実習を振り返り実習記録等を作成し課題を明らかにし、翌日の実習目標を立てること（2時間以上）。</p>

講義科目名称： 認知症ケア			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 新井恵子			

テーマ	認知症の症状に関する基礎知識と、認知症の人のケアの方法について
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・認知症の人をケアする前に 高齢者施設や訪問介護での経験の中で出会った利用者とのエピソードを紹介し、認知症ケアについて解説します</p> <p>第2回 認知症の人の生きる世界</p> <p>第3回 認知症の合図（中核症状と周辺症状の理解）</p> <p>第4回 行政の取り組み</p> <p>第5回 介護する家族の声（認知症の人と家族の会）</p> <p>第6回 演習：認知症の人に対するアクティビティ① 香りを中心として</p> <p>第7回 演習：認知症の人に対するアクティビティ② 運動を中心として</p> <p>第8回 演習：認知症の人に対するアクティビティ③ ゲームを中心として</p> <p>第9回 認知症の人とのコミュニケーション</p> <p>第10回 グループワーク①認知症への気づき、その人の理解</p> <p>第11回 グループワーク②行動の背景を読み解く</p> <p>第12回 グループワーク③利用者本位の介護計画書の作成</p> <p>第13回 グループワーク④プレ発表</p> <p>第14回 プレゼンテーション⑤企画の根拠・内容、方法</p> <p>第15回 まとめ・認知症ケアのこれから</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】認知症の人が日常生活において、何を体験し何を考えているのかを理解し、かかわり方を学ぶ。また、認知症の人を支える家族の思いを理解する。</p> <p>【到達目標】認知症の人の行動には理由があることを理解し、その理由とケア方法を考え説明できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	指定しない。講義中、必要に応じて資料を配布。
参考文献	適宜紹介
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 課題発表・完成度：レポート：授業での積極性＝55：30：15</p> <p>【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを回収した次の回の授業内に講評を口頭にて行う。</li> <li>・演習発表については、発表後に講評を口頭にて行う。</li> <li>・成績評価については、学内制度（成績問い合わせ制度）を通じて行う。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	講義終了後に教室やオフィスアワー等で随時受け付けます。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【可】</p>

メッセージ	<p>演習科目ですので、意欲的・積極的に参加されることを望みます。施設見学や講演会等への参加も行う予定です。</p> <p>高齢者施設、訪問介護事業所に従事した経験や、現在携わっている家族会との認知症カフェ開催や認知症サポーター養成講座の講師役（キャラバンメイト）から、そのエピソードや実務的な内容についても授業の中で触れることができればと思います。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】認知症の人の書籍を読むことや、ニュース等に関心をもち、支援（ケア）方法を考えるようにしてください（1時間）</p> <p>【事後学習】授業毎に履修者同士でディスカッションを行い、自分の意見を整理するようにしてください（1時間以上）。</p>

講義科目名称： 医療マネジメント論			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 城崎俊典			

テーマ	医療マネジメントの基礎について
授業計画	第1回 医療とマネジメント
	第2回 医療管理論の基礎1 (医療資源と日本の医療制度)
	第3回 医療管理論の基礎2 (病院の組織と役割)
	第4回 医療情報システム1 (医療情報システムの概要)
	第5回 医療情報システム2 (電子カルテシステムの仕組みと患者の流れ) ～私が勤務する病院で導入されている電子カルテを参考にして 情報の流れと患者の動線について説明します～
	第6回 個人情報保護と情報セキュリティ (情報セキュリティと個人情報の扱い方)
	第7回 組織管理の基礎 組織の理解・目的、チームビルディング、チームマネジメントの基礎、 医療機関の組織管理の基礎について説明します
	第8回 組織行動の基礎 行動理論、リーダーシップ理論、モチベーション理論などの基礎について 説明します
	第9回 問題解決技法の基礎
	第10回 医療経営戦略論の基礎1 (戦略・戦術の考え方、立て方)
	第11回 医療経営戦略論の基礎2 (経営分析の手法とマーケティング論の基礎)
	第12回 医療現場に活かすアクションプランの立て方 ～私が勤務する病院でのアクションプランをサンプルにして説明します～
	第13回 医療統計の基礎 (医療経営で使われる各種統計資料の基礎)
	第14回 医療従事者が身につけておくべきプレゼンテーション技術
	第15回 まとめ

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業概要】</b> 医療・福祉現場に従事するために必要な医療管理、医療経営、経営戦略、組織管理、組織行動、医療情報システムなどについて基本的な事項について学び、医療マネジメントの基礎を学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 医療マネジメントの意義について説明できる 2. 病院経営の仕組み、病院機能と役割を説明できる 3. リーダーシップ、モチベーション、チームビルディングなどについて説明できる 4. 経営戦略の立て方や各種分析手法の基本を説明できる 5. 医療情報システムの仕組みと個人情報保護の概要を説明できる</p> <p><b>【特記事項】</b> 1. 毎回授業の最後に確認試験を実施する。 2. 毎回授業の課題として医療ニュースを読んでレポートを提出する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力を身につけることができる。また、「学士力」の構成要素である、問題解決力、チームワーク・リーダーシップを身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>別途作成した講義資料を使用する</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜、紹介。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p>1. 学期末の筆記試験、毎回授業での確認試験、毎回の課題提出(配点 50 : 30 : 20)。 2. 総合成績や期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。 3. 確認試験、課題提出を行った次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後、教室で受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特になし</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>1. 原則として欠席は認めません。 2. やむなく欠席する場合は、友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に臨んでください。 3. 病院の職員として、臨床検査技師 20 年、医療情報システム担当者 20 年、統括マネージャーを 3 年と長期にわたって働いています。授業の中では、医療現場での経験をいかし、病院管理、医療経営の基礎、病院情報システムの役割など病院業務についてわかりやすく伝えていきたいと思っています。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>1. 毎回授業で確認試験を実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください(1 時間)。 2. 毎回授業で講義用の資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください(1 時間)。</p>



講義科目名称： 地域医療連携論			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 城崎俊典			

テーマ	地域医療連携の基礎について
授業計画	第1回 医療資源（物的資源・人的資源・財的資源）
	第2回 日本の医療制度①
	第3回 日本の医療制度②
	第4回 医療関係法規 医療関係の法律を学ぶ
	第5回 診療報酬制度について
	第6回 医療供給体制と医療計画
	第7回 地域医療連携と地域医療連携パス
	第8回 地域医療連携室の役割① 病病連携、病診連携など病院外の連携について説明します
	第9回 地域医療連携室の役割② 病院内での入院支援、退院支援などについて説明します
	第10回 病院情報システムの概要① ～私が勤務する病院で導入されている電子カルテを参考にして 情報の流れと患者の動線について説明します～
	第11回 病院情報システムの概要② ～私が勤務する病院で導入されている電子カルテを参考にして 情報の流れと患者の動線について説明します～
	第12回 地域医療連携システムと介護連携システム 静岡県内で導入されている”ふじのくにねっと”および ”シズケアかけはし”について説明します
	第13回 地域包括ケアシステム
	第14回 医療介護福祉の連携と多職種連携1（チーム医療、地域での役割）
	第15回 医療介護福祉の連携と多職種連携2（在宅、訪問看護・介護の協働）

健康福祉学科

<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業概要】</b> 医療・介護・福祉の現場に従事するために、日本の医療制度、関係法規、診療報酬制度などを学び、地域医療連携に係わる様々な基本的知識を学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療制度と医療供給体制について説明できる</li> <li>2. 地域医療連携について、病病連携、病診連携の仕組みを説明できる</li> <li>3. 病院情報システムの仕組みを説明できる</li> <li>4. 地域医療連携システムや介護連携システムについて説明できる</li> <li>5. 医療介護福祉の連携、多職種連携について説明できる</li> </ol> <p><b>【特記事項】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回授業の最後に確認試験を実施する。</li> </ol> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素である、知識・技能を理解する力、地域を視野に貢献する力を身につけることができる。また、「学士力」の構成要素である、情報リテラシーを身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>別途作成した講義資料を使用する</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜、紹介。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学期末の筆記試験、毎回授業での確認試験(配点60:40)。</li> <li>2. 総合成績や期末試験に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う。</li> <li>3. 確認試験を行った次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</li> </ol>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>講義終了後、教室で受け付ける。</p>
<p>履修条件</p>	<p>特になし</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
<p>メッセージ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則として欠席は認めません。</li> <li>2. やむなく欠席する場合は、友人に欠席した授業の内容を確認し、自習してから次の授業に臨んでください。</li> <li>3. 病院の職員として、臨床検査技師20年、医療情報システム担当者20年、統括マネージャーを3年と長期にわたって働いています。授業の中では、医療現場での経験をいかし、医療制度、地域医療連携の基礎、医療介護福祉の連携、病院情報システムの役割など病院業務についてわかりやすく伝えていきたいと思ひます。</li> </ol>
<p>準備学習について</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回授業で確認試験を実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください(1時間)。</li> <li>2. 毎回授業で講義用の資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください(1時間)。</li> </ol>

講義科目名称： 病院インターンシップ			
開講期間： 前期または後	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 渡辺央、木下寿恵、水野尚美、大久保功			

テーマ	医療機関でのインターンシップ（就業体験）をとおして現場についての理解を深める。
授業計画	<p>第1回 事前指導①インターンシップの目的・プログラムの説明</p> <p>第2回 事前指導②インターンシップ先研究</p> <p>第3回 事前指導③書類作成</p> <p>第4回 事前指導④直前指導</p> <p>病院インターンシップ（5日間）</p> <p>※医療ソーシャルワーカーの業務、医事課や地域連携室での事務業務など体験内容は、履修者の希望とインターンシップ先の状況などを考慮する。</p> <p>第5回 事後指導①インターンシップ体験終了後のまとめ・お礼状作成</p> <p>第6回 事後指導②報告書作成</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>病院などの医療機関で働く体験を積むことで、自らのキャリアビジョンについて具体的に考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>医療機関で働く自己の職業観を醸成することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、社会福祉学部での学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力や主体的に学習する力及び、「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルや自己管理能力を身につけることができる。</p>
テキスト	医療福祉教育委員会「病院インターンシップの手引き」
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】受講態度 20%、提出物 30%、インターンシップでの取り組み 50%</p> <p>【フィードバック】インターンシップ前の書類作成や、終了後の振り返りに対して口頭でのコメントや添削指導を行う。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了時、または教員の研究室にて受け付ける。なお、授業中の積極的な質問を歓迎する。
履修条件	<p>特になし</p> <p>「病院インターンシップ」を履修するにあたって、「医療マネジメント論」「地域医療連携論」「医療福祉論」を履修するとより学びが深まります。履修のための前提科目ではありませんが、参考にしてください。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p> <p>キャリアデザイン・カレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、医療の現場で活躍したい学生の受講を歓迎します。</li> <li>・本科目は大学内の授業だけでなく、実際に病院などでインターンシップを行います。インターンシップ期間は受入れ先の一員として行動するようにしてください。</li> <li>・基本的に100%の出席を求めます。また、受入れ先との調整があるため、履修登録の取り消しについては、他の科目と違い2回目の授業の前日までとなりますので、気をつけて下さい。</li> <li>・参加への明確な目的意識を持ち、必要とされるスキルや自らの目標に応じた事前学習を行ってください。</li> </ul>
準備学習について	毎回授業内で予習内容を提示する。次回授業までに行っておくこと。（1時間）

講義科目名称： 医療福祉論			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 渡辺央			

テーマ	保健医療の分野におけるソーシャルワーク実践を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の目的、進め方の確認）、医療をめぐる課題</p> <p>第2回 現代の医療と福祉</p> <p>第3回 医療と医療ソーシャルワークの歴史</p> <p>第4回 患者の理解</p> <p>第5回 患者の尊厳と権利</p> <p>第6回 医療の場の理解① 施設と体制</p> <p>第7回 医療の場の理解② 多職種によるチーム医療</p> <p>第8回 患者・家族の生活を支える社会資源</p> <p>第9回 医療ソーシャルワーカーの業務</p> <p>第10回 救急医療におけるソーシャルワーク</p> <p>第11回 ターミナルケアにおけるソーシャルワーク／ 在宅医療におけるソーシャルワーク</p> <p>第12回 周産期医療におけるソーシャルワーク／小児医療におけるソーシャルワーク</p> <p>第13回 医療ソーシャルワーカーの実際① 現場の理解</p> <p>第14回 医療ソーシャルワーカーの実際② 業務の理解（現職者による講話）</p> <p>第15回 医療ソーシャルワークの展望</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 保健医療の分野では、保健・医療・福祉の連携と統合がソーシャルワーカーに求められ、その基本的な知識や技術、価値に基づく専門職としてのスタンスを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 現代の保健・医療・福祉を取り巻く状況を理解した上で、対象者の抱える生活課題とその支援方法について考察することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：保健医療と福祉 ISBN:978-4-7620-2977-6 出版社：学文社 著者名：成清美治・竹中麻由美・大野まどか 編著 価格（税抜）：2,700円</p>
参考文献	授業中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 小テスト・小レポート 60点 期末レポート 40点</p> <p>【フィードバック方法】小レポートを回収した次の回の授業内で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後、オフィスアワーに対応します。
履修条件	特に設けません。

特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療の分野に関心のある学生の受講を歓迎します。</li> <li>・支援する立場からだけでなく、患者や家族の立場からも医療福祉のあり方について考える機会にしたいと思います。</li> <li>・病院での実務経験を踏まえ、授業の中でそのエピソードなどについても触れることができればと思います。</li> </ul>
準備学習について	<p>【事前学習】授業内で提示した予習内容に取り組む（1時間程度）</p> <p>【事後学習】授業で学習した内容を復習する（1時間程度）</p>

講義科目名称： リハビリテーション論			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 熊谷範夫			

テーマ	リハビリテーションの理解と関わり。
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションの歴史と理念</p> <p>第2回 障害に対する基本的な考え方 ICFの理解</p> <p>第3回 リハビリテーションに関係する諸制度</p> <p>第4回 リハビリテーションの種類と関連職種 チームアプローチについて</p> <p>第5回 ADLとIADLの理解</p> <p>第6回 福祉用具と住宅改造 (義肢 車いす 日常生活用具)</p> <p>第7回 福祉用具と住宅改造 (住宅改造 トイレ 浴室) 福祉の街づくり</p> <p>第8回 リハビリテーション介護とは (在宅生活の目標)</p> <p>第9回 老化と廃用症候群</p> <p>第10回 障害別リハビリテーションの実際 脳血管障害</p> <p>第11回 障害別リハビリテーションの実際 関節リュウマチ パーキンソン病 脊髄損傷</p> <p>第12回 障害別リハビリテーションの実際 大腿骨頸部骨折 内部障害</p> <p>第13回 認知症のリハビリテーション</p> <p>第14回 精神疾患のリハビリテーション</p> <p>第15回 地域リハビリテーション</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要と到達目標】</b> リハビリテーションの理念と障害に関する基本を知り、ソーシャルワーカーの役割を考える。 リハビリテーションは各領域の専門職が連携して、全人的復権という目標を達成する仕事であることを学習します。 特に医療、介護現場におけるリハビリテーションの理解を深めます。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、社会福祉学部の学位授与の方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	プリント配布。
参考文献	講義中適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	学期末のレポートで評価する。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室(研究室棟1階)で受け付ける。 次のメールでも受け付ける。(アドレス bear6v3@mbm.nifty.com)
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】 キャリアデザイン・カレッジ生【可】

メッセージ	<p>担当講師はリハビリテーション病院の現役作業療法士です。 医療連携の実際にもリアルタイムで携わっており、現場の声をお伝えしたい。 積極的な質問を歓迎します。</p>
準備学習について	<p>一般的に認知されているリハビリテーションのイメージをとらえておくこと。 授業毎に2時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨むこと。 授業終了後に次回の予習内容を指示する。</p>

講義科目名称： 保育実践入門			
開講期間： 通年	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 必修
担当教員： 永田恵実子、小川勤			

テーマ	保育・教育を理解するため、保育・教育現場での実際の体験実習を通して、子どもの姿や保育者・教師のかかわり方などについて具体的に学ぶ。
授業計画	第1回 オリエンテーション [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第2回 現場実習に向けて(礼儀・マナーなど) [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第3回 保育技術について(幼児の遊び・手遊びなど) [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第4回 幼児との交流の準備 [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第5回 幼児との交流 通し [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第6回 幼児との交流（続き） [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第7回 幼児との交流の振り返り [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間） [事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）
	第8回 現場実習1回目の事前学習(A 保育所 B 小学校)と見学記録の書き方 [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）



	<p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第9回 現場実習1回目 通し</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第10回 現場実習1回目（続き）</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第11回 現場実習の振り返り</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第12回 現場実習2回目の事前学習</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第13回 現場実習2回目 通し</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第14回 現場実習2回目（続き）</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第15回 現場実習の振り返り</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p> <p>第16回 幼稚園実習の事前学習 ※本年度 変更 夏休みの課題の発表</p> <p>[事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。 （1時間）</p> <p>[事後学習]講義ノートや配布資料（プリント）をもう一度読んで、 復習をしておきましょう。（1時間）</p>
--	---

第 17 回	<p>幼稚園実習(夏期休業中の9月中旬) 通し          ※本年度 変更 夏休みの課題の発表          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、          復習をしておきましょう。(1時間)</p>
第 18 回	<p>幼稚園実習 // (続き) ※本年度 変更 施設の DVD の視聴          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習を          しておきましょう。(1時間)</p>
第 19 回	<p>幼稚園実習 // (続き)          ※本年度 変更 施設の DVD の視聴          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、          復習をしておきましょう。(1時間)</p>
第 20 回	<p>幼稚園実習の振り返り          ※以後 保育所・小学校・幼稚園の現場見学が可能な場合は実施          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、          復習をしておきましょう。(1時間)</p>
第 21 回	<p>施設実習の事前学習(DVD など)          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、          復習をしておきましょう。(1時間)</p>
第 22 回	<p>施設実習 通し          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、          復習をしておきましょう。(1時間)</p>
第 23 回	<p>施設実習(続き)          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、          復習をしておきましょう。(1時間)</p>
第 24 回	<p>施設実習の振り返り          [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。          (1時間)          [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、</p>

	<p>復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第25回 4回の現場実習のまとめ [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間) [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第26回 実習についてのグループワーク [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間) [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第27回 先輩との実習等の話し合い(4年生との交流会) [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間) [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第28回 実習についてのグループワーク [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間) [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第29回 先輩との実習等の話し合い(4年生との交流会) [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間) [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p> <p>第30回 1年間のまとめ [事前学習]事前に配布する資料を一読し、内容の把握をしておきましょう。(1時間) [事後学習]講義ノートや配布資料(プリント)をもう一度読んで、復習をしておきましょう。(1時間)</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要と到達目標】</b> 1年次通年の科目である。「保育」を理解するための入門として保育・教育の現場(幼稚園・保育所・児童福祉施設・小学校)で見学・観察を行い、幼稚園・保育所・児童福祉施設・小学校の役割やさまざまな子どもの姿、保育者・教師の関わり方を学ぶ。学んだことを各自レポートし、グループワーク等を行う。回を重ねていく中で各自の視点や課題を見つけ、「保育」への理解を深めることを目的とする。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	特にありません。必要に応じて資料を配布します。
参考文献	幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業及び体験実習への参加状況（50%）、課題の提出状況とその内容（50%）で評価します。 実習の振り返りや提出物へのコメントは、実習後の振り返りの授業内で行います。
質問・相談の受付方法	担当教員のオフィスアワー等を利用してください。
履修条件	子ども学科の学生に限る。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】
メッセージ	保育・教育・現場を見せていただける貴重な機会です。日頃の体調管理に留意し、前向きに学んで下さい。 また、担当教員の現場経験も生かして、より実践的な学びに取り組めます。
準備学習について	現場での実習が主の授業ですので、体調管理に気を付けて下さい。 事前学習として、社会人を意識したマナーや学習態度を積み重ねていきます。準備は1時間を目安とします。 事後学習として、実習後に課されるレポートは、早めにまとめて、期日までに必ず提出して下さい。振り返りは1時間を目安とします。

講義科目名称： 教育課程論			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 白鳥 絢也			

テーマ	学習指導要領を基準に各学校で編成される教育課程について、意義や編成方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義等について。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（社会における教育課程の役割と機能）</p> <p>第2回 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格と位置付け及び教育課程編成の目的</p> <p>第3回 学校の教育課程編成の基本原理</p> <p>第4回 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（1945年～1968年）</p> <p>第5回 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（1977年～1998年）</p> <p>第6回 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷（2003年～2018年）</p> <p>第7回 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義と重要性</p> <p>第8回 教科・領域・学年をまたいだカリキュラム</p> <p>第9回 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法と例示</p> <p>第10回 実践的授業に即した教育課程編成の方法</p> <p>第11回 教育課程全体を活かしたマネジメントの意義</p> <p>第12回 幼児及び児童や学校・地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画</p> <p>第13回 カリキュラム評価の基礎</p> <p>第14回 今日の学力課題と評価</p> <p>第15回 授業のまとめ（学習指導要領と教育課程編成の原理及び目的、社会的役割）</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 小学校及び幼児教育の指導者を目指す者として、学校教育での教育課程の役割・機能・意義と編成の基本原理及び教育実践に即した方法を理解するとともに、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントする意義の理解を図る。また、現代の教育問題とも関連づけ、子どもの発達に即した教育ができるように、多様な子どもへの科学的知見に基づく適切な対応が考察できる態度を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①学習指導要領・幼稚園教育要領の性格と位置付け、教育課程編成の目的を把握し、その改訂の変遷、主な改訂内容と社会的背景を理解しているとともに、それが社会において果たしている役割や機能を説明できる。②教育課程編成の基本原理を理解し、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示できる。③単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、幼児及び児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を説明できる。④学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を説明できる。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、②人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領（平成29年告示）』</p> <p>ISBN：978-4-491-03460-7</p> <p>出版社：東洋館出版社</p> <p>著者名：文部科学省</p> <p>価格（税抜）201円</p>

	<p>テキスト名：『幼稚園教育要領（平成 29 年告示）』          SBN：978-4-8278-1563-4          出版社：東山書房          著者名：文部科学省          価格（税抜）251 円</p>
参考文献	<p>小学校学習指導要領解説、幼稚園教育要領解説 ※その他必要な資料はその都度紹介、または配布する。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>          学生に対する評価 成績評価の割合は、学期末筆記試験（レポートに切り替える場合もある）70%、平常点 30%（予習ノート 10%・授業参加態度 10%・小論文 10%）で評価する。予習ノート及び授業参加態度、小論文は授業時に評価します。  <b>【フィードバック方法】</b>          学期末筆記試験等に関するフィードバックは、成績評価の問い合わせ制度を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟 1 階）で受け付ける。</p>
履修条件	<p>特になし</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】          聴 講 生 【可】</p>
メッセージ	<p>焼津市内の小学校教員として 10 年間勤めていました。授業の中でそのエピソードや実務的な内容についても触れることができればと思います。また、アイスブレイクやグループワーク等を取り入れた、アクティブ・ラーニング型の授業を想定しています。目の前のこと一つひとつに「着実」に取り組む姿勢を大切にしていきたいと思います。また、本を読むことと同時に、将来お金を貯めてぜひ初めての土地や外国の地へ足をのばしてください。本物は体験の中にあります。自分が見えてきます。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b>          授業終了時に、シラバスに則り、次回の学習課題を確認する。（30 分）  <b>【事後学習】</b>          各回に配布する資料の再読と課題の実施等を行うこと。（60 分）</p>

講義科目名称： 教職論			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 後藤雅彦			

テーマ	教職への道筋をデザインする －教員になるか、教師になれるか－
授業計画	第1回 イントロダクション〔「教員になるか、教師になれるか」〕 「教員になるか、教師になれるか」とはどういうことか。 教職にかかるこの進路選択のテーマから、本講義(学び)の意味を考える。
	第2回 教職の意義〔「先生をめざす」きっかけを見つめ直す〕 教職に興味を持ったきっかけとは何か。あるいは、教員になった方がいいと判断する理由は何か。グループワークの中で、「きっかけ」の違いから動機付けの中身を考え、教師とはどのような存在なのかを探る。
	第3回 教師像の再考〔「理想の先生像」を探る〕 教職観の変遷から、今日求められる教師像やその資質能力を理解した上で、各自がめざす姿とは何かを、グループワークの中から明らかにする。
	第4回 教育活動の実際(1)〔教師として学校現場を知る〕 第1回から第3回までの授業と自らを振り返り、ここまでの学びの成果が「学校現場を知る」ことによって、自らの中でどのように整理されるのかを見つめる機会とする。(感染症等により中止の場合は、同テーマによるグループワークを行う予定)
	第5回 学校教育の機能(1)〔学校制度のしくみや働きを学ぶ〕 学校教育における制度の目的やしくみ、働きの根拠を、法(日本国憲法や教育基本法等)の視点から知る一方、学校を取り巻く文部科学省や教育委員会等の教育行政機関の働きにも着目する。
	第6回 学校教育の機能(2)〔学校の組織と運営を学ぶ〕 校長、教諭等教職員の違いや人数等の配置とその根拠、また担任決めや職務内容、その分担決め等について、学校現場の年度末・年度初を想定し理解する。
	第7回 学校教育の機能(3)〔校務分掌から現場を読み解く〕 校務分掌表から教員の職務の全体を知った上で、学校現場が「なぜ、日本の教育の最前線」となるのか。今日の学校教育を取り巻く要請を、どのように協働して取り組んでいるのを理解する。
	第8回 教育活動の実際(2)〔「教師の一日」を知る〕 「教師の一日」からね「なぜ、多忙化(「ブラック」等の問題視)となるのか。」学校現場や教師が持つ仕事本来の特性や事情を知り、多忙化を達成感や充実感に転換する工夫や資質能力とは何かを理解する。
	第9回 教育活動の実際(3)〔「チーム学校」の意味を学ぶ〕 生徒指導上の問題事例を通して、解決になぜ「チーム学校」が必要なのか。自らの適性に照らし、何が求められているのかを考える。

	<p>第 10 回 教師の力(1)〔学級担任を真似る〕 子どもたちを「指導する」とはどういうことか。自らが試演する中から、学級担任として仕事をしていくために必要な力とは何かに気づき、それをどう身に付けるべきか見直す。</p> <p>第 11 回 教師の力(2)〔学級担任を真似る〕 第 10 回からの連続内容、特に教師としての「話し方」では、教室(場所の大きさ)や話材(話そうとするテーマ)に着目し、実演から「伝える力」の教育的意味を考える。</p> <p>第 12 回 教師の力(3)〔学級担任を真似る〕 第 10 回からの連続内容、特にいじめ根絶のために、学級担任はどう動き、何を予見しなければならないのか。自らの獲得すべき力を自覚する。</p> <p>第 13 回 教師の身分〔教育公務員の意味を考える〕 身分保障の裏返しとなる服務や勤務、研修の義務がなぜあるのか。判例等を通して知ると共に、今後の教員免許の発行や更新のしくみを合わせて理解する。</p> <p>第 14 回 まとめと振り返り(1)〔再び「先生をめざす」から見つめ直す〕 ゲストティーチャーと再び「教員になるか、教師になれるか」を問い掛ける。学校現場で期待されていることは何か、何をこれから身に付けるべきかを理解し、今後の学び(進路)に生かす。(感染症や講師等の都合により中止の場合は、同テーマによるグループワークを行う予定)</p> <p>第 15 回 まとめと振り返り(2)〔新たな「先生をめざす」一步を踏み出す〕 「教員になるか、教師になれるか」から、本講義(学び)を振り返り、自らが新たな力の獲得に踏み出す進路選択をディスカッションによって共有する。</p> <p>定期試験</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 「教員になるか、教師になれるか」この教員と教師の違いから、教職の「きっかけ」とその後の「見通し」がどのように持てるのか。特に、自らが学校現場〈入口〉を潜り抜けた先の、「いかに教師であるか」「教職の世界で生きるとは何か」に及ぶ基礎知識と、その理解にとどまるだけでなく、自らの感性や経験との「差」から、何を身に付けるべきか獲得のため歩み出す契機とする。</p> <p>【到達目標】 教職の意義、教員の役割や職務内容等について理解を深め、「教師とは何か、教職とは何か」について、(1)きっかけとなる自らの教師像を見直し、どのような方向(進路)へ向かうべきか判断できる。(2)学校現場〈入口〉で求められる資質能力の全体をつかみ、本授業を起点に身に付けるべき力の獲得に歩み出すことができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身に付けることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>特に指定しない。授業の中で参考文献等を適宜紹介する。</p>
<p>参考文献</p>	<p>授業中に適宜資料やワークシート等を配付する。</p>



成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業やグループワーク、試演への参加態度(25%)、授業の振り返り(課題)の提出状況と内容(25%)、定期試験(50%)を総合して評価する。
質問・相談の受付方法	授業後、またはオフィスアワーを利用してください。
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	28年間の学校等での経験を生かし、「現場で求められる」という意味を問題提起していきます。それを受けて、「教員」になる(ならない)ではなく、「教師」になれるか(どうするか)という自分事としての判断と実行力が身に付くように指導支援していきます。
準備学習について	授業時に取り組むべき課題や発表の指示を適宜出します。事前に各自の準備をしておいてください。(1時間) 授業後は取り組んだ内容をワークシートや資料等と関連付けて整理しておいてください。(1時間)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	2	必修
担当教員			
鈴木幸子			
添付ファイル			

テーマ	ナショナルカリキュラムにおける保育の基本・内容を理解し、具体的な事例から、保育内容と計画とを関連づけて保育実践を考える。
授業計画	<p>第1回 保育の基本と保育内容：保育所保育指針 乳児</p> <p>第2回 乳児の遊びの考察：3つの視点から</p> <p>第3回 保育の基本と保育内容：保育所保育指針 満3歳未満</p> <p>第4回 満3歳未満児の遊びの考察：5領域から</p> <p>第5回 保育の基本と保育内容：幼稚園教育要領 満3歳以上</p> <p>第6回 満3歳以上児の遊びの考察：5領域から</p> <p>第7回 保育内容の全体的な構造</p> <p>第8回 保育内容の変遷：保育の発祥</p> <p>第9回 保育内容の変遷：大正から昭和前期</p> <p>第10回 保育内容の変遷：保育内容の体験</p> <p>第11回 保育内容の変遷：第二次世界大戦から現代</p> <p>第12回 さまざまな連携における保育内容：家庭や小学校</p> <p>第13回 指導計画と省察と保育内容：自然発生した集団の遊びの理解と個の理解</p> <p>第14回 指導計画の作成と発表：子どもの遊びの連続性を方向性として</p> <p>第15回 前半のまとめ</p> <p>第16回 保育実践における保育内容：子どもの遊びと保育者の役割</p> <p>第17回 遊びの援助の構想と発表：遊びの停滞を事例に</p> <p>第18回 保育者の役割①：遊びの観察記録の方法</p> <p>第19回 保育者の役割②：遊びの観察記録の方法の実際：グループワーク</p> <p>第20回 保育者の役割③：遊びの観察記録による考察</p> <p>第21回 遊びの展開と教材研究</p> <p>第22回 教材作成と発表</p> <p>第23回 保育の構想と指導計画の作成：3歳児 グループワーク</p> <p>第24回 保育の構想と指導計画の発表と検討：3歳児 グループワーク</p>

	<p>第25回 保育の構想発表と検討：4歳児 グループワーク</p> <p>第26回 保育の構想と指導計画の発表と検討：4歳児 グループワーク</p> <p>第27回 保育の構想と指導計画の作成：5歳児 グループワーク</p> <p>第28回 保育の構想発表と検討：5歳児 グループワーク</p> <p>第29回 養護と教育における保育内容：多様なニーズへの対応</p> <p>第30回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における保育目標、子どもの発達、保育内容を関連付けて理解し、子どもの遊びを通じた子ども理解を踏まえ、保育を計画し、実践し、検討することを、具体的事例を通して学ぶ。また、現代的なニーズに対応する多様な保育を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 保育の基本・保育内容を踏まえ、子どもの遊びにおける指導方法を指導計画と関連付けながら考え、保育実践を構想する力を養うことができる。また、多様な保育について理解することができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>①テキスト名：幼稚園教育要領解説書 ISBN：9784577814475 出版社：フレーベル館 著者名：文部科学省 価格（税抜）：240円</p> <p>②テキスト名：保育所保育指針解説 ISBN：978-4577814482 出版社：フレーベル館 著者名：厚生労働省 価格（税抜）：320円</p> <p>③テキスト名：子どもと共に学び合う 演習・保育内容総論 第2版 ISBN：978-4-86015-454-7 著者名：井上孝之・山崎敦子 編 出版社名：みらい 価格（税抜）：2,100円</p>
参考文献	<p>『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』（内閣府他編、フレーベル館） 『専門家の知恵』（ドナルド・ショーン、ゆみる出版）</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 小テスト(50%)、提出課題(40%)、授業への取り組み態度(10%)により、総合的に評価する。</p> <p>【フィードバック方法】 課題・小テストを行った後に、授業内で解説する。</p>
質問・相談の受付方法	講義の前後に、教室あるいは講師控室(研究棟1階)で受け付ける。
履修条件	—
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】
メッセージ	幼稚園・認定こども園・保育所で保育者として11年間の経験があります。授業では、現場での経験も交えてお話ししたいと思います。
準備学習について	予習として、授業の振り返りやテスト準備として約1時間、復習として課題への取り組み等で約1時間を想定している。

講義科目名称： 幼稚園教育実習指導			
開講期間： 後期、前期	配当年： 3年、4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 永田恵実子			

テーマ	幼稚園教育実習に向けての準備、および実習後の反省と自己評価に基づき実習を総括し、その上で新たな自己課題を明確にする。
授業計画	<p>第1回. 実習の意義と目的、実習の方法と内容</p> <p>第2回. 幼稚園の1日、幼稚園での子どもの様子</p> <p>第3回. 子どもの理解と幼稚園教諭の仕事</p> <p>第4回. 実習記録の意義と日誌の書き方①—基本的な記述の理解</p> <p>第5回. 日誌の書き方②—よい日誌とは何かを理解する</p> <p>第6回. 指導案の書き方①—基本的な指導案について</p> <p>第7回. 指導案の書き方②—より良い指導案を理解し作成する</p> <p>第8回. 実習オリエンテーション（1週間実習）</p> <p>第9回. 実習の振り返りと報告会</p> <p>第10回. 3週間実習に向けて（自己課題の設定）</p> <p>第11回. 一日責任実習指導案について</p> <p>第12回. 実習オリエンテーション（3週間実習）</p> <p>第13回. 実習の振り返りと自己評価</p> <p>第14回. 反省報告会</p> <p>第15回. 個別指導</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>幼稚園教育実習の意義と目的を理解し、自らの課題を明確にする。講義や現場の保育者の話を通して子どもへの理解を深め、日誌の書き方・指導案作成や保育教材に関する知識と技術を身に付け、実習に向けた準備を整える。実習後は実習の反省と自己評価を行ったうえで、新たな自己課題と学習課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実習指導を通して実習を完遂し、幼稚園教諭免許を取得し、学士（子ども学）授与に向けて取り組む。各自毎回の授業の準備、ふりかえりを行うこと。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、問題解決力、を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『実習の手引き』（本学作成）</p> <p>著者： 静岡福祉大学編</p> <p>テキスト名：『指導計画の考え方・立て方』 第2版</p> <p>ISBNコード：978-4-89347-248-9</p> <p>出版社：萌文書林</p> <p>著者：久富陽子編</p> <p>価格（税抜）：1,800円</p>
参考文献	随時、紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>受講態度（50%）と、レポート・関係書類・課題等の提出状況とその内容（50%）により、総合的に評価する。授業の性質上、出席は必須とする。</p> <p>前半実習と後半実習の各事後指導を通して、フィードバックを行う。</p>

質問・相談の受付方法	授業終了時、研究室在室中は随時
履修条件	<p><b>【必須要件】</b></p> <p>～2018年度生：下記4科目を単位取得済みであること。 「教育原理」「教育・保育課程論」「教職・保育者論」「教育心理学」</p> <p>2019年度生～：下記8科目を単位取得済み、もしくは履修中であること。 「教育原理」／「教職・保育者論」または「教職論」 「教育心理学」／「教育・保育課程論」または「教育課程論」 「保育内容総論」「音楽Ⅱ」「造形表現Ⅱ」「保育内容（環境Ⅱ）」</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	<p>幼稚園教諭免許を取得するための、幼稚園教育実習に向けた授業です。この授業は学内勤務と同様の意味があるので、欠席・遅刻をしないように体調を整えて授業に臨みましょう。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。</p> <p>担当教員の現場経験を生かしながら、実践的な学びを進めます。</p> <p>※なお2019年度生～は、以下の場合、原則として本科目も不可となります。 ①幼稚園教育実習が不可の場合 ②履修条件にある実習内規科目を「履修中」で実習に臨み、結果的にその年度で当該内規科目が不可となった場合</p>
準備学習について	<p>すでに体験済みのこれまでの実習を振り返り、幼稚園の子どもたちをイメージしながら、教材研究や部分実習の指導案などを考えましょう。</p> <p>事前学習は、各回の課題に関わる相当の時間を準備学習にあてる（1時間を目安に）。</p> <p>事後学習は、授業後の課題や新たな問題に向けて主体的に取り組む（1時間を目安に）。</p>

講義科目名称： 幼稚園教育実習			
開講期間： 後期、前期	配当年： 3年、4年	単位数： 4	必選： 選択
担当教員： 永田恵実子			

テーマ	幼稚園教育の実際、幼稚園教諭の仕事および子どもについて理解を深める。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼稚園の一日の流れを理解する（子どもの活動・保育環境・保育者の援助など）</li> <li>2 幼稚園教育課程・保育計画・指導計画について理解する</li> <li>3 子どもの観察やかかわりを通して、幼児の心身の発達を理解する</li> <li>4 幼稚園教諭の職務内容や倫理、社会的な役割および職員間の連携について理解する</li> <li>5 一日の保育を日誌に記録し、省察する態度を身につけ、子どもへの理解を深める</li> <li>6 部分実習の指導案を作成し、生活や遊びなどの一部分を担当する（部分実習）</li> <li>7 一日の保育指導案を作成し、それに基づいて保育実践を行い、個々の子どもを把握する力を養う</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 幼稚園における観察実習を通して、幼稚園教諭としての仕事や園の一日の流れをに対する理解を深める。また、部分実習・責任実習を通して指導計画や援助・支援の実際を体験し、実践力を身につける。さらに実習園での指導を通して、自己のあり方や課題を明確にする。</p> <p>【到達目標】 実習履修により幼稚園教諭免許を取得し、学士（子ども学）授与に向けて取り組む。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、自己管理能力、問題解決力、を身につけることができる。</p>
テキスト	『実習の手引き』（「保育実習Ⅰ」で既に使用しているテキストです。購入は不要です）
参考文献	『幼稚園教育要領』
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	実習園の評価（50%）、日誌（40%）、個別指導教員による評価（10%）を点数化して評価する。 事後指導を通して、フィードバックを行う。
質問・相談の受付方法	授業終了時、研究室在室中は随時
履修条件	<p>【必須要件】 ～2018年度生：下記4科目を単位取得済みであること。 「教育原理」「教育・保育課程論」「教職・保育者論」「教育心理学」</p> <p>2019年度生～：下記8科目を単位取得済み、もしくは履修中であること。 「教育原理」／「教職・保育者論」または「教職論」 「教育心理学」／「教育・保育課程論」または「教育課程論」 「保育内容総論」「音楽Ⅱ」「造形表現Ⅱ」「保育内容（環境Ⅱ）」</p>
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】

メッセージ	<p>幼稚園教育実習は大学生活最後の実習で実習期間も長いので、体調を整えて実習に臨みましょう。また、これまで学んだ知識や技術、種々の実習での反省を活かし、実りの多い実習となるように頑張りましょう。</p> <p>※なお 2019 年度生～は、以下の場合、原則として本科目も不可となります。</p> <p>①幼稚園教育実習指導が不可の場合  ②履修条件にある実習内規科目を「履修中」で実習に臨み、結果的にその年度で当該内規科目が不可となった場合</p>
準備学習について	<p>これまで学んださまざまな保育技術を、各年齢でどのように実践できるかを考え、指導案に活かせるように準備しておきましょう。また、子どもとのかかわりで想定される場面をシミュレーションして、自分なりのかかわり方も考えておきましょう。実習内容に関わる相当の時間を準備学習にあてる。</p>

講義科目名称： 保育・教職実践演習			
開講期間： 後期	配当年： 4年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 永田恵実子、小川勤			

テーマ	幼稚園教職課程科目の履修履歴(教育実習を含む)や様々な活動を通して、保育者として必要な資質能力が実践力として有機的に統合され、形成されたかを確認する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求① 保育実践者</p> <p>第3回 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求② 子ども理解</p> <p>第4回 保育者としての使命感や責任感、教育的愛情等に関する探求③ 遊びと環境づくり</p> <p>第5回 保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探求① 現場保育者の講話</p> <p>第6回 保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探求② 年間行事</p> <p>第7回 保育者としての社会性や対人関係能力等に関する探求③ 職場体制</p> <p>第8回 幼児への理解と学級経営等に関する探求① 現場保育者の講話</p> <p>第9回 幼児への理解と学級経営等に関する探求② 保護者対応</p> <p>第10回 幼児への理解と学級経営等に関する探求③ 通信・連絡帳</p> <p>第10回 幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求① 模擬保育(グループA)</p> <p>第12回 幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求② 模擬保育(グループB)</p> <p>第13回 幼稚園保育内容等の指導力等に関する探求③ 模擬保育(やり直しのグループ)</p> <p>第14回 保育実践力の総合的探求</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要と到達目標】</b>          保育者としての実践力について、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係能力幼児への理解力・学級経営、保育内容の指導力などの観点で、それらの習得状況を総合的に診断・指導する。ロールプレイング、グループワーク、実技指導、事例研究、模擬保育などの方法を取り入れ、より実践的な学習とする。4年間の学びのまとめとして、幼稚園免許取得の上に、学士(子ども学)に向けて取り組む。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b>          この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力、を身につけることができる。</p>
テキスト	特に指定しない。
参考文献	「個人履修カルテ」(個別記入ワークシート) 教職課程の各科目で使用したテキスト等
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p>授業への姿勢、課題提出物などの平常点50%</p> <p>課題レポート・プレゼンテーション50%</p> <p>個別課題は、事例として全体にもフィードバックする。</p>
質問・相談の受付方法	授業の前後、担当教員のオフィスアワー時などに受け付ける。
履修条件	幼稚園教諭免許取得予定の者。
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>
メッセージ	現場保育者、社会人を意識、想定しながらの授業参加を求める。 授業担当者の現場経験を十分に生かし、実践的な学びの場とする。



準備学習について	現場保育者、社会人を意識し、主体的に取り組む。 事前学習は、探求テーマに関わる下調べや資料準備を行う（1コマ分を目安に）。 事後学習は、振り返りと新たな課題を整理する（1コマ分を目安に）。
----------	--

講義科目名称： 乳児保育 I			
開講期間： 前期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 村松幹子			

テーマ	保育士として必要な乳児保育の基礎知識を理解し、習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方について 保育所における乳児保育の視聴（ビデオ）</p> <p>第2回 乳児保育の意義・目的 講義（エピソードを通して） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第3回 乳児保育の現状と課題 講義（社会的状況の把握から） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第4回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈1〉社会的発達 講義（具体的な保育の場面からの理解） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第5回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈2〉身体的発達 講義（発達のめやす） わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく（1時間）</p> <p>第6回 3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈3〉精神的発達 講義（保育の写真を参考に） わらべうた</p>

	<p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間)</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、 歌えるようにしておく(1時間)</p>
第7回	<p>3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈4〉 自己の形成</p> <p>講義(具体的な保育場面から)</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間)</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、 歌えるようにしておく(1時間)</p>
第8回	<p>3歳未満児の発育・発達過程と保育者 〈5〉 集団の中の育ち</p> <p>講義(保育の写真を参考に)</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】保育所保育指針第2章1項、2項を一読しておく(1時間)</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、 歌えるようにしておく(1時間)</p>
第9回	<p>3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈1〉 保育者のかかわりの基本</p> <p>講義(エピソードなどから)</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間)</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、 歌えるようにしておく(1時間)</p>
第10回	<p>3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈2〉 保育所と保護者との連携</p> <p>講義(写真、映像を活用して)</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間)</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、 歌えるようにしておく(1時間)</p>
第11回	<p>3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈3〉 3歳未満児の生活と環境</p> <p>講義(保育所での実践例を使いながら)</p> <p>わらべうた</p> <p>絵本の読み聞かせ</p> <p>【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間)</p> <p>【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、 歌えるようにしておく(1時間)</p>
第12回	<p>3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本 〈4〉 3歳未満児の遊びと環境</p> <p>講義(保育所での実践例を使いながら)</p> <p>わらべうた</p>

	<p>絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく(1時間)</p> <p>第13回 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の基本〈5〉2歳から3歳への移行期の保育 講義(保育所での実践例を使いながら) わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく(1時間)</p> <p>第14回 乳児保育の計画・記録・評価の意味 講義(保育所での実践例を使いながら) わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく(1時間)</p> <p>第15回 連携と協働 職員間・関係機関・保護者 講義(具体的な事例から) わらべうた 絵本の読み聞かせ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】わらべうたを資料としてファイリングし、歌えるようにしておく(1時間)</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】 乳児保育の意義と目的、3歳未満児の発達の理解 毎回の授業の冒頭においてわらべうたを1曲ずつ、覚えていく。</p> <p>【到達目標】 乳児保育に必要な基礎知識を身に付け、実践へとつなげる</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：乳児保育の理論と実践 I S B N：978-4-332-70196-5 出版社：光生館 著者名：阿部和子・大方美香 編著 価格(税別)：本体1,900円</p>
<p>参考文献</p>	<p>保育所保育指針</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への意欲・提出されたレポートの内容による評価</p> <p>【フィードバック方法】 学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行う</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業終了時・随時</p>

履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】聴 講 生 【可】
メッセージ	保育園園長として20年余り、授業の中で経験と実践に基づく具体的な見識を伝えていこうと思います。毎回の授業で保育の場で実際に活用しているわらべうた等を学びます。また第9回以降の授業においては事例やエピソードをふんだんに活用して進めていきます。
準備学習について	【事前学習】授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと 【事後学習】毎回の授業でわらべうたを学ぶ。楽譜等を配布するので必ず、ファイリングし、復習しておく

講義科目名称： 乳児保育Ⅱ			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 村松幹子			

テーマ	乳児保育の基礎知識に基づき、実践について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方 グループ作り、授業内容について、乳児保育Ⅰの振り返り 【事前学習】乳児保育Ⅰの振り返りをしておく（1時間） 【事後学習】写真絵本作成の計画立案（1時間）</p>
	<p>第2回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈1〉子どもの主体性を尊重した関わり ビデオの視聴とグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第3回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈2〉共感的・受容的・応答的な関わり：0歳児 ビデオの視聴とグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第4回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈3〉共感的・受容的・応答的な関わり：1歳児 ビデオの視聴とグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第5回 子どもと保育者のかかわりの基本 〈4〉共感的・受容的・応答的な関わり：2歳児 エピソードを読んでグループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく</p>
	<p>第6回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈1〉 1日の流れ 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第7回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈2〉 環境の構成 保育室をどう、整えるか 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>
	<p>第8回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 〈3〉 生活と援助の実際 具体的な対応の実践 授乳・食事・排泄・睡眠・着脱等 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと（1時間） 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく（1時間）</p>

	<p>第9回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 (4) 遊びと援助の実際 玩具の体験 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく(1時間)</p> <p>第10回 乳児保育における発育や発達をふまえた生活と遊びの実際 (5) 子ども同士の関わりと援助の実際 エピソードから考える・・・グループワーク 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】これまでに保育園見学を済ませ、レポートにまとめる(1時間)</p> <p>第11回 乳児保育における配慮の実際 健康・安全・情緒の安定 【事前学習】テキスト該当ページを一読し、概略を把握しておくこと(1時間) 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく(1時間)</p> <p>第12回 乳児保育における配慮の実際 環境の変化・集団生活 【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく(1時間) 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく(1時間)</p> <p>第13回 乳児保育における計画 (1) 長期的な指導計画と短期的な指導計画 【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく(1時間) 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく(1時間)</p> <p>第14回 乳児保育における計画 (2) 個別計画と記録・評価 連絡ノートを書いてみよう 【事前学習】事前にテキスト該当ページを一読し、把握しておく(1時間) 【事後学習】絵本・玩具のリスト化をしておく</p> <p>第15回 乳児保育の実践 まとめ 保育の一場面を実践してみよう 【事前学習】これまでの振り返りと内容の確認 【事後学習】実践後の振り返り 記録・評価</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】 乳児保育のための具体的な実践方法の理解 毎回の授業においてわらべうた、絵本、玩具の紹介</p> <p>【到達目標】 乳児保育における多面的な配慮の実際を身に付ける</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らがたてた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名： 乳児保育の理論と実践 ISBN:978-4-332-70196-5 出版社： 光生館 著者名： 阿部和子・大方美香 価格（税別）：1,900円</p>
<p>参考文献</p>	<p>保育所保育指針</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】 授業への意欲・グループワークへの参加態度（20%）わらべうた・絵本の披露（20%） 写真絵本作成（20%） レポート等（40%）</p>

	<b>【フィードバック方法】</b> 学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う
質問・相談の受付方法	授業終了時・随時
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】
メッセージ	保育の現場において保育士として、園長として多くの乳児たちとかかわってきました。そこで得た見識や具体的な支援の方法などを伝えていきたいと思います。 全ての授業において素材として勤務する自園の取り組みを活用して学んでいきます。
準備学習について	<b>【事前学習】</b> 授業内で提示する。次回授業までに行っておくこと <b>【事後学習】</b> 毎回の授業で絵本を読み聞かせる。その絵本をリスト化する。 随時、出されるレポートの課題に取り組むこと。



講義科目名称： 保育所実習指導 I			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 齋藤 剛、岩崎 千枝子			

テーマ	保育所実習に向けての準備および実習後の反省と自己評価に基づき、新たな自己課題を明確にする。
授業計画	第1回 保育所実習の意義・目的・内容の理解 第2回 日誌の書き方①（実習生調査他） 第3回 日誌の書き方②（日録の書き方） 第4回 子どもの理解（乳児） 第5回 子どもの理解（幼児） 第6回 保育所の役割・保育士の仕事の理解 第7回 保育所の理解（外部講師） 第8回 指導計画の理解と立案 実習園オリエンテーションに向けて 第9回 指導計画に基づく保育実践と評価①（グループワーク） 第10回 指導計画に基づく保育実践と評価②（グループワーク） 第11回 先輩に話を聞く会 第12回 個別指導 第13回 本実習のための学内オリエンテーション 第14回 事後指導①（実習報告会） 第15回 事後指導②（自己評価と個別指導）
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<b>【授業の概要】</b> 保育実習 I（保育所）に関する指導を行う。 <b>【到達目標】</b> 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。また実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習後は実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 <b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。
テキスト	『実習の手引き』 静岡福祉大学 保育実習委員会編（購入の必要はありません。）
参考文献	随時、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	受講態度（50%）、指導案やコメントペーパーなどの提出物（50%）により、評価する。 指導案などの提出物にはコメントをつけて返却する。
質問・相談の受付方法	授業終了後、あるいは実習担当教員のオフィスアワーなどを利用してください。
履修条件	<b>【必須要件】</b> ～2018年度生：「保育原理」「乳児保育」「子ども家庭福祉」を単位取得済であること。 2019年度生～：「保育原理」「教職・保育者論」「乳児保育 I」「乳児保育 II」「子ども家庭福祉」を単位取得済であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【不可】</b> 聴 講 生 <b>【不可】</b>

<p>メッセージ</p>	<p>実習に関する大事な授業ですので、遅刻・欠席がないように留意してください。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。</p> <p>※なお2019年度生～は、保育実習Ⅰ（保育所）が不可の場合、原則として本科目も不可となります。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>授業で課された課題を必ず期日までに提出してください。また、指導案作成の準備にも励んでください（課題などの準備に1時間）。</p>

講義科目名称： 保育実習 I（保育所）			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 永田 恵実子、齋藤 剛			

テーマ	保育所、保育士および子どもについて理解する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の生活の流れを理解する</li> <li>2. 子どもの観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する</li> <li>3. 保育士の職務内容と役割、職員間のチームワークについて理解する</li> <li>4. 保育士としての倫理や、安全及び疾病予防への配慮について理解する</li> <li>5. 保育計画・指導計画を理解し、生活や遊びなどの一部分を担当して保育技術を学ぶ</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 保育所で実習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。</li> </ol> <p>現場での実習を通して、以上3つのねらいを達成することを目的とする。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」などを身につけることができる。</p>
テキスト	『実習の手引き』静岡福祉大学 保育実習委員会編（購入の必要はありません。）
参考文献	『保育所保育指針』他。授業内で紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>実習先の評価（50%）、実習日誌の評価（40%）、個別指導担当教員による評価（10%）で評価する。</p> <p>実習についてのふりかえりは、巡回指導と大学での事後指導を通して行います。</p>
質問・相談の受付方法	随時、実習担当教員が受け付ける。
履修条件	【必須要件】「保育原理」「教職・保育者論」「乳児保育Ⅰ」「乳児保育Ⅱ」「子ども家庭福祉」を単位取得済であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<p>実際に子どもとかわることを通して、学びを深めましょう。</p> <p>※なお、保育所実習指導Ⅰが不可の場合、原則として本科目も不可となります。</p>
準備学習について	実習前の授業において事前に出された課題について、予習して臨んでください。（1時間）また、実習日誌他、課された課題は必ず指定された期日までに実習先及び大学まで提出すること。

講義科目名称： 施設実習指導 I			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 永田 恵実子、小川 勤			

テーマ	実習施設の機能・役割、養護・支援内容、保育士の仕事を理解し、実習後の反省と自己評価に基づき、新たな自己課題を明確にする。
授業計画	第1回 施設実習の意義と目的、児童福祉施設について 第2回 実習前個別指導（実習生調書の作成） 第3回 施設の理解①（調べ学習①乳児院） 第4回 施設の理解②（調べ学習②障害児入所施設（福祉型）） 第5回 施設の理解③（講演①母子生活支援施設） 第6回 施設の理解④（調べ学習③障害児入所施設（医療型）） 第7回 施設の理解⑤（講演②児童養護施設） 第8回 施設の理解⑥（講演③児童発達支援センター） 第9回 実習前個別指導（実習の課題） 第10回 実習前個別指導（実習に必要な技術） 第11回 日誌の書き方 第12回 学内オリエンテーション 第13回 事後指導①（実習報告会） 第14回 事後指導②（自己評価） 第15回 事後指導③（個別指導）
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<b>【授業の概要】</b> 保育実習 I（施設）に関する指導を行う。 <b>【到達目標】</b> 施設実習の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にする。また施設の役割や施設利用児（者）の特性、施設職員の職務と専門性等について理解するとともに、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標を明確にする。 <b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。
テキスト	『実習の手引き』 静岡福祉大学 保育実習委員会編
参考文献	随時、紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	受講態度、レポート等の提出状況とその内容により評価する。 提出物についてのコメントは次回の授業内などに行います。
質問・相談の受付方法	授業終了後、あるいは実習担当教員のオフィスアワーなどを利用してください。
履修条件	<b>【必須要件】</b> ～2018年度生：「保育原理」「乳児保育」「子ども家庭福祉」を単位取得済であること。 2019年度生～：「社会福祉」「子ども家庭福祉」「障がい児保育」を単位取得済であること。
特別学生の履修可否	科目等履修生 <b>【不可】</b> 聴 講 生 <b>【不可】</b>

<p>メッセージ</p>	<p>実習に関する大事な授業ですので、遅刻・欠席がないように留意してください。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。</p> <p>※なお2019年度生～は、保育実習Ⅰ（施設）が不可の場合、原則として本科目も不可となります。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>授業で課された課題や提出物を必ず期日までに提出するようにしてください(準備に1時間)。</p>

講義科目名称： 保育所実習指導Ⅱ			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： ActiveAcademy 参照			

テーマ	保育実習Ⅰ(保育所)の経験を踏まえ、保育について総合的に理解を深め、実習後の反省と自己評価に基づき、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業計画	第1回 保育実習Ⅱの意義・目的・内容の理解、実習生調書の作成 第2回 子育て支援①(子育て支援の内容) 第3回 子育て支援②(保育士のまなざし) 第4回 子ども個人の理解とグループや集団へのかかわり 第5回 自己課題 第6回 日誌の書き方、指導計画の作成 第7回 指導計画に基づく実践と評価①(手遊び・絵本など) 第8回 指導計画に基づく実践と評価②(乳児・幼児) 第9回 指導計画に基づく実践と評価③(乳児・幼児) 第10回 指導計画に基づく実践と評価④(乳児・幼児) 第11回 先輩に話を聞く会 第12回 保育士の職業倫理、本実習学内オリエンテーション 第13回 実習報告会 第14回 自己評価 第15回 個別指導
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<b>【授業の概要】</b> 保育実習Ⅱに関する指導を行う。 <b>【到達目標】</b> 保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育所の役割や機能についてさらに理解を深めるとともに、保育の計画、実践、記録および自己評価等について実際に取り組み理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解し、保育士としての自己の課題を明確化する。 <b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができる。
テキスト	『実習の手引き』静岡福祉大学 保育実習委員会編
参考文献	適宜、紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	受講態度、指導案等の提出物、模擬保育の発表により評価する。 提出された指導案はコメントをつけて返却します。 模擬保育の発表についてのコメントは、発表後、その場で行います。
質問・相談の受付方法	授業終了後、あるいは実習担当教員のオフィスアワーなどを利用してください。
履修条件	<b>【必須要件】</b> ～2018年度生：「保育実習Ⅰ」「教育・保育課程論」「教職・保育者論」「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」を単位取得済であること。 2019年度生～：「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(施設)」「子どもの保健」「教育・保育課程論」「保育内容総論」「子どもの健康と安全」を単位取得済みであること。

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	<p>実習を想定し、主体的に取り組むことを期待しています。          実習の事前・事後指導の授業なので、全出席を心がけてください。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。</p> <p>※なお2019年度生～は、保育実習Ⅱが不可の場合、原則として本科目も不可となります。</p>
準備学習について	<p>課題が複数ありますので、自分なりの準備（1時間）と心構えを持ち、授業に臨んでください。</p>

講義科目名称： 保育実習Ⅱ			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 永田 恵実子、他			

テーマ	保育実習Ⅰ（保育所実習）の経験を踏まえ、保育所と保育士の役割、子どもへの理解を更に深める。また、実習後の反省をもとに、保育に対する課題を明確化する。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育全般に参加し、子ども一人ひとりについて理解を深め、その対応とグループや集団へのかかわりについて学ぶ</li> <li>2. 乳幼児の実態に即した指導計画を立案し、保育の実践・評価を行い、保育技術を習得する</li> <li>3. 保育所と家庭及び地域との連携、コミュニケーションの方法を具体的に学び、保育所の社会的役割について考える</li> <li>4. 保育士の職務内容や職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解する</li> <li>5. 子ども観・保育観を形成するとともに、自己の課題を明確化する</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 保育所での実習を行う。</p> <p>【到達目標】 保育実習Ⅰ（保育所実習）の経験を踏まえた上で、保育所の役割や機能、保育士の職務内容や職業倫理などについて、実践を通して理解を深める。また、児童福祉施設としての保育所の理解をもとに保護者支援や子育て支援のための知識、技術、判断力などを養うとともに、保育士としての自己課題を明確化する。最終的に自らの保育観・子ども観を形成する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「主体的に学習する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「自己管理能力」「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」などを身につけることができる。</p>
テキスト	ありません。
参考文献	随時紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	実習先の評価（50%）、実習日誌の評価（40%）、個別指導担当による評価（10%）から評価する。 実習についてのふりかえりは、巡回指導と大学での事後指導を通して行います。
質問・相談の受付方法	必要に応じて、実習携帯により、随時受け付ける。
履修条件	<p>【必須要件】 ～2018年度生：「保育実習Ⅰ」「教育・保育課程論」「教職・保育者論」「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」を単位取得済であること。 2019年度生～：「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「子どもの保健」「教育・保育課程論」「保育内容総論」「子どもの健康と安全」を単位取得済みであること。</p>
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	保育実習としては最後の実習となります。自分の課題が明確になる、実りある実習になることを願っています。 ※なお2019年度生～は、保育所実習指導Ⅱが不可の場合、原則として本科目も不可となります。
準備学習について	事前指導を通して、十分な準備をしてください。また、心身ともに体調をととのえてください。



講義科目名称： 施設実習指導Ⅱ			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 永田恵実子、上野永子			

テーマ	保育実習Ⅰ(施設)の経験を踏まえ、施設と保育士の役割や入所児童の理解をさらに深め、実習後の反省と自己評価に基づき、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業計画	<p>第1回 保育実習Ⅰ(施設)で学んだこと、反省点、今後の課題について各自プレゼンテーション。 【事前学習】プレゼンテーションする内容をまとめておくこと(1時間) 【事後学習】友人の発表内容を共有する(1時間)</p> <p>第2回 保育実習Ⅲガイダンス、保育実習Ⅲの意義と目的 【事前学習】『実習の手引き』の該当頁を一読しておく(30分) 【事後学習】授業内容を復習する(30分)</p> <p>第3回 実習生調書の作成 【事前学習】実習生調書の「自己紹介」の記載内容を考えておく(30分) 【事後学習】授業内に個人調書を添削し返却するので再度訂正して提出すること(30分)</p> <p>第4回 実習施設の種類ごとに、目的、役割、機能、子ども理解(グループ学習) 【事前学習】参考書や児童福祉法で調べておく(1時間) 【事後学習】復習する(30分)</p> <p>第5回 施設の種類別グループワーク学習の発表(各種類1名) 【事前学習】前回の授業で学んだことを発表する人を決めておく 【事後学習】自分が行かない種類の施設について理解したことをまとめる(1時間)</p> <p>第6回 配属先の施設の理解 【事前学習】配属先の実習施設について調べておくこと(1時間) 【事後学習】学んだことをまとめる</p> <p>第7回 各自実習の課題を考え発表する。 【事前学習】実習で特にどのようなことを学びたいのかを考えておく(30分) 【事後学習】実習日誌に記録し、オリエンテーション時に助言を受ける。</p> <p>第8回 保育士の多様な業務と職業倫理の理解、他の専門職との連携・協働 【事前学習】配属された実習施設の保育士の業務内容と、他にどんな専門職がいるのかを調べておく(1時間) 【事後学習】授業内容を復習する(30分)</p> <p>第9回 実習に必要な技術(指導案作成と実践) 【事前学習】子どもと遊ぶ内容を考え、部分実習指導案を作成する(1時間) 【事後学習】友人の考えた遊びの内容を参考にして、実習開始までに遊びの種類を用意しておく</p> <p>第10回 実習計画の作成 【事前学習】2週間の実習をどのように進めるか考えておく。(30分) 【事後学習】友人とも意見交換しながら実習の課題が達成できるような実習計画を作成する(1時間)</p>

	<p>第 11 回 記録の意味と日誌の書き方 【事前学習】『実習の手引き』の該当頁を一読しておくこと (30 分) 【事後学習】授業内容を復習する (1 時間)</p> <p>第 12 回 本実習のためのオリエンテーション 【事前学習】『実習の手引き』を一読しておくこと (30 分) 【事後学習】オリエンテーションの内容を理解し、 特に健康診断書、細菌検査証明書等を忘れないよう準備する</p> <p>第 13 回 事後指導① (施設種別報告会) 【事前学習】各自実習で学んだこと、 困ったこと、反省すべき点などまとめておく (1 時間) 【事後学習】同じ種類の施設における養護内容や支援方法に違いがある場合、その理由を考える (1 時間)</p> <p>第 14 回 事後指導② (自己評価と個別指導) 【事前学習】実習施設に依頼している評価表で自己評価してみる (30 分) 【事後学習】自己評価と実習施設の評価に大きな差異がある場合は、 なぜ差異があるのか反省すべきところは反省する (30 分)</p> <p>第 15 回 事後指導③ (実習報告会) 【事前学習】各自、報告する内容をまとめておく (30 分) 【事後学習】友人の発表内容も参考にして、 保育士としての自己課題を明確にする (30 分)</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要と到達目標】 保育所及び幼保連携型認定こども園を除いた児童福祉施設において再度実習を希望する学生に対して、実習の事前・事後指導を行う。 保育実習Ⅰ (施設) の経験を踏まえ、児童福祉施設等 (保育所以外) の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養い、保育士としての自己の課題を明確化する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	授業内で指示します。
参考文献	随時、紹介する
成績評価の基準・方法及び課題 (試験やレポート) に対するフィードバック方法	受講態度とレポート等の提出状況とその内容により、総合的に評価する。 事後指導を通してフィードバックする。
質問・相談の受付方法	授業終了時、研究室在室中は随時
履修条件	<p>【必須要件】 ～2018 年度生：「保育実習Ⅰ」「社会的養護」「相談援助Ⅰ」「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」を単位取得済であること。 2019 年度生～：「保育実習Ⅰ (保育所)」「保育実習Ⅰ (施設)」「子どもの保健」「子どもの健康と安全」「社会的養護Ⅰ」を単位取得済みであること。</p>
特別学生の履修可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】

メッセージ	<p>実習の事前・事後指導の授業なので、全出席を心がけてください。累計2回を超える欠席（忌引および感染症による出席停止を除く）の場合は単位の修得を認めませんので、そのつもりで受講してください。</p> <p>※なお2019年度生～は、保育実習Ⅲが不可の場合、原則として本科目も不可となります。</p>
準備学習について	授業内で指示します。

講義科目名称： 保育実習Ⅲ			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 永田恵実子、上野永子			

テーマ	保育実習Ⅰ（保育所と幼保連携型認定こども園を除く施設施設における実習）の経験を踏まえ、施設と保育士の役割や入所児童の理解をさらに深め、実習後の反省と自己評価に基づき、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等（保育所と幼保連携型認定こども園以外）の役割と機能</li> <li>2. 施設における支援の実際</li> <li>3. 保育士の多様な業務と職業倫理</li> <li>4. 保育士としての自己課題の明確化</li> </ol>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>保育所及び幼保連携型認定こども園を除いた児童福祉施設で実習を行う。</p> <p>保育実習Ⅰ（保育所と幼保連携型認定こども園以外における実習）の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能、保育士の職務内容や職業倫理について実践を通して理解を深める。また、家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うとともに、保育士としての自己の課題を明確化する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキル、自己管理能力を身につけることができる。</p>
テキスト	なし
参考文献	随時紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>実習先の評価（50%）、実習日誌の評価（40%）、個別指導担当による評価（10%）から評価する。</p> <p>実習についてのふりかえりは、巡回指導と大学での事後指導を通して行います。</p>
質問・相談の受付方法	随時受け付ける
履修条件	<p><b>【必須要件】</b> ～2018年度生：「保育実習Ⅰ」「社会的養護」「相談援助Ⅰ」「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」を単位取得済であること。 2019年度生～：「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「子どもの保健」「子どもの健康と安全」「社会的養護Ⅰ」を単位取得済みであること。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b> 聴 講 生 <b>【不可】</b></p>
メッセージ	<p>保育実習Ⅰで学んだ知識や技術、実習での反省を活かして、実りの多い実習となるように頑張りましょう。</p> <p>※なお2019年度生～は、施設実習指導Ⅱが不可の場合、原則として本科目も不可となります。</p>
準備学習について	授業内またはオリエンテーション等で指示します。

講義科目名称： 教育相談			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 杉本好行			

テーマ	今日の児童や保護者を取り巻く社会環境は大きく変化しており、大変ストレスの多い教育環境である。教育相談は、児童が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築くための力を育み、人格の成長を支援する教育活動である。児童の発達の状況に対応しながら、個々の人格や教育的課題、保護者の状況などを適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（アセスメントやカウンセリングの意義や理論、技法を含む）を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 教育相談の今日的意義と必要性について</p> <p>第2回 教育相談と生徒指導の共通点と相違点について</p> <p>第3回 児童の心理を理解する方法（観察法、面接法、心理検査法）について</p> <p>第4回 心理検査法①知能検査の種類と理解</p> <p>第5回 心理検査法②性格検査の種類と理解</p> <p>第6回 教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの必要性について）</p> <p>第7回 カウンセリングの理論と技法</p> <p>第8回 カウンセリング実習①共感的理解と受容的態度に関するロールプレイ</p> <p>第9回 カウンセリング実習②児童と教師、保護者を演じてのロールプレイ</p> <p>第10回 教師が行うカウンセリング （児童の自主来談と呼び出し相談および保護者の相談）</p> <p>第11回 教育相談の対象と進め方①（不登校やいじめの理解と対応）</p> <p>第12回 教育相談の対象と進め方②（発達障害の理解と対応）</p> <p>第13回 教育相談の対象と進め方③（非行や虐待等の理解と対応）</p> <p>第14回 教育相談の対象と進め方④（問題行動の予防的アプローチ）</p> <p>第15回 校内の他の教師や校外の専門機関との連携について</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 本授業は、1. 教育相談の意義と理論 2. 教育相談の方法（アセスメントとカウンセリング） 3. 教育相談の実際と展開の3段階にわたって行われる。学校というコミュニティで行われる教育相談が、どのような児童や保護者を対象に、どのように行われるのか、適宜ロールプレイやグループディスカッションを取り入れながら主体的に学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・保護者の訴えに耳を傾け、学校や教師に対する要望やニーズを把握することができる。</li> <li>・児童の心理的な状態を適切にアセスメント（観察法、面接法、簡単な心理検査法などにより）することができる。</li> <li>・児童の心理的な不調状態に対して、簡単な対応（カウンセリング）ができる。</li> <li>・学校内の教師や他のスタッフ（SCやSSWなど）との連携や学校外の専門機関との連携の必要性を理解できる。</li> </ul> <p><b>【卒業認定・学位授与の方針との関連】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へ導く力及び「学士力」の構成要素の一つである、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが建てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。</li> </ul>

テキスト	<p>テキスト名：子どもの成長を支える発達教育相談  ISBN：978-4-7793-0548-1  出版社：北樹出版  著者名：鎌倉利光ほか編  価格（税抜）：2,000 円</p>
参考文献	<p>テキスト名：生徒指導提要  ISBN：  出版社：文部科学省 平成 22 年 4 月  著者名：文部科学省  価格（税抜）：市販されていない（入手方法については授業で指示をする）。</p> <p>テキスト名：児童生徒の教育相談の充実について－生き生きとした子供を育てる相談体制づくり－  ISBN：  出版社：文部科学省「教育相談に関する調査研究協力者会議」 平成 19 年 7 月  著者名：文部科学省  価格（税抜）：市販されていない（入手方法は授業で指示をする）。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b>  学生に対する評価：学期末のレポートまたは試験で評価する。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b>  期末試験や期末レポートに関するフィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p>
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後、教室にて受け付ける。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども学科のみ履修可</li> </ul>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生 <b>【不可】</b>  聴 講 生 <b>【不可】</b></p>
メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県教育委員会（小・中学校）のスクールカウンセラーを 20 年近くやっている。そうした実践活動と研究活動を背景に授業を進めていきたい。</li> </ul>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業内で予習内容を提示します。次回授業までに行うようにしてください（1 時間）</li> </ul> <p><b>【事後学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回授業で確認（小テスト or 小レポート）を実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください。（1 時間）</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1	選択
担当教員			
徳浪 芳江			
添付ファイル			

テーマ	子育て支援の特性と展開、支援の内容と方法及び技術を理解する。 (どの回においても私(徳浪)の現場での経験や事例を伝えたり、DVD視聴、演習やグループ討議などを行いながら、現場感覚が身につくことを目指した授業を行います。)
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 現代の保護者を取り巻く子育て環境と子育て支援</p> <p>第2回 保護者との相互理解と信頼関係を作るには</p> <p>第3回 園で行う保護者支援・子育て支援① 子どもの育ちの喜びの共有</p> <p>第4回 園で行う保護者支援・子育て支援② 特別な配慮が必要な保護者への支援(病児・病後児保育、延長保育)</p> <p>第5回 園で行う保護者支援・子育て支援③ 特別な配慮が必要な保護者への支援 (ひとり親家庭、ステップファミリー、外国籍の子ども、障害、育児不安)</p> <p>第6回 園における地域の子育て支援① 地域に開かれた保育所・認定こども園</p> <p>第7回 園における地域の子育て支援② 専門性を生かした子育て家庭への支援</p> <p>第8回 園における地域の子育て支援③ 地域の保護者からの相談にこたえる</p> <p>第9回 保護者に対する相談援助① 親の成長を支える相談援助の基本</p> <p>第10回 保護者に対する相談援助② 相談援助のプロセス</p> <p>第11回 保護者に対する相談援助③ 保護者に寄り添った相談援助の在り方</p> <p>第12回 保育現場における児童虐待の予防と対応① 保育者としての児童虐待に対する認識</p> <p>第13回 保育現場における児童虐待の予防と対応② 児童虐待ケースへの対応</p> <p>第14回 地域の関係機関との連携</p> <p>第15回 地域資源の活用・まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】 保育士の行う子育て支援の特性、保育士の行う子育て支援の展開、保育士の行う子育て支援の実際(内容・方法・技術)について、実践事例などを通して具体的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 1. 保育士の行う子育て支援の特性と展開を具体的に理解する。2. さまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を理解する。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」「実践的に課題を発見する力」及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「市民としての社会的責任」を身につけることができる。</p>
テキスト	ありません。必要に応じてプリント類を配布します。
参考文献	小野崎佳代・石田幸美編著、2020「保護者支援・子育て支援」ミネルヴァ書房 西村重稀・青井夕貴編集、2019「子育て支援」中央法規 大方美香・齊藤崇編著、2019『子育て支援——より豊かに育つ支援をめざして』光生館
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	授業中の課題(30%)、学期末レポート(50%)、演習への参加態度(20%) 授業中に出了課題については、次回以降の授業でフィードバックします。 学期末レポートについては、必要に応じて学内制度(成績評価問い合わせ制度)を利用します。

質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟 1 階）で受け付ける。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生 【可】 聴講生 【可】
メッセージ	長年公立の保育園で勤務してきた感じたことは子育てする親も成長していく子どもとともに親としての成長を遂げていくということです。私（徳浪）の現場経験や事例に学びながら、それぞれの親に対して伴走者として歩む保育者を目指して一緒に学んでいきましょう。
準備学習について	授業中にいくつかの課題を出しますので、その準備に取り組んでください（1 時間程度）。また授業後にふりかえりを行ってください（1 時間程度）。



講義科目名称： 社会			
開講期間： 後期	配当年： 1年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 後藤雅彦			

テーマ	小学校社会科の学習内容とその指導方法の実際 ―現場に立つ社会科教師とは何か―
授業計画	<p>第1回      インTRODクション〔自らの社会科授業を振り返る〕 授業者(教師)の自覚が、これまで社会科「授業を受けて来た」立場からの起点にあることをディスカッションした上で、「何が求められているのか」きっかけを掴む。</p> <p>第2回      社会科の歴史と目標〔戦後社会科から概観し、改訂のポイントを学ぶ〕 戦後史における学習指導要領の変遷を掴んだ上で、新教科社会科がどのように改訂されて、教科の特性を持つに至ったのかを理解する。</p> <p>第3回      現場における社会科の授業づくり 〔模擬授業から「求められる授業」ヒントを得る〕 「求められる授業とはどのようなものか」どのように構想され、本時(当日)を迎えるのか。現場経験を生かして、授業づくりの「表と裏」を模擬授業に参加しながら理解する。</p> <p>第4回      小学3年生の学習内容と指導方法(1) 〔「身近な地域や市の様子」の内容と教材を研究する〕 学習指導要領に示された目標や内容を理解し、「身近な地域や市の様子」が小学校社会科学習の起点となる意義をグループワークによって探る。</p> <p>第5回      小学3年生の学習内容と指導方法(2) 〔「身近な地域や市の様子」の授業を構想・検討する〕 「身近な地域や市の様子」の学習指導案(略案)を作成、発表することを通して、授業者として何ができるのか自覚し、授業づくりに必要な教材準備の意味を理解する。</p> <p>第6回      小学4年生の学習内容と指導方法(1)〔「県の様子」の内容を学ぶ〕 学習指導要領に示された目標や内容を理解し、「県の様子」へ学習内容が拡大することによって、授業者に「何が求められるのか」グループワークによって探る。</p> <p>第7回      小学4年生の学習内容と指導方法(2) 〔「県の様子」の内容と教材を研究する〕 「県の様子」の内容の教材研究を通して、授業者として身に付けなければならない基礎知識をおさえると共に、現場で使用するワークシート(教材)を解きながら理解を深める。</p> <p>第8回      小学5年生の学習内容と指導方法(1)〔「国土と産業の様子」の内容を学ぶ〕 学習指導要領に示された目標や内容を理解し、「国土と産業の様子」の「水産業がさかんな地域」を例に、授業づくりのヒントを学ぶ。</p>

	<p>第9回 小学5年生の学習内容と指導方法(2) 〔「国土と産業の様子」の内容と教材を研究する〕 「国土と産業の様子」の「水産業がさかんな地域」を例に、教科書の内容を分析する作業を通して、授業者として身に付けなければならない基礎知識をおさえる。</p> <p>第10回 小学6年生の学習内容と指導方法(1) 〔「政治・歴史・国際理解」の内容と教材を研究する〕 学習指導要領に示された目標や内容を理解した上で、模擬授業をする内容を選択し、教材研究に取り掛かる。必要に応じて、導入に必要な自作教材の作成をする。</p> <p>第11回 小学6年生の学習内容と指導方法(2)〔模擬授業を構想・準備する〕 選択した学習内容を「構想シート」や「学習指導案(略案)」を作成することで、各自の模擬授業を構想し、本時の準備をする。</p> <p>第12回 小学6年生の学習内容と指導方法(3) 〔模擬授業を発表・検討する(第1グループ)〕 第1グループの模擬授業を行う(授業配分(時間)や教室、進行等については、受講人数を見て決定する)。検討後、振り返り(評価計画)を加え、学習指導案(略案)を完成する。</p> <p>第13回 小学6年生の学習内容と指導方法(4) 〔模擬授業を発表・検討する(第2グループ)〕 第2グループの模擬授業を行う(授業配分(時間)や教室、進行等については、受講人数を見て決定する)。検討後、振り返り(評価計画)を加え、学習指導案(略案)を完成する。</p> <p>第14回 小学6年生の学習内容と指導方法(5) 〔模擬授業を発表・検討する(第3グループ)〕 第3グループの模擬授業を行う(授業配分(時間)や教室、進行等については、受講人数を見て決定する)。検討後、振り返り(評価計画)を加え、学習指導案(略案)を完成する。</p> <p>第15回 まとめ〔「現場に求められる社会科教師」をめざして〕 模擬授業を振り返りながら、子どもたちと創る社会科授業の在り方を総括すると共に、現場で「子どもたちの前に立つ」意味を噛み締め、各自が必要な力の獲得へ歩み出す。</p> <p>定期試験</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 自らが受けてきた社会科授業を起点に、授業者として「何が求められているのか」を追究し、小学校現場を捉える中で「どんな社会科授業ができるのか」その方法や展開を実際的に考え、試みる。教科書の教材・授業化にとどまらず、自らの教師としての社会的な見方や考え方を深める授業づくりの基礎について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 小学校現場を想定した社会科の授業づくりの基礎を身に付け、(1)学習指導要領に基づく内容や教科の特性を理解した上で、子どもにどんな力を身に付けさせるのか指摘できる。(2)自ら一定の教材化の流れから、授業を構想、展開ができる。</p>

	<p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」 I S B N：978-4-536-59009-9 出版社：日本文教出版 著者名：文部科学省 価格(税抜)：142円</p>
参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 学生に対する評価 毎回の授業やグループ活動への積極性(20%)、学習指導案や模擬授業の内容(30%)、定期試験(50%)を総合して評価する。 <b>【フィードバック方法】</b> グループ活動や模擬授業の内容(発表)、学習指導案に対し授業時にコメントしていく。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後あるいはオフィスアワー
履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	私の学校経験(社会科指導歴25年)を生かして、「現場に立つ社会科教師の意味」を追究していきます。将来、小学校の先生をめざす人と共に、社会科の授業づくりの基礎を共に学んでいきましょう。
準備学習について	<p>授業時に取り組むべき課題や発表の指示を適宜出します。事前に各自の準備をしておいてください。(1時間) 授業後は取り組んだ内容をテキストや資料と関連付けて整理しておいてください。(1時間)</p>

講義科目名称： 国語科指導法			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 富山敦史			

テーマ	小学校国語科の授業の目標・内容・方法・指導のあり方・学習者の理解等について、体験的な学びを通して基礎的な実践力を養う。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：「国語とは何か」、「国語を学ぶ」とはどういうことか。</p> <p>第2回 学習指導要領国語科の構成を知り、 目標、内容（指導事項）、言語活動例を理解する</p> <p>第3回 学習指導要領国語科の目標、内容、言語活動を 9か年の系統性の視点で把握する</p> <p>第4回 読むことの指導① (説明文教材：内容理解と表現・構造の理解)</p> <p>第5回 読むことの指導② (説明文教材：教材研究の視点と児童理解、発問づくりと模擬授業)</p> <p>第6回 読むことの指導③ (文学教材：文学教材における指導事項)</p> <p>第7回 読むことの指導④ (文学教材：教材研究の視点と児童理解、発問づくりと模擬授業)</p> <p>第8回 書くことの指導① (文章作成の指導過程・文種に応じた文章構成・書くことの技術 等)</p> <p>第9回 書くことの指導② (論理的な文章の基本構造・実際の文章作成・推敲の方法 等)</p> <p>第10回 話すこと・聞くことの指導① (スピーチ・話し合い・プレゼンテーションの指導)</p> <p>第11回 話すこと・聞くことの指導② (話すこと・聞くことの指導過程と話し合い・対話の体験)</p> <p>第12回 伝統的な言語文化と国語の特質について (古典指導・漢字・書写実技指導)</p> <p>第13回 学習指導案の作成 (指導案の形式・項目・単元構成・本時展開・板書計画、評価等)</p> <p>第14回 国語科におけるICTの活用及び授業展開の工夫</p> <p>第15回 小学校国語科におけるアクティブラーニングと授業改善</p> <p>定期試験</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】</p> <p>小学校学習指導要領ならびに小学校学習指導要領解説（国語科編）に示された「国語科の目標及び内容」「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」を通じて、小学校国語科の本質・目標・指導内容とその構造・小中9年間の系統性について理解するとともに、具体的な教科書教材を使って教材研究の在り方や学習指導案作成の方法およびICTの活用法等を学び、実際に討論や模擬授業等を行うことにより実践力を身につける。また、国語科教育における「主体的・対話的で深い学び」の在り方を、アクティブ・ラーニングを取り入れた対話的協働的の在り方を検討するとともに、よりよく生きるための「資質・能力を育成する国語科指導法」も追究していく。</p>

	<p>【到達目標】 下記「メッセージ」欄参照</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 下記「メッセージ」欄参照</p>
テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説 国語編』（平成 29 年告示） ISBN：978-4491034621 出版社：東洋館出版社 著者名：文部科学省 価格（税抜）：162 円</p> <p>テキスト名：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』 ISBN：9784491041209 出版社：東洋館出版社 2020 年 8 月発行 著者名：国立教育政策研究所教育課程研究センター 価格（税抜）：990 円</p>
参考文献	『新版 小学校国語科教育法』 野地潤家・湊吉正 編 おうふう
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】</p> <p>①毎時間の受講記録（ミニレポート）（30%） ②確認ミニテスト（学習指導要領の確認・論述）（20%） ③教材文・ワーク・テストの作成（25%） ④学習指導案の作成（25%） 計100% 【フィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストを行った次の回の授業内で総評を口頭で伝えます。</li> <li>・小レポートを回収した次の回の授業内でコメントをつけ返却します。</li> </ul>
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟 1 階）で受け付けます。</li> <li>・または、tomiyama-atushi@sz.tokoha-u.ac.jp へどうぞ。</li> </ul>
履修条件	・特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	<p>【到達目標】</p> <p>(1) 小学校学習指導要領 国語科の目標を説明することができる。 (2) 小学校学習指導要領 国語科の各学年の目標及び内容を読み取ることができる。 (3) 基本的な学習指導案の書き方を身につける。 (4) 単元構想、評価規準、指導と評価などの指導計画を指導案に表現することができる。 (5) 国語科教材の内容を知り、教材研究の方法を身につけることができる。 (6) 国語科における充実した言語活動の在り方や系統性を考え学習計画に位置づけることができる。 (7) 国語科教育における資質・能力の育成とその評価について考えることができる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、②主体的に学習する力 ③実践的に課題を発見する力 ツ④課題を解決へと導く力 及び「学士力」の構成要素の一つである、②人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 ③コミュニケーション・スキル⑥論理的思考力 ⑨チームワーク、リーダーシップ ⑬これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単に知識を理解、技能を修得するだけでなく、なぜそうなのかという本質的な「問い」をもつことを大切にして、学修を深めてください。</li> </ul> <p>【メッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約 30 年の義務教育学校教員経験を踏まえた、教育活動の本質的なお話ができればと考えています。（幼・小・中・高・特支の教員免許を取得しています）</li> </ul>

準備学習について	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎回授業内で予習内容を提示しますので、次回授業まで予習をしておいてください（1.5時間）</li><li>・毎回授業で確認（小テスト or 小レポート）を実施します。授業時間外で振り返りを行うようにしてください（1時間）。</li><li>・授業内で（何かしらの形で※発表内容は事前提示）発表をしてもらいます。事前に復習をしておいてください（1.5時間）</li></ul>
----------	--

講義科目名称： 社会科指導法			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 後藤雅彦			

テーマ	現場を想定した社会科の授業づくり - 「求められる社会科教師」をめざして-
授業計画	第1回 イントロダクション〔社会科の授業づくりの課題を振り返る〕 既習となった(1年次の授業)「社会」を振り返り、授業づくりが「学校現場」を想定することで、自らに何が課題になるのかをディスカッションする。
	第2回 社会科の目標と内容〔社会科の特性を生かす意味を考える〕 学習指導要領に示された目標や内容の全体構造を確認した上で、教科の特性を生かした授業づくりの留意点を理解する。
	第3回 社会科の授業構成〔指導案から「めざす授業」を読み解く〕 学校現場における公開授業レベルの社会科学習指導案を読み解く。入力作業を通して、指導案の全体構造や目標、内容を参考にし、独自のフォーム(型)を完成する。
	第4回 社会科の授業構想(1)〔「構想シート」の作成から授業を考える〕 学習指導要領に示された目標や内容を踏まえた上で、小学6年生の学習内容の中から題材を選択し、「構想シート」に基づき、自らの模擬授業の構想や学習課題を作成する。
	第5回 社会科の授業構想(2)〔「構想シート」の発表から授業を練る〕 第4回の続き、「構想シート」にまとめ、グループワークで互いに何を「ねらい、したい」のかを発表し、指導案作成のための準備を整える。
	第6回 社会科の授業設計(1)〔「構想シート」から指導案を作成する〕 「構想シート」を基に指導案作成に取り掛かる。授業の導入に必要な教材やワークシートも同時に準備する。
	第7回 社会科の授業設計(2)〔第一次指導案を完成する〕 第6回の続き、授業の導入に必要な教材やワークシートを完成させ、導入までの指導案(第一次)は全員に配付できるように準備する。
	第8回 社会科の授業実践(1)〔模擬授業を発表・検討する(第1グループ)〕 第1グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。
	第9回 社会科の授業実践(2)〔模擬授業を発表・検討する(第2グループ)〕 第2グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。
	第10回 社会科の授業実践(3)〔模擬授業を発表・検討する(第3グループ)〕 第3グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。
	第11回 社会科の授業実践(4)〔模擬授業を発表・検討する(第4グループ)〕 第4グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と

	<p>第 12 回 検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。 社会科の授業実践(5)〔模擬授業を発表・検討する(第5グループ)〕 第5グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と 検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。</p> <p>第 13 回 社会科の授業実践(6)〔模擬授業を発表・検討する(第6グループ)〕 第6グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と 検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。</p> <p>第 14 回 社会科の授業実践(7)〔模擬授業を発表・検討する(第7グループ)〕 第7グループの発表(情報機器及び機材の活用による資料提示を導入～展開)と 検討会を経て、振り返り(評価計画)までの学習指導案の修正と完成をめざす。</p> <p>第 15 回 まとめ〔「現場に求められる社会科教師」をめざして〕 模擬授業を振り返り、改めて「現場に立つ意味」を再考した上で、各自が 社会科教師として子どもたちとめざすべき授業づくりを展望する。</p>
<p>授業の概要と到達目 標及び卒業認定・学位 授与方針との関連</p>	<p>【授業の概要】 小学校現場を捉える中で「どんな社会科授業ができるのか」現場を想定した社会科の授業 づくりを、高学年の学習内容を中心に扱うことで、その求められる社会科教師としての資 質能力の基本を身に付ける。前半は「構想シート」を中心に教材研究を進め、後半は導入 ～展開途中までの模擬授業を試みる。授業後の検討により、指導案上では完成公開にふさ わしい展開にまとめる。</p> <p>【到達目標】 社会科の指導方法と授業設計の基本を身に付け、(1)教科の内容や特性を理解した上で、 背景となる学問領域との関係や成果を生かし、現場を想定した授業を構想することができ る。(2)教材化の中で情報機器を活用し、学習指導案の作成から模擬授業の実施まででき る。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一 つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用 し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」 ISBN：978-4-536-59009-9 出版社：日本文教出版 著者名：文部科学省 価格(税抜)：142円 ※注意 一年次の授業「社会」で購入済の場合は、再注文する必要はありません。</p>
<p>参考文献</p>	<p>テキスト名：「小学社会6」(平成31年3月26日検定済、令和2年1月20日発行 文部科 学省検定済教科書) I S B N:978-4-316-20381-2 出版社:教育出版 著者名:大石学、小林宏己 他 価格:743円 ※注意① 上記参考文献は授業で使用するため、必ず各自が購入しておいてください。 ※注意② 各自ノートパソコンを準備する。(注意 授業中にパソコン本体から電源を取る ことは原則しない。このため、自宅で前日充電を済ませておく。また、移動中の落下や盗 難防止等のため、「専用ソフトケース」に入れるなどして持参すること。第3回から使用 する。) ※注意③ 参考資料等は必要に応じ、適宜授業中に配付する。なお、本授業は一年次に受 講した「社会」の発展・応用学習と位置付け、その基となる「社会」で配付使用したワー クシートや資料等は、常時持参する。</p>



<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p>【成績評価の基準・方法】            学生に対する評価 毎回の授業やグループ活動への積極性(20%)、課題や模擬授業の内容(30%)、完成学習指導案(50%)を総合して評価する。            【フィードバック方法】            グループ活動や模擬授業の内容(発表)、学習指導案作成に対し授業時にコメントしていく。</p>
<p>質問・相談の受付方法</p>	<p>授業終了後あるいはオフィスアワー</p>
<p>履修条件</p>	<p>特になし</p>
<p>特別学生の履修可否</p>	<p>科目等履修生【可】            聴 講 生 【可】</p>
<p>メッセージ</p>	<p>私の学校経験(社会科指導歴 23 年)を生かして、「現場に立つ社会科教師の意味」を追究していきます。将来、小学校の先生をめざす人と共に、社会科の授業づくりの基本を共に学んでいきましょう。</p>
<p>準備学習について</p>	<p>授業時に取り組むべき課題や発表の指示を適宜出します。事前に各自の準備をしておいてください。(1時間)            授業後は取り組んだ内容をテキストや資料と関連付けて整理しておいてください。(1時間)</p>

講義科目名称： 生活科指導法			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 木村光男			

テーマ	小学校学習指導要領解説生活編に示された教科の目標、育成を目指す資質・能力を理解し、これまでに蓄積した生活科の特質・学習指導理論を踏まえ、単元構想・授業計画及び模擬授業を行う方法を身に付け、学習評価の考え方を理解する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・学習指導要領の目標を理解する</p> <p>第2回 生活科指導法における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進について理解する</p> <p>第3回 生活科の内容理解・教材研究（1）「学校と生活」</p> <p>第4回 生活科の内容理解・教材研究（2）「家族単元」</p> <p>第5回 生活科の内容理解・教材研究（3）「飼育・栽培単元」</p> <p>第6回 生活科の内容理解・教材研究（4）「地域と生活」</p> <p>第7回 生活科の内容理解・教材研究（5）「生活や出来事の伝え合い」</p> <p>第8回 生活科学習評価の考え方</p> <p>第9回 生活科授業設計（年間指導計画）</p> <p>第10回 生活科授業設計（子どもの体験を充実させる工夫）</p> <p>第11回 生活科の特質に応じた情報機器及び教材の効果的活用法を理解する</p> <p>第12回 生活科単元構想及び授業設計案の協同的探究</p> <p>第13回 生活科の評価の観点と方法を明確にした学習指導案の作成</p> <p>第14回 模擬授業の実施とその振り返りについての協議</p> <p>第15回 模擬授業の実践と工夫・改善についての協議</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】</p> <p>本科目は、生活科の授業設計を行う方法を身に付ける。また、生活科の主な教材（学習材）内容と児童が身に付ける資質・能力の調和的な実現を目指して展開する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活科の指導法についてアウトラインを掴み、授業設計に生かすことができる。</li> <li>2. 生活科の単元構想及び授業指導案を作成できるようになる。</li> <li>3. 生活科の教材研究の方法を理解し、児童の興味関心に合った授業設計を考案することができる。</li> <li>4. 児童の活動を見取り、学びと変容を具体的に評価する観点を習得する。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>本科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、主体的に学習する力及び「学力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：『小学校学習指導要領』 文部科学省 ISBN：9784491034607 出版社：文部科学省 著者名：東洋館出版 価格（税抜）：201円</p> <p>テキスト名：『小学校学習指導要領解説 生活編』 文部科学省 ISBN：9784491034645 出版社：文部科学省 著者名：東洋館出版 価格（税抜）：134円</p>

	<p>テキスト名：『みんなでまなぶ しょうがっこう せいかつ 上』（文部科学省検定本） ISBN：9784762556135（上巻） 出版社：学校図書 著者名：山口令司他 価格（税抜）：916円</p>
参考文献	<p>子どもが蘇る問題解決学習の授業原理—学習指導と生活指導を合体する指導法の魅力 藤井千春 明治図書 はじめに子どもありき—教育実践の基本 平野朝久 学芸出版</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>【成績評価の基準・方法】 定期試験：50% 授業後の振り返りレポート、単元計画案及び学習指導案に関する課題提出物：40% 協同的活動における参加態度：10% 【フィードバック方法】 振り返りレポート内容に対するフィードバックは、次の授業の冒頭で丁寧に実施する。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室(研究室棟1階)で受け付ける。</p>
履修条件	<p>第1回目の授業で人数と座席を決めるため、第1回目の授業に出席していない者の履修は認めない。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】、聴講生【可】</p>
メッセージ	<p>教員として約30年間従事したことがあります。授業の中で、そのエピソードや実務的な内容についても触れるようにします。</p>
準備学習について	<p>【復習】毎回授業で復習用の資料を配布します。それをもとに授業時間外で振り返りを行うようにしてください（1時間）。 【予習】第2回以降は、必要に応じて資料を配布しますので、精読して次の授業に臨んで下さい。また、第10回以降は、授業内で課題発表をしてもらいます。事前に準備をしておいてください（2時間）</p>

講義科目名称： 小学校教育実習指導			
開講期間： 通年	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 小川勤			

テーマ	小学校教育実習の実践力の向上を目指す
授業計画	第1回 教育実習の基本事項Ⅰ 「実習の手引き」を利用し、教育実習・学校体験活動の目的と意義。 目的・意義の理解
	第2回 教育実習の基本事項Ⅱ 教育実習の準備と心得心得の理解・意欲化
	第3回 実習目標・自己課題 小学校体験活動の報告会の結果を受け、自己課題を振り返るとともに、 教育実習の目標の再確認を行う。
	第4回 実習日誌の書き方 実習の概要説明 実習の諸手続について 実習日誌の記載事項の説明
	第5回 授業向けの準備（1）実習前にやるべきこと 授業の理解 学習指導案の基本（学習指導案の構成、評価規準と評価基準、 指導と評価、学びの技法、指導方法）
	第6回 授業向けの準備（2）1時間の授業を組み立てる。その1 授業の単元（題材）の決定 学習指導要領・授業構想・指導のねらい・評価規準・評価方法等の明確化 教材研究
	第7回 授業向けの準備（3）1時間の授業を組み立てる。その2 学習指導案の作成 教材作成
	第8回 授業向けの準備（4）プレ授業（第1回目）の実施① プレ授業を実施し、授業の実践力を身に付ける。 プレ授業について受講生間で相互評価 評価結果を受けて学習指導案の改訂、教材の見直し
	第9回 授業向けの準備（5）プレ授業（第1回目）の実施② プレ授業を実施し、授業の実践力を身に付ける。 プレ授業について受講生間で相互評価 評価結果を受けて学習指導案の改訂、教材の見直し
	第10回 授業向けの準備（6）プレ授業（第2回目）の実施③ 第2回目のプレ授業を実施 第2回目のプレ授業について受講生間で相互評 第2回目の評価結果を受けて学習指導案や教材の更なる見直しの実施

	<p>第 11 回 授業向けの準備（7）プレ授業（第 2 回目）の実施④ 第 2 回目のプレ授業を実施 第 2 回目のプレ授業について受講生間で相互評 第 2 回目の評価結果を受けて学習指導案や教材の更なる見直しの実施</p> <p>第 12 回 実習校事前訪問の事前指導 ・ 学校訪問に対する事前指導 ・ 実習校事前オリエンテーション：オリエンテーション報告書の作成 ・ 学内最終オリエンテーション：全体説明と個別面談の実施</p> <p>第 13 回 実習の振り返り ・ 日誌(最終日)の提出・受け取り ・ 礼状：実習校に対して作成し授業担当者の添削を受ける。 ・ 日誌の提出：全ページ揃えて授業担当者に提出 ・ 出勤簿の提出 ・ 振り返りワークシート、自己評価シートの作成・提出</p> <p>第 14 回 実習報告会 教育実習の実施結果に基づいて報告会を開催する。 振り返りワークシート、自己評価シートに基づいて受講生各自から 実習報告を行い、実習の成果と課題を全体で共有する。</p> <p>第 15 回 個別面談・まとめ 当該授業全体のまとめを行う。 個別面談を通して、教育実習における気づき、課題などをあらためて 各自で確認する。 個別面談を通して教職に向けての意欲の変化や将来の進路などについて 話し合う。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業概要】 11 月の 3 週間の小学校教育実習のための事前・事後指導に関する科目である。教育実習の目的・意義、心得などの理解を図るとともに、実習校での授業に対する不安を解消し、自信をもって、意欲的に取り組むことができるようにする。</p> <p>【到達目標】 ・ 教育実習の目的や意義、心得を理解し意欲的に取り組もうとする。 ・ 学習指導案を作成し、プレ授業ができる。また、授業の工夫や改善などを指摘できる。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】 この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力、を身につけることができる。</p>
テキスト	静岡福祉大学作成の「小学校教育実習『実習の手引き』（令和 3 年度版）」を利用する。
参考文献	必要に応じて、関係資料を各授業で配布する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	期末レポート（10%）、授業提出物（60%）、授業内活動（30%）
質問・相談の受付方法	当該授業に関するオリエンテーション時または教室・授業担当者のオフィスアワーで質問・相談に応じる。

履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・15回の出席を基本とする。無断欠席は減点する。</li> <li>・提出物の期限は厳守する。</li> <li>・学内最終リエンテーションの無断欠席は、実習中止の対象となる。</li> <li>・「教育原理」「教育心理学」「教職論」「教育方法論」「教育課程論」「国語科指導法」「生活科指導法」「社会科指導法」「算数科指導法」「理科指導法」「図画工作科指導法」「体育科指導法」を単位取得済み、もしくは履修中であること。</li> </ul>
特別学生の履修可否	科目等履修生【履修不可】 聴講生【履修不可】
メッセージ	実施時期は、3年次前期～後期(4～11月)。事前・事後合わせて15回実施。内容としては、実習期間の前に事前指導、実習後に事後指導を実施する。前期(4月～9月)で取り組む「学校体験活動」に関わる内容もこの時間を利用し、月1回程度行う予定。 なお、以下の場合、原則として本科目も不可となります。 ①「小学校教育実習」が不可の場合 ②履修条件にある実習内規科目を「履修中」で実習に臨み、結果的にその年度で、当該内規科目が不可となった場合
準備学習について	「学校体験活動」を通じた気づきや課題などを事前にまとめておくこと。

講義科目名称： 小学校教育実習			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 3	必選： 選択
担当教員： 小川勤			

テーマ	授業実践力のある教員の育成を目指す
授業計画	<p>全体</p> <p><b>【実習校及び実習期間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校は静岡県内の教育実習協力校</li> <li>・実習期間は3年次 11月の3週間 (2021年度の場合 11/1～25日 ※祝日あり 計15日間)</li> </ul> <p><b>【ガイダンス・事前準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習準備として実習校での最終オリエンテーション(打合せ)を受け(令和3年春休み中)、計画通り実施できるか最終確認を行うこと。</li> <li>・「小学校教育実習指導」(1単位)において、 実習に当たっての心構えや校務に関する予備知識および教育活動の基本を学ぶこと。</li> </ul> <p><b>【実習内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動や学習活動の観察、参加。</li> <li>・学級運営のための実習。</li> <li>・実習中は「小学校教育実習日誌」に日々の活動内容を記録し、指導担当教員の確認を受ける。</li> <li>・実習終了後、振り返りワークシート、自己評価シートを作成し、 「小学校教育実習指導」の報告会において、活動内容の報告・発表を行う。</li> <li>・実習前は、学習指導に必要な教科単位の修得に努める。</li> <li>・実習中は、健康管理や新型コロナ感染に最新の注意を払う。</li> <li>・実習校では礼節をもって行動し、児童理解・教育現場の理解に努める。</li> </ul> <p><b>【その他の実習について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の履修者は、3年次の4月から9月までに開講される「学校体験活動」を履修し参加すること。</li> <li>・教育実習の履修者は、3年次の4月から12月までに開講される「小学校教育実習指導」を履修し参加すること。</li> </ul>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b></p> <p>本実習は小学校での児童との直接的教育活動を通して、授業実践力、児童指導研究、学校校務等を体験し、理解することにより学校教育実践力基礎を体得することをねらいとする。実習事前指導・学校体験活動をはじめ、これまでの本学における小学校教育に関する各教科・教科指導法・関連科目等の授業を通じた学習の成果を発揮する場である。本実習は授業観察から始まり、児童理解や教材研究をもとに指導案作成し、授業を担当する。実習のまとめとして、研究授業を実施する。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>将来、小学校教員としての資質を身に付けるために、大学における学習をもとに学校現場での体験を通して、教育への情熱、児童成長のための愛情精神と指導方法 および教育者としての校務の基本を体得する。</p>

	<p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力、を身につけることができる。</p>
テキスト	実習の手引き（静岡福祉大学）、小学校学習指導要領解説（文部科学省）、小学校教科書
参考文献	特になし。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	実習終了後、各実習校からの評価結果をもとに本学の評価基準に基づき単位を認定する。実習日誌、実習報告書等の実習の成果物の内容についても評価の対象にする。
質問・相談の受付方法	「小学校教育実習指導」の授業やオフィスアワー時に質問・相談を受け付ける。また、教育実習中は巡回担当教員が巡回指導を1回実施する予定であるので、担当者に質問・相談を行うこと。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校教育実習」を履修する者は、「学校体験活動（3年次4月～9月実施）」および「小学校教育実習指導（3年次4月～12月）」も併せて履修すること。</li> <li>・「教育原理」「教育心理学」「教職論」「教育方法論」「教育課程論」「国語科指導法」「生活科指導法」「社会科指導法」「算数科指導法」「理科指導法」「図画工作科指導法」「体育科指導法」を単位取得済み、もしくは履修中であること。</li> </ul> <p>なお、履修中である場合には、原則3年生前期中に単位取得すること。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】</p>
メッセージ	<p>本実習は、座学の学びを現場実践にどう生かすのか問われる機会でもあるので事前準備を入念に行うこと。</p> <p>なお、以下の場合、原則として本科目も不可となります。</p> <p>①「小学校教育実習指導」が不可の場合 ②履修条件にある実習内規科目を「履修中」で実習に臨み、結果的にその年度で、当該内規科目が不可となった場合</p>
準備学習について	<p>本実習では小学校で実際に授業を受け持つため、授業内容の研究と準備に取り組むこと。そのためにはこれまでの本学での学びや「小学校教育実習指導」等の学習指導案の作成実習の内容を復習しておくこと。</p>



講義科目名称： 学校体験活動			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 小川勤			

テーマ	教職に対する実践的理解を深め、教職への学びに繋げる
授業計画	<p>第1回 活動計画書の作成 実習校でのオリエンテーションを通して、大まかな日程と活動内容を活動計画書にまとめる。</p> <p>第2回 活動計画書の記入・提出・指導Ⅰ 活動計画書には想定される体験活動の内容(放課後の宿題・補習等への支援、放課後児童クラブの補助、学校行事の補助、清掃・クラブ・委員会活動等の補助など)を記述する。記述後は授業担当に提出し、内容のチェックを受ける。</p> <p>第3回 活動計画書の記入・提出・指導Ⅱ 前回、提出した活動計画書に対して授業担当者からの指摘事項を受けて、活動計画書の書き直し、再提出を行い、再度、授業担当者のチェックを受ける。</p> <p>第4回 活動内容・記録の交流 実習校での体験活動計画書を持ち寄って、全体発表を行い、全体共有を図る。</p> <p>第5回 活動計画書の記入・提出・指導Ⅲ 全体発表の結果を受け、自らの活動計画書の見直しを図り、活動計画書の書き直し、再提出を行い、再度、授業担当者のチェックを受ける。</p> <p>第6回 活動の中間報告会 学校体験活動を開始した後の活動状況を報告し合う。 体験活動を通しての気づき、子どもたちの観察結果、学校や教師の仕事の理解、体験活動を実施していく上での困りこと等について、各自発表を行い、全体共有を図る。</p> <p>第7回～第8回 実習校での学校体験活動 活動計画書に基づいて、実習校での学校体験活動を4月から9月までに実施する。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要と到達目標】</b> 小学校教員としての実践力について、使命感・責任感・教育的愛情、社会性・対人関係能力幼児への理解力・学級経営、保育内容の指導力などの観点で、それらの習得状況を総合的に診断・指導する。ロールプレイング、グループワーク、実技指導、事例研究などの方法を取り入れ、より実践的な学習とする。4年間の学びのまとめとして、幼稚園免許取得の上に、学士(子ども学)に向けて取り組む。令和3年度4月～9月にわたり、本学での講義(6回)および実習校での体験活動を含む延べ40時間程度の授業である。2年次の後期末(1月)及び3年次の4月当初に当該授業についてのオリエンテーションを開催するので必ず参加すること。</p>

	<p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力、課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力、を身につけることができる。</p>
テキスト	特になしだが「実習の手引き」（静岡福祉大学）を随時利用する。これ以外の必要な資料は随時授業時に配布する。
参考文献	特になし。実習校および実習内容を実習校でのオリエンテーションを通して事前に学んでおくこと。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	事前講義（6回）の中での小論文レポート・活動計画書の内容および体験活動後の「学校体験活動記録」・「学校体験活動報告」の内容により評価を行う。
質問・相談の受付方法	当該授業に関するオリエンテーション時または教室・オフィスアワーで質問・相談に応じる。
履修条件	令和3年度4月～9月にわたり延べ40時間程度実施される「学校体験活動」（6時間の講義を含む）に必ず参加すること。
特別学生の履修可否	科目等履修生【履修不可】 聴講生【履修不可】
メッセージ	この授業は、令和3年度11月1日（月）～11月22日（月）の延べ15日間の「教育実習」（3年次）および「教育実習指導」（3年次）の前提科目となります。実習校での体験実習中に何かトラブル等が発生した場合には、直ちに授業担当教員（小川）に連絡を取ること。
準備学習について	実習校でのオリエンテーションを受け、大まかな日程と活動内容を「活動計画書」にまとめておくこと。

講義科目名称： 子ども家庭福祉			
開講期間： 前期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 必修
担当教員： 相原真人			

テーマ	保育を含む子ども家庭福祉の全体像と個々の制度の具体的内容を理解します。
授業計画	第1回 オリエンテーション、および、子ども家庭福祉の状況と基本的考え方 シラバス等を活用して授業の方法を説明するとともに、子どもと家庭が置かれている困難な状況や抱えている福祉的課題、それらに対する支援の理念などについて理解していきます。
	第2回 子どもの権利と子ども観、および、子ども家庭福祉の展開 子どもの法律上の定義や親権、子どもの権利条約を中心とする子どもの権利保障、および子ども家庭福祉の歴史について理解します。
	第3回 子ども家庭福祉の制度、および、子ども家庭福祉の実施機関 子ども家庭福祉を支える法律と子ども家庭福祉全体の枠組み、および児童相談所などの実施機関について理解します。 なお、児童相談所の実際については、実務経験も交えて紹介します。
	第4回 子ども家庭福祉の施設及び里親制度 ① 子ども家庭福祉の施設等のうち、主に家庭から通って利用する施設について理解します。
	第5回 子ども家庭福祉の施設及び里親制度 ② 子ども家庭福祉の施設等のうち、主に社会的養護に関連する施設や里親制度について理解します。
	第6回 子ども家庭福祉の援助 子ども家庭福祉における援助の基本や求められる倫理、および子ども家庭福祉の領域で活躍する専門職について理解していきます。
	第7回 母子保健、および、子ども・子育て支援の位置づけと考え方 母子保健の具体的内容について学ぶとともに、子ども・子育て支援の基本的な考え方についても理解していきます。
	第8回 就学前の教育と保育 小学校に入学する前の教育と保育について、保育所・幼稚園・認定こども園を中心に学ぶとともに、様々な保育の形態についても理解していきます。
	第9回 地域における子育て支援 地域における子育て支援の様々な内容について理解していきます。
	第10回 子どもの健全育成と地域活動 児童館や放課後児童クラブ（学童保育）の内容について学ぶとともに、関連する地域活動についても理解していきます。
	第11回 子どもの貧困とひとり親家庭への支援 子どもの貧困の現状について学ぶとともに、特に貧困に陥りやすいひとり親家庭への支援の実際について、DV（ドメスティックバイオレンス）も含めて理解していきます。

	<p>第 12 回 障害のある子どもへの支援 障害児の定義や、法律に基づく様々な支援サービスの内容について理解していきます。</p> <p>第 13 回 虐待を受けている子どもへの支援 子ども虐待の定義や虐待の現状を学び、虐待を受けた子どもを守り保護者へ対応していくための支援の内容を理解していきます。</p> <p>第 14 回 心理的な課題を抱える子どもへの支援 子どもが抱える心理的課題や発達障害の概要について学び、それらへの支援の内容について理解していきます。</p> <p>第 15 回 非行を犯す子どもへの支援 少年非行の定義や内容について学び、非行少年（20 歳未満）を支援する機関や専門職、および、それらが行う支援の内容について理解するとともに、望ましい支援のあり方についても検討していきます。</p> <p>第 16 回 期末試験 今まで実施してきた小テストを主に活用して、全体の理解度を測定します。</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 保育は、子どもの成長発達を促進し保護者の子育てを支援する様々な取り組み（＝子ども家庭福祉）の重要な一部分ですが、これらの取り組みは法律に基づく社会の仕組み（＝制度）として現れます。この授業では、日本における子ども家庭福祉制度の全体と個々の内容について講義形式で学びます。</p> <p><b>【到達目標】</b> この授業を通じ、保育を含む制度の全体と個々の具体的な内容を理解するとともに、今後の望ましいあり方についても考えられるようにしていきます。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」と「主体的に学習する力」、および「学士力」の構成要素の一つである「人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」を身につけることができます。</p>
テキスト	<p>テキスト名：新版 よくわかる子ども家庭福祉 ISBN：978-4-623-08317-6 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：吉田幸恵、山縣文治 編著 価格（税抜）：2,400 円</p>
参考文献	<p>必要に応じて、その都度紹介します。</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 毎回実施する小テストの成績（30%）＋事後学習シートの記述内容（20%）＋期末試験の成績（50%）で評価しますが、それぞれの合計点が 60 点に達しない場合は単位を認定しません。</p> <p><b>【課題に対するフィードバック方法】</b> 小テストは、採点のうえ次回の授業で返却します。また、小テストの質問欄に記入して頂いた場合は、小テストの返却に合わせて回答します。</p>
質問・相談の受付方法	<p>基本的にはオフィスアワー等を活用し研究室（研究棟 2 階 202 号室）で受け付けます。また、必要に応じ授業終了後に教室で質問して頂いても構いませんが、時間が限られるため十分な対応ができない場合もありますので、予め承知しておいてください。なお、小テストの質問欄を活用することもできます。</p>
履修条件	<p>特に設けませんが、子ども学科の必修科目になっていますので、その点も考慮して履修登録をしてください。</p>

特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】  キャリアデザインカレッジ生【不可】</p>
メッセージ	<p>1. 小テストは、事前に読んで頂いたテキストの内容に関するものを、毎回、授業冒頭で実施します（但し、第1回目の授業だけは教員が講義を行った後に行います）。出欠席はこの小テストにより確認しますので、遅刻により小テストを実施できなかった場合は欠席とカウントされる可能性があります（但し、第1回目だけは授業冒頭での小テスト実施はありませんので、遅刻により欠席とカウントされる人は居ないはずです）から、注意してください。</p> <p>2. 事後学習シートは、その日の授業で取り上げたテーマに関するミニレポートです。常識的な文字の大きさと、誤字・脱字をすることなく、できるだけ最後の行まで埋めてください。提出は、次回の授業が始まる直前に教室に備えられる提出箱へ入れてください。</p> <p>3. 担当教員は、都道府県の公務員（福祉職）として18年間の実務経験がありますが、そのうち10年間は児童相談所なので、必要に応じ、授業の中で実務経験に基づく現場の実際などを紹介していきます。</p>
準備学習について	<p><b>【事前学習】</b>  毎回、授業で取り上げるテキストの範囲を事前に読み、小テストに備えてください（概ね1時間程度）。但し、第1回目の授業だけはテキストが間に合わない人がいる可能性があるため、事前に読む必要はありません。</p> <p><b>【事後学習】</b>  毎回の授業終了後、事後学習シートの記入を行ってください（概ね1時間程度）。</p>

講義科目名称： 社会的養護 I /社会的養護 (2018 以前入学生)			
開講期間： 前期	配当年： 3 年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野文枝			

テーマ	社会的養護の基本理念と原則に則った子どもの支援について
授業計画	<p>第 1 回 授業オリエンテーション、社会的養護の意義と変遷 社会的養護の歴史を踏まえ、現代社会における子どもと家族が抱える問題について学び、社会的養護を学ぶ意味と保育士の役割を理解する。 (テキスト第 1 講 p2～p18)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
	<p>第 2 回 児童の人権擁護と社会的養護 子どもの権利を社会的養護の場でどのように展開するか、また、施設保育士としての倫理と責務について学ぶ。(テキスト第 2 講 p19～p33)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
	<p>第 3 回 家庭の機能と社会的養護 (レポート授業①) 子どもが生活する場における家庭機能について理解し、家庭養護と施設養護の体系を学ぶ。(テキスト第 3 講 p34～48)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
	<p>第 4 回 社会的養護の基本原則Ⅰ：養育—日常生活支援— 子どもの人権に配慮した日常生活支援の実際を学び、施設規模による養育への影響について考察する。(テキスト第 4 講 p49～61)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
	<p>第 5 回 社会的養護の基本原則Ⅱ：保護—自己実現に向けた支援— 施設における子どもの支援と親子関係調整、地域との関係調整について理解する。(テキスト第 5 講 p62～73)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>

第6回	<p>社会的養護の基本原則Ⅲ：子どもであることへの回復—治療的支援— 被虐待児の心の癒しや傷の回復への支援、施設内の他職種とのチームワーク について理解する。（テキスト第6講 p74～p85）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
第7回	<p>社会的養護の基本原則Ⅳ：生活文化と生活力の習得—自立支援— 日常生活を通して生活文化と生活力を習得する支援の実際を具体的に学ぶ。 自立支援のあり方を学び、保育士の専門性を理解する。 （テキスト第7講 p86～p100）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
第8回	<p>社会的養護の基本原則Ⅴ：生命倫理観の醸成—生と性の倫理— （レポート授業②） 生と性の倫理について、社会的養護における捉え方、支援について学ぶ。 映像資料により、命の誕生と特別養子縁組を題材に生命倫理について考える。 （テキスト第8講 p101～p117）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
第9回	<p>社会的養護の制度と実施体系 制度と実施の体系、社会的養護に携わる専門職について学ぶ。 （テキスト第9講 p118～p134）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
第10回	<p>施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ—乳児院と児童養護施設— 乳児院・児童養護施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 （テキスト第10講 p135～p147）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul>
第11回	<p>施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ—障害児の入所施設— 障害児の入所施設の事例を通して、社会的養護の実践について学ぶ。 （テキスト第11講 p148～p159）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> </ul>

	<p>第 12 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul> <p>施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ—児童自立支援施設と児童心理治療施設— 社会に適応しづらい子どもの入所施設の事例を通して、 社会的養護の実践について学ぶ。(テキスト第 12 講 p160～170)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 復習課題⑤ (提出期限： 7 月 31 日)</li> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> </ul> <p>第 13 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul> <p>家庭養護の特徴・対象・形態—里親・ファミリーホーム— 里親とファミリーホームについて、制度と養育の実際を学ぶ。(テキスト 第 13 講 p171～p194) * 授業内課題の提出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> </ul> <p>第 14 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> </ul> <p>社会的養護の現状と課題Ⅰ 施設の運営管理について基礎的に知識を得る。また、保育士としての倫理 の確立と権利擁護の仕組みについて学ぶ。(テキスト第 14 講 p195～p215)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> </ul> <p>第 15 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 次回までの復習課題の提示</li> <li>* 総括レポート課題提示 (提出期限： 15 回授業時)</li> </ul> <p>社会的養護の現状と課題Ⅱ 被措置児童等虐待の防止、地域福祉との関係、施設保育士として求められる 専門性について学ぶ。(テキスト第 14 講 p216～p238)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業内課題の提出</li> <li>* 前回授業の復習小テスト</li> <li>* 前回授業の復習課題の提出</li> <li>* 総括レポートの提出</li> </ul>
<p>授業の概要と到達目 標及び卒業認定・学 位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】 児童福祉施設で働く施設保育士に必要な社会的養護の知識と技術を習得する。児童養護の歴史と体系、関連する法律、児童福祉施設や里親による養育の実際と自立支援、家族支援について学ぶ。「児童虐待」「トラウマ」「愛着障害」「発達障害」等に関する知識を身につけ、生活場面における支援、家族関係の調整、学校や地域との連携、援助者の資質、倫理等について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①権利擁護を踏まえた子どもの支援について理解し、説明できる。</li> <li>②社会的養護における子どもとその家庭に対する支援方法について理解し、説明できる。</li> <li>③社会的養護の理念と原則について理解し、説明できる。</li> </ol> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力、②主体的に学習する力、及び「学士力」の構成要素の一つである⑩倫理観を身につけることができる。</p>



テキスト	テキスト名：児童の福祉を支える 社会的養護 I ISBN：978-4-89347-324-0 出版社：萌文書林 著者名：吉田眞理編著、坂本正路、高橋一弘、村田紋子 価格（税抜）：2,000 円
参考文献	『子ども虐待』西澤哲（講談社）、『児童福祉施設の子どもたち』大久保真紀（高文研）、『「家族」をつくる養育里親という生き方』村田和木（中央公論新社）
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	授業内の課題提出 30%、復習小テスト 14 回 25%、復習課題 14 回 25%、総括レポート 1 回 20% 次回授業日に、授業内課題や復習小テストについて講評及び回答をフィードバックし、解説する。成績については、学内の成績評価問い合わせ制度に則り、説明を行う。
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室（研究棟 1 階）で受け付ける。 また、各授業回にて提出課題に質問記入欄を設け、次回授業でフィードバックする。
履修条件	座席は状況により固定するので、従うこと。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】
メッセージ	母子生活支援施設の母子支援員として 7 年間働いていました。授業のなかで、実務経験からのエピソードに触れていきたいと思います。社会的養護では、様々な事情を抱え、実の親によらない養育環境で育つ子どもについて学びます。保育士として必要な専門的知識を身に付けるとともに、将来、様々な状況にある子どもと家族に対して理解して関われる「市民」となってください。
準備学習について	各授業の前に 45 分程度の予習として、所定のテキストページを読み、不明な単語等は調べておいてください。授業後は復習課題（次回提出）をし、再度テキストと授業時のプリントなどを読み返して復習し、次回の小テストに備えてください。

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ/社会的養護内容（2018 以前入学生）			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 上野文枝			

テーマ	社会的養護における支援の実際について
授業計画	<p>第1回 授業オリエンテーション、社会的養護とはなにか（復習） 子どもの権利条約を基礎とした子どもの権利の内容と権利擁護の意味、権利を守るための仕組みについて学ぶ。実習体験を踏まえて社会的養護の学びを振り返る。（テキスト p7～11）</p> <p>* 授業内課題の提出 * レポート①出題（テーマ例：実習体験と社会的養護の学び） * 次回までの復習課題の提示</p>
	<p>第2回 社会的養護と保育士の倫理 保育士等の倫理について学ぶ。全国保育士会倫理綱領、全国児童養護施設協会倫理綱領等についてグループワークにより能動的に学ぶ。専門職として倫理を守ることの重要性を理解する。（テキスト p12～13）</p> <p>* 授業内課題の提出 * 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p>
	<p>第3回 社会的養護の背景 社会的養護における施設養護の実際について学ぶ。主に、子どもの貧困、児童虐待、障害など、入所児童が抱える生活困難について学び、必要な支援について理解する。（テキスト p16～23）</p> <p>* 授業内課題の提出 * 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p>
	<p>第4回 社会的養護の実施体系：実習体験に学ぶ入所施設・通所施設 施設実習で体験したことについてプレゼンテーションを行い、各施設について理解を深める。あらかじめレポート課題で実習の振り返りを行い、実習施設の日課、対象児童の特徴、支援内容などについて相互に学びを深める。（テキスト p34～40）</p> <p>* 授業内課題の提出 * 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示 * レポート①提出</p>
	<p>第5回 社会的養護に関わる専門技術（1）：専門職としての支援のあり方 児童養護施設のリービングケアの事例を通して、子どもに対する支援のあり方を考察する。寄り添う支援、自立支援について学ぶ。 （テキスト p24～31）</p> <p>* 授業内課題の提出</p>

	<p>* 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p> <p>第 6 回 社会的養護に関わる専門技術（2）：相談支援の技術 相談支援を行う際の専門知識と技術について学ぶ。他職種連携、行動問題への対処、バイスチックの7つの原則、守秘義務など、施設実習における体験を振り返りながら理解を深める。（テキスト p48～60）</p> <p>* 授業内課題の提出</p>
	<p>* 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p> <p>第 7 回 施設ごとの支援の実際：乳児院 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、乳児院における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p62～67）</p> <p>* 授業内課題の提出</p>
	<p>* 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p> <p>第 8 回 施設ごとの支援の実際：児童養護施設／小テスト 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、児童養護施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p68～78）</p> <p>* 授業内課題の提出</p>
	<p>* 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p> <p>第 9 回 施設ごとの支援の実際：母子生活支援施設 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら母子生活支援施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p79～84）</p> <p>* 授業内課題の提出</p>
	<p>* 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p> <p>第 10 回 施設ごとの支援の実際：児童自立支援施設・児童心理治療施設 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、児童自立支援施設・児童心理治療施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p85～94）</p> <p>* 授業内課題の提出</p>
	<p>* 前回授業の復習課題の提出 * 次回までの復習課題の提示</p> <p>第 11 回 施設ごとの支援の実際：障害児入所施設 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、障害児入所施設における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p95～103）</p>

	<p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第 12 回 施設ごとの支援の実際：児童発達支援センター 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、児童発達支援センターにおける支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p104～115）</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第 13 回 施設ごとの支援の実際：障害者福祉サービス事業所 実習体験、VTR 教材をもとに、グループワークを行う。相互に意見交換を行いながら、障害者福祉サービス事業所における支援について学びを深める。事例検討を行い、実践力をつける。（テキスト p116～123）</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第 14 回 社会的養護の今後の課題と展望 家庭的養護と家庭養護についてこれまでの授業内容を振り返りながら、今後の社会的養護のあり方を考える。大舎制、小規模ユニットケア（小舎制）、里親、特別養子縁組など、養育形態の違いが子どもの福祉にどのような影響を及ぼすか、関わる職員や里親、養親の課題について考察する。社会的養護の今後の課題について理解する。（テキスト p41～46、p126～129）</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *次回までの復習課題の提示</p> <p>第 15 回 支援者としての視点／小テスト 復習とまとめ。 家族に対する支援のあり方について、母子の事例から考察する。社会的養護に関わる施設保育士として必要な専門性と姿勢について確認する。</p> <p>*授業内課題の提出 *前回授業の復習課題の提出 *小テストの実施（範囲：9回～15回） *レポート②提出</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p>【授業概要】生活型児童福祉施設や里親等の社会的養護による子どもの養育について、事例を通して理解を深める。「生活の場」でどのように子どもの権利を尊重しながら支援を展開するか、「子どもの最善の利益」「回復」「権利擁護」等をキーワードにしなが、アクティブラーニング、グループワーク等を通して主体的に学び、実践力を身につける。</p> <p>【到達目標】①施設実習の体験を社会的養護の知識・理論と関連付けて理解できる。②社会的養護における子どもの権利擁護や保育士の倫理を理解し、説明できる。③各種の施設養護や里親等について事例を通して理解し、それぞれの利点と課題を説明できる。④「自立支援」の考え方と日常的な生活における支援のあり方を具体的に理解する。</p>

	<p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部で学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、①知識・技能を理解する力、③実践的に課題を発見する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、⑦問題解決力、⑩倫理観、を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：実習生の日誌事例から考察する社会的養護Ⅱ ISBN：978-4-909655-38-7 出版社：大学図書出版 著者名：雨宮由紀枝・下尾直子 価格（税込）：1,980円</p>
参考文献	<p>『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』吉田眞理編著（萌文書林）、『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅱ』吉田眞理編著（萌文書林）</p>
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>授業内の課題提出 30%、復習課題 25%、小テスト 2回 20%、レポート 25%（①10%、②15%）</p> <p>*授業態度、グループワーク等への参加意欲により減点あり。</p> <p>次回授業時に授業内課題や復習課題について講評するとともに、質問に対するフィードバックを行う。小テストについては、次回以降の授業で解答を伝え、解説する。レポートは採点し、コメントを記入の上授業にて返却し、解説する。最終授業時の小テスト、レポートに関する成績については、学内の成績評価問い合わせ制度に則り、説明を行う。</p>
質問・相談の受付方法	<p>講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟1階）で受け付ける。</p> <p>また、各授業回にて提出課題に質問記入欄を設け、次回授業でフィードバックする。</p>
履修条件	<p>【希望的要件】「社会的養護」を履修または単位取得済であることが望ましい。施設実習の履修後であることが望ましい。グループワークでは、席順を替えながら実施するので、従うこと。</p>
特別学生の履修可否	<p>科目等履修生【可】但し、事前相談を要す。</p> <p>聴講生【可】 //</p>
メッセージ	<p>母子生活支援施設の母子支援員として7年間働いた経験から、現場に即した支援者としての姿勢を伝えたいと思います。</p> <p>前期の社会的養護、施設実習における学びをもとに、より具体的に知識・技術の習得を目指します。グループワーク等は積極的に取り組んで下さい。</p>
準備学習について	<p>各授業の前に45分程度の予習（テキストの所定箇所を読む）を行ってください。特に、前期履修した社会的養護のテキストで、該当箇所を復習しておいてください。</p> <p>授業後は復習課題を提示するので、次回授業時に提出してください。</p>

講義科目名称： 相談援助/相談援助 I (2018 以前入学生)			
開講期間： 後期	配当年： 3 年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 鈴木政史			

テーマ	相談援助（ソーシャルワーク）の理論、方法、技術、保育分野への応用方法を学ぶ。
授業計画	<p>第 1 回 相談援助の概要、相談援助（ソーシャルワーク）とは、価値観の違いと合意形成</p> <p>第 2 回 相談援助の理論、意義、機能、傾聴技法</p> <p>第 3 回 相談援助の対象、ジェノグラムとエコマップ</p> <p>第 4 回 相談援助の方法と技術、言語コミュニケーション</p> <p>第 5 回 非言語コミュニケーション</p> <p>第 6 回 総合的なコミュニケーション技術 コミュニケーションの実際について実務経験に基づいて説明します。</p> <p>第 7 回 相談援助、保育とソーシャルワーク、相談援助の過程、ケースワークの展開過程</p> <p>第 8 回 グループワークの展開過程①（準備期・開始期）</p> <p>第 9 回 グループワークの展開過程②（作業期・終結期）</p> <p>第 10 回 相談援助の技術・アプローチ、リーダーシップ</p> <p>第 11 回 相談援助の具体的展開、地域を知る（地域診断）</p> <p>第 12 回 計画・記録・評価、効果測定の方法</p> <p>第 13 回 関係機関との協働、多様な専門職との連携、地域福祉</p> <p>第 14 回 社会資源の活用、調整、開発、格差問題</p> <p>第 15 回 事例分析、スーパービジョン</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業概要】</b> 本講義では、相談援助（ソーシャルワーク）の理論、方法と技術等について理解するとともに、演習やグループワークを通じて、保育分野へのソーシャルワーク（相談援助）の応用方法を学びます。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b> 相談援助（ソーシャルワーク）に必要な知識、技術等を習得し、将来の実践現場で応用できるようになることを到達目標とします。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部での学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、「知識・技能を理解する力」及び「学士力」の構成要素の一つである、「これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」を身につけることができます。</p>
テキスト	必要な資料を適宜配布します。
参考文献	配布資料等にて適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 受講態度：50%、振り返りシート：50%を評価の素材とします。</p> <p><b>【フィードバック方法】</b> フィードバックは、学内制度（成績問い合わせ制度）を利用してください。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後やオフィスアワーを活用してください。
履修条件	特にありません。

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】
メッセージ	<p>※受講者数が 30 名を超えた場合は 2 クラスになります。</p> <p>受講にあたって調整が必要な場合は事前に協議し、もっとも適切な方法を個別に検討します。必ず受講開始前に相談してください。なお、講義の進捗状況に応じて授業計画が変更になる場合があります。</p> <p>社会福祉協議会や社会福祉法人で障害者支援に 6 年間携わっていました。講義では相談援助（ソーシャルワーク）の実際について伝えることができればよいと考えています。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】事前に配布資料を読み、わからない用語を調べてください（1 時間以上）。</p> <p>【事後学習】原則として毎回の授業でワークシートに取り組みます。授業時間外で振り返り、講義やワークシートで取り扱った相談援助（ソーシャルワーク）の方法や技術等について調べてください（1 時間以上）。</p>

講義科目名称： 子ども家庭支援論/家庭支援論（2018 以前入学生）			
開講期間： 後期	配当年： 2年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 相原真人			

テーマ	子ども家庭支援の意義や役割を学ぶとともに、保育士が行う子ども家庭支援の基本と多様な支援の内容および関係機関との連携のあり方を理解します。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、および、子ども家庭支援とは何か (テキスト p2～レッスン1) シラバス等を活用して授業の方法を説明するとともに、子ども家庭支援の対象や子ども家庭支援が必要となる社会的背景等について理解していきます。</p> <p>第2回 子ども家庭支援の目標と機能 (テキスト p11～レッスン2) 児童福祉法や保育所保育指針を手掛かりに子ども家庭支援の役割や働きについて学ぶとともに、支援の原則についても理解していきます。</p> <p>第3回 子ども家庭支援における保育者の役割 (テキスト p20～レッスン3) 保護者への指導の意味を理解するとともに、子育て支援における保育士の役割を理解します。</p> <p>第4回 保育士に求められる基本的態度 (テキスト p38～レッスン4) 保育士の倫理を学び、特に保護者との信頼関係を形成する上での保育士の基本姿勢を理解します。</p> <p>第5回 保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援 (テキスト p49～レッスン5) 事例なども手掛かりにしながら、子どもの成長と親の子育てに対する支援の実際を理解します。</p> <p>第6回 保護者との相互理解と信頼関係の形成 (テキスト p62～レッスン6) 保護者との信頼関係形成について、特にバイステックの7原則を手掛かりに理解します。</p> <p>第7回 家庭の状況に応じた支援 (テキスト p77～レッスン7) 家庭を支援するときの保育士としての基本的態度を学び、虐待が発生するなど様々な状況の家庭を支援する具体的な方法や技術の実際を、事例なども使いながら理解していきます。</p> <p>第8回 地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力(テキスト p94～レッスン8) 保育指針や倫理綱領などを手掛かりに、地域の関係機関との連携や協力を進めるための基本的な考え方を理解します。</p> <p>第9回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 (テキスト p104～レッスン9) 子ども家庭福祉に必要な社会的背景を学び、児童相談所など関係機関の仕事内容や、関係機関相互のネットワークについて理解していきます。 児童相談所の実際については実務経験を踏まえて紹介します。</p> <p>第10回 次世代育成支援対策と子ども・子育て支援新制度の推進 (テキスト p119～レッスン10) 次世代育成支援対策推進法や子ども・子育て支援法を手掛かりに、子ども・子育て支援制度の具体的内容について理解します。</p>



	<p>第 11 回 子ども家庭支援の対象と内容（テキスト p142～レッスン 1 1） 子ども家庭支援の対象について児童福祉法を手掛かりに確認するとともに、それらに対する支援の内容をケースマネジメントの過程を通して学び、ケース記録についても理解を深めます。</p> <p>第 12 回 保育所等利用児童とその家庭への支援（テキスト p161～レッスン 1 2） 保育所における子どもや保護者への支援の実際について、事例なども手掛かりにその内容を理解していきます。</p> <p>第 13 回 地域の子育て家庭への支援（テキスト p176～レッスン 1 3） 地域の子育て家庭に対する支援について市町村が行う各種のサービスを学ぶとともに、子育て支援ソーシャルワークについても理解を深めます。</p> <p>第 14 回 要保護児童およびその家庭への支援（テキスト p193～レッスン 1 4） 親が育てられないなど保護が必要な子どもについて学び、施設など親に代わって子どもを育てる社会的養護についても理解していきます。 社会的養護の実際については実務経験を踏まえて紹介します。</p> <p>第 15 回 子ども家庭支援に関する現状と課題（テキスト p210～レッスン 1 5） 子育て家庭が置かれている状況を確認し、保育所におけるチームワークについて学ぶとともに、子ども家庭総合支援拠点の課題についても検討していきます。</p> <p>期末試験 今まで実施してきた小テストを主に活用して、全体の理解度を測定します。</p>
<p>授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連</p>	<p><b>【授業の概要と到達目標】</b> 保育士は、子どもと直接的に関わってその成長・発達を支援するだけでなく、保護者（養育者）に対しても適切な子育て（養育）ができるよう支援して良好な親子（養育）関係を形成するとともに、児童相談所など他の関係機関とも協力し地域全体で子どもと家庭を支援する専門職です。この授業では、現代社会において子どもと家庭（養育者）が置かれている状況を出発点としつつ、子ども家庭支援の内容について学び、適切な子ども家庭支援を実現するために保育士は何をしなければならないのかについても考えられるようにしていきます。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである「知識・技能を理解する力」「主体的に学習する力」、及び「学士力」の構成要素の一つである「問題解決力」「チームワーク・リーダーシップ」を身につけることができます。</p>
<p>テキスト</p>	<p>テキスト名：「子ども家庭支援」 ISBN コード：978-4-623-07929-2 出版社：ミネルヴァ書房 著者名：倉石哲也、大竹智 編著 価格（税抜）：2,200 円</p>
<p>参考文献</p>	<p>必要に応じて、その都度紹介します。</p>
<p>成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法</p>	<p><b>【成績評価の基準・方法】</b> 毎回実施する小テストの成績（30%）＋事後学習シートの記述内容（20%）＋期末試験の成績（50%）で評価しますが、それぞれの合計点が 60 点に達しない場合は単位を認定しません。</p> <p><b>【課題に対するフィードバック方法】</b> 小テストは、採点のうえ次回の授業で返却します。また、グループワーク後の発表内容については必要に応じてその都度コメントを行います。さらに、小テストの質問欄に記入して頂いた場合は、小テストの返却に合わせて回答します。</p>

質問・相談の受付方法	基本的にはオフィスアワー等を活用し研究室（研究棟2階202号室）で受け付けます。また、必要に応じ授業終了後に教室で質問して頂いても構いませんが、時間が限られるため十分な対応ができない場合もありますので、予め承知しておいてください。なお、小テストの質問欄を活用することもできます。
履修条件	特に設けませんが、保育士国家資格を得るための必須科目になっていますので、保育士資格取得を目指す方はその点も考慮して履修登録をしてください。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】 キャリアデザインカレッジ生【不可】
メッセージ	<p>1. 小テストは、事前に読んで頂いたテキストの内容に関するものを、毎回、授業冒頭で実施します（但し、第1回目の授業だけは教員が講義を行った後に行います）。出欠席はこの小テストにより確認しますので、遅刻により小テストを実施できなかった場合は欠席とカウントされる可能性があります（但し、第1回目だけは授業冒頭での小テスト実施はありませんので、遅刻により欠席とカウントされる人は居ないはずです）から、注意してください。</p> <p>2. 小テストの後に教員が小講義を行い、その後、毎回その日の授業内容に関するテーマについてグループでの話し合いを行って頂きます（但し、第1回目は除きます）が、話し合った結果は発表して頂きますので、積極的に参加してください。</p> <p>3. 事後学習シートは、その日の授業で取り上げたテーマに関するミニレポートです。常識的な文字の大きさと、誤字・脱字をすることなく、できるだけ最後の行まで埋めてください。提出は、次回の授業が始まる直前に教室に備えられる提出箱へ入れてください。</p> <p>4. 担当教員は、都道府県の公務員（福祉職）として18年間の実務経験がありますが、そのうち10年間は児童相談所なので、必要に応じ、授業の中で実務経験に基づく現場の実際などを紹介していきます。</p>
準備学習について	<p>【事前学習】 毎回、授業で取り上げるテキストの範囲を事前に読み、小テストに備えてください（概ね1時間程度）。但し、第1回目の授業だけはテキストが間に合わない人がいる可能性があるため、事前に読む必要はありません。</p> <p>【事後学習】 毎回の授業終了後、事後学習シートの記入を行ってください（概ね1時間程度）。</p>

講義科目名称： 地域子育て支援論			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 池谷愛子			

テーマ	地域子育て支援についての理念や活動内容について理解する
授業計画	第1回 子育て支援の必要性と制度 1. 子育て支援とは 2. 子育て支援が求められる背景
	第2回 子育てをめぐる諸課題 1. 共働き世代の増加と子育て現状 2. 子育てに対する負担と不安
	第3回 子ども・子育て支援の制度、施策のあゆみ 1. 子ども子育て支援制度とは 2. 子育て支援新制度とは
	第4回 保育所における子育て支援 1. 保育所における子育て支援の位置づけ 2. 保育所における子育て支援の役割
	第5回 保育所が行う子育て支援 1. 保育所の子育て支援の特徴 2. 乳児保育を子育て支援から考える 3. 潜在的なニーズの対応 4. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第6回 幼稚園が行う子育て支援 1. 幼稚園の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第7回 認定こども園が行う子育て支援 1. 認定こども園の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第8回 養護施設が行う子育て支援 1. 養護施設の役割と課題 2. 地域の子育て家庭への支援と地域との連携
	第9回 地域で展開される子育て支援 1. 地域子育て支援拠点事業 つどいの広場事業 放課後児童クラブ ファミリーサポートセンター事業
	第10回 地域で展開される多様な子育て支援 1. 子育てサークル サロン
	第11回 コロナ禍での子どもを取り巻く家庭環境の変化とその支援について 1. 外出制限の中での育児の不安にどう寄り添うか

	<p>第 12 回 コロナ禍で支援のニーズに対する気づき・理解 2. 地域に根差した子育て支援</p> <p>第 13 回 障害家庭の支援 1. 障害のある子どものきょうだいを支援する 2. 障害のある子どもをもつ親支援</p> <p>第 14 回 父親の子育て支援活動 1. 父親を取り巻く状況 2. 父親の育児を支える活動</p> <p>第 15 回 子育て支援の効果と今後の課題</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 核家族化やコミュニティの希薄化などにより、子育てが孤立化し、育児の不安や負担感が増す中で、安心して楽しく子育てができる社会の構築が求められている。</p> <p><b>【到達目標】</b> 地域子育て支援についての理念を理解し、親子が気軽に集い相互交流や子育ての不安、悩みを相談できる場を提供する具体的な取り組みを事例を通して学び、その意義や課題について理解する。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、(実践的に課題を発見する力) 及び「学士力」の構成要素の一つである、(コミュニケーション・スキル) を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「子育て支援」 ISBN：9784623079735 出版社：ミネルヴァ書房 価格（税抜）：2,200 円</p>
参考文献	授業の中で適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>小テスト：80%、レポート：10%、授業態度：10%</p> <p>フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p> <p>小レポートを回収した次の授業で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付方法	質問は授業の途中でも受け付けます。相談は授業終了後に受け付けます。
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】但し事前相談を要す 聴 講 生 【可】 //
メッセージ	保育所で 38 年間、子育て支援センターで 2 年間勤務した実践例を、写真や、DVD をとおして学習することで、地域子育て支援について、より理解を深め、実践力を身に付けてほしい。
準備学習について	次週の授業内容を知らせるので、事前に 30 分ほど教科書に目を通してきてほしい。

講義科目名称： 地域子育て支援実践論			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 池谷愛子			

テーマ	地域に根差した子育て支援の在り方について、事例を通して学ぶ
授業計画	第1回 子育て家庭に対する支援のあり方 はじめに
	第2回 支援のニーズに対する気づき理解とアセスメント
	第3回 事例から学ぶ(1) 1. 支援の計画・介入・評価 2. 記録・カンファレンス
	第4回 事例から学ぶ(2) 記録の意義、記録の目的
	第5回 相談・援助のための基本的態度と基本的技術 バイステイクによるソーシャルワークのための原則
	第6回 相談・援助のための基本的態度と基本的技術 1. カウンセラーのための6つの態度条件 2. カウンセリングに求められる技法
	第7回 子育て家庭に対する支援の実際 障害のある子どもおよび家庭に対する支援の実際 事例から学ぶ 1. 事例の概要 2. 支援の計画の作成 3. 援助の過程 4. 事例のふりかえり
	第8回 子育て家庭に対する支援の実際 特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援の実際 事例から学ぶ 1. 事例の概要 2. 支援の計画の作成 3. 援助の過程 4. 事例のふりかえり
	第9回 地域の子育て支援センターの活動 事例から学ぶ 相談援助活動：電話相談
	第10回 地域の子育て支援センターの活動 事例から学ぶ 相談援助活動：個別相談
	第11回 地域の子育て支援センターの活動 事例から学ぶ

	<p>相談援助活動：親のさまざまな悩み相談、子どものけんかについて等</p> <p>第 12 回 地域の子育て支援センターの活動 家族関係の調整</p> <p>第 13 回 虐待への対応 事例を通して学ぶ</p> <p>第 14 回 ロールプレイで学ぶ 「母親との会話」</p> <p>第 15 回 まとめ 子育て支援者の専門性</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 核家族化やコミュニティの希薄化により、近くに頼る人もなく子育てが孤立化し、子育てが「喜び」から「大変さ」に変わってきている育児ストレスから虐待に陥る心配もある。</p> <p><b>【到達目標】</b> 誰のために、「今」何故、子育て支援が必要なのかを理解し、行政・保育所等が取り組んでいる事業や活動内容を事例を通して学ぶとともに、実際に実践計画を立て、ワークショップなどを通して実践力を養う。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、（知識・技能を理解する力）（実践的に課題を発見する力）及び「学士力」の構成要素の一つである、（問題解決力）（コミュニケーション・スキル）を身につけることができる。</p>
テキスト	資料を用意します。
参考文献	授業の中で適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>テスト：80%、小レポート：10%、授業態度：10%</p> <p>フィードバックは、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行う。</p> <p>小レポートを回収した次の授業で総評を口頭で伝える。</p>
質問・相談の受付方法	授業終了後
履修条件	なし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】但し事前相談を要す 聴 講 生 【可】 //
メッセージ	<p>保育所で38年間、子育て支援センターで2年間勤務した実践例を、写真や、DVDをとおして学習することで、地域子育て支援について、より理解を深め、実践力を身に付けてほしい。</p> <p>ロールプレイでは、支援する心と技術を学んでほしいと思います。</p>
準備学習について	次週の授業内容を知らせるので、事前に30分ほど教科書に目を通してきてほしい。

講義科目名称： 発達支援論			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	発達障がいに関する基礎知識及び、インクルーシブな社会の視点からその支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 集団における障害を持つ子ども</p> <p>第2回 生まれつきの発達特性①身体感覚</p> <p>第3回 生まれつきの発達特性②認知</p> <p>第4回 生まれつきの発達特性③コミュニケーション</p> <p>第5回 ASD と ADHD の発達特性に応じた支援</p> <p>第6回 誤学習としての不適切な行動</p> <p>第7回 「発達の気になる子ども」の自己観</p> <p>第8回 「発達の気になる子ども」の支援①見通し</p> <p>第9回 「発達の気になる子ども」の支援②自尊心とセルフコントロール</p> <p>第10回 「発達の気になる子ども」の支援③手段としての言葉</p> <p>第11回 「発達の気になる子ども」の保護者支援①保護者支援としての子ども支援</p> <p>第12回 「発達の気になる子ども」の保護者支援③子ども支援としての保護者支援</p> <p>第13回 「発達の気になる子ども」の保護者支援③保育者の役割</p> <p>第14回 まとめ：インクルーシブな社会とは</p> <p>第15回 インクルーシブな社会実現に向けて</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【概要】</b> 本講義では、発達障がいを持つ子どもの特性を理解した上で、その支援のあり方について学びます。また、子どものもつ「障がい」に起因するとされがちな子どもの問題行動には、保育者の対応に起因するものがあることを知り、インクルーシブな社会に向けて、何が必要なのかを考えることを目的とします。</p> <p><b>【到達目標】</b> ケアワーカーとして必要な、インクルーシブな社会を実現するための基礎知識を身につける。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力、及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「気になる子の本当の発達支援 新版」 ISBN：9784907537111 出版社：風鳴舎 著者：市川奈緒子 価格（税抜）：1,700円</p>
参考文献	特になし
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>講義中に課すレポート 30% 学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>講義中に課すレポートについては、返却時に口頭でコメントする。</p> <p>期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で、もしくは、オフィスアワーに個人研究室で、質問・相談に応じます。

履修条件	特になし
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。この授業を通して、みなさんの発達障がいについて、発想を転換してもらえればと思います。
準備学習について	授業内で、次回の予習内容を指示します。次回の授業までに予習を行い（1時間程度）、内容を理解して次回授業に臨んでください。 また、授業終了後にふり返りを行ってください（1時間程度）。



講義科目名称： 発達支援演習			
開講期間： 後期	配当年： 3年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	発達障がい理解と保育現場における支援の実際を学ぶ
授業計画	<p>第1回 子どもの発達①乳児期</p> <p>第2回 子どもの発達②幼児期</p> <p>第3回 子どもの発達③学童期</p> <p>第4回 子どもの発達④思春期・青年期</p> <p>第5回 発達障がいについて</p> <p>第6回 日常生活におけるサポート①コミュニケーション</p> <p>第7回 日常生活におけるサポート②身辺自立</p> <p>第8回 日常生活におけるサポート③活動への参加</p> <p>第9回 日常生活におけるサポート④友達関係</p> <p>第10回 気になる行動に対するサポート①音への過敏性・衝動的な行動</p> <p>第11回 気になる行動に対するサポート②こだわり・自傷</p> <p>第12回 気になる行動に対するサポート③集団の視点</p> <p>第13回 家庭との連携</p> <p>第14回 就学に向けての支援</p> <p>第15回 発達障がいのある子どもへの支援に関する重要な視点</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【概要】</p> <p>本講義は、発達支援論の応用編として位置づけており、基礎知識編と実践演習編の2つから構成されます。基礎知識編では、子どもの心身の発達及び、発達障がいに関する知識を習得します。実践演習編では、保育現場でみられる大人にとっての子ども”気になる”行動を提示し、受講者は、子どもの発達課題を照らし合わせながら、それぞれの具体的な支援方法についてグループでディスカッションします。その後、それぞれのグループでの話し合いの結果を発表し合う形式とします。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ケアワーカーとして必要な、発達支援に関する実践力を身につける。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技術を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：「気になる子」と言わない保育 こんなときどうする？考え方と手立て</p> <p>ISBN：978-4-89464-195-2</p> <p>出版社：ひとなる書房</p> <p>著者：赤木和重ら</p> <p>価格（税抜）：1,800円</p>
参考文献	講義中適宜紹介する
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>講義中に課すレポート：30％・学期末のレポート：70％で評価します。</p> <p>フィードバックとして授業中に課したレポートについては、次の回の講義中にコメントをつけて返却します。</p> <p>期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>

質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワー
履修条件	【必須条件】「発達支援論」を履修中または単位取得済みであること
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】
メッセージ	教育臨床の現場で臨床心理士として発達に課題のある子どもと養育者の支援を実践してきました。子どもの心を大事にする対応とはどんなものでしょうか。一緒に考えていきましょう！
準備学習について	授業終了後に、次回の予習内容を指示します。授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨むこと。

講義科目名称： 児童福祉心理学			
開講期間： 前期	配当年： 3年	単位数： 2	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	児童福祉現場における子どもの問題と臨床心理学的理解
授業計画	第1回 自己理解として、自分自身の成育歴を振り返る 第2回 子どもの発達（1）乳児期の問題と病理 第3回 子どもの発達（2）幼児期の問題と病理 第4回 子どもの発達（3）児童期の問題と病理 第5回 子どもの発達（4）思春期の問題と病理 第6回 児童福祉施設の概要とその機能 第7回 児童虐待について 第8回 DVについて 第9回 非行について 第10回 不登校について 第11回 発達障がいについて 第12回 トラウマのケアについて 第13回 その他の子どもの心理的不適応について 第14回 児童福祉における重要な視点 第15回 授業の総括
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<b>【概要】</b> 児童相談所等の児童福祉現場における子どもの問題について、臨床心理学の理論とそのアプローチについて学び、児童福祉現場において出会う、様々な子どもの問題（被虐待・DV・非行・不登校・発達障害など）に対する、臨床心理学的アプローチについて、子どもの発達課題と合わせて理解することを目標とします。 <b>【到達目標】</b> ケアワーカーとして必要な、子どもの心理社会的問題についての知識を身につけます。 <b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、知識・技能を理解する力及び「学士力」の構成要素の一つである、論理的思考力を身につけることができる。
テキスト	指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義中に適宜紹介します。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	講義内で課すレポート（30%）と期末試験（70%）で評価します。 講義内で課したレポートについては、返却時に口頭でコメントします。 期末試験については、学内制度（成績評価問い合わせ制度）を通じて行います。
質問・相談の受付方法	オフィスアワー（後日掲示）にて、質問・相談に応じます。
履修条件	特に設けません。
特別学生の履修可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】

メッセージ	臨床心理士として、様々な事例に携わってきました。それらの経験を講義内でも話題にしたいと考えています。心理学の視点から、社会の様々な問題について一緒に考えましょう。また、日程調整ができれば、講義内で里親さんの養育体験談についてお話しいただく機会を作ることを予定しています。決定次第、受講生にお知らせします。そのため、シラバスの順序が若干入れ替わることもあり得ます。
準備学習について	授業終了後に次回の予習内容を指示します。授業毎に、1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 親子関係支援論			
開講期間： 前期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 上野永子			

テーマ	アタッチメントの視点から親子の関係性支援について学ぶ
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 人間の赤ちゃん</p> <p>第3回 アタッチメントとは</p> <p>第4回 乳幼児期のアタッチメント</p> <p>第5回 乳幼児期のアタッチメントと心理社会的発達</p> <p>第6回 保育現場におけるアタッチメント</p> <p>第7回 児童期のアタッチメント</p> <p>第8回 成人期のアタッチメント</p> <p>第9回 アタッチメントと児童虐待</p> <p>第10回 アタッチメントと発達障がい</p> <p>第11回 アタッチメントの視点からの養育者支援</p> <p>第12回 アタッチメントの視点からの里親支援</p> <p>第13回 アタッチメントの視点からのDV被害者・加害者支援</p> <p>第14回 アタッチメントの視点からの司法への介入</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p>【授業の概要】</p> <p>本講義では、親子の関係性を支援する上で重要なアタッチメントを中心に学びます。まず最初に、アタッチメント理論を、その後それらが臨床分野でどのように援用されているのかについて学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>アタッチメント理論と研究から得られた知見を活かした実践力を身につけることを目標とします。</p> <p>【卒業認定・学位授与方針との関連】</p> <p>この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである知識・主体的に学習する力及び「学士力」の構成要素の一つである、これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を身につけることができる。</p>
テキスト	<p>テキスト名：赤ちゃんの発達とアタッチメント 乳幼児保育で大切にしたいこと</p> <p>ISBN：978-4-89464-247-8</p> <p>出版社：ひとなる書房</p> <p>著者名：遠藤利彦</p> <p>価格(税抜)：1,300円</p>
参考文献	授業中に、適宜、紹介する。
成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	<p>補講レポート：30%・学期末のレポート：70%で評価します。</p> <p>補講レポートについては、講義内で口頭でコメントする。</p> <p>期末レポートは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。</p>
質問・相談の受付方法	講義終了後もしくは、オフィスアワー
履修条件	特に、設けない。

特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴 講 生 【不可】
メッセージ	臨床現場で養育者支援に携わってきた経験も踏まえて、アタッチメント理論と研究がいかに臨床現場に役立つのかについてお伝えできればと思います。また、自分の考えを、論理的に相手に伝えられる力をつけることを目指しましょう！
準備学習について	予習を前提として、講義を進めます。授業終了後に、次回の予習内容を指示するので、授業ごとに1時間以上の予習復習を行い、内容を理解して次回授業に臨んでください。

講義科目名称： 親子関係支援演習			
開講期間： 後期	配当年： 4年	単位数： 1	必選： 選択
担当教員： 望月 梓			

テーマ	親子関係を支援するのに有効な視点や心理技法を、保育の現場や日常生活等で活用できるよう実践的に学ぶ。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 親子関係を支援する心理技法について</p> <p>第2回 自己／他者理解のワーク</p> <p>第3回 親子関係に活かすコミュニケーション・スキル① 「話す」「聴く」</p> <p>第4回 親子関係に活かすコミュニケーション・スキル② あたたかい言葉がけ、リフレーミング</p> <p>第5回 親子関係に活かすコミュニケーション・スキル③ アサーション</p> <p>第6回 ストレスマネジメント① 「ストレス」を知る（ストレッサー、ストレス反応）</p> <p>第7回 ストレスマネジメント② ストレスに対する捉え方（認知的評価）</p> <p>第8回 ストレスマネジメント③ ストレスへの対処法（コーピング）</p> <p>第9回 ストレスマネジメント④ ストレスへの対処法（セルフリラクゼーション）</p> <p>第10回 ストレスマネジメント⑤ ストレスへの対処法（ペアリラクゼーション）</p> <p>第11回 応用行動分析（ABA）を活かした支援① 応用行動分析の基本、ABC フレーム</p> <p>第12回 応用行動分析（ABA）を活かした支援② 応用行動分析を用いたアセスメント（事例を基に）</p> <p>第13回 子どもへの理解を深めるペアレントトレーニング① (基礎～セッション前半部分)</p> <p>第14回 子どもへの理解を深めるペアレントトレーニング② (セッション後半部分)</p> <p>第15回 総括とふりかえり</p>
授業の概要と到達目標及び卒業認定・学位授与方針との関連	<p><b>【授業の概要】</b> 本講義は、受講生が親子関係を支援するための各種技法をロールプレイやワークシートなどを用いた演習形式で行います。</p> <p><b>【到達目標】</b> 親子の関係性を支援するための心理技法や心理教育の知識・技術を習得すると共に、受講生が今後支援者として自分自身を振り返ることができるような視点を持つことを目標とします。</p> <p><b>【卒業認定・学位授与方針との関連】</b> この科目の履修を通じて、子ども学部の学位授与方針のうち、「福祉力」の構成要素の一つである、実践的に課題を発見する力や課題を解決へと導く力、及び「学士力」の構成要素の一つである、コミュニケーション・スキルやこれまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決できる能力を身につけることができます。</p>
テキスト	指定しません。
参考文献	講義中に適宜紹介します。

成績評価の基準・方法及び課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法	講義後の感想レポート：20%、確認テストを含むレポート課題：80%で評価します。 毎回講義の最後に出席確認を兼ねた感想レポートを提出して下さい。それらの総評については次回の講義内にて口頭で伝えます。 成績評価に関するフィードバックは、学内制度(成績評価問い合わせ制度)を通じて行います。
質問・相談の受付方法	講義の最後に提出する感想レポートに記入して下さい。次回の講義内で回答します。
履修条件	特に設けない。
特別学生の履修可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】
メッセージ	講義の前半にロールプレイの説明等を行うことが多いため、遅刻をしないように注意してください。30分を過ぎた場合、感想レポートの用紙を配布しません。なお、授業計画については学生の人数や理解度等を考慮しながら内容を柔軟に変更することもあります。  これまで心理職として学校臨床に携わってきました。講義ではそこで経験したエピソード等について触れることができればと思います。
準備学習について	直前の講義で取り上げた内容を自身の生活の中で実践する等しながら復習し（30分程度）、次回の講義に臨むようにして下さい。